

平成 24 年度

非常災害時の

.....
子どもの心のケアに関する調査
.....

報告書

平成 25 年 7 月



文部科学省

目次

第Ⅰ部 調査の概要

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的	1
1.2 調査対象	1
1.3 調査の種類	1
1.4 調査の方法	1
1.5 調査実施時期	1
1.6 有効回答数・回収率	1
1.7 調査集計に当たっての留意点	1

第2章 調査結果の概要

2.1 子どもの現状	2
2.1.1 震災前と異なる子どもの様子についての分類の考え方	2
2.1.2 PTSD が疑われる症状	3
2.1.3 PTSD に関連する症状等	4
2.1.4 一般的な心身不良の症状	5
2.2 子どもの心の健康問題に対する取組の現状	6

第Ⅱ部 調査結果の分析と考察

第3章 調査回答者の属性

3.1 校（園）長調査	9
3.2 学級担任調査	12
3.3 養護教諭調査	14
3.4 スクールカウンセラー調査	16
3.5 保護者調査	18

第4章 子どもの心の健康状態

4.1 子どもの現状	19
4.1.1 PTSD が疑われる症状	19
4.1.2 PTSD に関連する症状等	21
4.1.3 一般的な心身不良の症状	23
4.2 子どもの現状に関する考察	25

第5章 子どもの心の健康問題に関する取組

5.1 取組の現状	27
5.1.1 全体状況	27
5.1.2 校種別状況	28
5.2 領域別に見た現状と課題	29
5.2.1 健康観察と心のケアに関する資質	29
5.2.2 組織体制の構築	43
5.2.3 支援者のメンタルヘルス	50
5.3 職種別に見た現状と課題	58
5.3.1 校（園）長	58
5.3.2 学級担任	64
5.3.3 養護教諭	72
5.3.4 スクールカウンセラー	80

第6章 東日本大震災に伴う子どもの心の健康状態に関する総括と心のケアについて	84
--	----

第III部 資料

第7章 統計表

7.1 校（園）長	91
7.2 学級担任	104
7.3 養護教諭	115
7.4 スクールカウンセラー	127
7.5 保護者	129

第8章 調査票

8.1 校（園）長	135
8.2 学級担任	140
8.3 養護教諭	145
8.4 スクールカウンセラー	151
8.5 保護者	153

第9章 取組の現状チャートについて

9.1 取組の現状チャートの作成方法	158
--------------------	-----

第 I 部
調査の概要

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的

東日本大震災に伴う子どもの心身の健康状態を的確に把握し、子どもの心身の健康状態に応じた行政、学校等の適切な対策を講じる際の基礎資料を得ることを目的とする。

1.2 調査対象

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に係る災害救助法が適応された地域（帰宅困難者対応を除く）に該当する国公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校（全日制のみ）、中等教育学校、特別支援学校の5,075校

【参考】平成23年東北地方太平洋沖地震に係る災害救助法適応地域（帰宅困難者対応を除く）：193市区町村

（青森県：2 岩手県全域：33 宮城県全域：39 福島県全域：59 茨城県：37 栃木県：15 千葉県：8）

1.3 調査の種類

○教員調査

校（園）長調査

学級担任調査（各学校各学年全ての学級担任）＊幼稚園は5歳児のみ対象

養護教諭調査

○スクールカウンセラー調査

○保護者調査（各学校各学年で無作為抽出1学級の保護者全員）＊幼稚園は5歳児のみ対象

1.4 調査の方法

学校を通じた郵送調査法

1.5 調査実施時期

平成24年5月1日現在

1.6 有効回答数・回収率

○有効回答数

校（園）長調査：4,569件

学級担任調査：33,700件

養護教諭調査：3,408件

スクールカウンセラー調査：1,838件

保護者調査：335,784件

○回収率：93.7%（5,075校のうち、少なくともいずれか一つの調査に回答のあった学校数の割合）

1.7 調査集計に当たっての留意点

○集計方法

- ・結果に示す数値は、平成24年度学校基本調査における学校数及び学年・性別在籍児童生徒数を用いて母集団推定を行った結果である（スクールカウンセラー調査を除く）。百分率は小数点第2位を四捨五入したため、合計が100%とならないことがある。百分率の「0.0」は四捨五入の結果0.0%となったことを表し、「-」はその回答選択肢を選んだ回答者がいなかったことを示す。
- ・視覚的に比較するため、一部のグラフについて、母集団における回答者の属性（県、校種）等の構成割合に応じて、幅が異なるグラフとした。例えば、「図2.1：PTSDが疑われる症状」では、調査対象となった幼稚園や特別支援学校の割合は少なく、小学校の割合が多いことを、グラフの縦方向の幅を変えることで示している。
- ・中等教育学校については、調査対象が4校と少なく、回答が特定される可能性があるため、校種別の結果は示していない。

第2章 調査結果の概要

2.1 子どもの現状

2.1.1 震災前と異なる子どもの様子についての分類の考え方

本報告書では、保護者調査の間4「震災前と異なる子どもの様子」の選択肢（a）～（m）について、以下のよう
に定義した。

- ・ PTSD の診断基準となる主要症状のうち、代表的な症状（再体験症状、回避・麻痺症状、過覚醒症状）を取り上げて「PTSD が疑われる症状」とした（コラム参照）。
- ・ PTSD の診断基準には含まれないものの、PTSD にしばしば付随する症状や状況のうち、今回の被災後に生じやすいと思われるものを「PTSD に関連する症状等」とした。
- ・ PTSD かどうかにかかわらず、強いストレスがもたらす心身の不調のうち、子どもに生じやすいと思われるものを「一般的な心身不良の症状」とした。
- ・ 以上3種類の症状のうち、「PTSD が疑われる症状」に含まれる4項目のいずれかが当てはまれば（当てはまる項目が多いほど）PTSD を発症している可能性が高いと考えられる。ただし、本調査は保護者への質問紙調査のため今回の回答を基に PTSD を確定診断することはできない。また、「PTSD が疑われる症状」のいずれの項目にも該当しないという回答の場合でも PTSD の可能性を完全には否定できない点に注意する必要がある。

◎ 「PTSD が疑われる症状」

- （f）災害のことを思い出して突然おびえたり、興奮や混乱することがある
- （g）災害を思い出すような話題やニュースになると、話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする
- （h）無表情でぼんやりすることが多くなった
- （i）物音に敏感になったり、イライラするようになった

◎ 「PTSD に関連する症状等」

- （j）よく甘えるようになった
- （k）以前は一人で出来ていたことができなくなった
- （l）外出を怖がるようになった
- （m）学校を休みがちになった

◎ 「一般的な心身不良の症状」

- （a）元気がなくなり、意欲が低下した
- （b）あまり話さなくなった
- （c）睡眠が十分とれなくなった
- （d）食欲や体重に大きな変化があった
- （e）頭痛、腹痛、心臓の動悸、過呼吸、めまい等がおこるようになった

PTSD とは

- ・ 自然災害や事件・事故などの非常災害は被災者（被害者）の心身に様々な打撃を与えるが、なかでも心の健康に最も深刻な影響を及ぼすのが PTSD（post-traumatic stress disorder 心的外傷後ストレス障害）である。PTSD は被災後1年以上経ってから気付かれることも稀ではなく、長期にわたり生活に支障をもたらすため、専門機関で診断と治療を受けることが大切である。
- ・ PTSD の3大症状は「再体験症状」（辛い場面が突然よみがえったり、夢に現れるなど）、「過覚醒症状」（過敏・警戒状態や不眠など）、「回避・麻痺症状」（被災のことを連想させるような刺激を避ける；現実感や時間の感覚が薄らぐなど）であり、これらのほか心理的退行（幼児がえり）などの関連症状を伴うことがある。3大症状のうち、一見、ぼんやりした様子に見える麻痺症状は見過ごされやすいが、実際は重症化しやすいサインであるため注意が必要である。

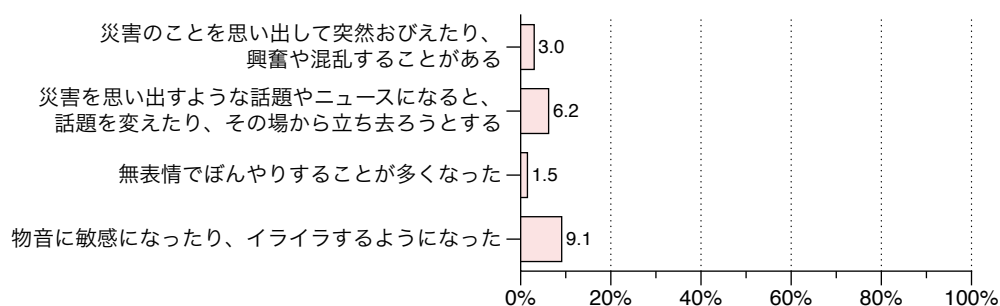
2.1.2 PTSD が疑われる症状

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるかどうか」を保護者に聞いたところ、「物音に敏感になったり、イライラするようになった」（9.1%）、「災害を思い出すような話題やニュースになると、話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする」（6.2%）の割合が高かった。
- ・PTSD が疑われる症状4項目に1つでも該当する子どもの割合は14.1%あり、地域的には、福島県（22.9%）、宮城県（19.0%）に高い傾向が見られた。また、福島県・宮城県以外の地域でも一定数見られた。
- ・校種別では、特別支援学校（20.5%）、幼稚園（20.2%）、小学校（17.6%）で高い傾向が見られた。年齢の低い子どもほどPTSD が疑われる症状の割合が高かった。

詳細は 4.1.1 節（p.19～20）を参照

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」



上記項目に一つでも該当する子どもの割合

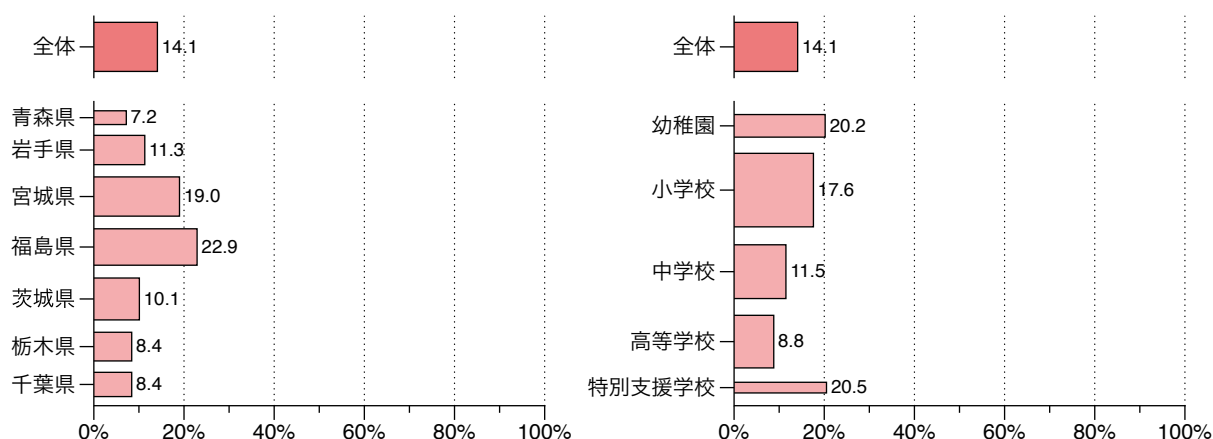


図 2.1：PTSD が疑われる症状

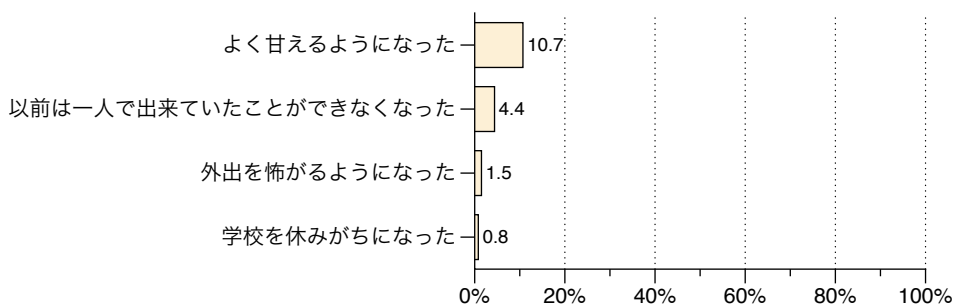
2.1.3 PTSD に関連する症状等

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるかどうか」を保護者に聞いたところ、「よく甘えるようになった」（10.7%）が一番高かった。
- ・PTSD に関連する症状等 4 項目の 1 つに該当する子どもの割合は12.9%あり、地域的には、福島県（20.3%）、宮城県（16.4%）に高い傾向が見られた。また、福島県・宮城県以外の地域でも一定数見られた。
- ・校種別では、幼稚園（27.8%）、小学校（19.8%）、特別支援学校（15.4%）に高い傾向が見られた。

詳細は 4.1.2 節（p.21～22）を参照

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」



上記項目に一つでも該当する子どもの割合

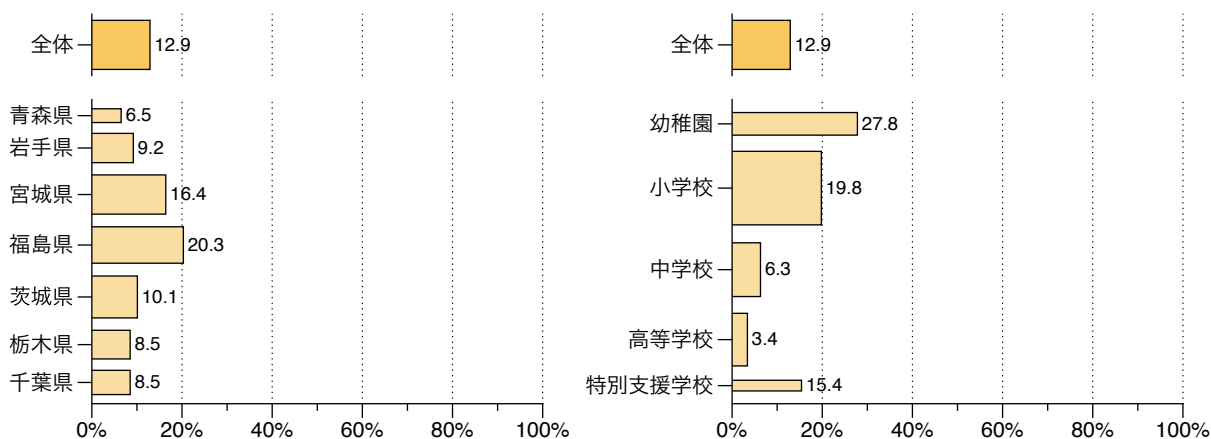


図 2.2：PTSD に関連する症状等

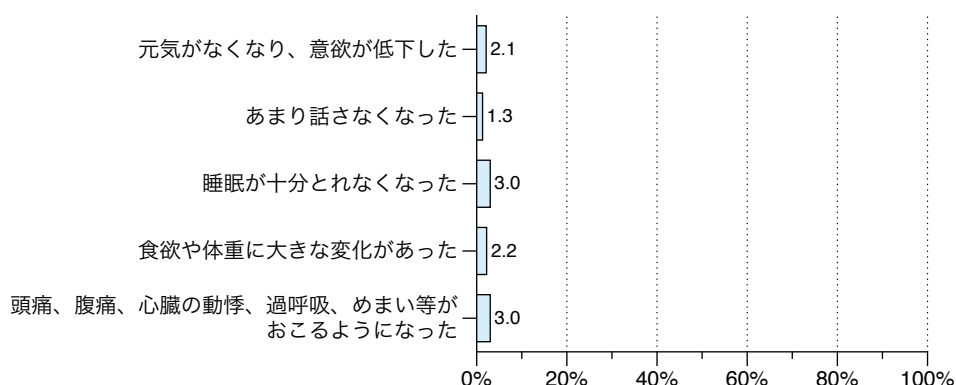
2.1.4 一般的な心身不良の症状

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるかどうか」を保護者に聞いたところ、「睡眠が十分とれなくなった」3.0%、「頭痛、腹痛、心臓の動悸、過呼吸、めまい等がおこるようになった」3.0%、「食欲や体重に大きな変化があった」2.2%、「元気がなくなり意欲が低下した」2.1%であった。
- ・一般的な心身不良の症状5項目に1つでも該当する子どもの割合は7.3%あり、地域的には、福島県（16.0%）、宮城県（8.9%）に高い傾向が見られた。
- ・校種別に見ると、幼稚園が4.6%で最も低く、小学校・中学校・高等学校がほぼ同等で、特別支援学校が10.8%で最も高い割合を示した。

詳細は 4.1.3 節 (p.23～24) を参照

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」



上記項目に一つでも該当する子どもの割合

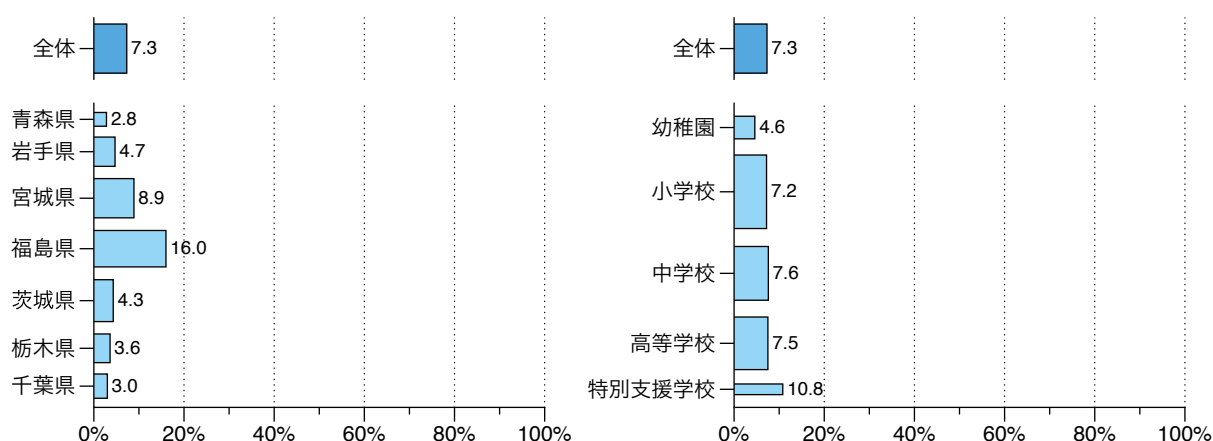


図 2.3：一般的な心身不良の症状

2.2 子どもの心の健康問題に対する取組の現状

<取組の現状>

- ・「平成24年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査」の調査内容の中から、震災後の子どもの健康問題への取組状況を3つの領域・8つの軸に整理し、グラフ化したものが図2.4である。
- ・「健康観察と心のケアに関する資質」の領域では、健康観察の実施はなされている一方で、心のケアに関する知識・理解は取組の割合が低かった。
- ・「組織体制の構築」や「支援者のメンタルヘルス」の領域では、どの軸も取組の割合は低く、特に保護者や地域の専門機関との連携、保護者の心の安定に関する取組の割合が低かった。

詳細は 5.1.1 節 (p.27 ~ 28) を参照

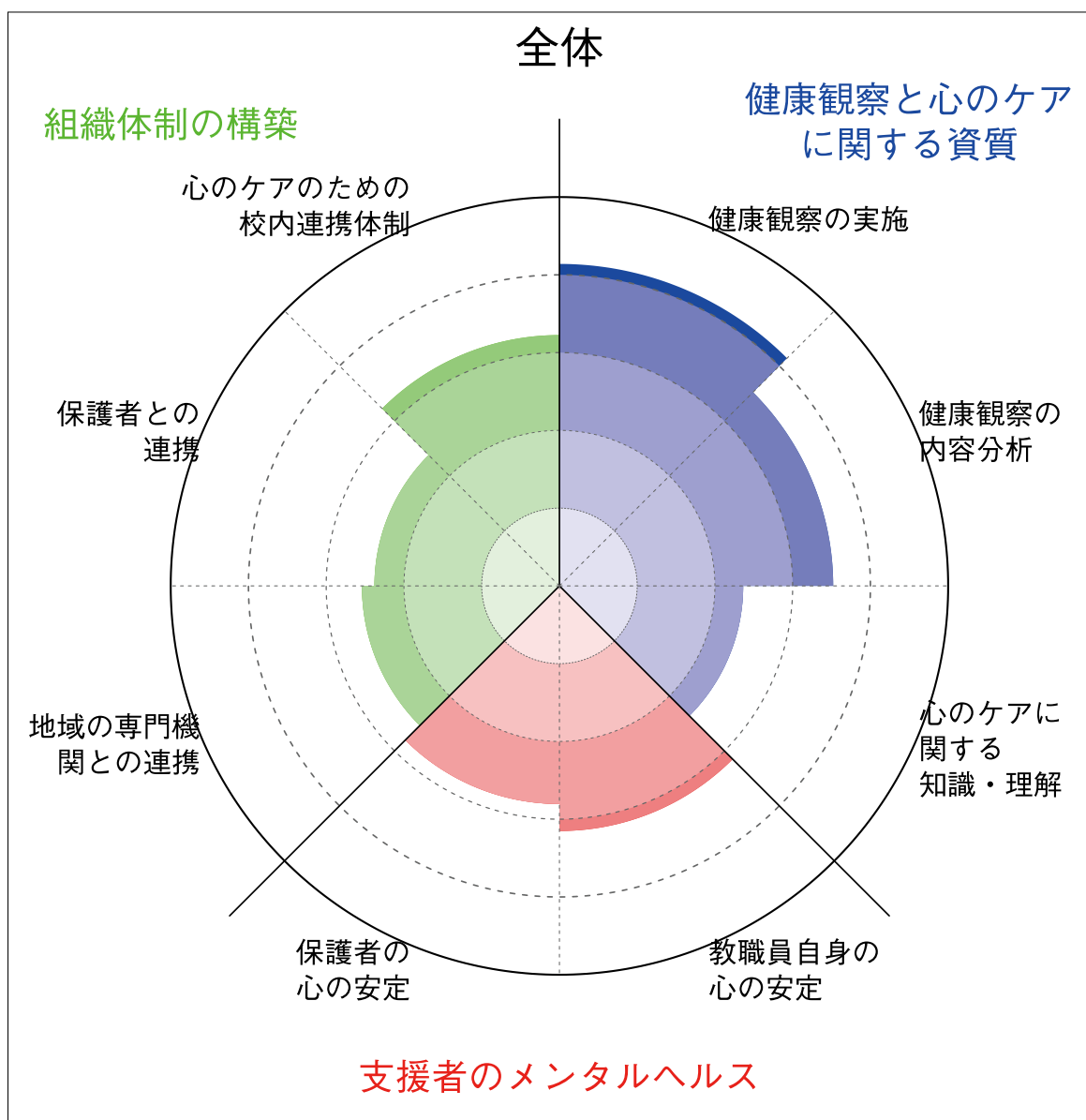


図 2.4：取組の現状チャート

*チャートの同心円は、30、45、60、75、90点とする。(中心点は15点)

第Ⅱ部
調査結果の分析と考察

第3章 調査回答者の属性

3.1 校（園）長調査

<校（園）長の属性（校（園）長調査問1、問19、問20）>

- ・回答のあった校（園）長の勤務している学校は、「小学校」42.7%、「幼稚園」25.3%、「中学校」20.7%、「高等学校」9.4%、「特別支援学校」1.9%であった。
- ・震災前、健康問題に関する研修（校内研修を含む）に「参加したことがある」校（園）長は、80.4%であった。また、震災前、健康問題のある子どもへの指導・支援経験について、「経験がある」校（園）長は75.7%であった。

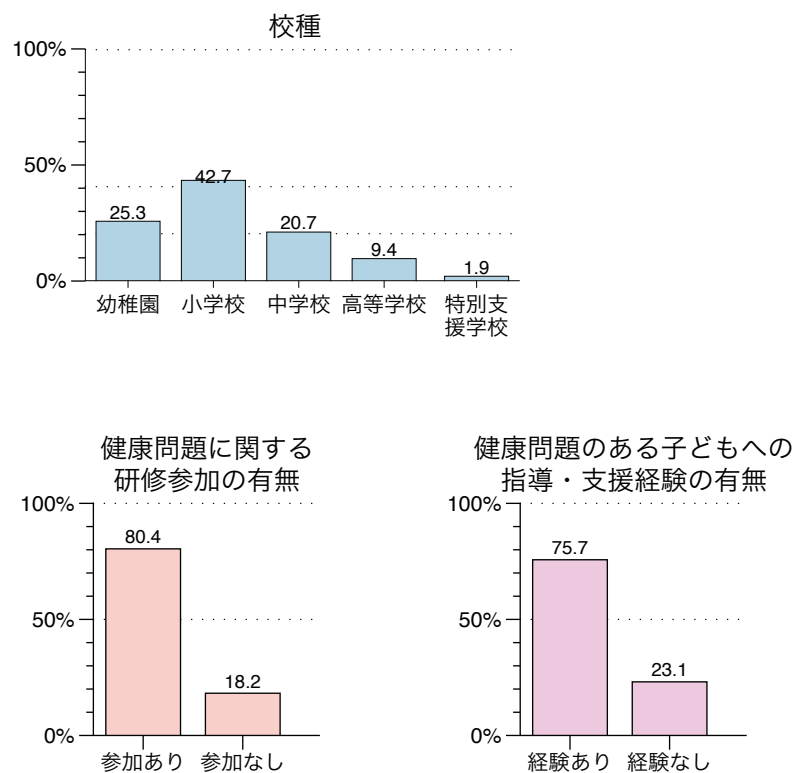


図 3.1：校（園）長の属性

＜養護教諭の配置（校（園）長調査問4）、スクールカウンセラーの配置（校（園）長調査問5）＞

- ・養護教諭の配置（幼稚園を除く）については、「一人配置」と「複数配置」を合計すると、9割以上が配置されていた。「複数配置」については、特別支援学校 55.9%、高等学校 23.8%であった。幼稚園への配置は、「一人配置」、「複数配置」を合計すると 8.5%であった。
- ・スクールカウンセラーの配置については、「一人配置」と「複数配置」を合計すると、中学校 91.4%、高等学校 80.0%、小学校 30.4%、特別支援学校 5.1%、幼稚園 3.6%であった。

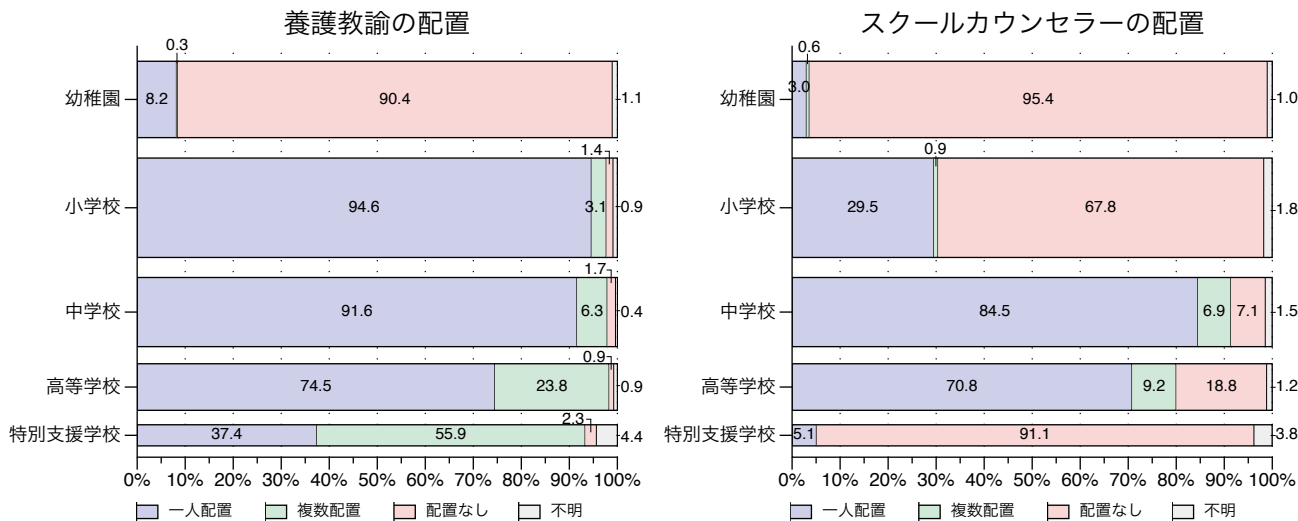


図 3.2：養護教諭の配置・スクールカウンセラーの配置

＜校舎の被害状況（校（園）長調査問6、問7）＞

- ・地震による校舎の被害については、「大部分使用不能」と「一部使用不能」を合計すると、今回調査した地域の中で、宮城県（32.1%）、茨城県（27.8%）に高い傾向が見られた。また、津波による校舎の被害は、「大部分使用不能」と「一部使用不能」を合計すると、宮城県 6.0%、岩手県 3.6%であった。

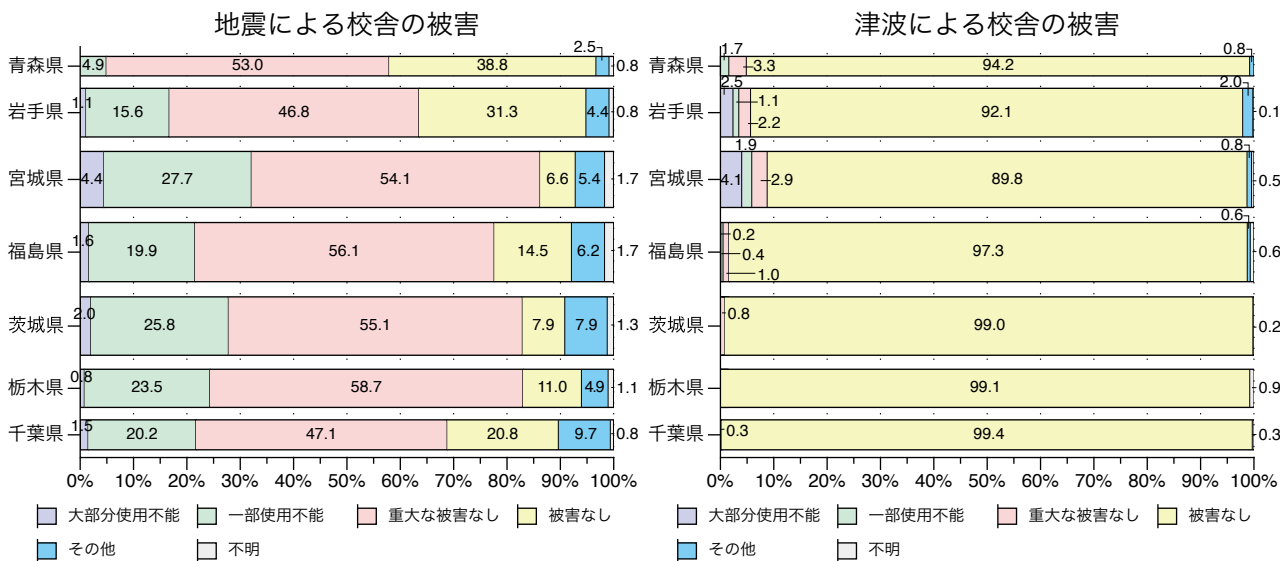


図 3.3：校舎の被害

<授業等再開までの期間（校（園）長調査問8）、屋外活動の制限（校（園）長調査問9）>

- ・授業等再開までの期間は、「1か月以上」と回答した地域は、宮城県35.4%、岩手県10.8%、福島県10.7%であった。また、「1か月以内」は福島県43.6%、宮城県21.1%であった。「1週間以内」は、青森県 79.1%、茨城県 52.1%、「臨時休業なし」は、栃木県 55.5%、千葉県 49.4%であった。
- ・震災後の屋外活動の制限については、福島県では「屋外活動は全く行っていない」 6.2%、「屋外活動の時間を制限」 31.3%、「制限はしていない」 56.2%であった。

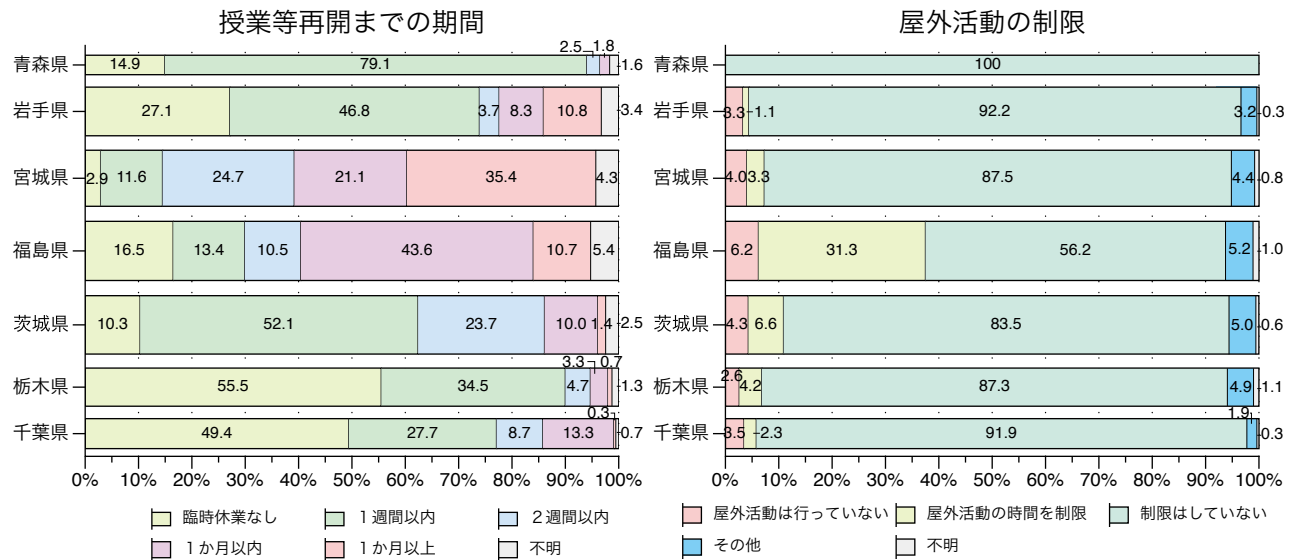


図 3.4：授業等再開までの期間・屋外活動の制限

3.2 学級担任調査

<学級担任の属性（学級担任調査問15、問16、問17）>

- ・回答のあった学級担任の勤務している学校は、「小学校」49.2%、「中学校」22.9%、「高等学校」17.3%、「特別支援学校」5.6%、「幼稚園」4.9%であった。
- ・教師としての経験年数は、「30年以下」30.4%、「20年以下」28.6%、「5年以下」16.1%、「10年以下」15.7%、「31年以上」7.3%であった。
- ・震災前、健康問題に関する研修（校内研修を含む）に「参加したことがある」学級担任は、48.7%であった。また、震災前、健康問題のある子どもへの指導・支援経験について、「経験がある」学級担任は56.4%であった。

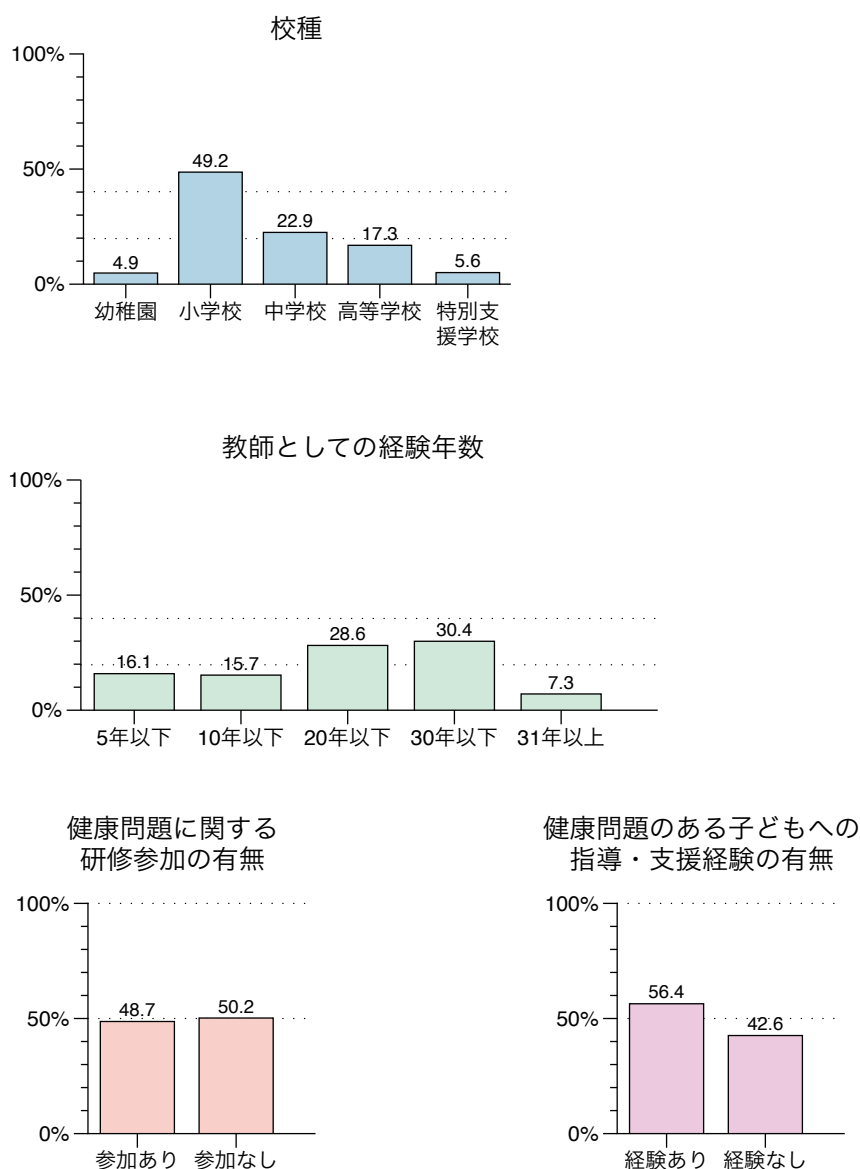


図 3.5：学級担任の属性

<学級の子どもの様子（学級担任調査問2、問3、問4）>

- ・学級担任が各学級で把握している子どもの様子について、「現在、震災の影響と思われる、子どもに現れやすいストレス症状等（下記の7項目）が1つでも見られる子どもがいる」と回答した学級担任の割合は、高等学校6.2%、中学校5.1%、小学校4.5%、特別支援学校4.0%、幼稚園3.8%であった。
- ・「災害等に遭遇した後に現れることが多い反応（下記の4項目）が1つでも見られる子どもがいる」と回答した学級担任の割合は、特別支援学校11.8%、幼稚園11.2%、小学校6.7%、中学校4.9%、高等学校4.2%であった。
- ・「震災後、遅刻や欠席が見られる子どもが学級にいる」と回答した学級担任は、高等学校1.5%、中学校1.4%、幼稚園1.3%であった。

表 3.1 学級の子どもの様子（「いる」と回答した学級担任の割合）

単位：%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
子どもに現れやすいストレス症状等が1つでも見られる子どもがいる	3.8	4.5	5.1	6.2	4.0
災害に遭遇した後に現れることが多い反応が1つでも見られる子どもがいる	11.2	6.7	4.9	4.2	11.8
震災後、遅刻や欠席がられる子どもがいる	1.3	0.9	1.4	1.5	0.4

子どもに現れやすいストレス症状等 7項目

- ①食欲の異常（不振または過剰）
- ②睡眠不足になっている
- ③頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある
- ④持病（ぜん息やアトピー性皮膚炎等）が悪化した
- ⑤体のだるさ、疲労感を訴える
- ⑥元気がない、意欲が低下した
- ⑦あまり話さなくなった

※本問では、保護者調査とは異なり、教職員が学校における健康観察等により、把握しやすい症状等を調査項目とした。

災害等に遭遇した後に現れることが多い反応 4項目

- ①災害のことを突然思い出して動揺する
- ②災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする
- ③喜怒哀楽がなくなり、無表情になった
- ④些細な音でビクッとしたり、過剰に警戒するようになった

3.3 養護教諭調査

<養護教諭の属性（養護教諭調査問1、問17、問18、問19）>

- ・回答のあった養護教諭の勤務している学校は、「小学校」47.2%、「中学校」23.4%、「幼稚園」16.8%、「高等学校」10.3%、「特別支援学校」2.2%であった。
- ・教師としての経験年数は、「30年以下」32.1%、「31年以上」21.8%、「20年以下」20.0%、「5年以下」13.3%、「10年以下」9.4%であった。
- ・震災前、健康問題に関する研修（校内研修を含む）に「参加したことがある」養護教諭は、87.8%であった。また、震災前、健康問題のある子どもへの指導・支援経験について、「経験がある」養護教諭は83.6%であった。
- ・学校再開後、保健室機能が再開するまでの期間は、「学校再開と同時」が89.3%であった。

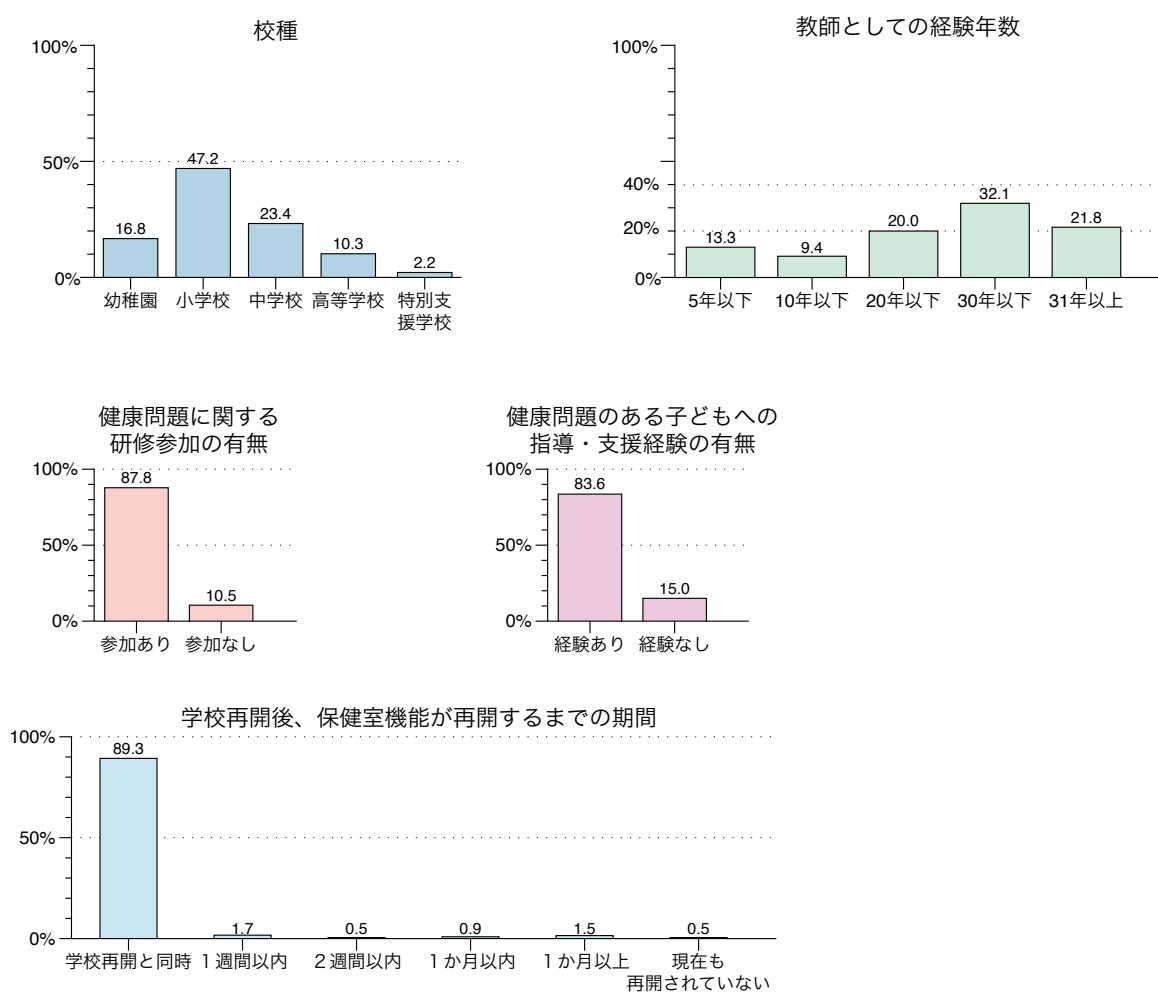


図 3.6：養護教諭の属性

<保健室で把握している子どもの様子（養護教諭調査問2、問3、問5、問6）>

- ・「現在、震災の影響と思われる、子どもに現れやすいストレス症状等（下記の7項目）が1つでも見られる子どもがいる」と回答した養護教諭の割合は、高等学校18.0%、中学校13.8%、小学校11.5%であった。
- ・「災害等に遭遇した後に現れることが多い反応（下記の4項目）が1つでも見られる子どもがいる」と回答した養護教諭の割合は、高等学校12.0%、小学校10.4%、特別支援学校9.7%、中学校9.1%であった。
- ・子どもに現れやすいストレス症状等や災害等に遭遇した後に現れることが多い反応が1つでも見られる子どものうち、「受診が必要と判断した子どもがいる」と回答した養護教諭の割合は、高等学校9.4%、中学校7.6%、幼稚園6.2%、小学校5.9%であった。
- ・震災後、「保健室登校になった子どもがいる」と回答した養護教諭の割合は、小学校・中学校0.5%、幼稚園0.3%、高等学校0.2%であった。

表 3.2:保健室で把握している子どもの様子（「いる」と回答した養護教諭の割合）

単位:%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
子どもに現れやすいストレス症状等が1つでも見られる子どもがいる	0.1	11.5	13.8	18.0	5.2
災害に遭遇した後に現れることが多い反応が1つでも見られる子どもがいる	1.9	10.4	9.1	12.0	9.7
受診が必要と判断した子どもがいる	6.2	5.9	7.6	9.4	—
震災後、保健室登校になった子どもがいる	0.3	0.5	0.5	0.2	—

子どもに現れやすいストレス症状等 7項目

- ①食欲の異常（不振または過剰）
- ②睡眠不足になっている
- ③頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある
- ④持病（ぜん息やアトピー性皮膚炎等）が悪化した
- ⑤体のだるさ、疲労感を訴える
- ⑥元気がない、意欲が低下した
- ⑦あまり話さなくなった

※本問では、保護者調査とは異なり、教職員が学校において健康観察等により、把握しやすい症状等を調査項目とした。

災害等に遭遇した後に現れることが多い反応 4項目

- ①災害のことを突然思い出して動揺する
- ②災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする
- ③喜怒哀楽がなくなり、無表情になった
- ④些細な音でビクッとしたり、過剰に警戒するようになった

3.4 スクールカウンセラー調査

<スクールカウンセラーの属性（スクールカウンセラー調査問1）>

- ・回答のあったスクールカウンセラーの所属している学校は、「中学校」45.7%、「小学校」31.9%、「高等学校」20.0%、「幼稚園」1.6%、「特別支援学校」0.5%であった。

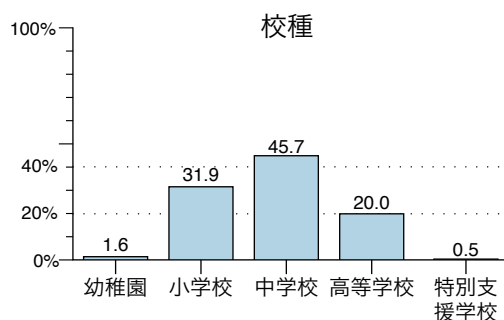


図 3.7：スクールカウンセラーの属性

<支援開始時期（スクールカウンセラー調査問2）>

- ・支援開始時期について、「震災前から」と回答したスクールカウンセラーは、高等学校54.6%、中学校50.5%、特別支援学校 30.0%、小学校 29.0%、幼稚園 24.1%、「震災後」は、小学校 63.9%、中学校 45.5%、幼稚園 44.8%、特別支援学校 40.0%、高等学校 38.6%であった。
- ・地域別では、「震災前から」と回答したスクールカウンセラーは、青森県（77.8%）、千葉県（55.8%）の割合が高く、「震災後」は、宮城県（57.6%）、栃木県（51.9%）、福島県（50.2%）の割合が高かった。

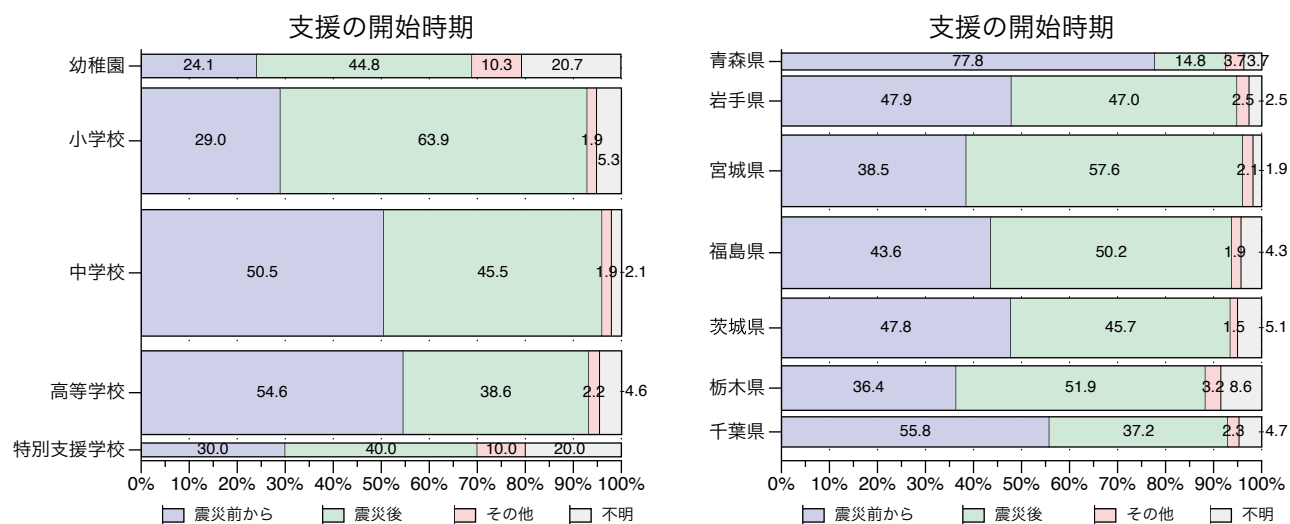


図 3.8：支援開始時期

<支援が必要な子どもや保護者、教職員（スクールカウンセラー調査問4）>

・スクールカウンセラーに「震災による（地震・津波・放射線）心身の健康への影響について、現在、支援が必要な子どもや保護者、教職員の割合」について聞いたところ、「子ども」は小学校 26.1 %、高等学校 23.4 %、「保護者」は、幼稚園 20.7 %、小学校 16.4 %、「教職員」は、小学校・高等学校で6.5%であった。

表 3.3:支援が必要な子どもや保護者、教職員の割合

単位:%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
子ども	17.2	26.1	18.6	23.4	10.0
保護者	20.7	16.4	10.6	6.0	10.0
教職員	3.4	6.5	4.2	6.5	—

3.5 保護者調査

<対象となる子どもの属性（保護者調査問1、問2、問3）>

- ・子どもの学校種について保護者に聞いたところ、「小学校」46.1%、「中学校」24.7%、「高等学校」23.6%、「幼稚園」4.4%、「特別支援学校」1.0%であった。
- ・子どもの性別は、「男子」51.3%、「女子」48.7%であった。
- ・震災による転校については、「転校しなかった」94.8%、「転校した」1.4%、「転校したが元の学校に通っている」1.1%であった。

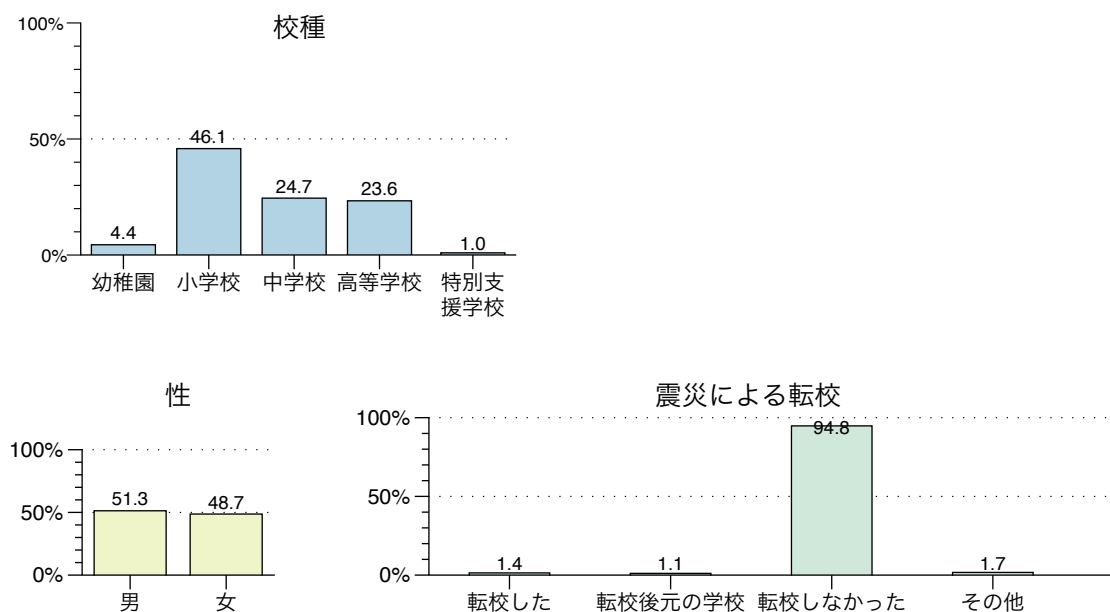


図 3.9：対象となる子どもの属性

<保護者の属性（保護者調査問7、問8）>

- ・回答のあった保護者の続柄は、「母親」91.1%、「父親」7.3%であった。また、年齢については、「40代」が52.2%、「30代」が36.5%であった。

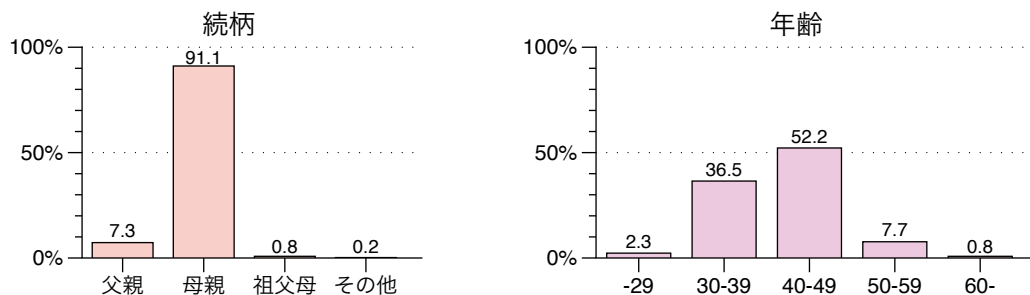


図 3.10：保護者の属性

第4章 子どもの心の健康状態

4.1 子どもの現状

4.1.1 PTSD が疑われる症状

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるか」保護者に聞いたところ、「物音に敏感になったり、イライラするようになった」9.1%、「災害を思い出すような話題やニュースになると、話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする」6.2%、「災害のことを思い出して突然おびえたり、興奮や混乱することがある」3.0%、「無表情でぼんやりすることが多くなった」1.5%であった。
- ・また、上記4項目に1つでも該当する子どもの割合は、14.1%であった。

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」

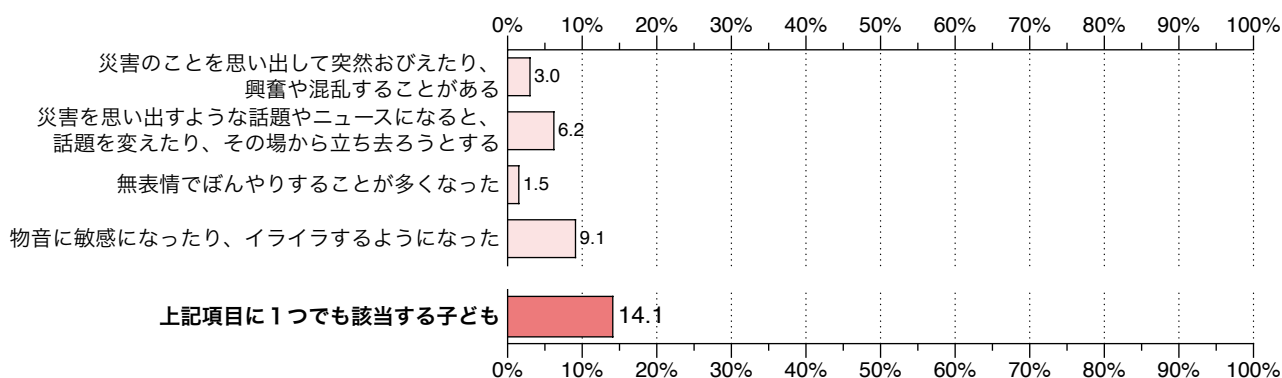


図 4.1：PTSD が疑われる症状

表 4.1：PTSD が疑われる症状

単位：%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
災害のことを思い出して突然おびえたり、興奮や混乱することがある	7.1	4.3	1.4	0.9	9.1
災害を思い出すような話題やニュースになると、話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする	7.7	8.0	4.8	3.7	8.2
無表情でぼんやりすることが多くなった	0.8	1.3	1.8	1.7	2.3
物音に敏感になったり、イライラするようになった	13.1	11.2	7.8	5.7	12.6

< PTSD が疑われる症状（属性別） >

- PTSDが疑われる症状が1つでも見られる子どもは、地域的には福島県（22.9%）、宮城県（19.0%）に高い傾向が見られた。また、その他の地域でも一定数見られた。
- 校種別では、特別支援学校20.5%、幼稚園20.2%、小学校17.6%、中学校11.5%、高等学校8.8%であり、年齢が低くなるほど増加する傾向が見られ、特別支援学校は幼稚園と同程度の高い割合を示した。
- 津波による校舎の被害別では、「大部分使用不能」30.4%、「一部使用不能」26.0%、「重大被害なし」18.9%であり、津波の被害が大きかった学校ほど症状が見られる子どもの割合が高かった。地震による校舎の被害別では、大きな差は見られなかった。
- 転校の有無別では、「転校した」38.6%、「転校後元の学校」24.1%、「転校しなかった」13.5%であった。
- 授業再開までの期間別では、「1か月以上」20.0%、「1か月以内」19.0%、「2週間以内」14.5%、「1週間以内」11.1%であり、授業再開までの期間が長いほど、症状が見られる子どもの割合が高かった。

PTSD が疑われる症状が1つでも見られる子ども

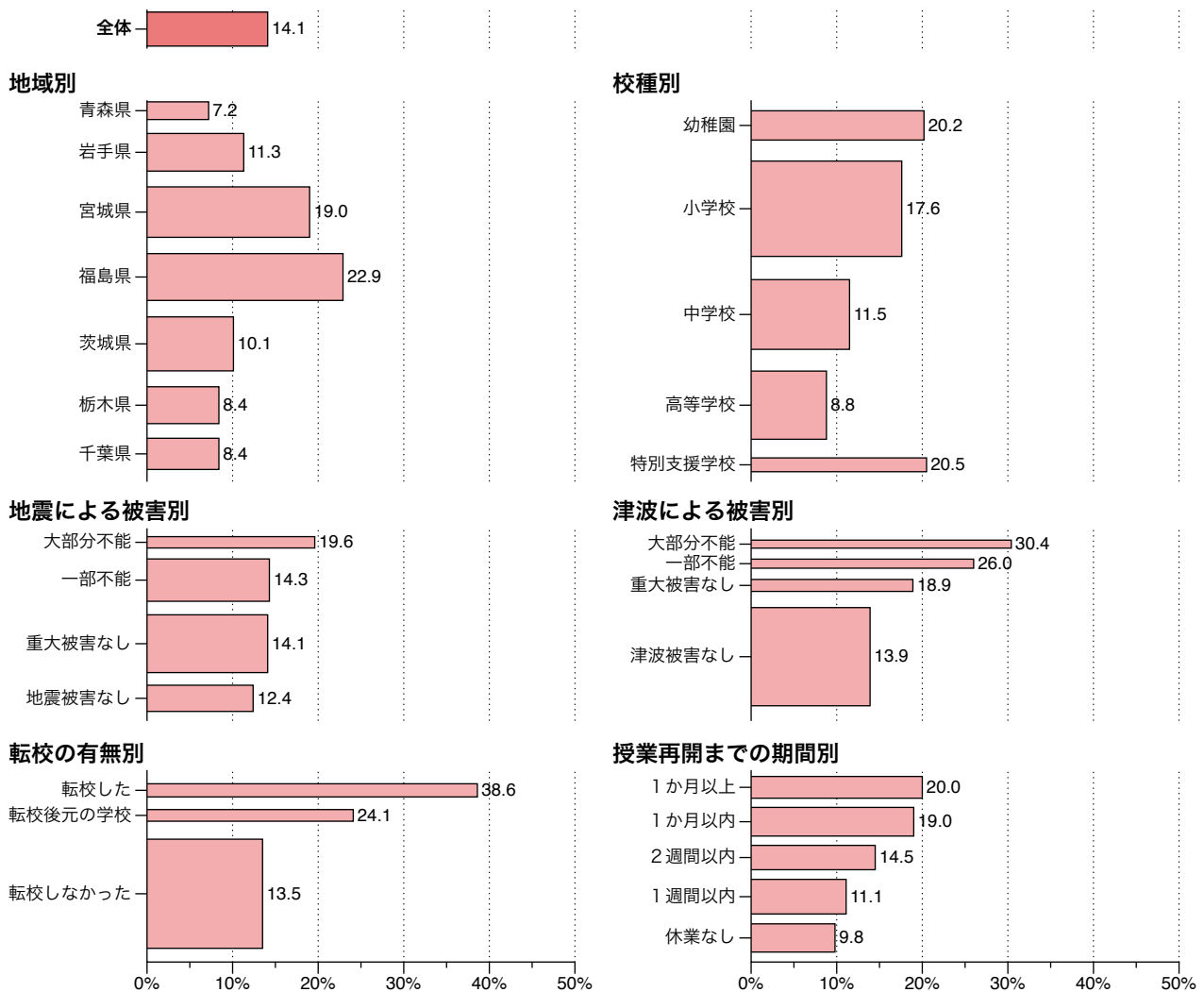


図 4.2： PTSD が疑われる症状が1つでも見られる子どもの割合（属性）

4.1.2 PTSD に関連する症状等

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるか」保護者に聞いたところ、PTSD に関連する症状等が見られる子どもの割合は、「よく甘えるようになった」（10.7%）が一番高く、「以前は一人でできていたことができなくなった」4.4%、「外出を怖がるようになった」1.5%、「学校を休みがちになった」0.8%であった。
- ・また、上記4項目に1つでも該当する子どもの割合は、12.9%であった。
- ・「よく甘えるようになった」、「以前は一人でできていたことができなくなった」については、校種別では年齢が低くなるほど増加する傾向を示し、特別支援学校は小学校をやや下回る値であった。

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」

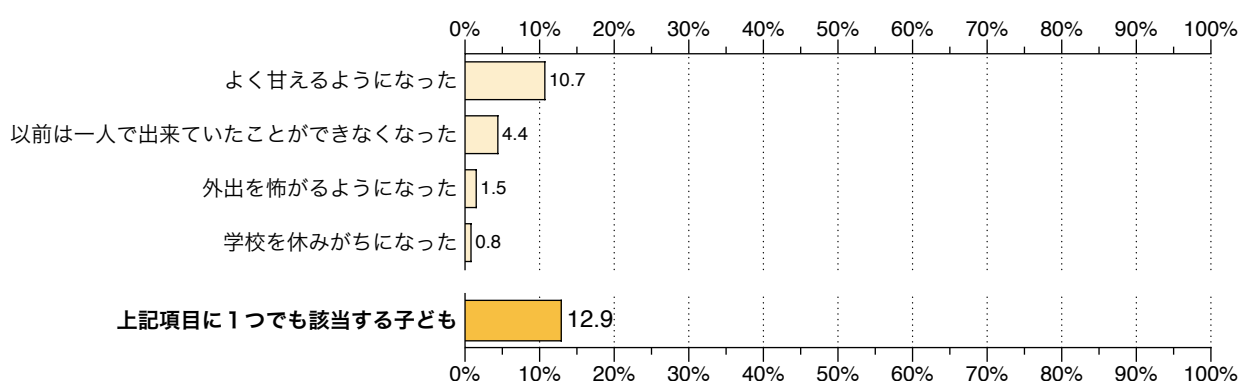


図 4.3：PTSD に関連する症状等

表 4.2：PTSD に関連する症状等

単位：%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
よく甘えるようになった	25.2	16.9	4.6	2.4	12.0
以前は一人でできていたことができなくなった	10.8	7.2	1.7	0.6	4.6

< PTSD に関連する症状等（属性別）>

- ・PTSD に関連する症状等が1つでも見られる子どもは、地域的には、福島県（20.3%）、宮城県（16.4%）に高い傾向が見られ、その他の地域でも一定数見られた。
- ・校種別では、幼稚園27.8%、小学校19.8%、特別支援学校15.4%であり、年齢が低くなるほど増加する傾向が見られ、特別支援学校は小学校をやや下回る値であった。
- ・津波による校舎の被害が大きいほど割合が高く、転校した子どもは転校しなかった子どもより明らかに高い割合を示した。地震による校舎の被害別では、大きな差は見られなかった。

PTSD に関連する症状等が 1 つでも見られる子ども

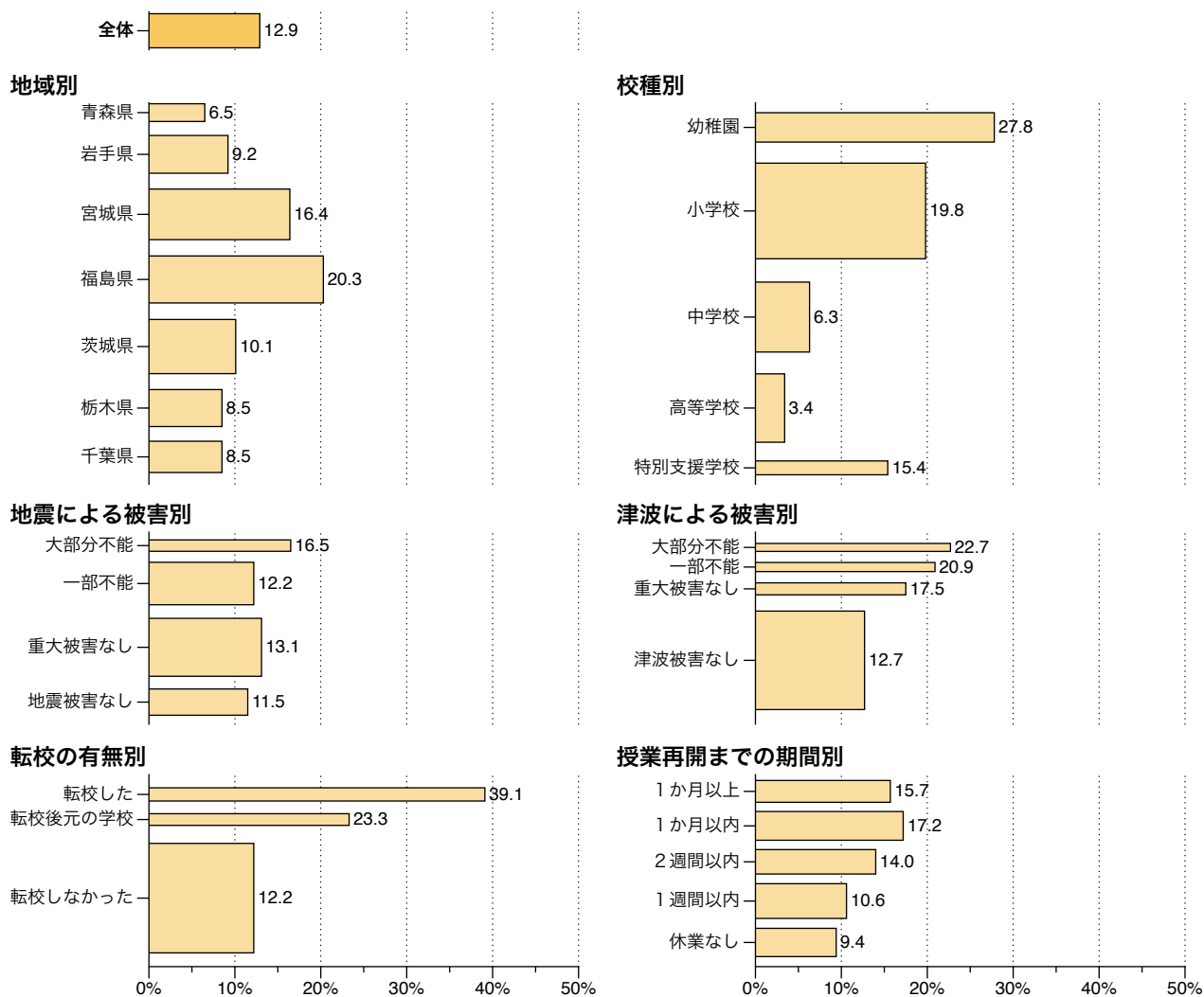


図 4.4：PTSD に関連する症状等が 1 つでも見られる子どもの割合（属性別）

4.1.3 一般的な心身不良の症状

<震災前と異なる現在の子どもの様子（保護者調査問4）>

- ・現在の子どもの様子について、「震災前と異なる様子が見られるか」保護者に聞いたところ、一般的な心身不良の症状が見られる子どもの割合は、「睡眠が十分とれなくなった」3.0%、「頭痛、腹痛、心臓の動悸、過呼吸、めまい等がおこるようになった」3.0%、「食欲や体重に大きな変化があった」2.2%、「元気がなくなり意欲が低下した」2.1%、「あまり話さなくなった」1.3%であった。
- ・また、上記5項目に1つでも該当する子どもの割合は、7.3%であった。

保護者調査「震災前と異なる現在の子どもの様子」

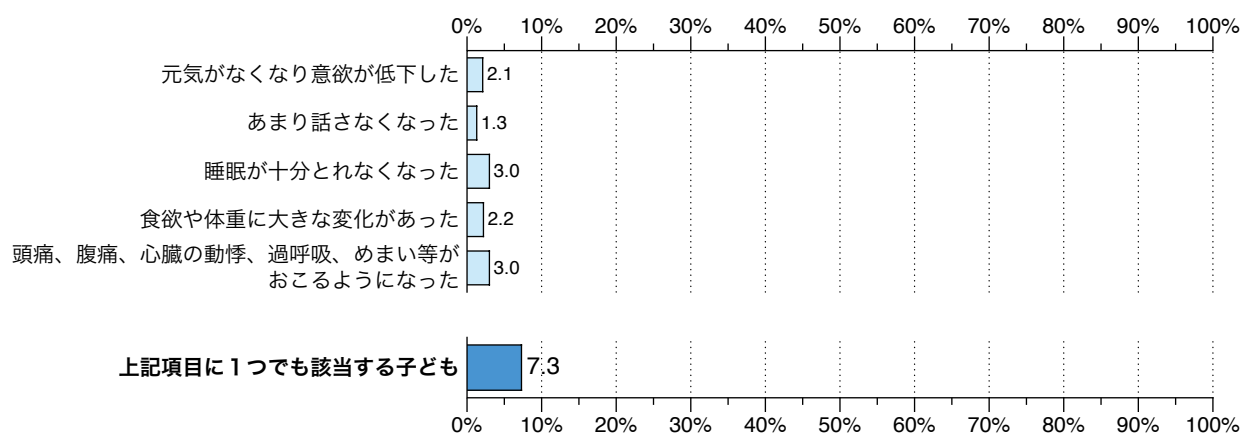


図 4.5：一般的な心身不良の症状

表 4.3：一般的な心身不良の症状

単位：%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
元気がなくなり意欲が低下した	1.2	1.8	2.4	2.4	3.3
あまり話さなくなった	0.5	0.8	1.7	1.9	2.5
睡眠が十分とれなくなった	1.9	2.7	3.4	3.3	5.6
食欲や体重に大きな変化があった	1.4	2.3	1.9	2.2	4.3
頭痛、腹痛、心臓の動悸、過呼吸、めまい等がおこるようになった	1.4	2.9	3.3	3.2	2.8

<一般的な心身不良の症状（属性別）>

- ・一般的な心身不良の症状が1つでも見られる子どもは、地域的には、福島県（16.0%）、宮城県（8.9%）に高い傾向が見られ、そのほかの地域でも一定数見られた。
- ・校種別では、幼稚園の割合がやや低く、小学校・中学校・高等学校はほぼ同等であり、特別支援学校が最も高い割合を示した。
- ・津波による校舎の被害が大きいほど高く、転校した子どもは転校しなかった子どもより明らかに高い割合を示した。また、授業再開までの期間が長いほど割合が高かった。

一般的な心身不良の症状が1つでも見られる子ども

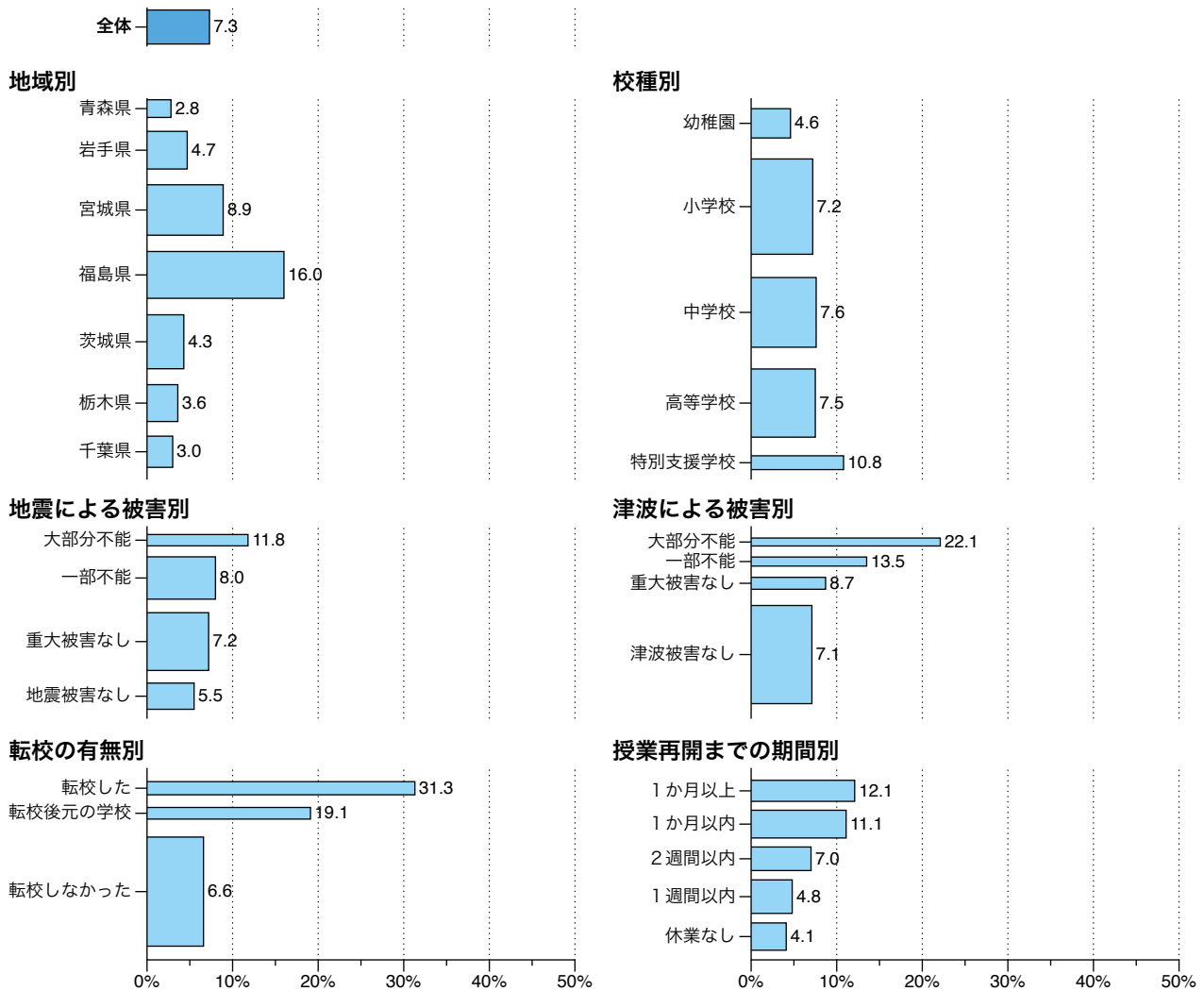


図 4.6：一般的な心身不良の症状が1つでも見られる子どもの割合（属性別）

4.2 子どもの現状に関する考察（非常災害時の子どもの心のケア調査協力者会議まとめ）

PTSD が疑われる症状について

本調査の結果、保護者の回答に基づくと14.1%（男子12.4%、女子16.0%）の子どもに「PTSD が疑われる症状」のうち少なくとも1つが見られた。症状別には、PTSD の3大症状のうち再体験症状が3.0%、回避・麻痺症状がそれぞれ6.2%・1.5%、過覚醒症状が9.1%という割合であった（症状の重複あり）。校種別に見ると、高等学校8.8%、中学校11.5%、小学校17.6%、幼稚園20.2%と年齢が低くなるほど増加する傾向を示し、特別支援学校20.5%は幼稚園と同程度の高い割合を示した。PTSD が疑われる子どもの割合は災害（地震・津波）による被害が大きい地域ほど高く、転校した子ども（38.6%）は転校しなかった子ども（13.5%）と比べて明らかに高い値を示した。本調査が被災後1年余り経た時点で行われたことを考慮すると、今回観察された症状は一過性のストレス反応とは考え難く、PTSD を強く示唆する症状であると推測される。この推測は、今回の結果が、年齢が低く、障害のある子どもほどPTSD を発症しやすいという精神医学の知見と合致していること、及び被害の程度が大きい地域ほど割合が高いことから支持される。

PTSD は長期持続する慢性疾患であり、児童精神科医をはじめとする専門家による治療を受けない限り、自然に完治することは少ない。そのため、子どもが示すPTSD の兆候を見落とさないようにし、PTSD が疑われる子どもを専門機関につなぐことが重要となる。PTSD の3大症状のうち麻痺症状は「解離症状」（意識が目の前の現実から離れる等の症状）に近いと考えられるが、近年、解離症状は重症化しやすいサインであることが知られるようになった。このように、麻痺症状は重要な症状でありながら他の症状と比べて目立ちにくいいため、見過ごさないよう特に注意する必要がある。

PTSD に関連する症状等について

次に、心理的退行（幼児返り）など「PTSD に関連する症状等」（3大症状以外でPTSD に伴って出現しやすい症状）が見られた子どもは12.9%であった。校種別に見ると、高等学校3.4%、中学校6.3%、小学校19.8%、幼稚園27.8%と年齢が低くなるほど増加する傾向を示し、特別支援学校15.4%は小学校をやや下回る値であった。また、災害（地震・津波）による被害の程度が大きい地域ほど割合が高く、転校した子ども（39.1%）は転校しなかった子ども（12.2%）より明らかに高い割合を示した。すなわち、「PTSD に関連する症状等」が見られた子どもの割合は、「PTSD が疑われる症状」に近い値であり、年齢、障害の有無、被害の程度による影響についても「PTSD が疑われる症状」と同じ傾向を示している。

一般的な心身不良の症状について

元気のなさ、睡眠障害、頭痛などPTSD に限らず広くストレスによりもたらされる「一般的な心身不良の症状」が見られた子どもの割合は7.3%であった。また、災害（地震・津波）による被害の程度が大きい地域ほど高く、転校した子ども（31.3%）は転校しなかった子ども（6.6%）より明らかに高い割合を示した。これは「PTSD が疑われる症状」及び「PTSD に関連する症状」と同じ傾向である。一方、年齢・校種による影響については、幼稚園4.6%が最も低く、小学校7.2%、中学校7.6%、高等学校7.5%がほぼ同等で、特別支援学校10.8%が最も高い割合を示した。

「一般的な心身不良の症状」はストレス反応として広く生じやすいものであるが、今回の調査では「PTSD が疑われる症状」14.1%及び「PTSD に関連する症状等」12.9%より少ない7.3%であった。その理由として、被災から1年以上経過した時点の調査のため、被災後すぐに現れる急性のストレス反応が減り、慢性化した症状が中心となっていた可能性がある。

症状の重複及び健康観察の留意点について

今回、調査した3種類の症状どうしに重なりが見られる(図4.7)。「PTSDが疑われる症状」をもつ子どもの約半数が「PTSDに関連する症状等」を示し、約3割が「一般的な心身不良の症状」を示した。すなわち、PTSDを発症している可能性のある子どもは、それ以外の症状を併せ持つことが多いと言える。

逆に、「PTSDに関連する症状」を示した子どもの約半数、「一般的な心身不良の症状」が見られた子どもの約6割に「PTSDが疑われる症状」が見られた。したがって「PTSDに関連する症状等」や「一般的な心身不良の症状」が見られた場合、PTSDの症状がないか探ることが大切であると考えられる。また、「PTSDが疑われる症状」が見られた子どものうち約4割が「PTSDが疑われる症状」以外の症状を示さなかった。このことは、PTSD特有の症状に十分注意しないとこの疾患を見過ごす可能性があること示唆している。特に、PTSDの麻痺症状は家庭でも見過ごされやすいため、家庭での情報を得るだけでなく、PTSDに対する保護者の気づきを促すような情報を提供することも健康観察にとって重要であると考えられる。

「PTSDが疑われる症状」及び「PTSDに関連する症状」については、症状の性質上、学校よりも家庭で出現しやすいと言われているため、教職員が保護者と密接に連絡を取りながら子どもの様子を観察することが重要である。

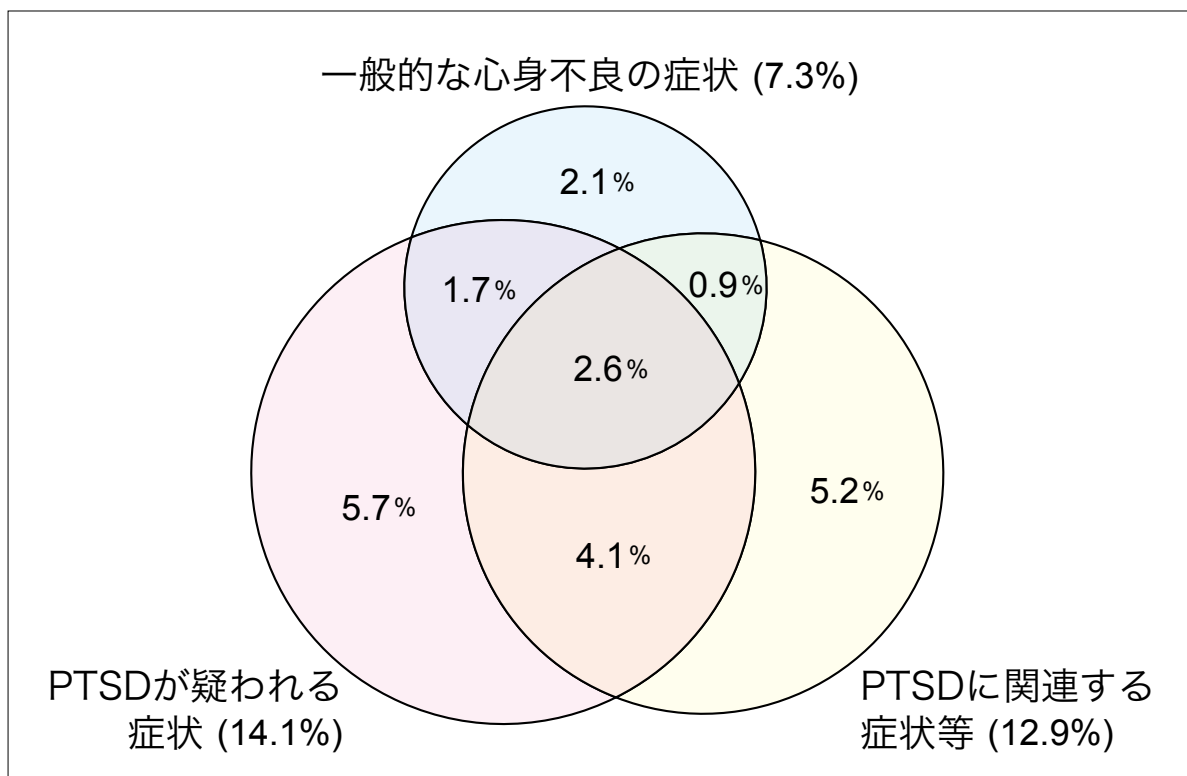


図 4.7 「症状等の重複について」

*小数第2位を四捨五入したため、内訳と合計は一致しないことがある。

地域別の特徴について

最後に、地域別に見た場合、「PTSDが疑われる症状」、「PTSDに関連する症状」、「一般的な心身不良の症状」のいずれも、福島県が最も高く(全体平均の約1.5~2倍程度)、次いで宮城県が高かった。

福島県における割合の高さについては、上記3種類の症状のうち、調査時点において継続中のストレスを反映しやすい「一般的な心身不良の症状」が他県より突出して高かったことにより、地震と津波による災害に加え、放射線被害と関連する諸々のストレスが関与している可能性が考えられる。このような可能性も念頭に置き、今後も引き続き子どもの心の健康状態を慎重に観察し、ケアに当たる必要があると考えられる。

第5章 子どもの心の健康問題に関する取組

5.1 取組の現状

5.1.1 全体状況

<取組の現状チャート（全体状況）>

- ・「平成24年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査」の調査内容の中から、震災後の子どもの健康問題への取組状況を3つの領域・8つの軸に整理し、例えば「十分取り組んでいる」など望ましい回答が多いほど高得点となるよう得点化してグラフにしたものが図5.1である（チャートの作成方法は第9章参照）。
- ・「健康観察と心のケアに関する資質」の領域では、健康観察はある程度実施されている。しかし、その内容分析にまでは至らず、心のケアに関する知識・理解に関する取組の割合が低かった。
- ・「組織体制の構築」の領域では、校内の連携体制と比べて、保護者や地域の専門機関との連携に関する取組の割合は低かった。
- ・「支援者のメンタルヘルス」の領域では、教職員自身・保護者ともに心の安定に関する取組の割合が低かった。

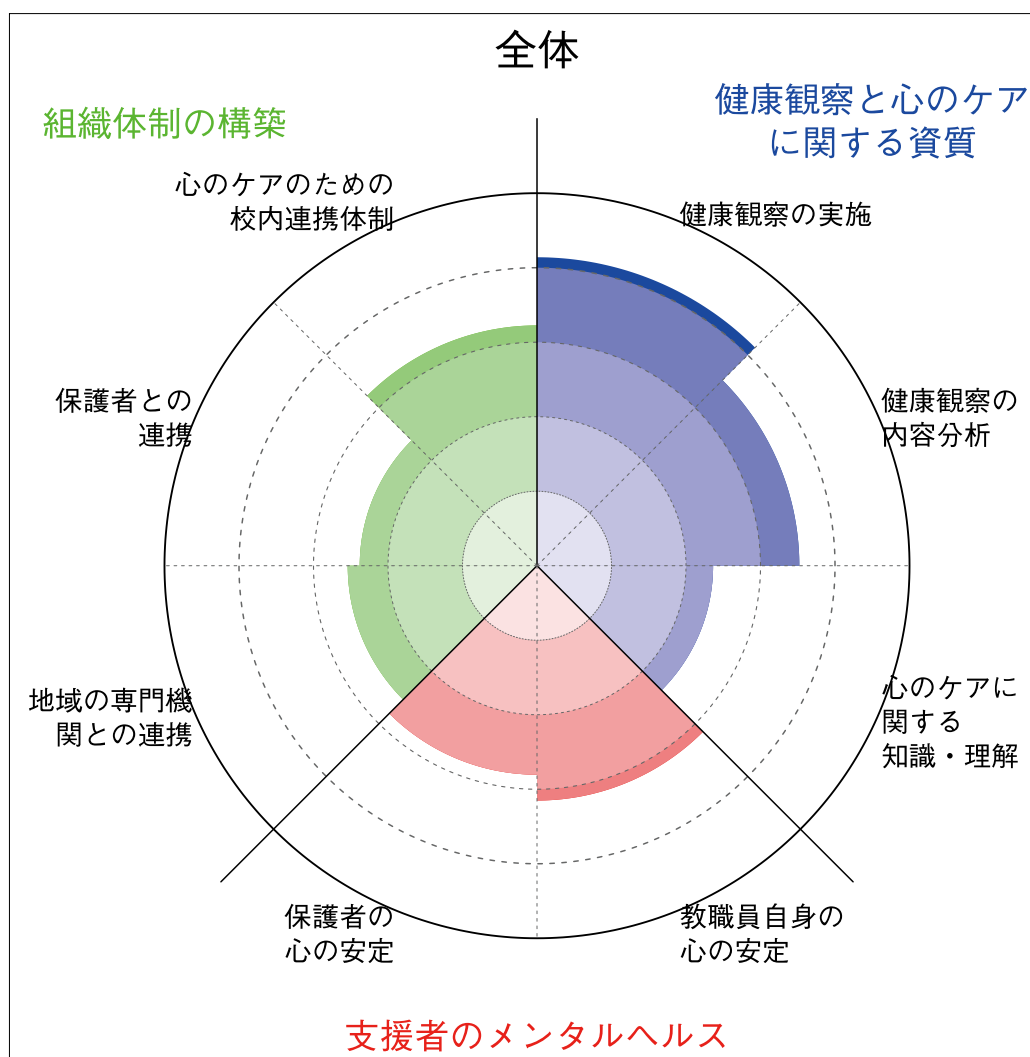


図 5.1：取組の現状チャート

*チャートの同心円は、30、45、60、75、90点とする。（中心点は15点）

5.1.2 校種別状況

<取組の現状チャート（校種別）>

- ・校種の間で取組状況を比較してみると、幼稚園では健康観察はある程度実施されているものの、それ以外の軸は他の校種と比べて取組の割合が低かった。
- ・小学校と中学校は全体状況とほぼ同様の傾向である。つまり健康観察は実施されているものの、心のケアに関する知識・理解や保護者や地域の専門機関との連携の割合が低かった。
- ・高等学校では他の校種と比べて健康観察の実施がやや欠けており、また、特に心のケアに関する知識・理解に関する取組の割合が低かった。
- ・特別支援学校では、他の校種よりも心のケアに関する知識・理解が進んでいるものの、組織体制の構築の割合が低かった。

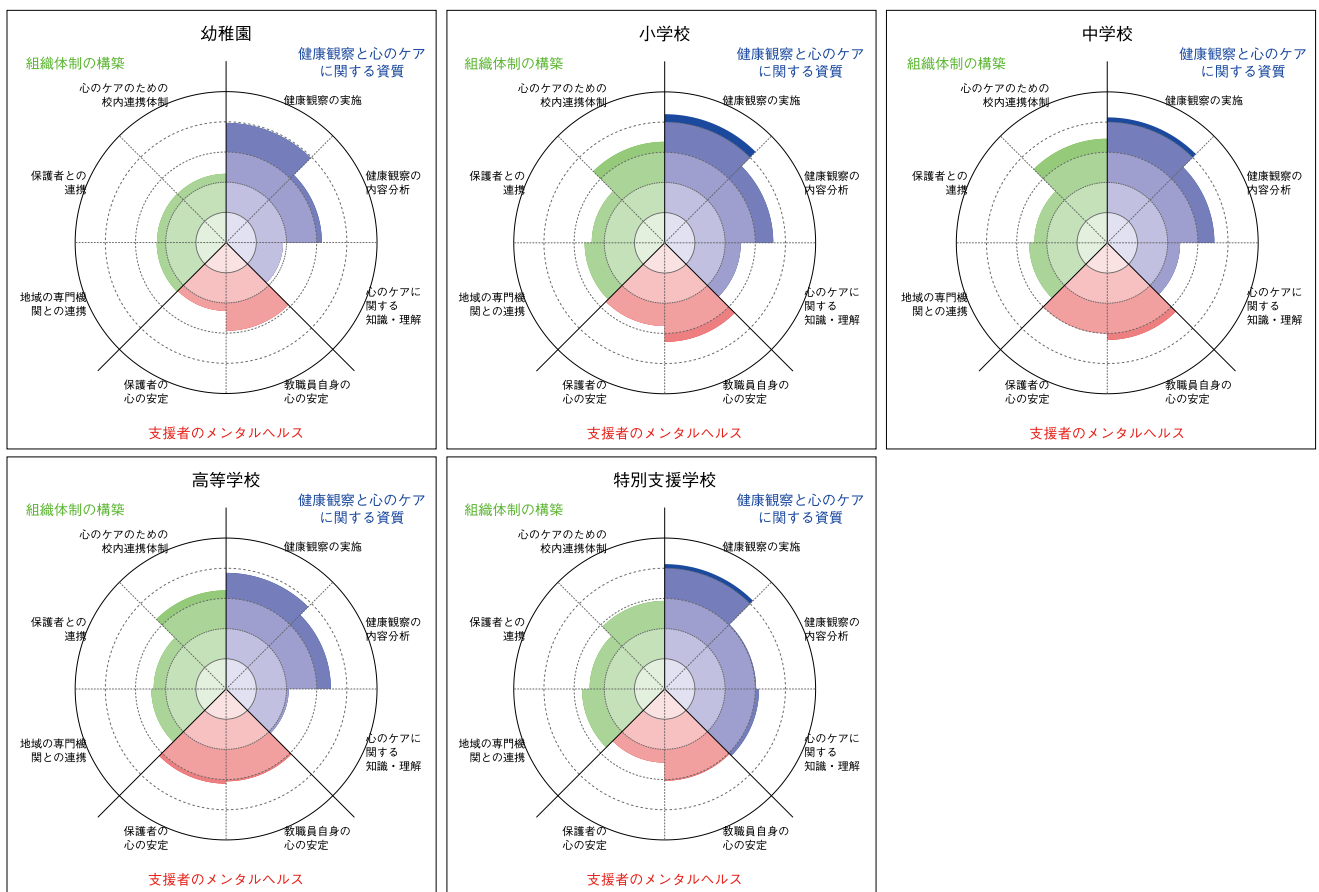


図 5.2：取組の現状チャート（校種別）

5.2 領域別に見た現状と課題

5.2.1 健康観察と心のケアに関する資質

健康観察の実施

<保護者の希望（保護者調査問6）>

- ・保護者調査で「震災（地震・津波・放射線）による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）を聞いたところ、「子どもの心身の状況をさらにきめ細かく把握してほしい」と回答した保護者は19.3%であり、これは用意した回答選択肢の中では「保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい」に続いて2番目に多かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」
（複数回答）

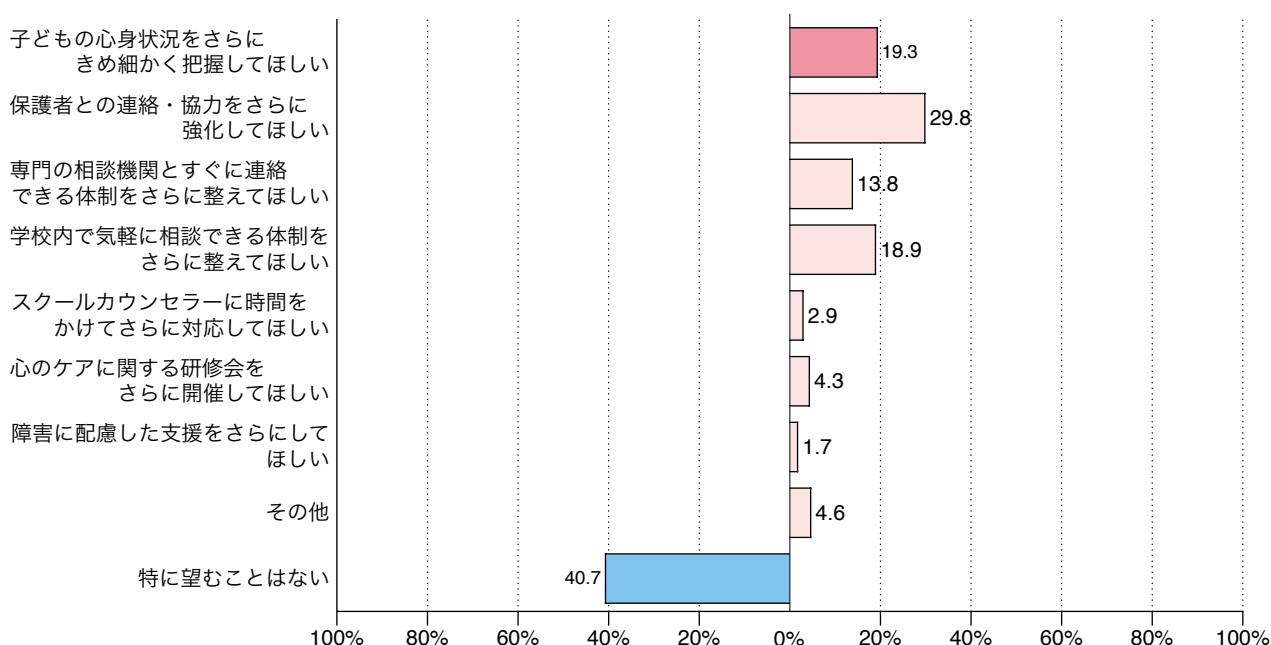


図 5.3：保護者の希望（健康観察の実施）

<保護者の希望（属性別）>

- ・保護者が「子どもの心身状況をさらにきめ細かく把握してほしい」という回答の割合は、学校段階が上がるにつれて減少し、幼稚園の23.7%に対して高等学校では14.7%であった。特別支援学校では18.4%であった。
- ・地域別に見ると、福島県が28.6%で最も多く、他の県よりも10ポイント程度高かった。
- ・子どもの症状別では「ある」と回答した保護者の3割以上が、子どもの心身状況のきめ細かな把握を望んでおり、症状が「ない」と回答した保護者よりも15ポイント以上高かった。
- ・転校の有無別では、子どもが転校した保護者の3割は「心身状況のきめ細かな把握」を望んでおり、子どもが転校しなかった保護者よりも10ポイント以上高かった。
- ・津波による被害が大きかった学校ほど心身状況のきめ細かな把握を望む保護者の割合が高い一方で、地震による被害別ではその割合に大きな差は見られなかった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと
「子どもの心身の状況をさらにきめ細かく把握してほしい」

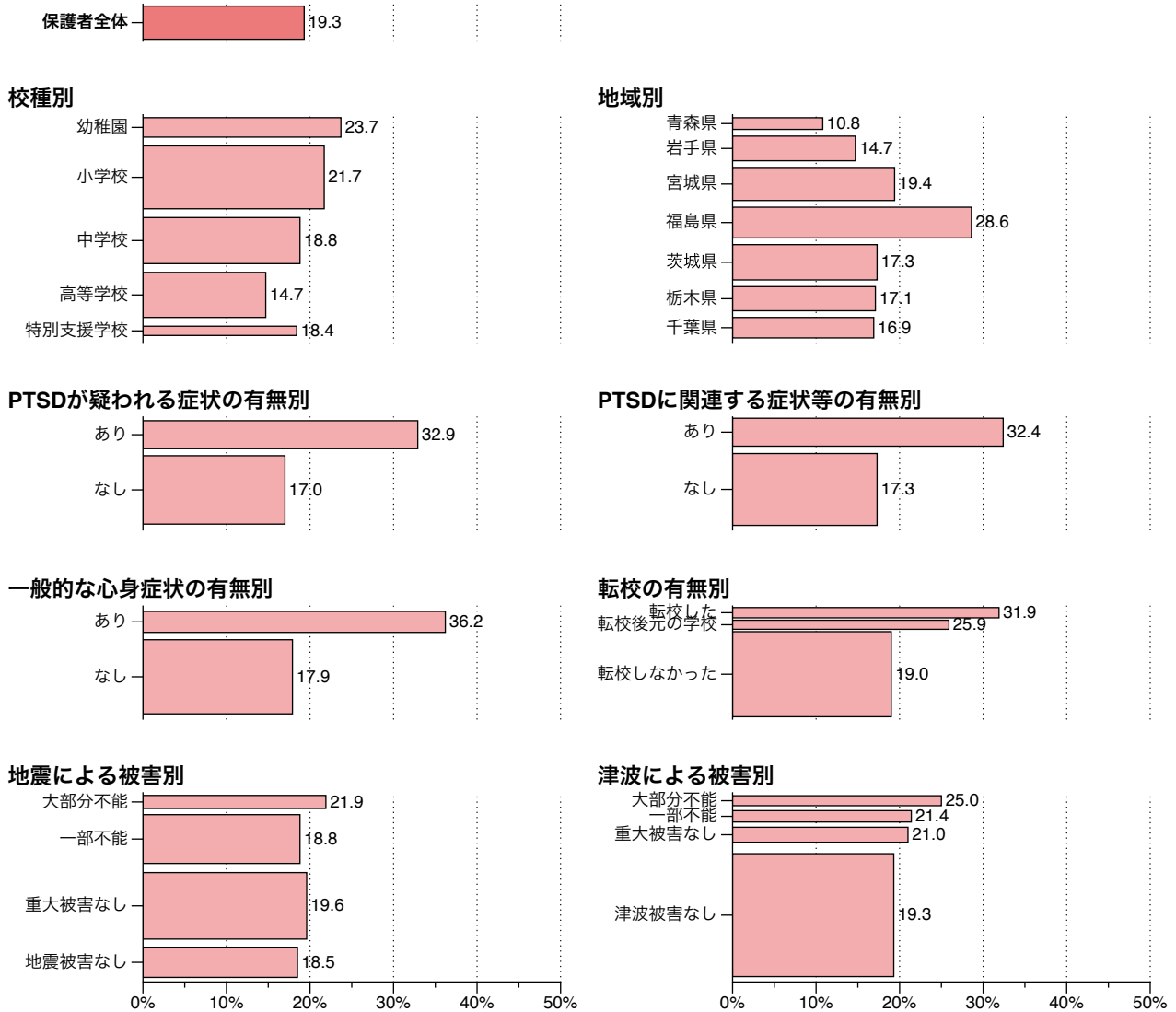


図 5.4：保護者の希望（健康観察の実施・属性別）

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

・震災後の心身の健康問題への対応について、学校の取組を聞いたところ、「健康観察の実施に関連した取組」については、校（園）長、学級担任・養護教諭いずれも9割以上が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題への対応」（学校の取組）
学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題への対応」（各職種の取組）

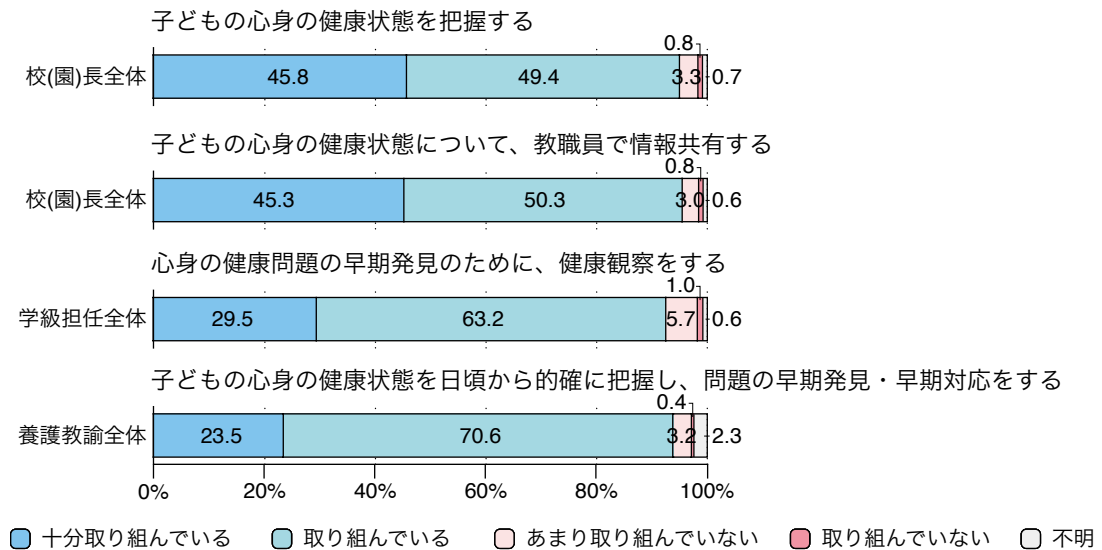


図 5.5：学校の取組（健康観察の実施）

健康観察の内容分析

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

・震災後の心身の健康問題の対応について、学校の取組を聞いたところ、「健康観察の内容分析に関連する取組」については、校（園）長が8割以上、学級担任・養護教諭が9割以上「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題への対応」（学校の取組）
学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題への対応」（各職種の取組）

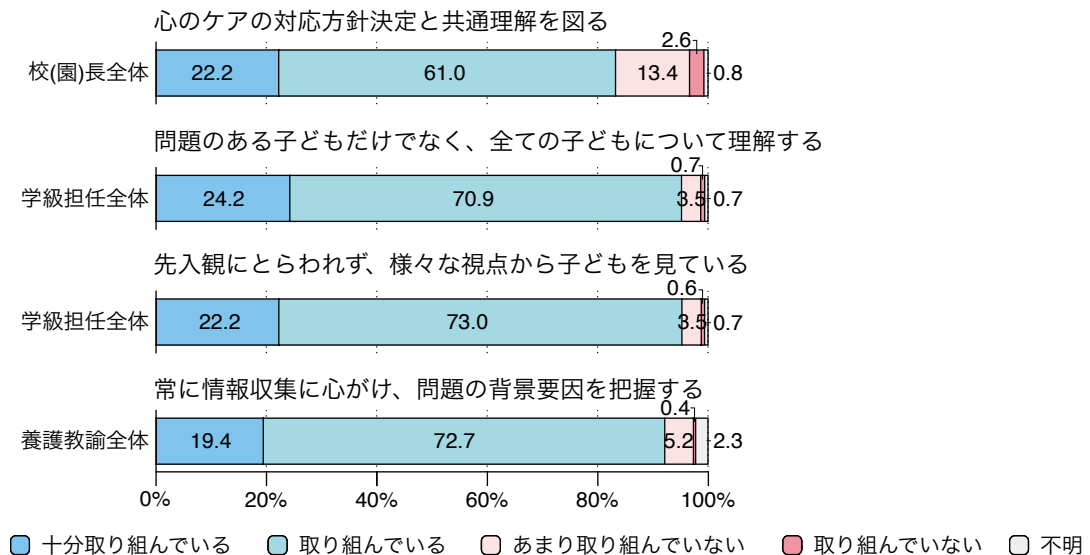


図 5.6：学校の取組（健康観察の内容分析）

<教職員への助言（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

- ・健康観察の内容分析に関わって、震災後のスクールカウンセラーの活動内容（複数回答）を聞いたところ、「教職員への助言を行った」は、全体では57.5%であった。校種別では、学校段階が上がるごとに増加し、特別支援学校は幼稚園と同程度であった。
- ・津波や地震による校舎の被害別では、被害の大きかった学校のスクールカウンセラーほど教職員への助言を行っていた。また、授業再開までの期間別では、授業再開までの期間が長かった学校のスクールカウンセラーほど、教職員への助言を行っていた。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）
「教職員への助言を行った」

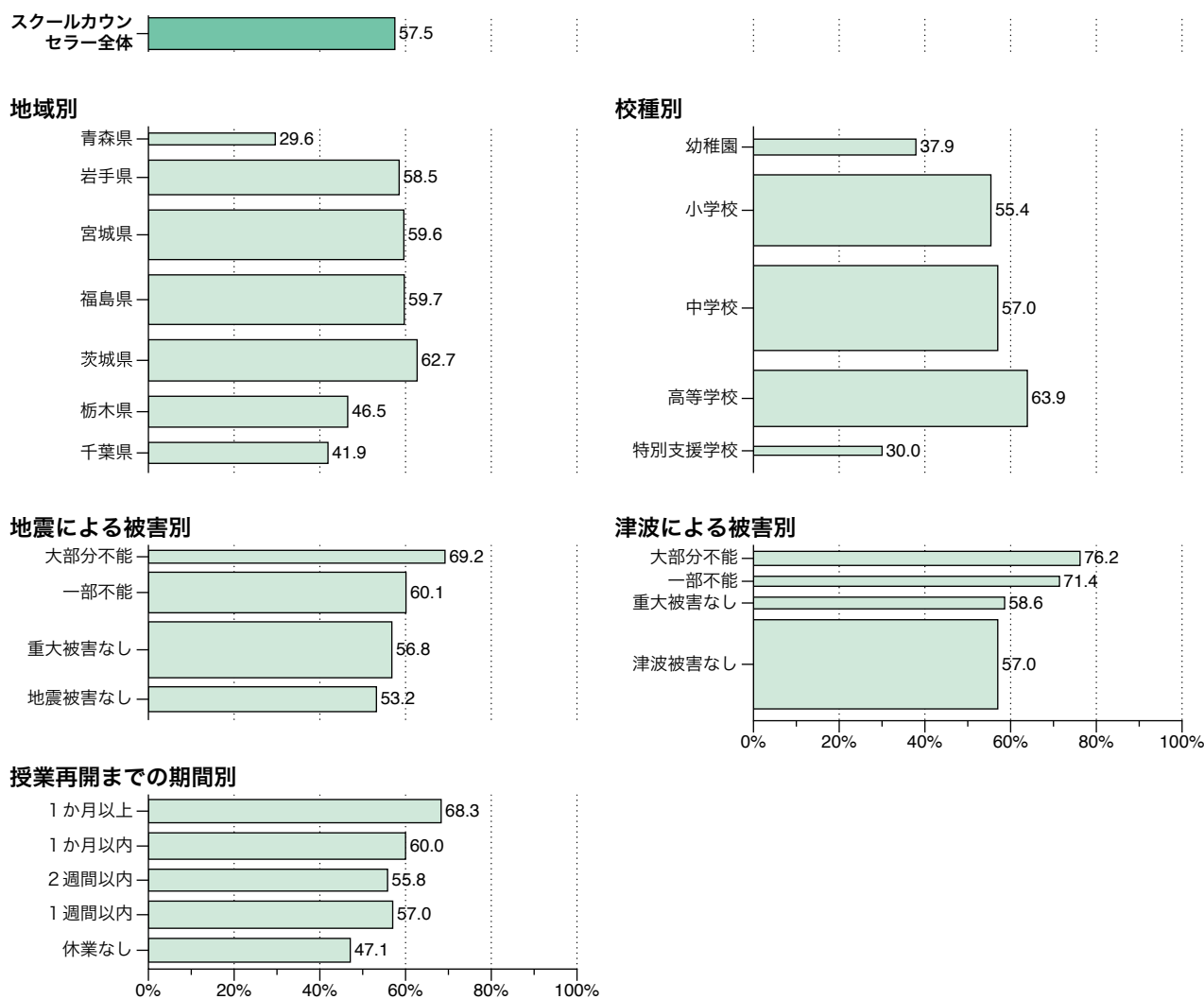


図 5.7：教職員への助言（健康観察の内容分析・属性別）

心のケアに関する知識・理解

<心身の健康問題への対応に当たっての課題（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

・心身の健康問題に対応するに当たっての課題（共通質問）を各職種に聞いたところ、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」については、学級担任50.4%、養護教諭31.8%、校（園）長26.4%が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。また、「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識の違いや対応のばらつきがみられる」については、学級担任の34.1%と養護教諭の30.6%が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題への対応に当たっての課題」（共通質問）

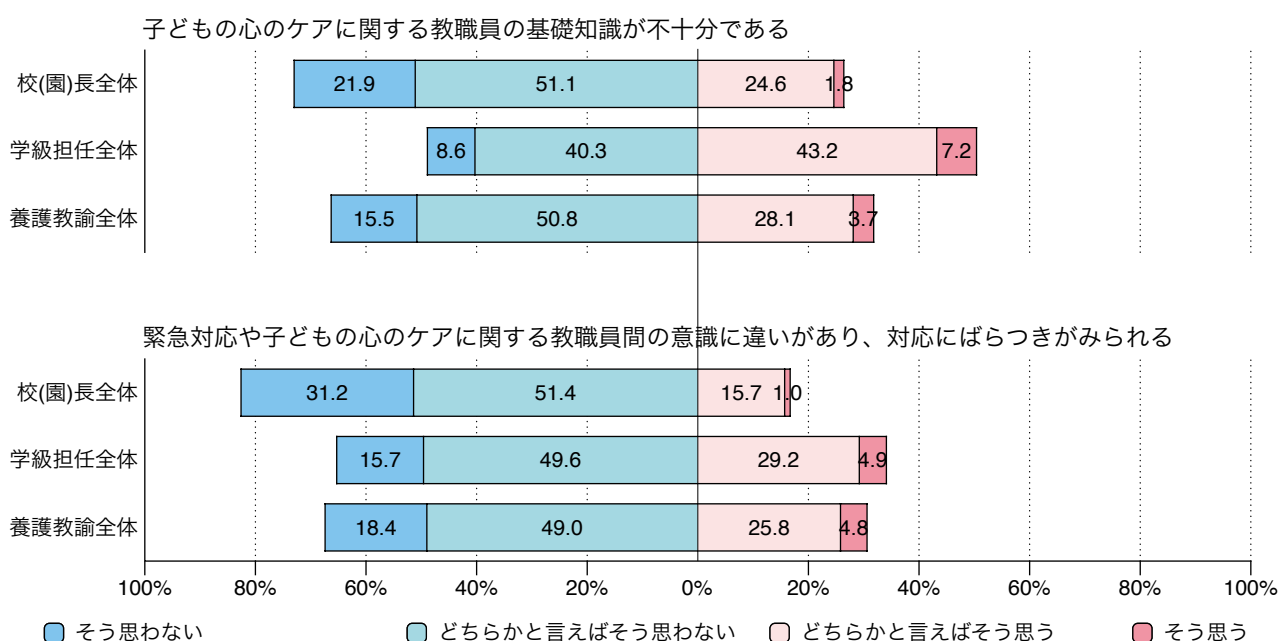


図 5.8：健康問題への対応に当たっての課題（心のケアに関する知識・理解）

<子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識（校種別）（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

・「子どもの心のケアに対する教職員の基礎知識が不十分である」については、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した校（園）長は、幼稚園34.4%、高等学校32.5%、学級担任は、高等学校62.7%、幼稚園52.2%、中学校54.9%、特別支援学校53.2%、小学校43.4%、養護教諭は、高等学校40.6%、小学校31.7%、中学校32.2%、特別支援学校34.9%であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題への対応に当たっての課題」
「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識」（共通質問）

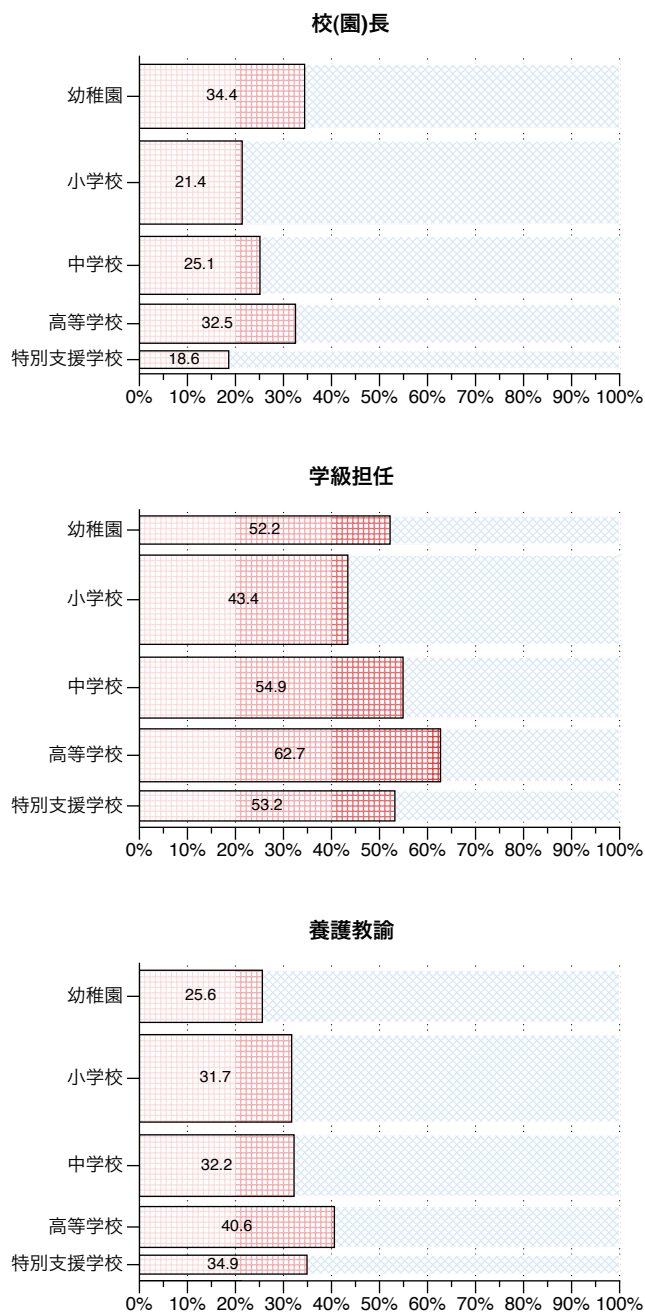


図 5.9：子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識（心のケアに関する知識・理解・校種別）

<子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い（校種別）（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

- ・「危機管理や子どもの心のケアに関する教職員の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる」については、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学級担任と養護教諭は、学校段階が上がるにつれて割合が高くなる傾向にあり、いずれの職種も高等学校の割合が5割を超えていたが、校（園）長は3割以下であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題への対応に当たっての課題」
「子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い、対応のばらつき」（共通質問）

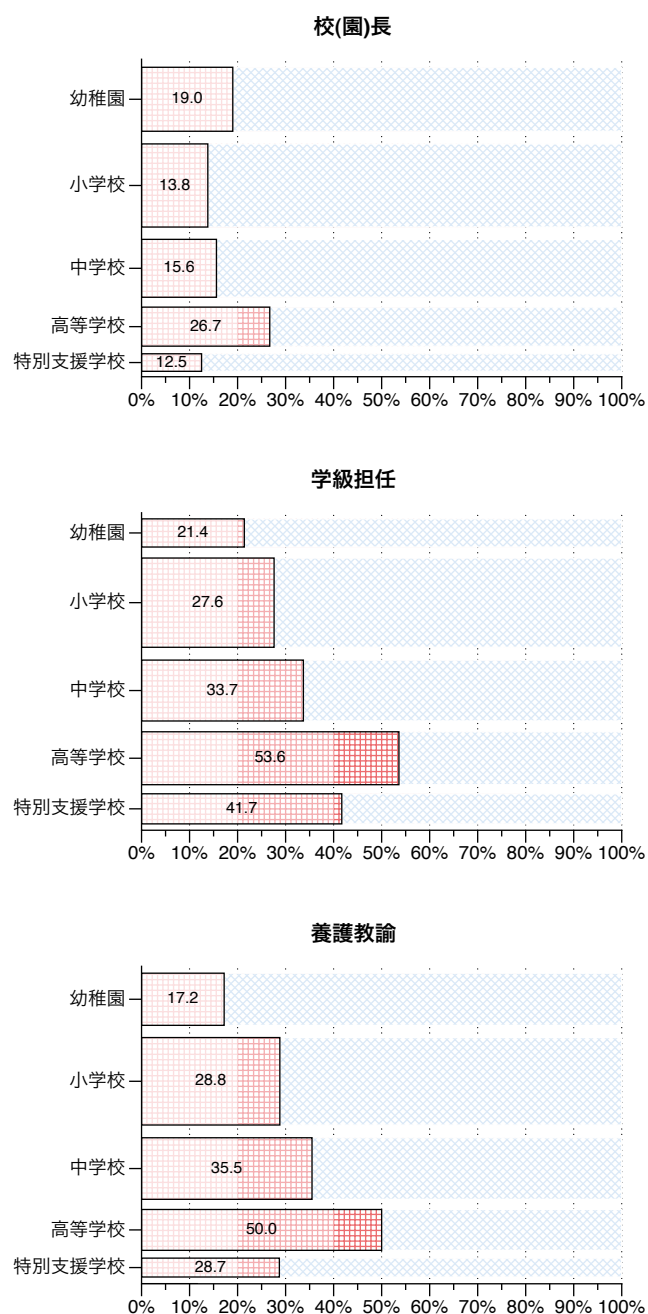


図 5.10：子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い（心のケアに関する知識・理解・校種別）

<集団指導の実施（学級担任調査問10、養護教諭調査問12）>

・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、学級担任と養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「集団指導や学級で心のケアを実施している」割合は、学級担任20.9%、養護教諭10.7%であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）

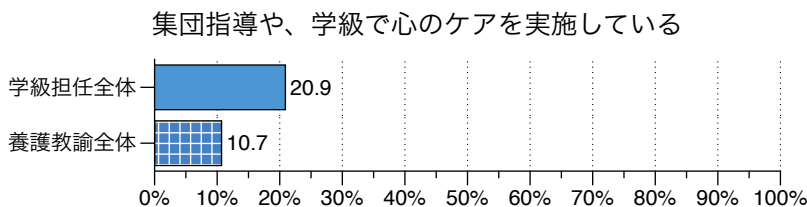


図 5.11：集団指導の実施（子どもの心のケアに関する知識・理解）

<集団指導の実施（校種別）>

・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「集団指導や学級で心のケアを実施」している学級担任は小学校（24.9%）と中学校（21.5%）の割合が高く、養護教諭は幼稚園（14.4%）の割合がやや高かった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）

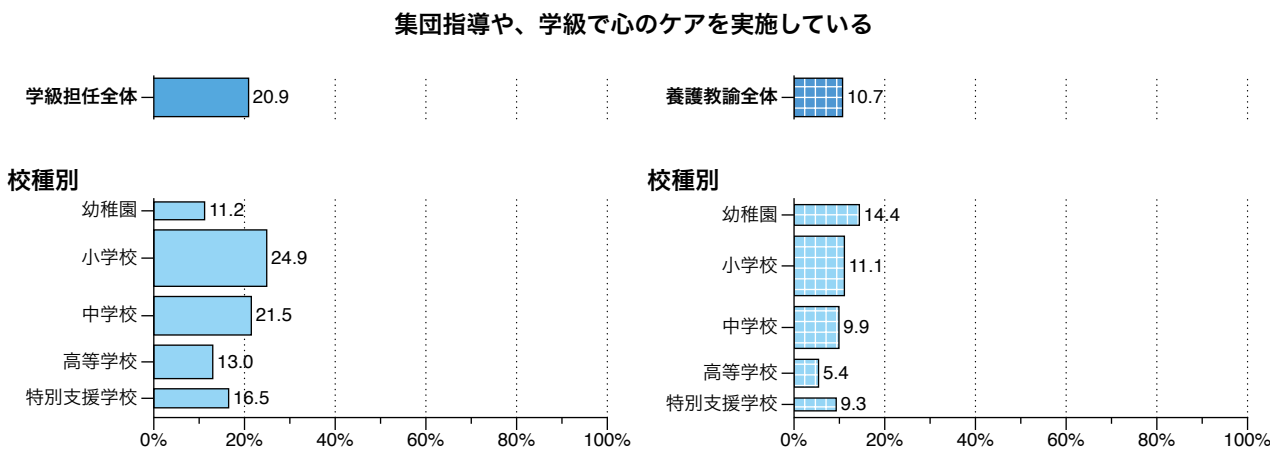


図 5.12：集団指導の実施（心のケアに関する知識・理解・校種別）

<研修への参加（校（園）長調査問19、学級担任調査問16、養護教諭調査問18）、
指導の経験（校（園）長調査問20、学級担任調査問17、養護教諭調査問19）>

- ・「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）に参加したことがある」（共通質問）について聞いたところ、校（園）長は80.4%、学級担任は48.7%、養護教諭は87.8%が「参加したことがある」と回答していた。また、「震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援」についても同様の結果であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）への参加」（共通質問）

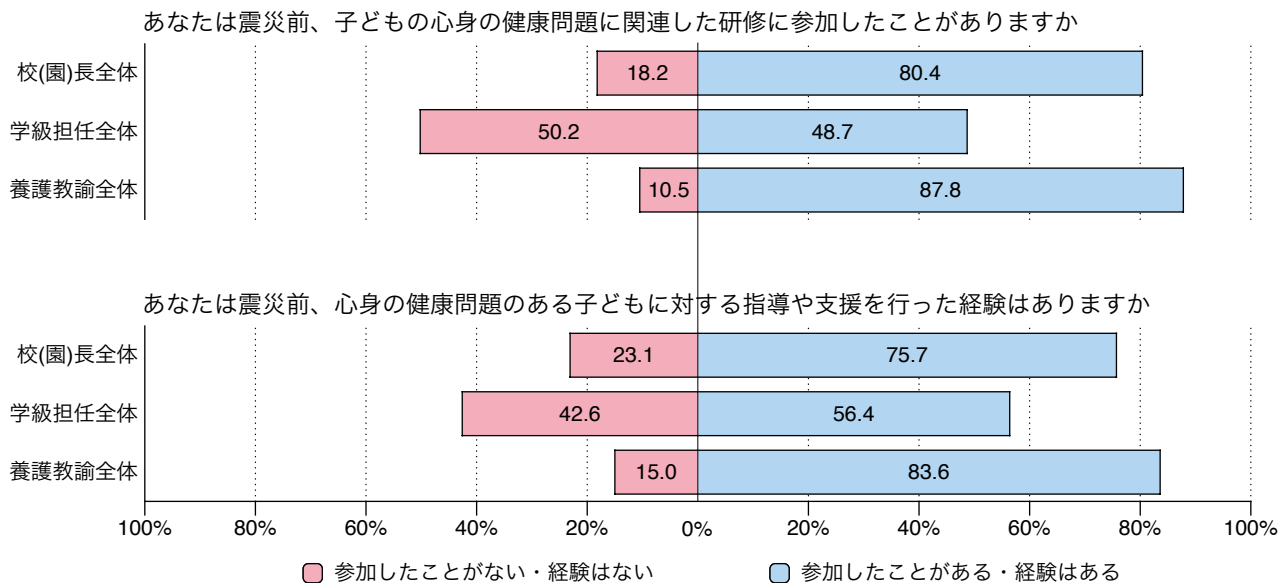


図 5.13：研修への参加・指導の経験（心のケアに関する知識・理解）

<保護者の希望（属性別）（保護者調査問6）>

- ・保護者調査で「震災（地震・津波・放射線）による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）を聞いたところ、「心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい」と希望しているのは、PTSDが疑われる症状やPTSDに関連する症状等、一般的な心身症状があると回答した保護者の割合が高かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい

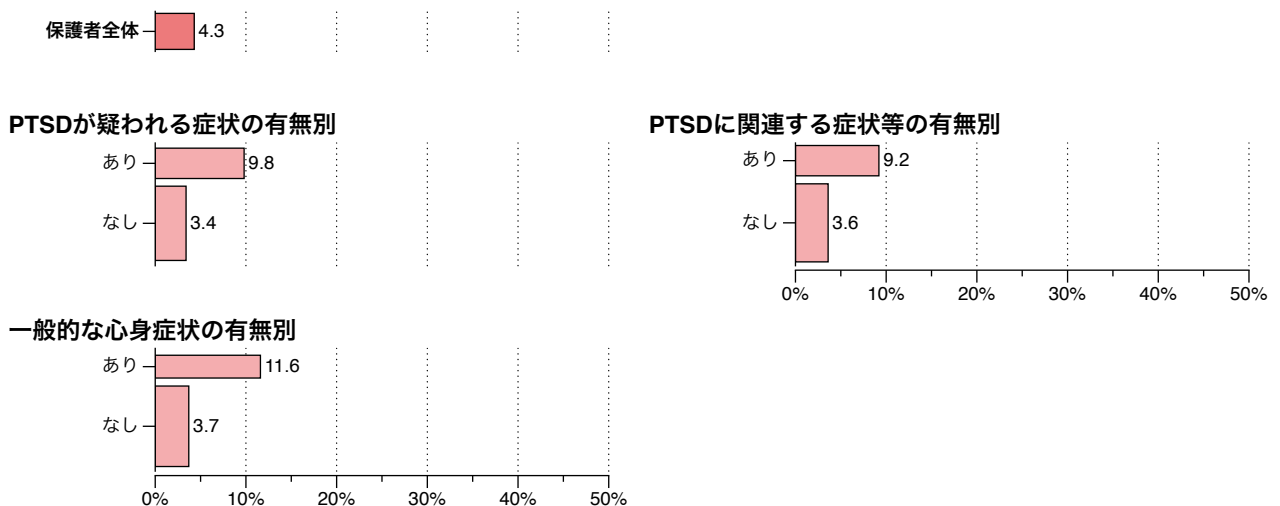


図 5.14：保護者の希望（心のケアに関する知識・理解・属性別）

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

・震災後の心身の健康問題の対応について、学校の取組を聞いたところ、「心のケアに関する知識・理解に関連する取組」については、校（園）長は「心のケアに関わる校内研修会実施」に56.8%、また、学級担任は「メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得」に44.1%、養護教諭は「医学的な情報を教職員に提供」に65.3%が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題への対応」（学校の取組）
学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題への対応」（各職種の取組）

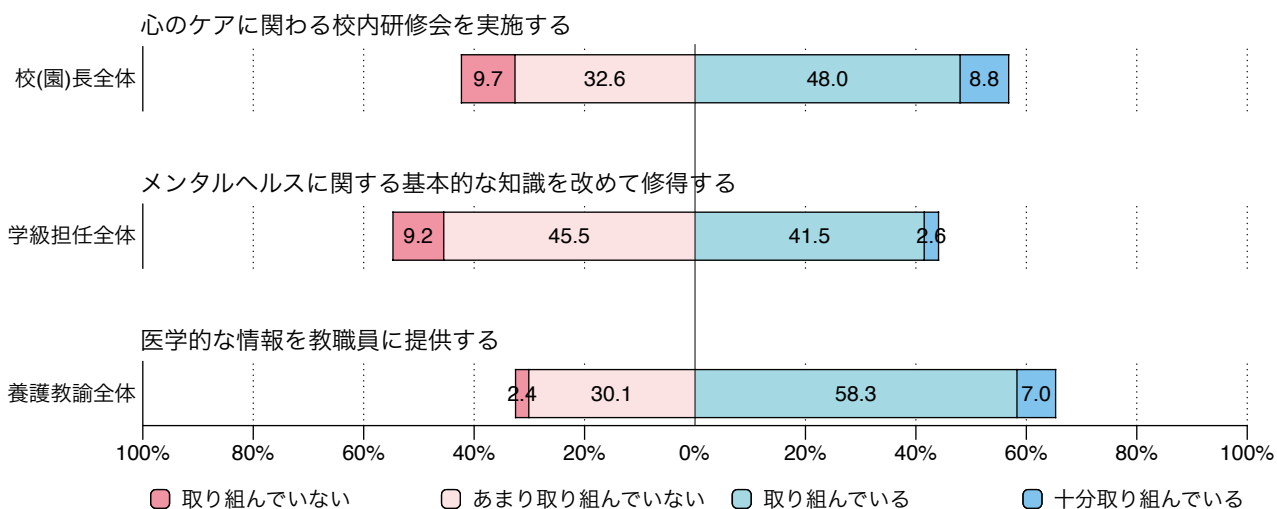


図 5.15：震災後の心身の健康問題への対応（心のケアに関する知識・理解）

<教職員対象の研修会（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

・心のケアに関する知識・理解に関わって、震災後のスクールカウンセラーの活動内容（複数回答）を聞いたところ、「教職員対象の研修会を行った」については、校種別では高等学校の割合がやや高く、地震や津波による被害の大きかった学校ほど研修会を行った割合が高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校への取組」（複数回答）

教職員対象の研修会を行った

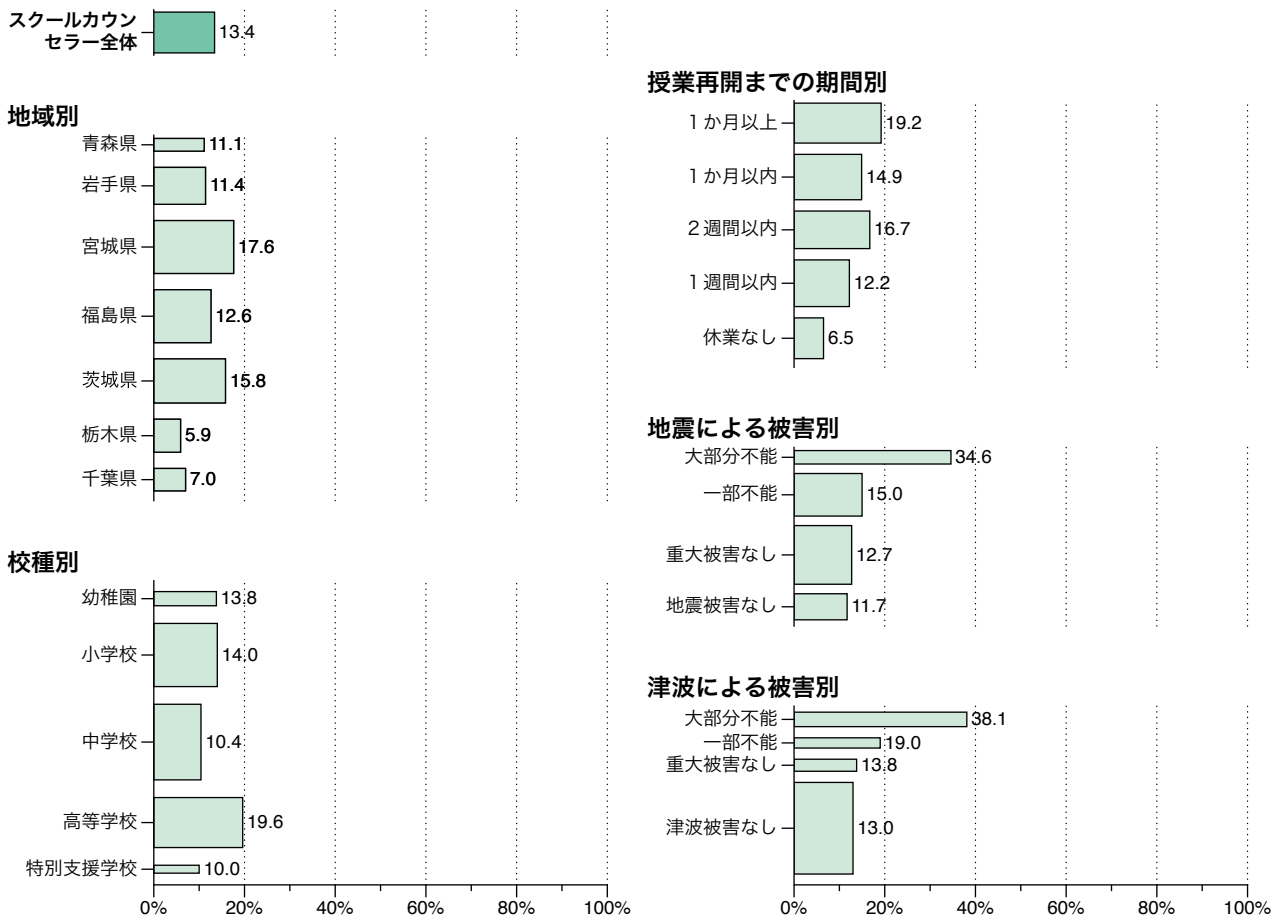


図 5.16：教職員対象の研修会（心のケアに関する知識・理解・属性別）

<参考資料の活用（校（園）長調査問15、学級担任調査問8、養護教諭調査問10）>

・子どもの心身の健康問題の対応について、活用している参考資料（複数回答）は、「子どもの心のケアのために」の活用が多く、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題へも対応」については、余り活用されていなかった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「子どもの心身の健康問題の対応について、活用している参考資料」（複数回答）

あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（複数回答）

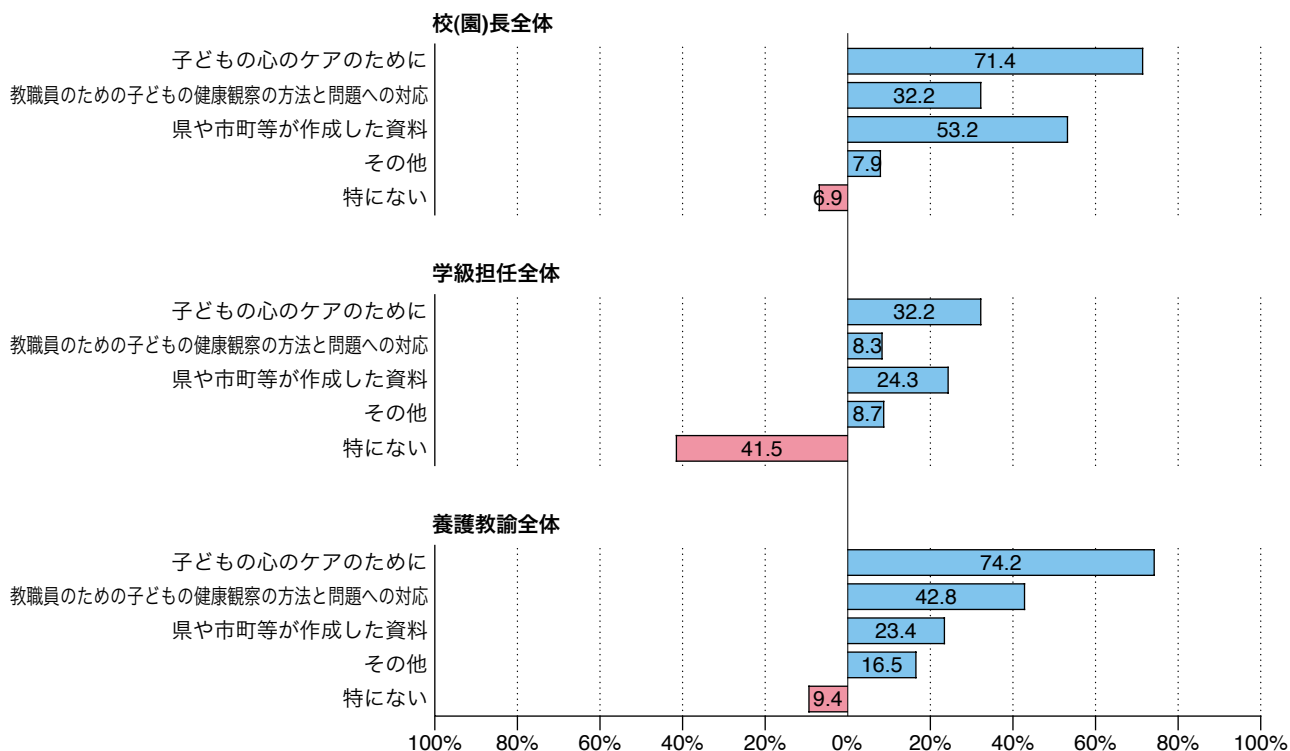


図 5.17：参考資料の活用（心のケアに関する知識・理解）

* 「子どもの心のケアのために—災害や事件・事故発生時を中心に—」文部科学省（平成22年7月）

災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア、子どもの体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方に加え、新潟県中越沖地震の被災地域の学校を対象に行った調査を踏まえた自然災害時における心のケアの進め方を提示。

* 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省（平成21年3月）

健康観察の重要性や目的の理解、健康観察の視点や方法、健康観察表のモデル例の提示等、身体面のみならず心の健康に関する健康観察の視点や対応の在り方について、理解が深められるように構成。

<障害のある子どもへの支援（校（園）長調査問13、学級担任調査問12、養護教諭調査問14）>

・障害のある子どもの対応に当たって、課題があるか聞いたところ、どの職種も「発達障害・知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない」と回答している割合が高かった。また、学級担任はいずれの障害についても、子どもへの支援が十分にできていないと回答している割合が高かった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「障害のある子どもへの対応に当たっての課題」（共通質問）

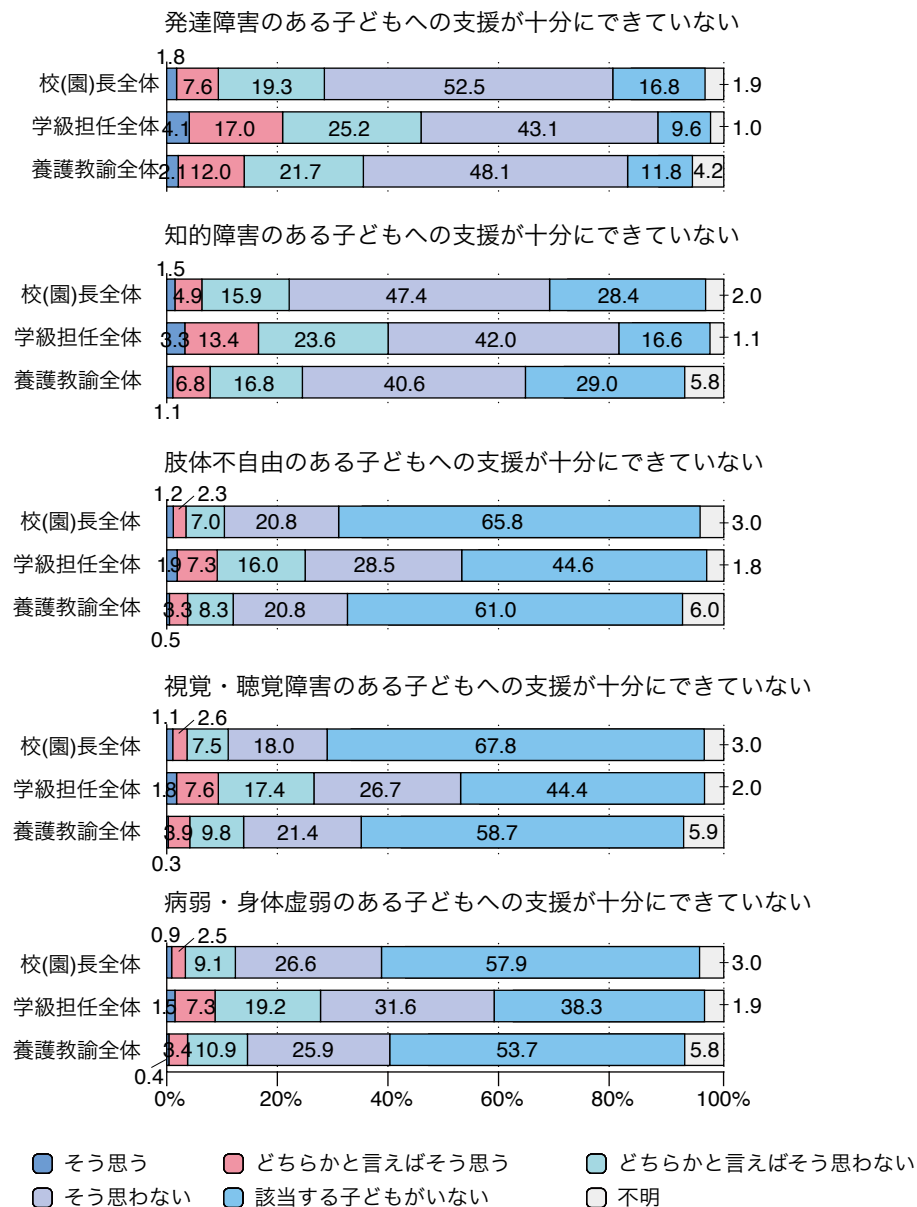


図 5.18：障害のある子どもへの支援（心のケアに関する知識・理解）

＜障害のある子どもへの支援について（属性別）（保護者の希望 保護者調査問6）＞

- ・震災後の子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと（複数回答）の中で「障害に配慮した支援」をさらに希望している保護者は、特別支援学校の割合が高く、19.8%であった。

表 5.1：障害のある子どもへの支援について保護者の希望

単位：%

保護者全体	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
1.7	1.9	1.7	1.5	1.3	19.8

＜健康観察と心のケアに関する資質のまとめ＞

- ・健康観察の実施に関連した学校の取組は、いずれも9割以上が取り組んでいると回答していた。
- ・保護者が子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むことの中で、「子どもの心身の状況をさらにきめ細かく把握してほしい」は19.3%であり、これは「保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい」（29.8%）に次いで2番目に多かった。また、学校段階が上がるにつれて減少し、幼稚園の23.7%に対して高等学校では14.7%であり、9ポイントの差があった。
- ・健康観察の内容分析に関連した取組については、校（園）長の8割以上、学級担任・養護教諭は9割以上が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。
- ・心のケアに関する知識・理解については、心身の健康問題に対する課題として、学級担任の5割、養護教諭の3割が「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識不十分である」と回答していた。また、学級担任や養護教諭の3割以上が「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員の意識の違いや対応のばらつきがみられる」と回答していた。
- ・「震災前に子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修含む）」に参加したことがある校（園）長・養護教諭は8割以上、学級担任は5割に満たなかった。また、「震災前に心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援」の経験についても同様の結果であった。
- ・参考資料については、「子どもの心のケアのために」の活用が多く、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」については、余り活用されていなかった。

5.2.2 組織体制の構築

心のケアのための校内連携体制

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「心のケアのための校内連携体制に関連した取組」をそれぞれの職種に聞いたところ、養護教諭の「子どもの個別の支援計画に参画する」を除いて、いずれも7割以上が取り組んでいた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題についての対応」（学校の取組）

学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題についての対応」（各職種の取組）

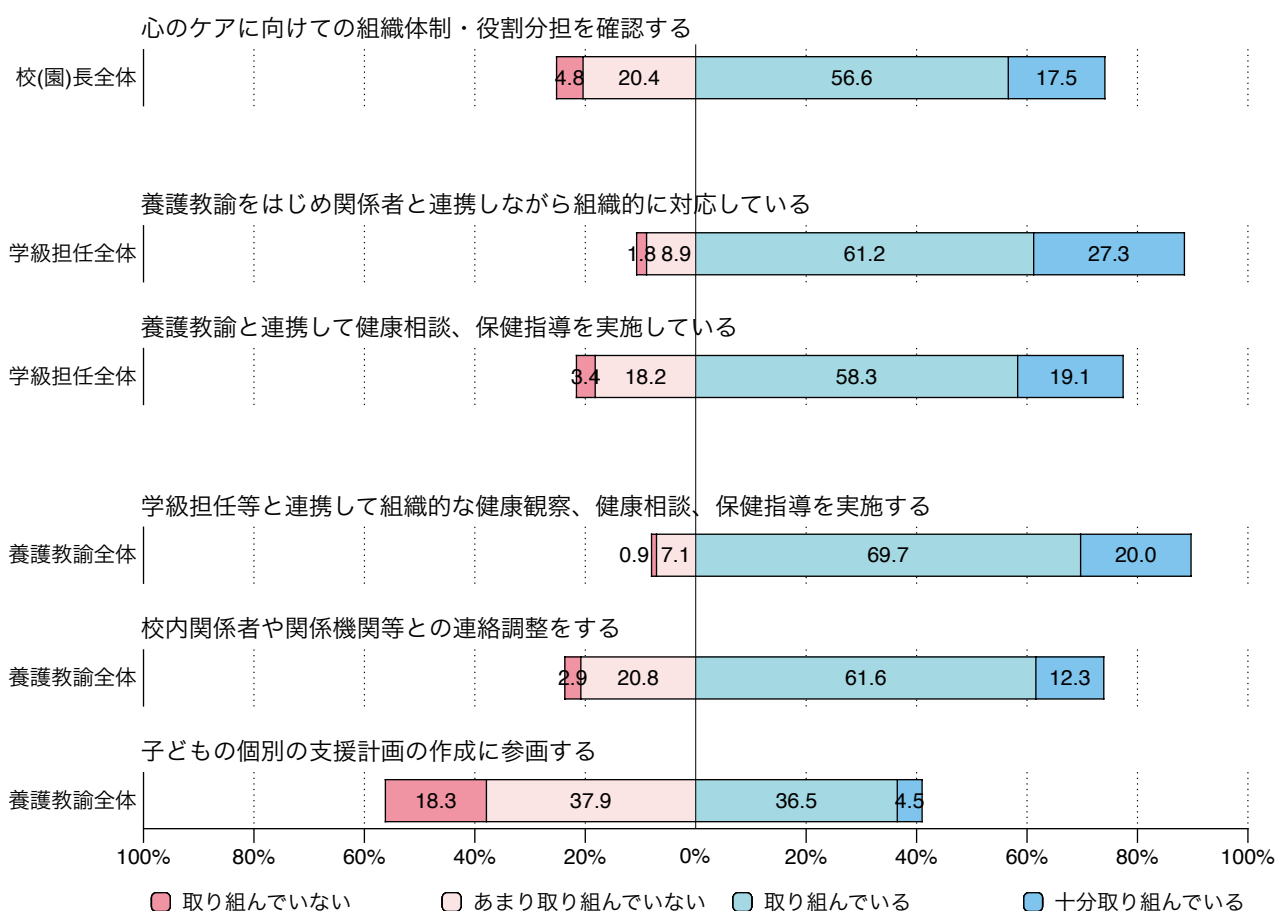


図 5.19：学校の取組（心のケアのための校内連携体制）

<教職員間での情報共有（校種別）（学級担任調査問10、養護教諭調査問12）>

- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「教職員間で情報を共有し、組織で対応している」割合は、学級担任が62.8%、養護教諭が76.5%であった。学級担任・養護教諭ともに、学校段階が上がるにつれて取り組んでいる割合が高くなり、特別支援学校は幼稚園と同程度の割合であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」
(共通質問) (複数回答)

教職員間で情報を共有し、組織で対応している

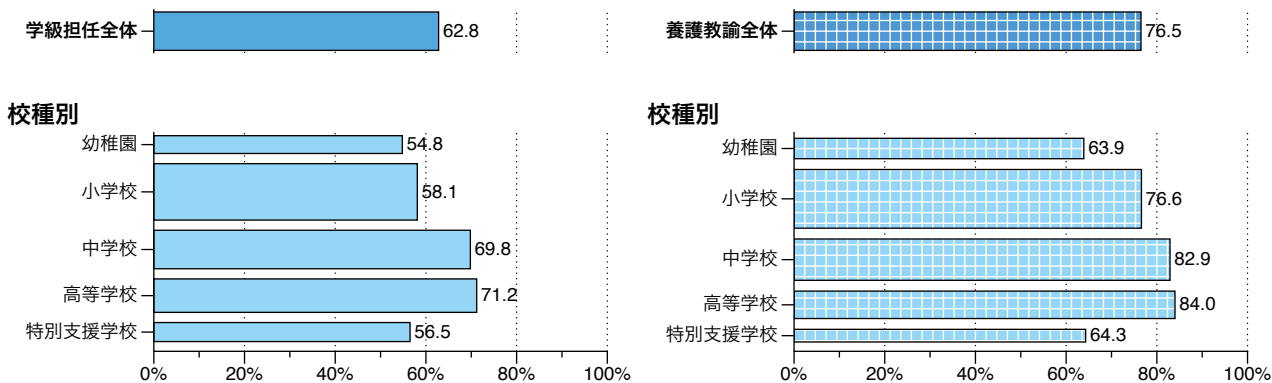


図 5.20：教職員間での情報共有 (心のケアのための校内連携体制・校種別)

保護者との連携

<心身の健康問題への対応に当たっての課題 (校 (園) 長調査問 12、学級担任調査問 11、養護教諭調査問 13) >

- ・「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」(共通質問)を各職種に聞いたところ、「家庭との連絡や状況把握が十分にできていない」については、校(園)長は6.7%、学級担任は17.1%、養護教諭は12.8%が、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。

校 (園) 長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」
(共通質問)

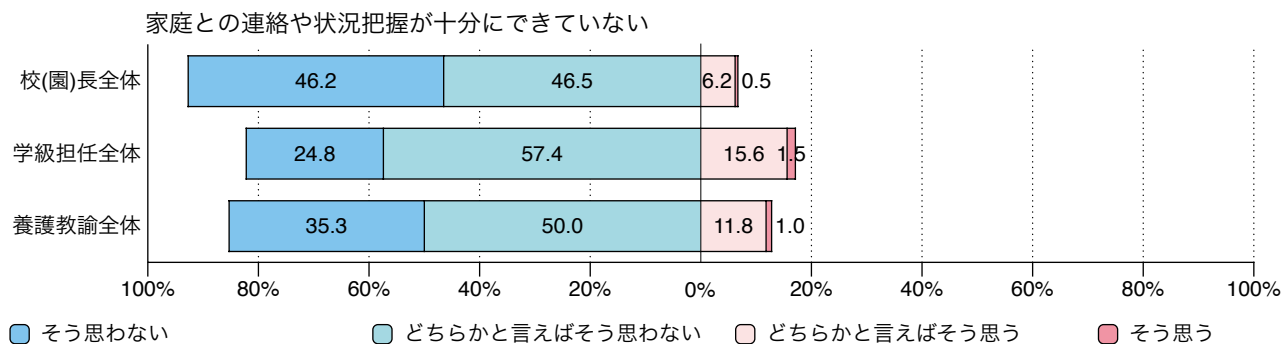


図 5.21：健康問題への対応に当たっての課題 (保護者との連携)

<保護者との連絡・協力の強化（属性別）（保護者調査問6）>

・震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと（複数回答）を保護者に聞いたところ、年齢が低い子どものいる保護者ほど「連絡・協力」をさらに望んでいた。また、「PTSDが疑われる症状」や「PTSDに関連する症状」、「一般的な心身不良の症状」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど、連携・協力をさらに望んでいた。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

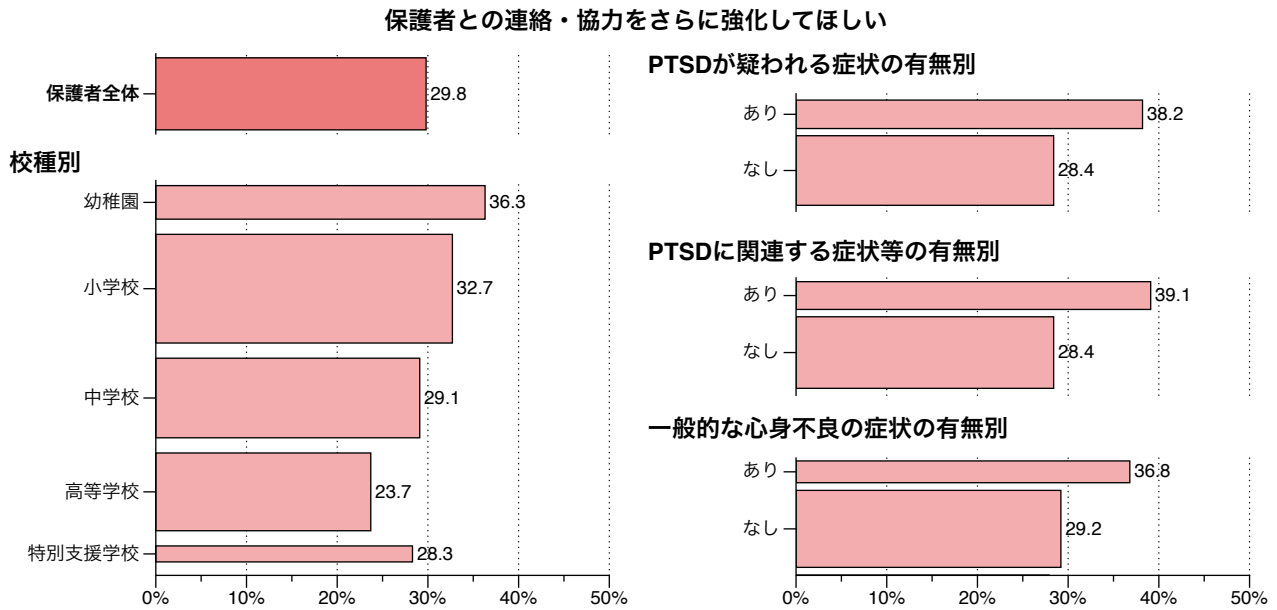


図 5.22：保護者との連絡・協力の強化（保護者との連携）

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6）>

・震災後の子どもの心身の健康問題への対応について、学校の取組を聞いたところ、「保護者との連携に関する取組」については、校（園）長は「子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する」に36.9%、「子どもの心のケアについて保護者を支援する」に66.8%、学級担任は「保護者及び子どもが相談しやすい人間関係づくりに努めている」に95.2%が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

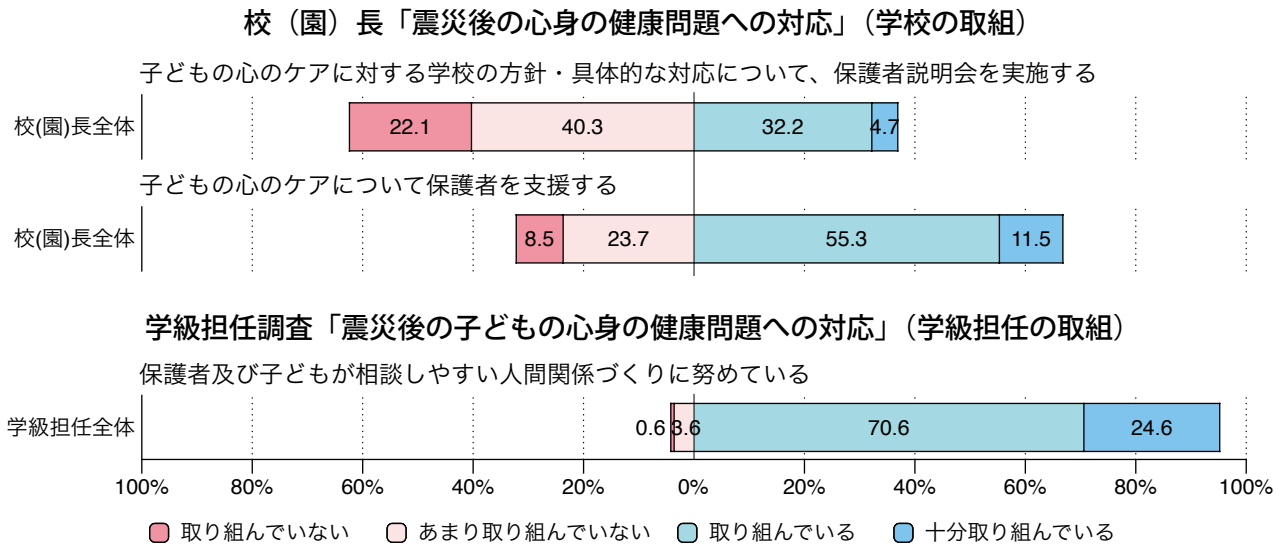


図 5.23：学校の取組（保護者との連携）

< 専門医や相談機関の紹介（校種別）（学級担任調査問10、養護教諭調査問12） >

・特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応（複数回答）について、学級担任や養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「専門医や相談機関を紹介」している学級担任は13.5%、養護教諭は30.7%であった。学級担任・養護教諭ともに、学校段階が上がるとともに割合が高かった。特別支援学校については、学級担任は小学校、養護教諭は中学校と同じ程度の割合であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応」（共通質問）（複数回答）

専門医や相談機関を紹介している

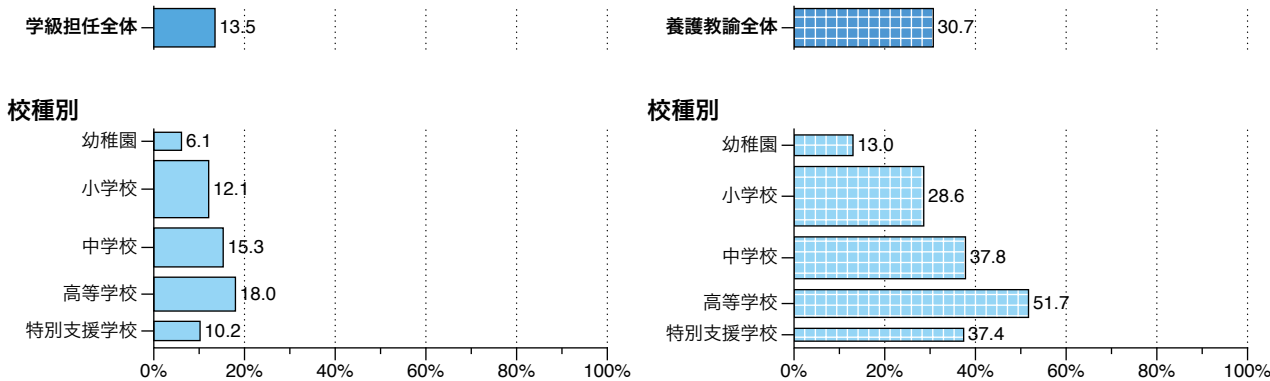


図 5.24：専門医や相談機関の紹介（保護者との連携・校種別）

< 保護者対象の研修会（属性別）（スクールカウンセラー調査問6） >

・震災後のスクールカウンセラーの活動（複数回答）として、「保護者対象の研修会」を行ったスクールカウンセラーは3.7%であった。校種別では幼稚園が13.8%と一番高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」

表 5.2 保護者対象の研修会を行った

単位：%

スクールカウンセラー全体	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
3.7	13.8	5.6	2.1	3.5	—

地域の専門機関との連携

<心身の健康問題への対応に当たっての課題（校（園）長調査12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

- ・心身の健康問題に対応するに当たっての課題（共通質問）を各職種に聞いたところ、「関係機関等との連携が十分に図られていない」については、校（園）長は84.2%、学級担任は61.7%、養護教諭は67.3%が「そう思わない」あるいは「どちらかと言えばそう思わない」と回答していた。

学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」（共通質問）

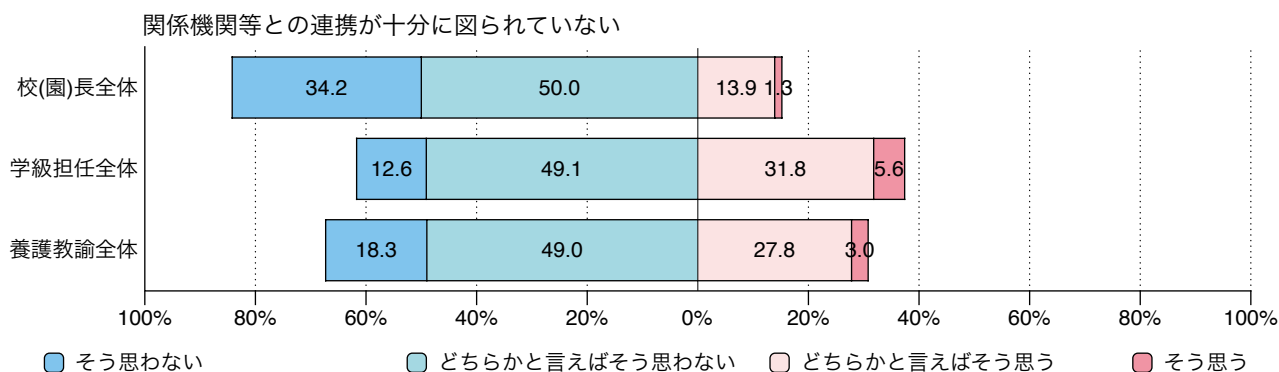


図 5.25：心身の健康問題への対応に当たっての課題（地域の専門機関との連携）

<専門の相談機関との連絡体制（属性別）（保護者調査問6）>

- ・震災による子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと（複数回答）を保護者に聞いたところ、「専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい」と希望しているのは、「PTSD が疑われる症状」や「PTSD に関連する症状等」、「一般的な心身症状」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど割合が高かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい

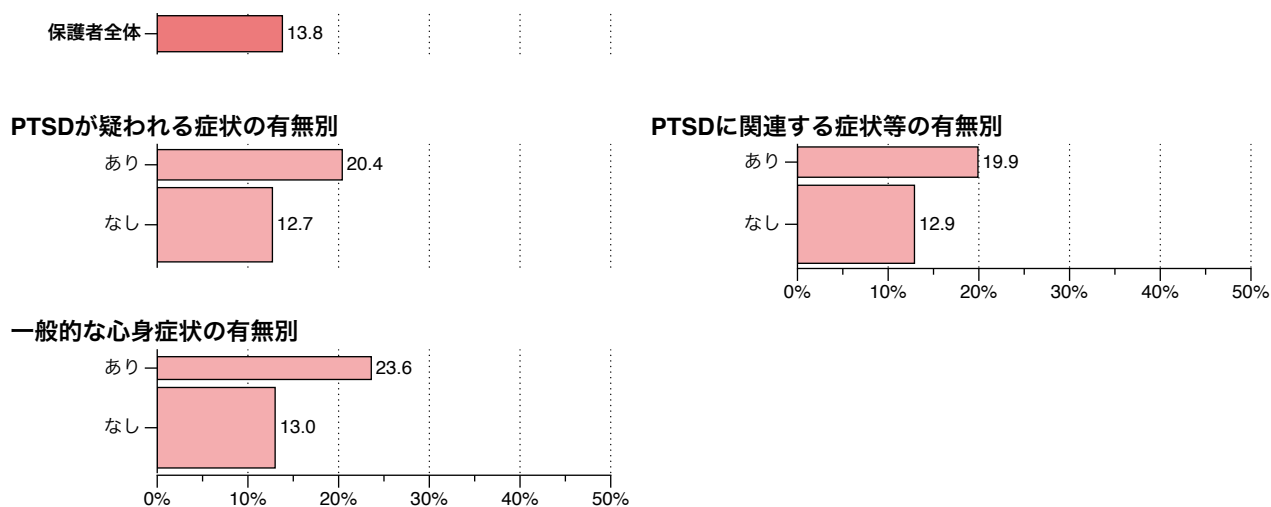


図 5.26：専門の相談機関との連携体制（地域の専門機関との連携）

<子どもの心のケアを行う専門機関（学級担任調査問9、養護教諭調査問11）>

- ・子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を学級担任・養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「子どもの心のケアを行う専門機関」については、具体的な情報を知っている学級担任は15.0%、養護教諭は40.1%であった。
- ・「震災後開設された相談機関」について具体的な情報を知っている学級担任は少なく、養護教諭も16.9%であった。

学級担任・養護教諭調査「子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関の情報」（共通質問）

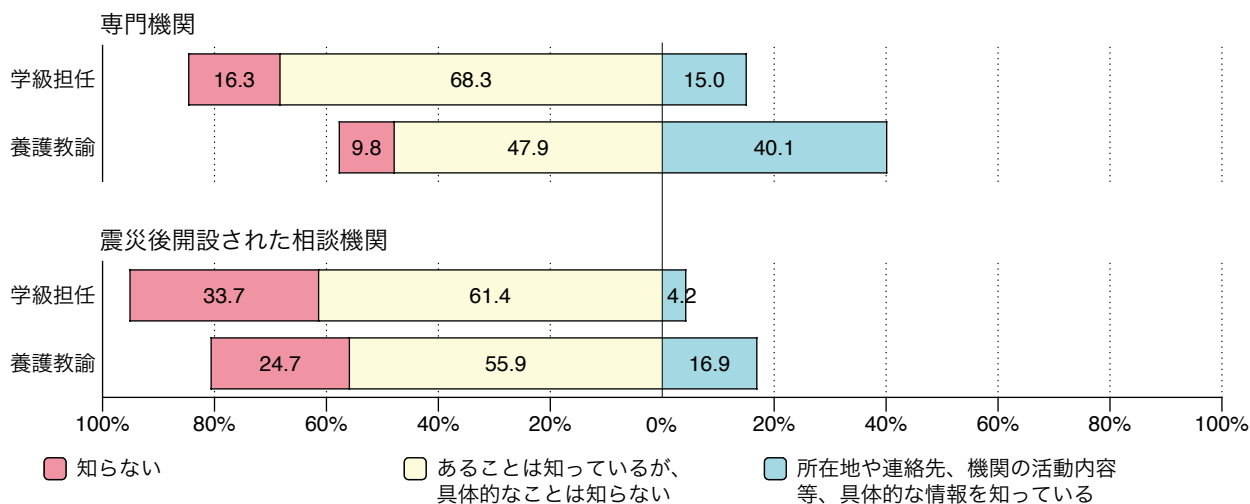
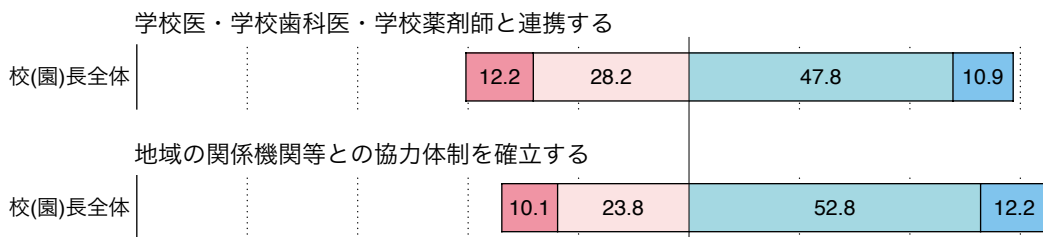


図 5.27：子どもの心のケアを行う専門機関（地域の専門機関との連携）

<学校の取組（校（園）長調査問10、養護教諭調査問8）>

- ・震災後の子どもの心身の健康問題への対応について、学校の取組を聞いたところ「地域の専門機関との連携に関する取組」については、校（園）長は「学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携」に58.7%、「地域の関係機関等との協力体制の確立」に65.0%、養護教諭は「地域の医療機関や相談機関等の情報を提供」に56.2%、「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「心身の健康問題への対応」（学校の取組）



養護教諭調査「子どもの心身の健康問題への対応」（養護教諭の取組）

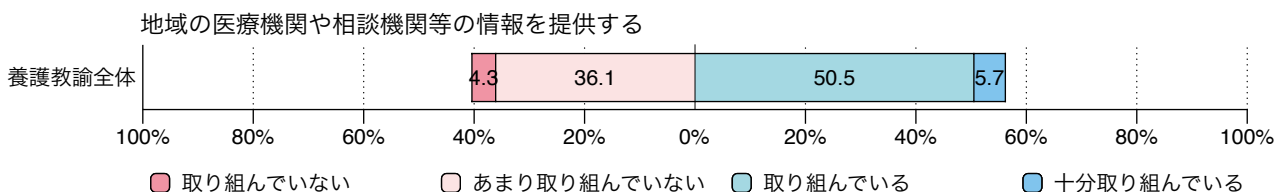


図 5.28：学校の取組（地域の専門機関との連携）

<関係機関との連携に関するつなぎ役（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

- ・スクールカウンセラーが震災後、学校での活動（複数回答）の中で、「専門機関との連携に関するつなぎ役」になった割合は、幼稚園（24.1%）の割合が高かった。また、授業再開までの期間が長いほど割合が高くなる傾向が見られた。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

関係機関との連携に関するつなぎ役になった

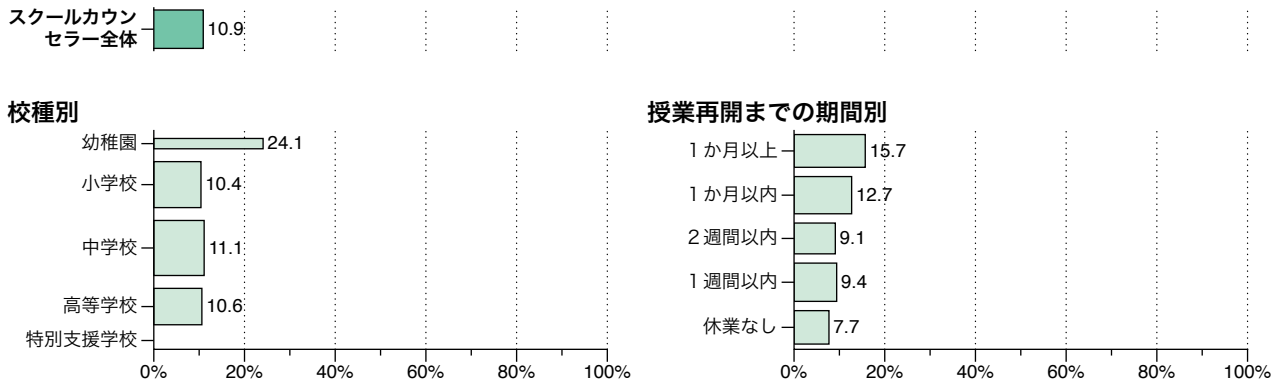


図 5.29：関係機関との連携に関するつなぎ役（地域の専門機関との連携）

<組織体制の構築のまとめ>

- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「心のケアのための校内体制に関連した取組」をそれぞれの職種に聞いたところ、養護教諭の「子どもの個別の支援計画に参画する」を除いて、いずれも7割以上が取り組んでいた。
- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応については、「教職員で情報を共有し、組織で対応している」と回答した学級担任は62.8%、養護教諭は76.5%であった。学級担任・養護教諭ともに学校段階が上がるほど割合が高くなる傾向が見られた。
- ・保護者との連携については、校（園）長、学級担任、養護教諭は8割以上ができていると回答していた。
- ・震災による子どもの心身の健康問題への対応について、「保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい」と望んでいるのは、年齢が低い子どもの保護者ほど多かった。また、「PTSDが疑われる症状」や「PTSDに関連する症状等」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど、連絡・協力をさらに望んでいた。
- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「地域の専門機関との連携に関連した取組」については、校（園）長は「学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携」、「地域の関係機関等との協力体制の確立」、養護教諭は「地域の医療機関や相談機関等との情報提供」に5割以上が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。
- ・「子どもの心のケアを行う専門機関」について、具体的な情報を知っている学級担任は15.0%、養護教諭は40.1%であった。また、「震災後開設された相談機関」については、学級担任・養護教諭ともに具体的な情報を知っている割合が低かった。

5.2.3 支援者のメンタルヘルス

教職員自身の心の安定

<健康不安の有無（校（園）長調査問21、学級担任調査問18、養護教諭調査問20）>

・「教職員自身の震災の影響と思われる健康不安」について各職種（共通質問）に聞いたところ、「健康不安がある」と回答したのは、校（園）長 16.9%、学級担任 16.2%、養護教諭 30.4%であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「教職員自身の震災の影響と思われる健康不安」（共通質問）

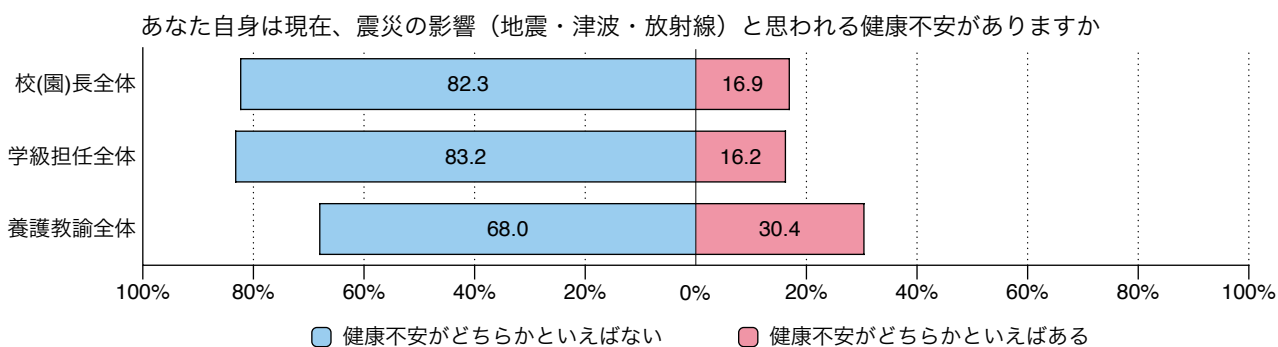


図 5.30：健康不安の有無（教職員自身の心の安定）

<心身の健康問題への対応に当たっての課題（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

・心身の健康問題に対応するに当たっての課題を各職種（共通質問）に聞いたところ、「職員の心のケア」については、校（園）長の10.8%、学級担任の39.1%、養護教諭の35.0%が「課題がある」と回答していた。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」（共通質問）

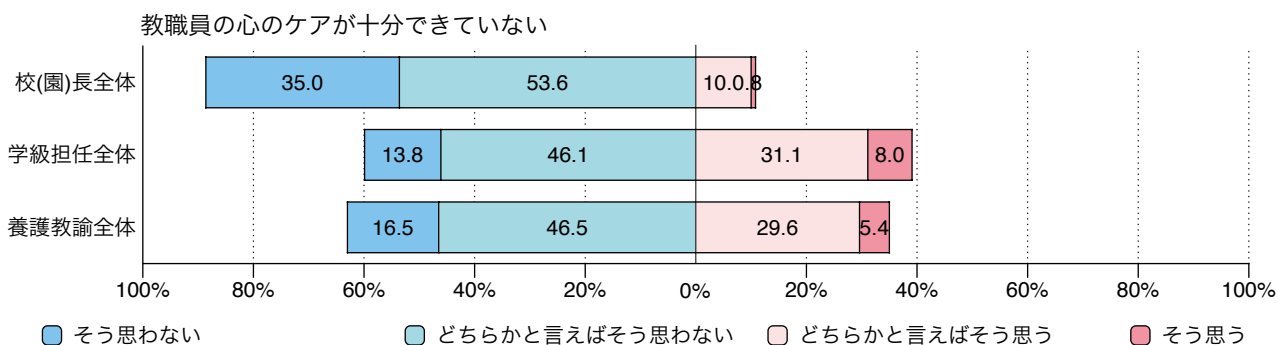


図 5.31：心身の健康問題への対応に当たっての課題（教職員自身の心の安定）

<学校の取組（校（園）長調査問11）>

・震災後の教職員の心身の健康のための学校の取組を校（園）長に聞いたところ、「教職員の被災状況の把握」91.2%、「教職員の健康状態の把握及び心のケアの実施」について78.5%が取り組んでいた。「教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりの確立」については50.9%が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「教職員の心身の健康のための取組」

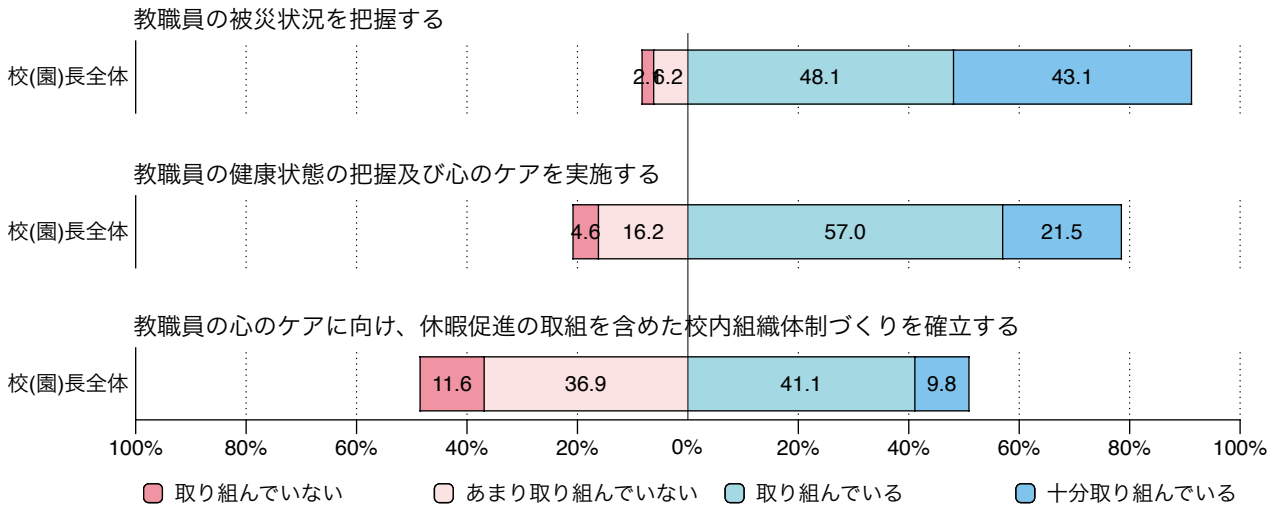


図 5.32：学校の取組（教職員自身の心の安定）

<教職員の個別面接（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

・震災後、スクールカウンセラーの活動内容（複数回答）として、「心のケアに必要な教職員の個別面接」は、高等学校の割合が高く、地震や津波による被害の大きかった学校や授業再開までの期間が長かった学校ほど割合が高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

心のケアに必要な教職員の個別面接を行った

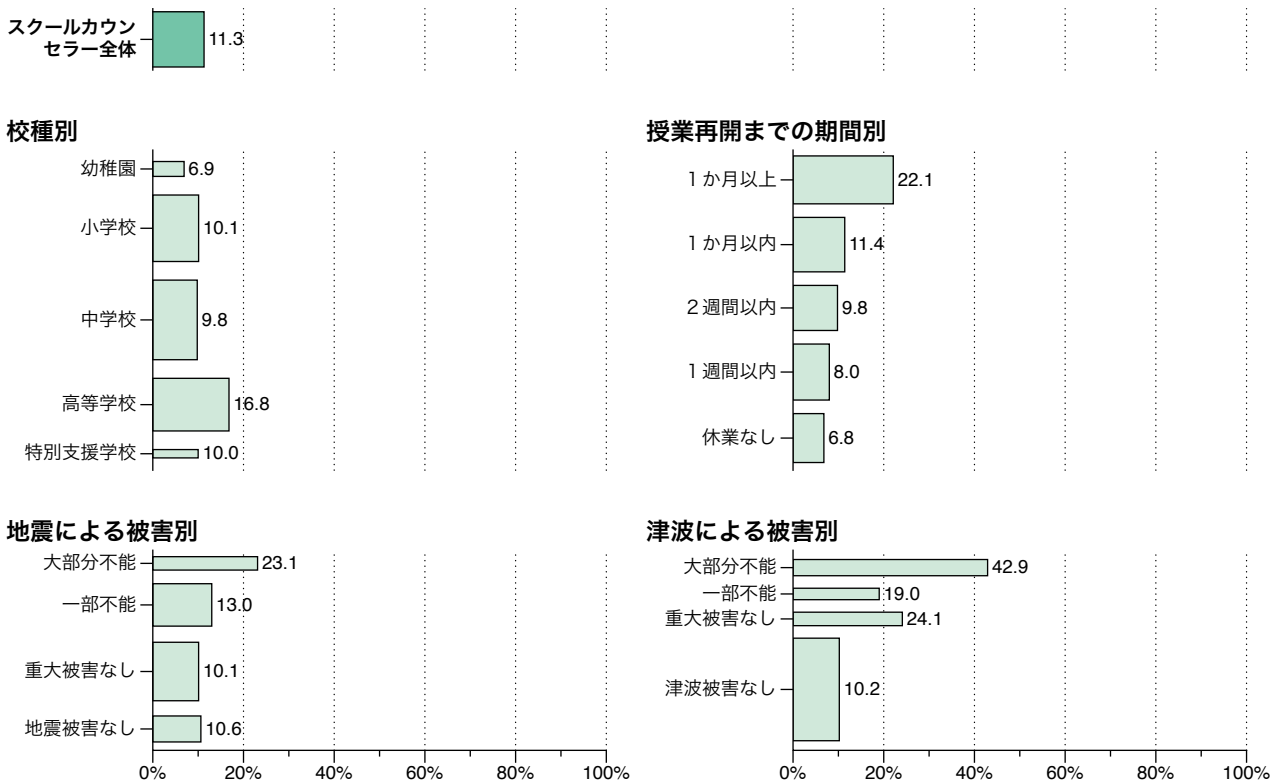


図 5.33：教職員の個別面接（教職員自身の心の安定・属性別）

保護者の心の安定

<震災後不安や心配に思うこと（保護者調査問10）>

・「震災（地震・津波・放射能）によって、あなたが現在不安になったり、心配に思っていること」（複数回答）について、保護者に聞いたところ、「子どもの将来のこと」が56.8%で最も高かった。「住居のこと」26.9%、「家族のけがや病気のこと」25.1%、「自分のまちの将来のこと」23.3%、「家計のこと」23.2%、「家族の心の健康のこと」が22.2%であった。

保護者調査「震災によって、現在不安になったり、心配に思っていること」（複数回答）

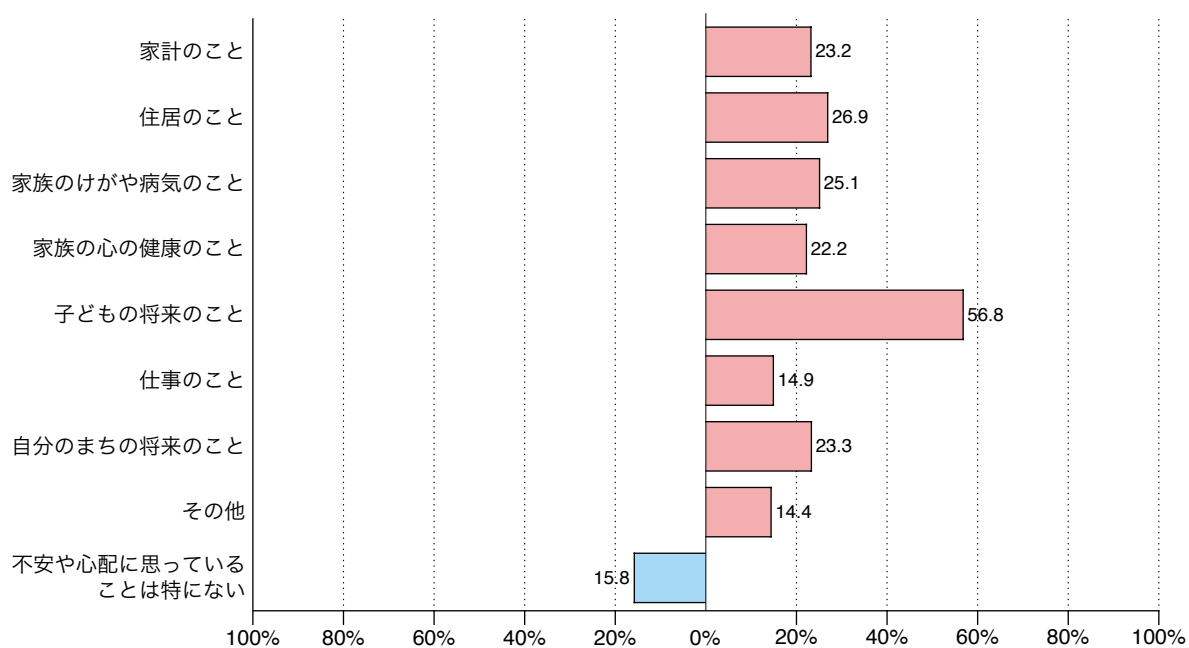


図 5.34：震災後不安や心配に思うこと（保護者の心の安定）

<震災後不安や心配に思うこと（地域別）>

- ・保護者が「震災後不安や心配に思っていること」（複数回答）を地域別で見ると、福島県は「子どもの将来のこと」が8割あり、他地域と比較して30ポイント以上差が見られた。

保護者調査「震災によって、現在不安になったり、心配に思っていること」（地域別）（複数回答）

表 5.3

単位：%

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県
家計	21.2	21.5	26.4	29.2	21.0	19.4	16.0
住居	15.5	14.9	24.8	32.5	30.9	23.2	34.4
家族のけがや病気	15.6	16.8	19.3	36.5	26.6	24.0	26.4
家族の心の健康	12.8	17.4	21.9	33.7	20.0	19.0	18.3
子どもの将来	36.0	47.1	50.1	82.8	54.4	54.4	47.2
仕事	15.8	16.7	16.2	21.1	11.6	11.7	8.8
自分のまちの将来	15.3	18.8	21.0	39.0	18.9	15.5	27.9
その他	10.6	14.2	15.3	12.7	14.1	14.8	18.2
不安や心配に思っていることは特にない	32.8	22.6	17.2	5.6	15.8	18.7	15.9

<震災後不安や心配に思うこと（校種別）>

- ・保護者が「震災後不安や心配に思っていること」（複数回答）を校種別で見ると、幼稚園が66.7%で最も高く、全校種で5割を超えていた。

保護者調査「震災によって、現在不安になったり、心配に思っていること」（校種別）（複数回答）

表 5.4

単位：%

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
家計	21.4	22.1	24.3	24.4	27.1
住居	31.5	27.6	27.1	24.7	26.8
家族のけがや病気	31.1	26.5	24.0	22.2	26.2
家族の心の健康	26.2	24.1	21.0	19.1	25.5
子どもの将来	66.7	59.6	54.4	52.4	55.1
仕事	10.6	13.5	15.8	17.5	15.1
自分のまちの将来	26.1	23.8	22.9	22.4	24.8
その他	16.9	15.4	13.4	13.0	17.3
不安や心配に思っていることは特にない	10.8	13.7	16.8	19.8	14.8

<学校内で相談できる体制（属性別）（保護者調査問6）>

・震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと（複数回答）を保護者に聞いたところ、「学校内で気軽に相談できる体制をさらに整えてほしい」と望んでいるのは、「PTSDが疑われる症状」や「PTSDに関連する症状等」、「一般的な心身症状」が「ある」と回答した子ども、「転校した」ことが「ある」と回答した子どものいる保護者の割合が高かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

学校内で気軽に相談できる体制をさらに整えてほしい

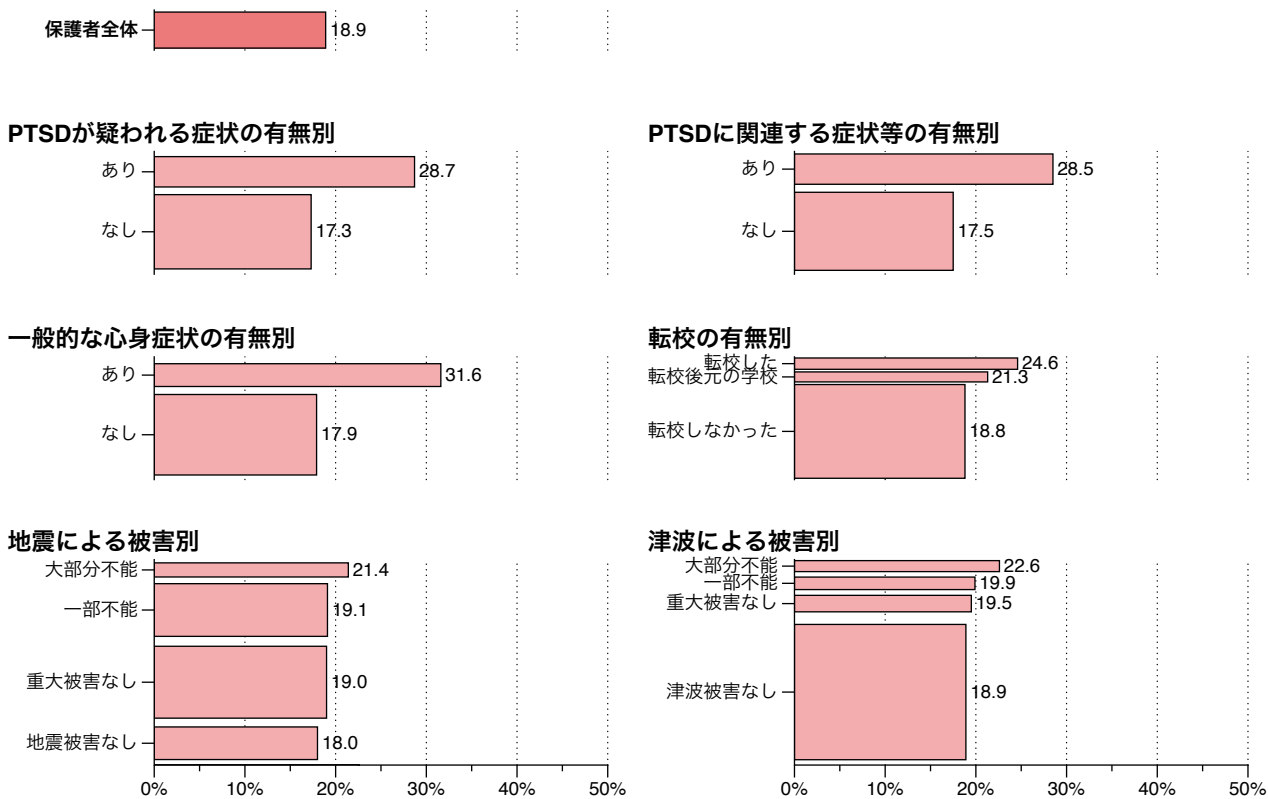
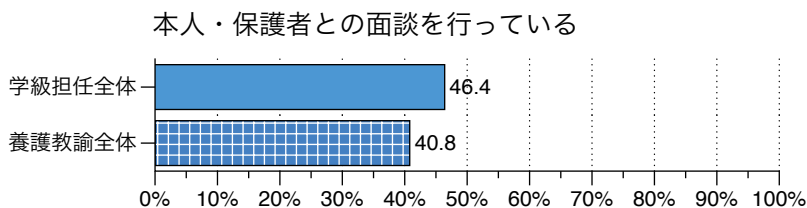


図 5.35：学校内で相談できる体制（保護者の心の安定・属性別）

<学校の取組（学級担任調査問10、養護教諭調査問12、スクールカウンセラー調査問6）>

- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「本人・保護者との面談を行っている」割合は、学級担任は46.4%、養護教諭は40.8%であった。
- ・震災後、スクールカウンセラーの活動内容（複数回答）として、「保護者の個別面接」を行ったスクールカウンセラーは42.8%であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）



スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

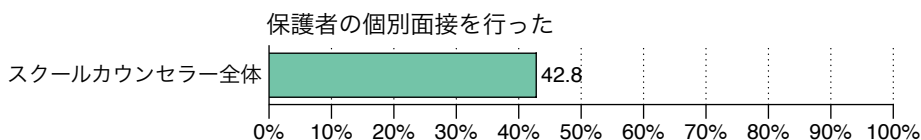


図 5.36：学校の取組（保護者の心の安定）

<学校の取組（校種別）（学級担任調査問10、養護教諭調査問12）>

- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「本人・保護者との面談」を行っている学級担任・養護教諭（共通質問）は、学校段階が上がるごとに割合が高くなる傾向が見られた。特別支援学校は小学校と同じ程度の値であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）

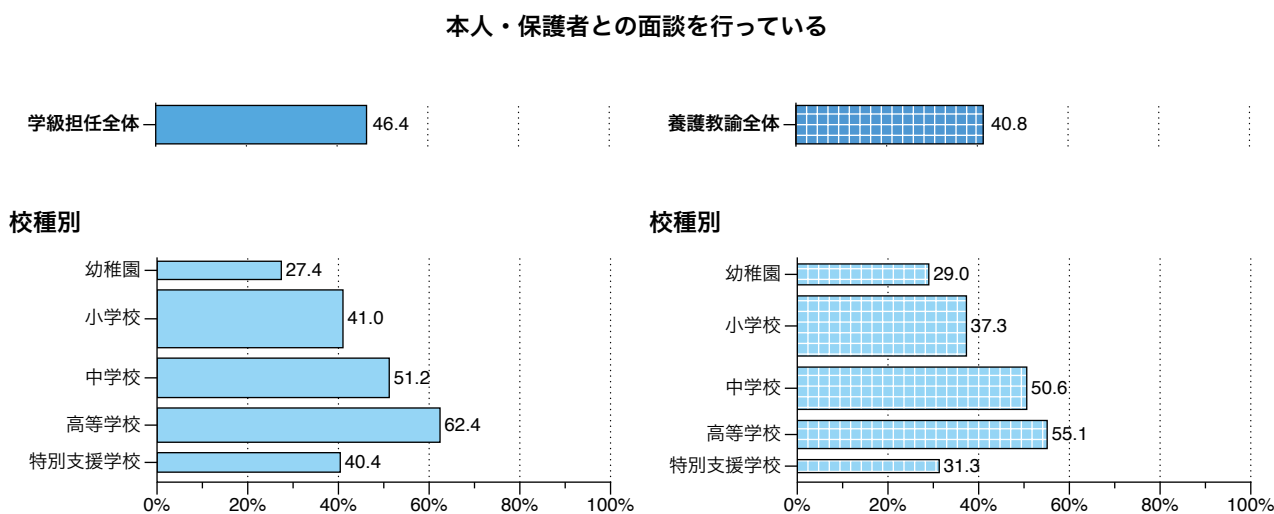


図 5.37：学校の取組（保護者の心の安定・校種別）

<保護者の個別面接（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

- ・震災後、「保護者の個別面接」を行ったスクールカウンセラーは、小学校が 49.9%、中学校が 41.7%、高等学校 35.3%、幼稚園 34.5%、特別支援学校は 30.0%であった。
- ・地震や津波による被害が大きかった学校や授業再開までの期間が長かった学校は、保護者の個別面接を行った割合が高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

保護者の個別面接を行った

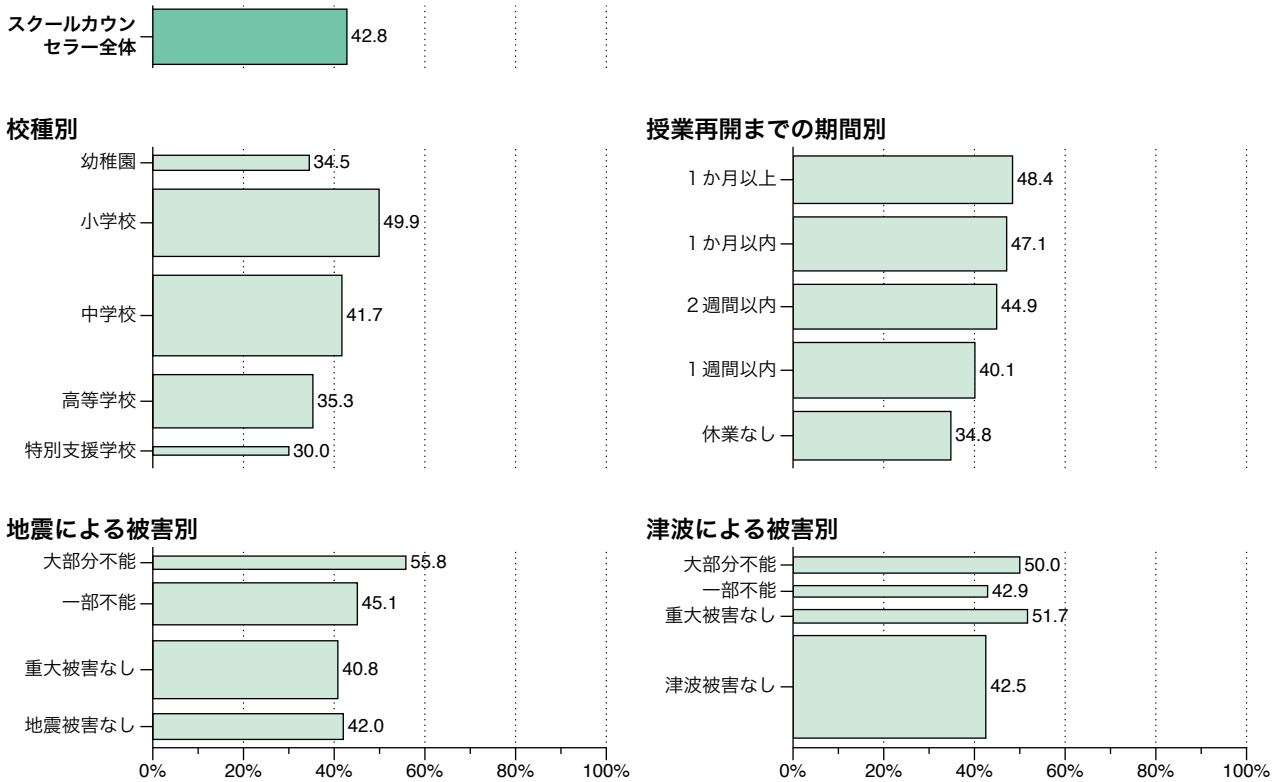


図 5.38：保護者の個別面接（保護者の心の安定・属性別）

<保護者の相談の有無（保護者調査問5）>

- ・「震災による子どもの心身の健康への影響や不安についての相談」（複数回答）について、だれに相談しているか保護者に聞いたところ、保護者の 93.1%が相談していないと回答していた。相談相手としては、「学校の先生」が 2.1%、「かかりつけの医師あるいは学校医」が 1.3%であった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康への影響や不安についての相談」（複数回答）

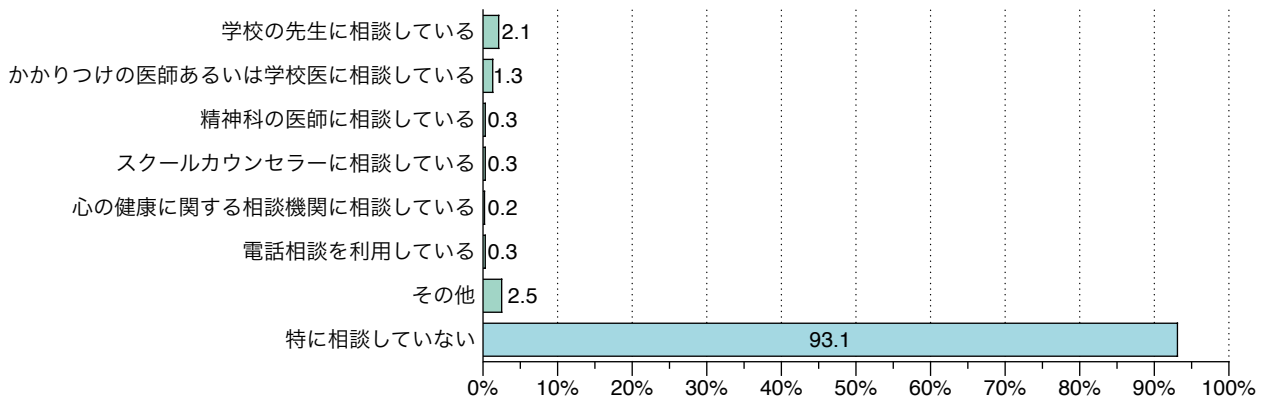


図 5.39：相談の有無（保護者の心の安定）

<相談しなかった理由（保護者調査問5-1）>

・「震災による子どもの心身の健康への影響や不安についての相談」について、相談しなかった理由（複数回答）を聞いたところ、「特に子どもの様子に変わりがなかった」が80.8%、次いで「様子を見るだけでよいと思った」が20.2%であった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康への影響や不安についての相談」 （複数回答）

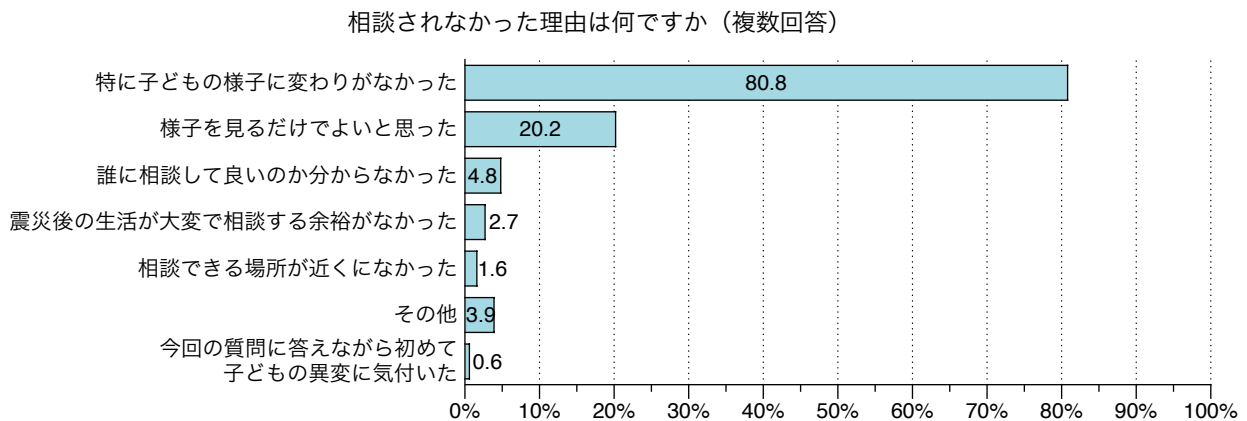


図 5.40：相談しなかった理由（保護者の心の安定）

<支援者のメンタルヘルスのまとめ>

- ・「教職員自身の震災の影響と思われる健康不安」については、校（園）長の16.9%、学級担任の16.2%、養護教諭の30.4%が「健康不安がある」と回答していた。
- ・心身の健康問題に対応するに当たっての課題について、「教職員の心のケア」は、校（園）長の10.8%、学級担任の39.1%、養護教諭の35.0%が「課題がある」と回答していた。
- ・保護者が「震災後、不安になったり、心配に思っていること」は、「子どもの将来のこと」の割合が一番高かった。
- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもに対して、「本人・保護者との面談」を行っている学級担任は46.4%、養護教諭は40.8%であった。また、震災後、「保護者の個別面談」を行ったスクールカウンセラーは42.8%であった。
- ・「震災による子どもの心身の健康への影響や不安の相談」について、保護者の9割が相談していないと回答していた。相談しなかった理由は、8割が「特に子どもの様子に変わりがなかった」、「様子を見るだけでよいと思った」が2割であった。

5.3 職種別に見た現状と課題

5.3.1 校（園）長

<子どもの心身の健康のための取組（校（園）長調査問10）>

- ・子どもの心身の健康のため、震災後の学校の取組を聞いたところ、「子どもの心身の健康状態について、教職員で情報共有する」（95.6%）、「子どもの心身の健康状態を把握する」（95.2%）が特に多かった。次いで、「心のケアの対応方針決定と共通理解を図る」（83.2%）、「心のケアに向けての組織体制・役割分担を確認する」（74.1%）の順であった。
- ・「子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について保護者説明会を実施する」（36.9%）、「臨時の環境衛生検査を実施する」（42.4%）、「心のケアに関わる校内研修会を実施する」（56.8%）については、他項目に比べ、比較的少なかった。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題への対応」（学校の取組）

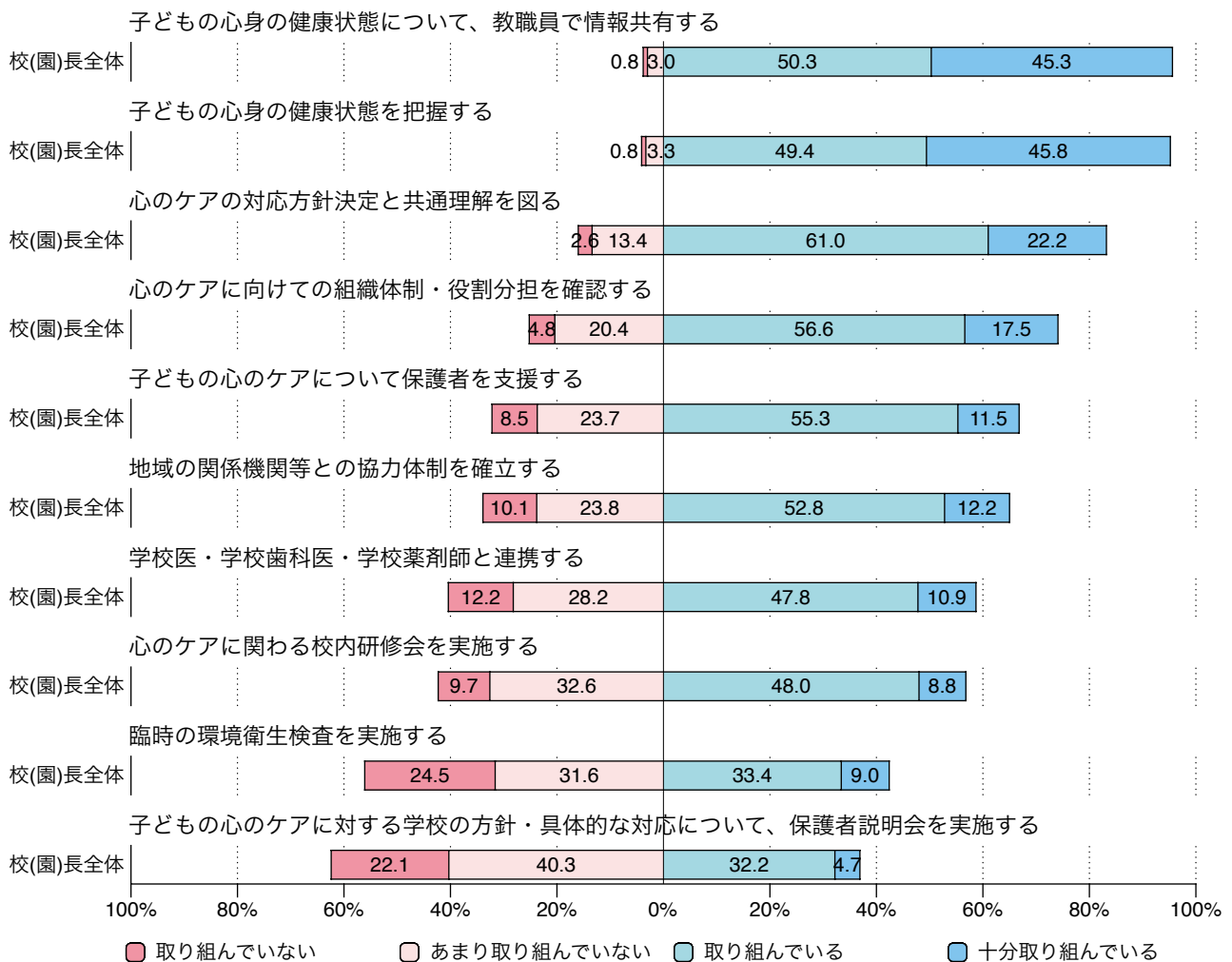


図 5.41：子どもの心身の健康のための取組

<子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無別）>

- ・「子どもの心身の健康のため、震災後の学校の取組」を「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）」参加の有無で比較したところ、どの取組も参加経験のある校（園）長の方が、取り組んでいる割合が高かった。
- ・特に「心のケアに関する校内研修会を実施」の差が大きく、次いで「地域の関係機関等との協力体制を確立」、「心のケアに向けての組織体制・役割分担を確認」、「子どもの心のケアについて保護者の支援」の順であった。

校（園）長調査「震災後の学校の心身の健康問題への対応」（研修参加の有無別）

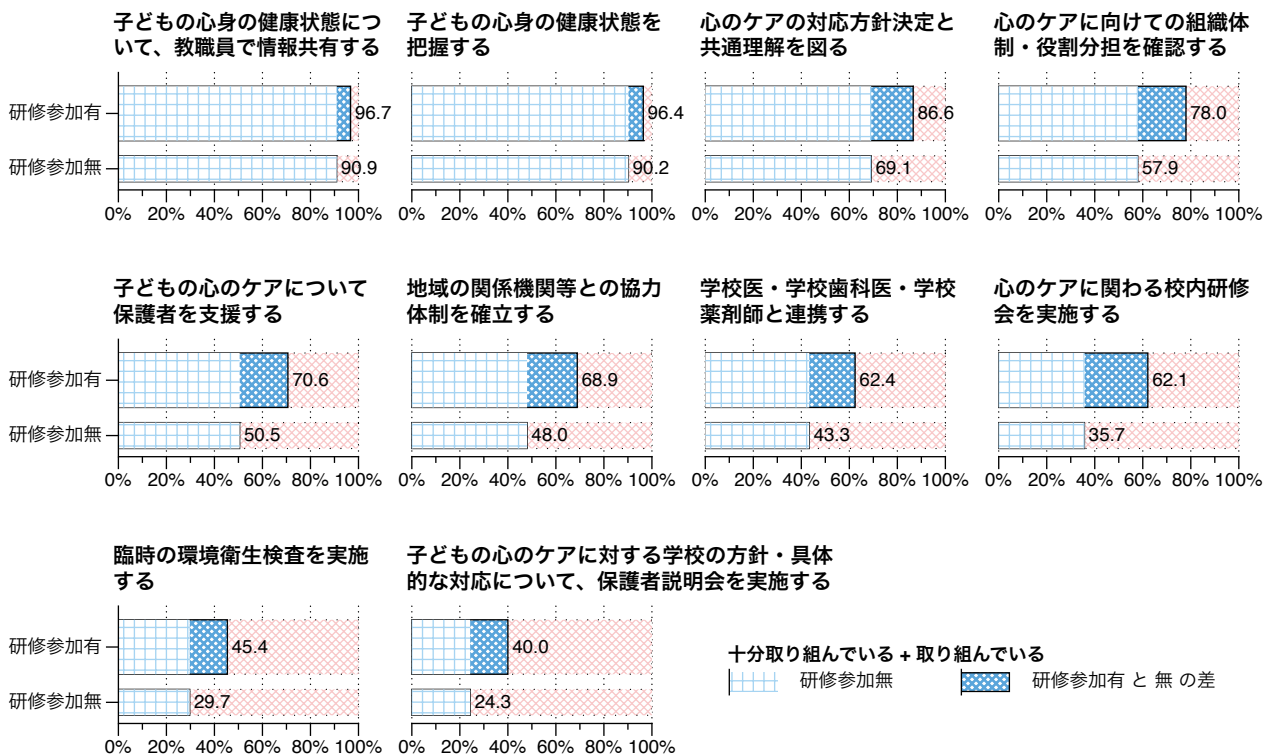


図 5.42：子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無）

<子どもの心身の健康のための取組（津波による被害別）>

- ・「震災後の心身の健康問題への対応についての取組」について、「津波による校舎の被害」の有無で比較したところ、津波による被害があった学校の割合が高かった取組は、「子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する」（大部分不能 64.6%、一部不能 72.7%、津波の被害なし 36.3%）、「心のケアに関わる校内研修会を実施する」（大部分不能 76.0%、一部不能 80.1%、津波の被害なし 56.8%）、「子どもの心のケアについて保護者を支援する」（大部分不能 86.0%、一部不能 88.6%、津波の被害なし 66.5%）であった。

校（園）長調査「震災後の学校の心身の健康問題への対応」（津波による被害別）

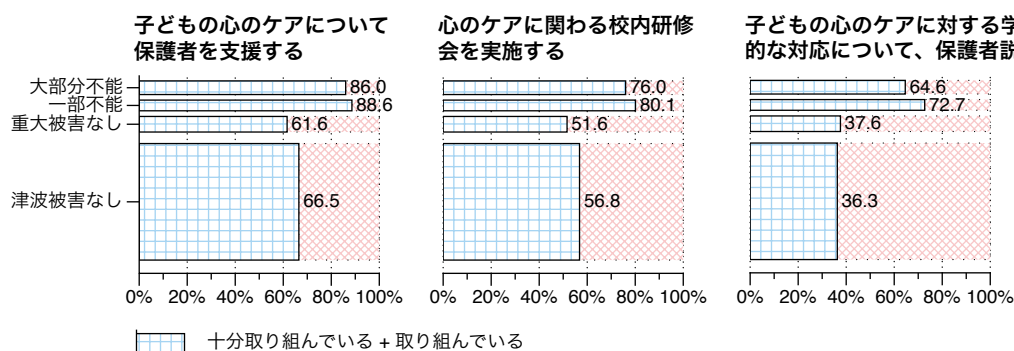


図 5.43：子どもの心身の健康のための取組（津波による被害別）

<教職員の心身の健康のための取組（校（園）長調査問11）>

- ・教職員の心身の健康のため、震災後、学校が取り組んでいることを聞いたところ、「教職員の被災状況を把握する」が91.2%で最も高く、次いで、「教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する」が78.5%であった。「教職員の心のケアに向け、休暇促進等の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する」は50.9%であった。

校（園）長調査「教職員の心身の健康のための震災後の取組」

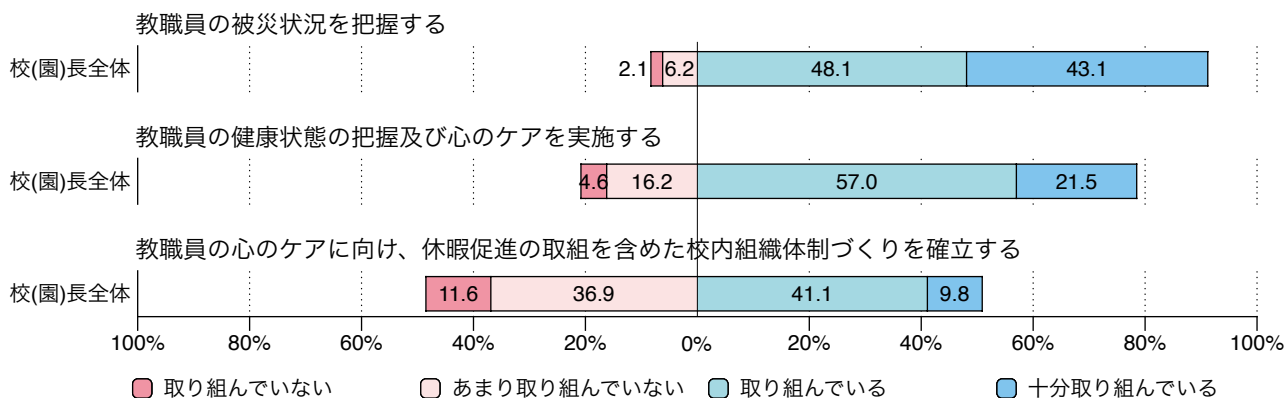


図 5.44：教職員の心身の健康のための取組

<教職員の心身の健康のための取組（校種別）>

- ・教職員の心身の健康のための震災後の取組を校種別に見ると、「教職員の被災状況を把握する」はどの校種も 8 割以上が取り組んでいた。
- ・「教職員の健康状態の把握及び心のケアの実施する」は、小学校・中学校が 8 割以上、幼稚園は 69.3%であった。
- ・「休暇促進に向けた校内組織体制づくりを確立する」については、小学校・中学校で 5 割以上であったが、特別支援学校は 47.7%、高等学校は 46.2%、幼稚園は 39.6%であった。

校（園）長調査「教職員の心身の健康のための震災後の取組」（校種別）

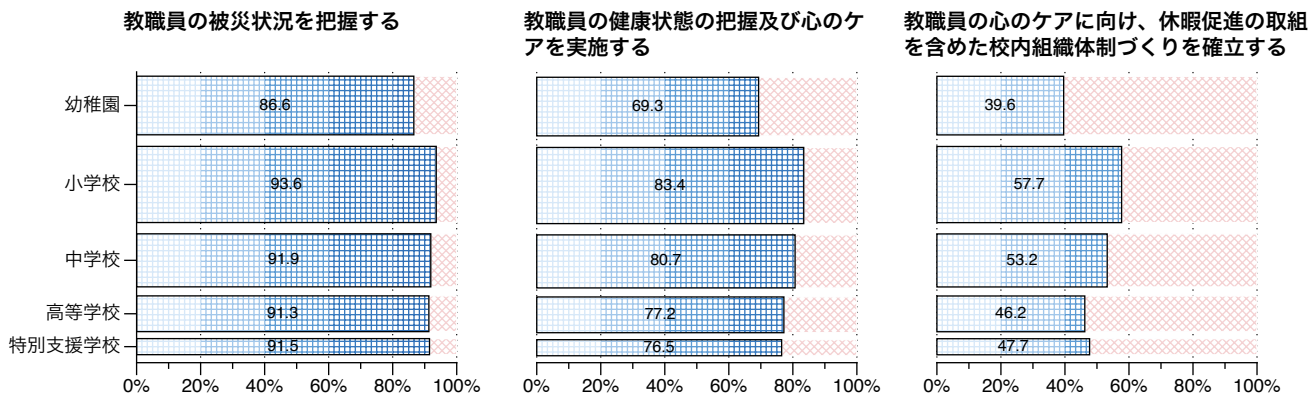


図 5.45：教職員の心身の健康のための取組（校種別）

<教職員の心身の健康のための取組（研修参加の有無別）>

- ・教職員の心身の健康のための震災後の取組を、「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）」の参加の有無で比較したところ、どの項目も参加経験がある校（園）長の方が取り組んだ割合が高くなっていった。
- ・特に「教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する」の差が最も大きかった。次いで「教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する」であった。

校（園）長調査「教職員の心身の健康のための震災後の取組」（研修参加の有無別）

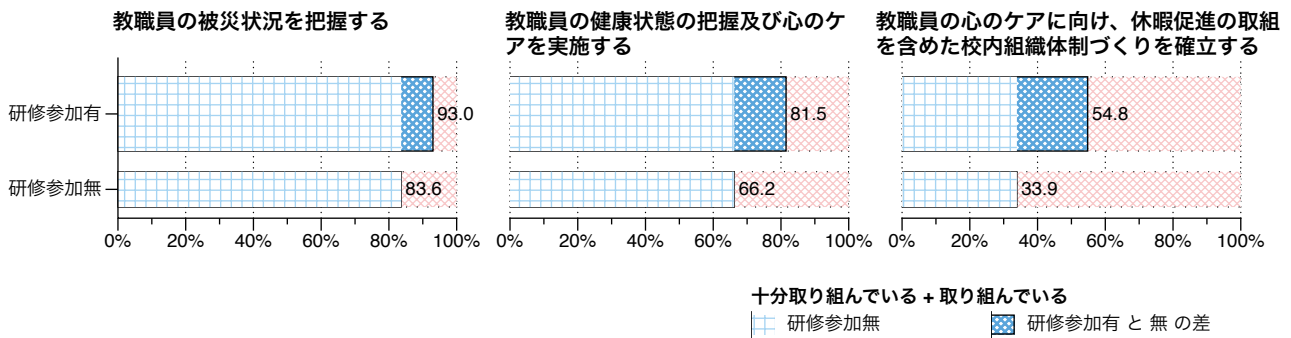


図 5.46：教職員の心身の健康のための取組（研修参加の有無）

<教職員の心身の健康のための取組（津波による被害別）>

- ・「津波の被害」の有無により取り組んだ割合の差が大きかったのは、「教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する」（大部分不能 67.6%、一部不能 77.7%、津波被害なし 50.6%）、「教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する」（大部分不能 93.6%、一部不能 91.7%、津波被害なし 78.7%）、「教職員の被災状況を把握する」（大部分不能 97.7%、一部不能 97.1%、津波被害なし 91.5%）の順であった。

校（園）長調査「教職員の心身の健康のための震災後の取組」（津波による被害別）

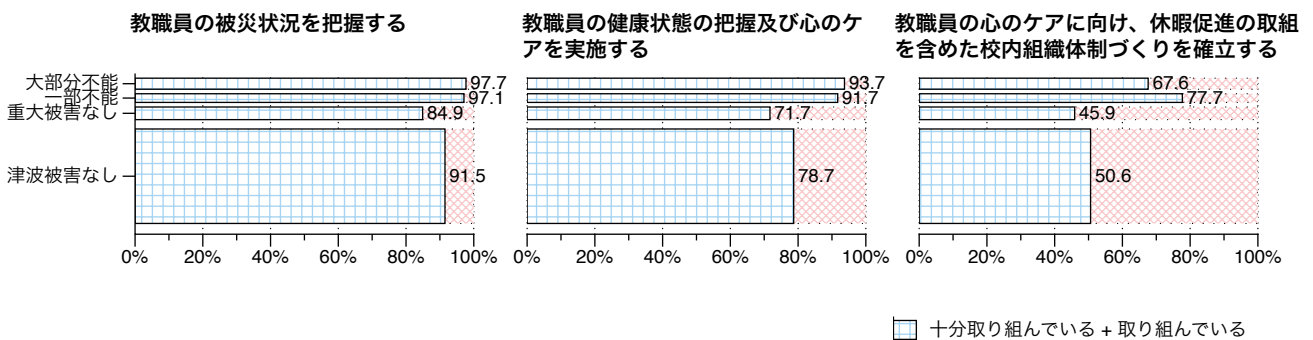


図 5.47：教職員の心身の健康のための取組（津波による被害別）

<心身の健康問題に対応するに当たっての課題（校（園）長調査問12）>

・心身の健康問題に対応するに当たっての課題について、校（園）長に聞いたところ、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」（26.4%）が最も高く、次いで「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識の違いがあり、対応にばらつきがみられる」（16.7%）、「関係機関等との連携が十分図られていない」（15.2%）の順であった。

校（園）長調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」

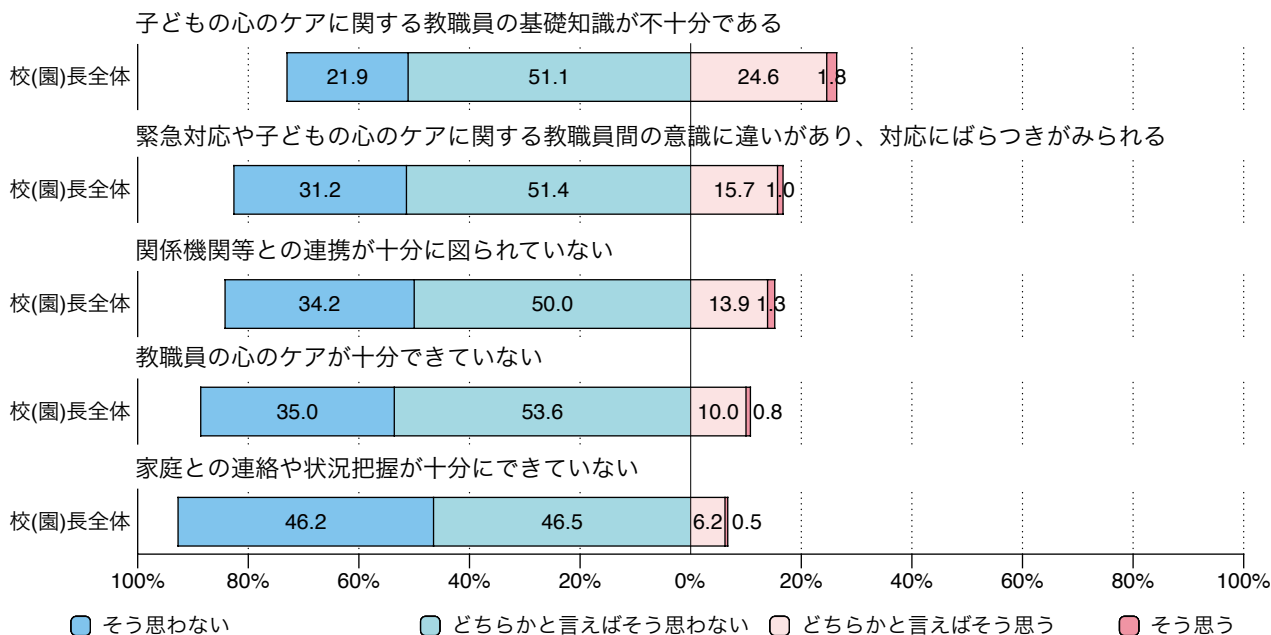


図 5.48：心身の健康問題への対応に当たっての課題

<障害のある子どもへの対応（校（園）長調査問13）>

・障害のある子どもへの対応に当たっての課題について、校（園）長に聞いたところ、「発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない」（9.4%）が最も高く、次いで、「知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない」（6.4%）であった。

校（園）長調査「障害のある子どもへの対応に当たっての課題」

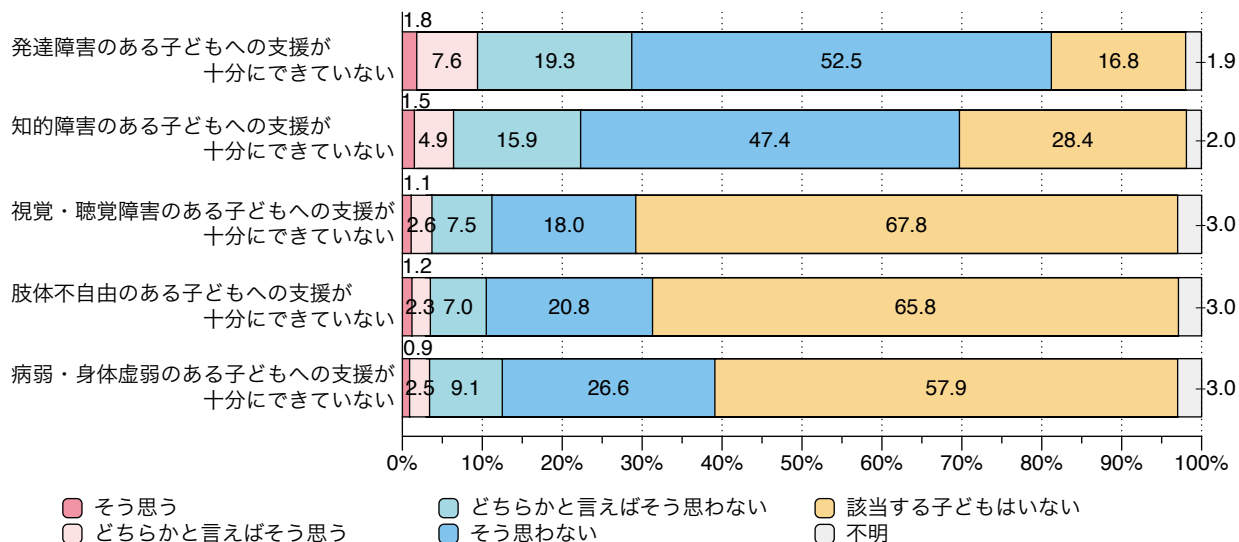


図 5.49：障害のある子どもへの対応

<参考資料の活用（校（園）長調査問15）>

- ・子どもの心身の健康問題の対応について、「どのような参考資料を活用しているか」（複数回答）聞いたところ、「子どもの心のケアのために」が71.4%で最も多く、次いで、「県や市町等が作成した資料」が53.2%、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」が32.2%の順であった。

校（園）長調査「子どもの心身の健康問題の対応について、参考資料の活用」（複数回答）

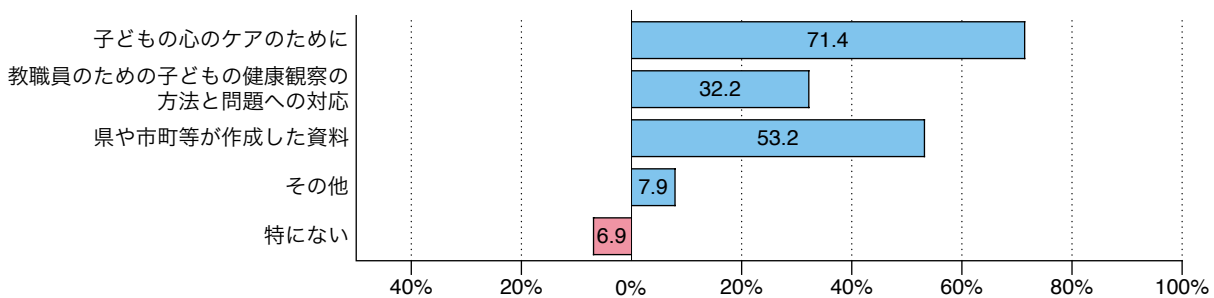


図 5.50：参考資料の活用

校（園）長調査のまとめ

- ・子どもの心身の健康のための取組は、「子どもの心身の健康状態について、教職員で情報共有する」、「子どもの心身の健康状態を把握する」について9割以上が取り組んでいた。一方、取組が少なかったのは、「子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について保護者説明会を実施する」、「臨時の環境衛生検査を実施する」、「心のケアに関わる校内研修会を実施する」であった。
- ・子どもの心身の健康問題への取組については、どの取組も「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）」に参加経験のある校（園）長の方が、取り組んでいる割合が高かった。
- ・教職員の心身の健康のため、震災後、取り組んでいることは、「教職員の被災状況を把握する」が9割で最も高く、次いで「教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する」であった。
- ・心身の健康問題に対応するに当たって校（園）長が課題としていることは、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」が26.4%で、最も割合が高く、次いで「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる」が16.7%であった。
- ・障害のある子どもの対応に当たっての課題については、「発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない」が9.4%で最も高かった。

5.3.2 学級担任

<子どもの心身の健康のための取組（学級担任調査問6）>

- ・子どもの心身の健康のため、学級担任が震災後取り組んだことを聞いたところ、「保護者及び子どもが相談しやすい人間関係に努めている」（95.2%）、「先入観にとらわれず、様々な視点から子どもを見ている」（95.2%）、「問題のある子どもだけでなく、全ての子どもについて理解する」（95.1%）、「心身の健康問題の早期発見のために、健康観察をする」（92.7%）が特に多かった。次いで、「養護教諭をはじめ関係者と連携しながら組織的に対応している」（88.5%）であった。
- ・「メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する」については44.1%であった。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題への対応について、震災後の取組」（学級担任の取組）

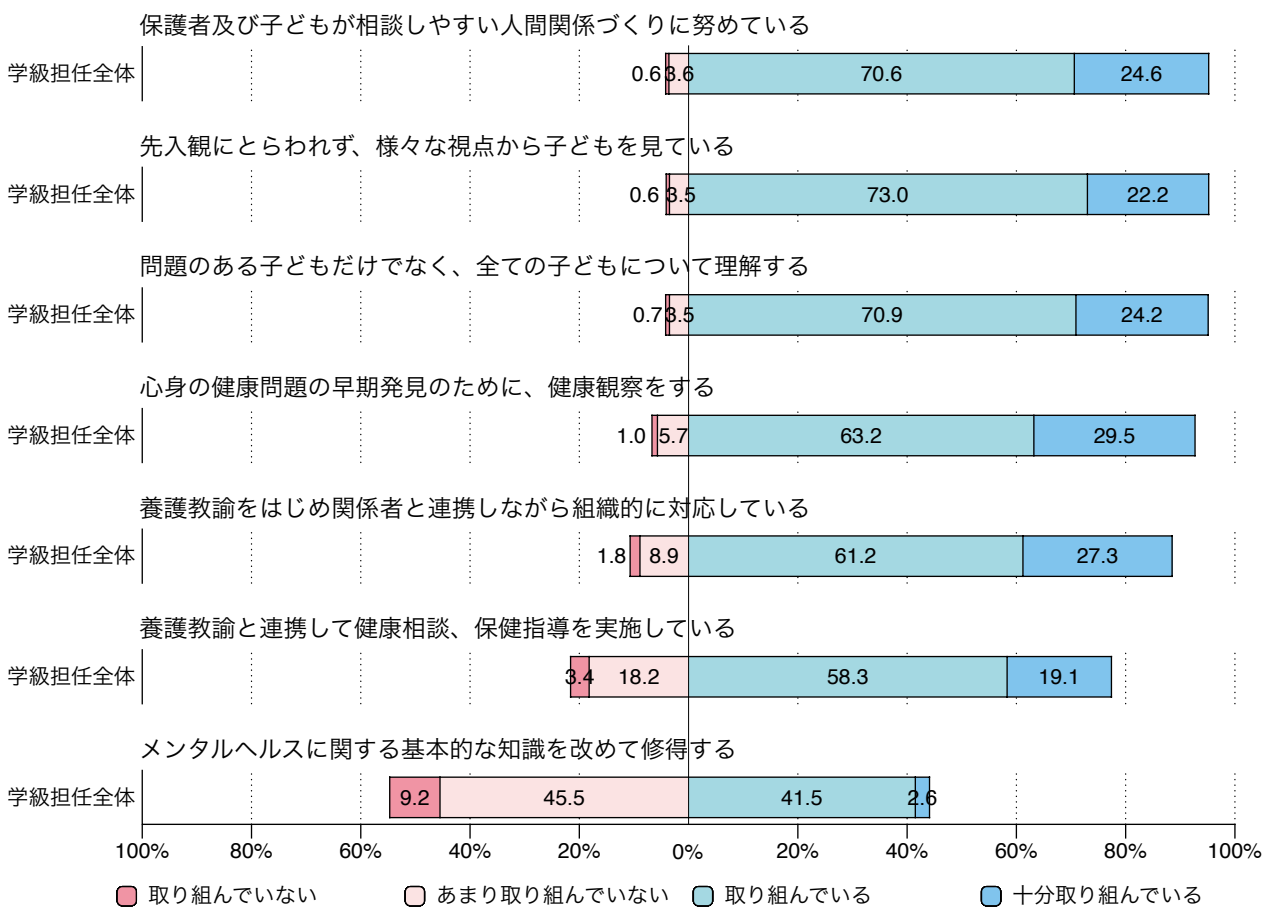


図 5.51：子どもの心身の健康のための取組

<子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無別）>

・子どもの心身の健康のための取組について、震災前、子どもの心身の健康問題に関連して研修（校内研修を含む）に参加の有無で比較すると、「メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する」は、研修参加の経験がある学級担任の割合が高かった。その他の取組は、大きな差が見られなかった。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題への対応について、震災後の取組」（研修参加の有無別）

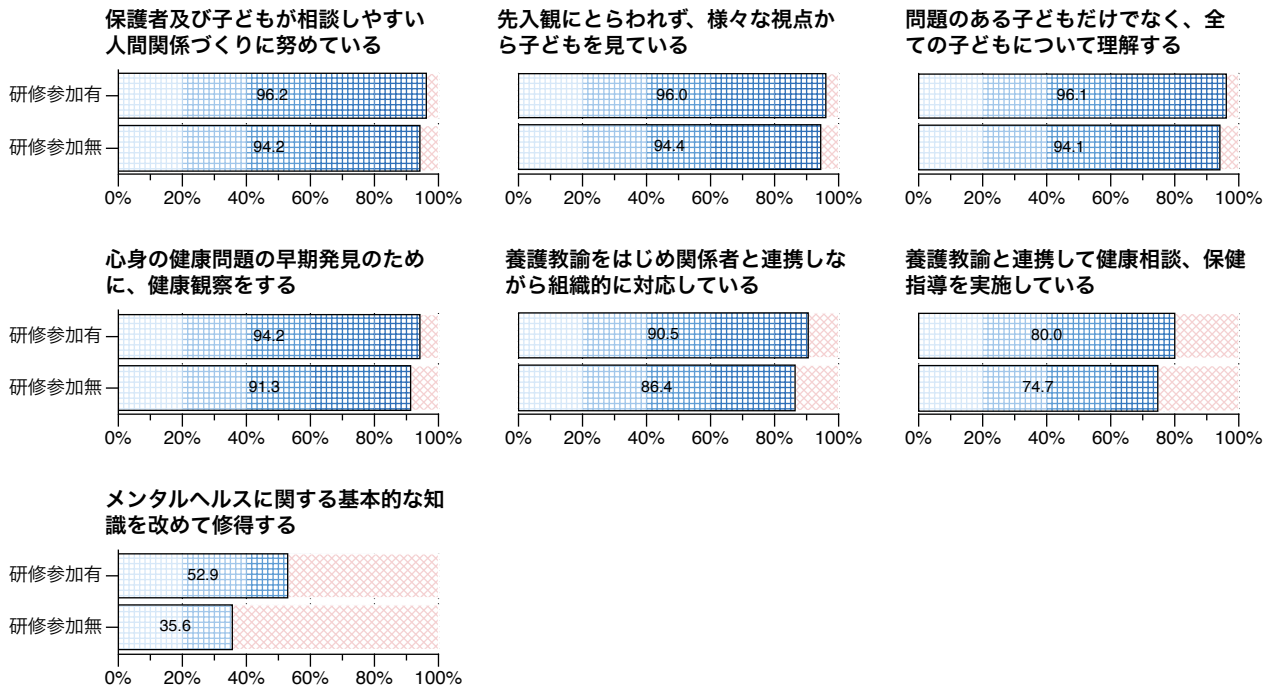


図 5.52：子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無別）

<健康問題の相談相手（学級担任調査問7）>

・子どもの心身の健康問題について、学級担任が相談している相手（複数回答）は、養護教諭が 84.7%、他の教員が 80.6%、管理職 59.2%、スクールカウンセラー 25.8%、地域の相談機関 2.1%であり、主に教職員に相談していることが分かった。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題についての相談相手」（複数回答）

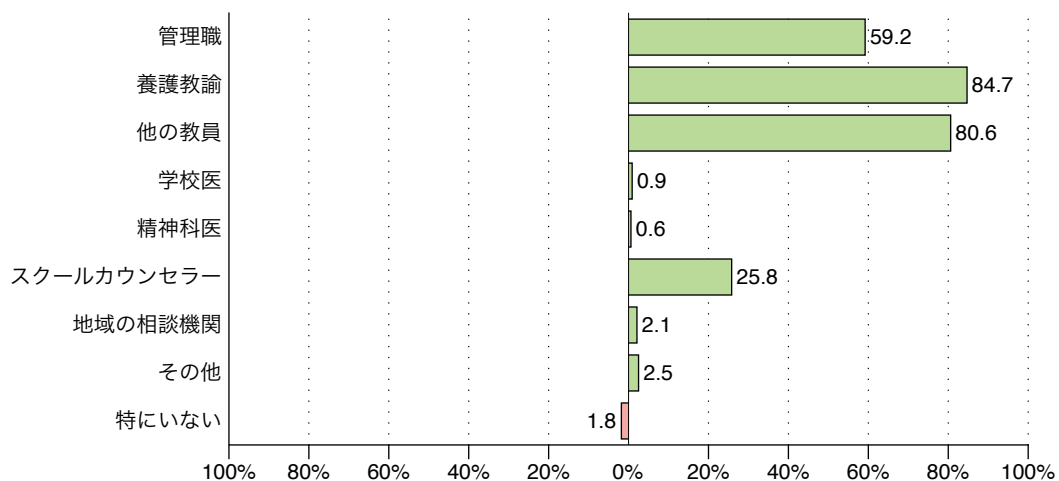


図 5.53：健康問題の相談相手

<参考資料の活用（学級担任調査問8）>

・子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用（複数回答）しているか聞いたところ、「子どもの心のケアのために」が32.2%、「県や市町等が作成した資料」が24.3%であった。「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」については、余り活用されていなかった。また、「特にない」は41.5%であった。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題の対応について、参考資料の活用」（複数回答）

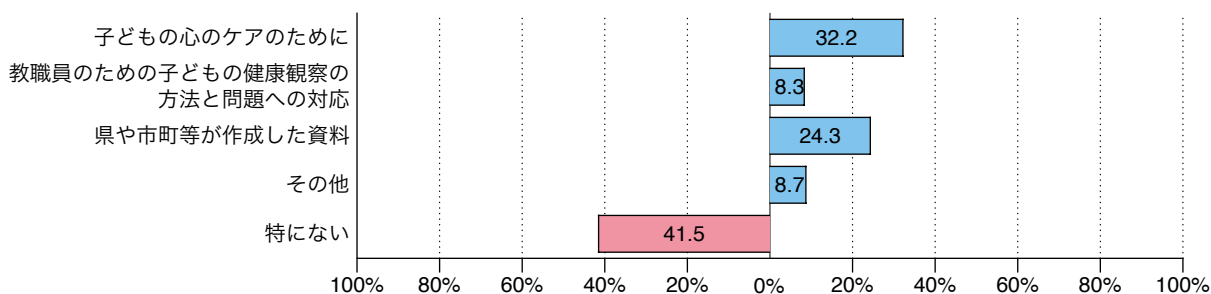


図 5.54：参考資料の活用

<参考資料の活用（経験年数別）>

・参考資料の活用（複数回答）について、経験年数別で比較したところ、「子どものケアのために」、「教職員の子どもの健康観察の方法と問題への対応」については、経験年数が高いほど活用されている傾向がみられた。「県や市町等が作成した資料」については、差が見られなかった。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題の対応について、参考資料の活用」（経験年数別）（複数回答）

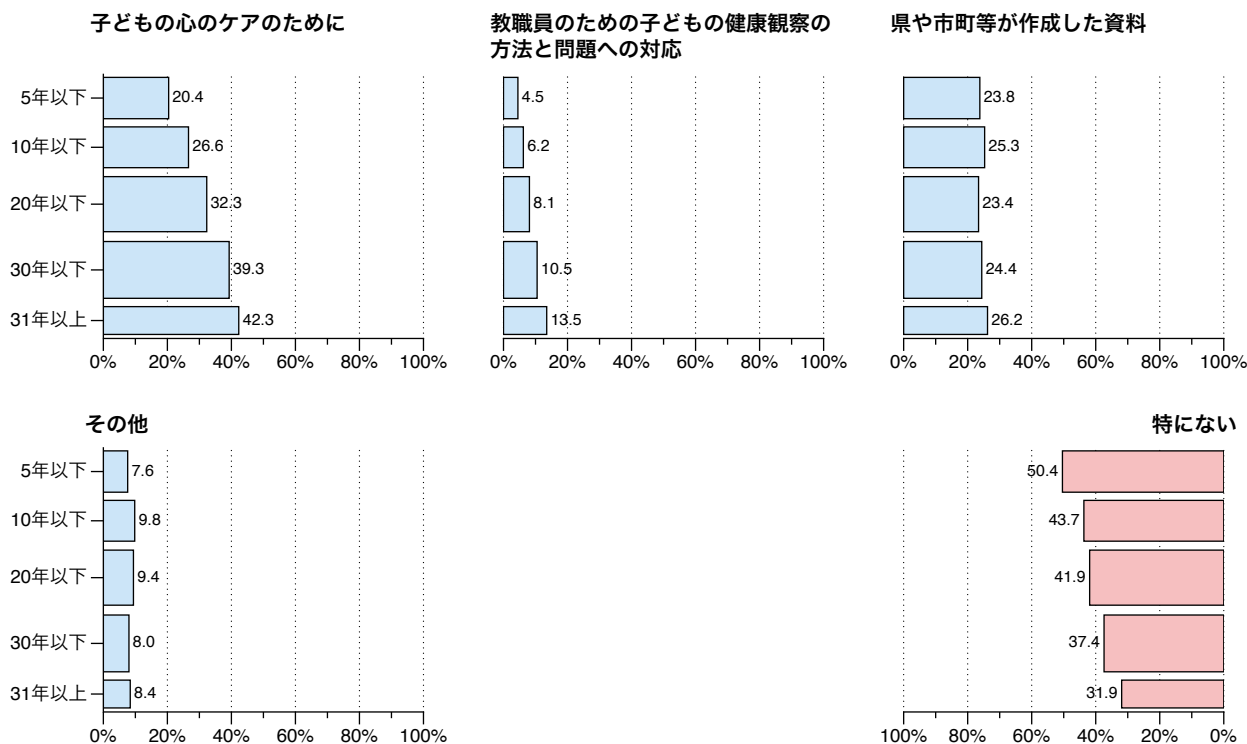


図 5.55：参考資料の活用（経験年数別）

<参考資料の活用（研修参加の有無別）>

- 参考資料の活用（複数回答）について、研修の参加別に見たところ、すべての参考資料において研修参加の経験のある学級担任ほど活用していた。

学級担任調査「子どもの心身の健康問題の対応について、参考資料の活用」（研修参加の有無別）
（複数回答）

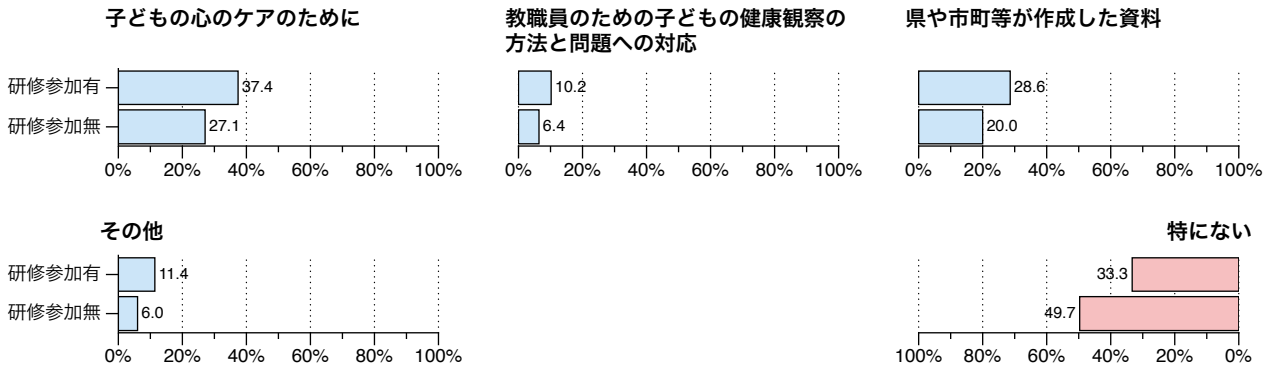


図 5.56：参考資料の活用（研修参加の有無別）

<子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報（学級担任調査問9）>

- 子どもの心のケアを行う専門機関の情報について、「具体的な情報を知っている」学級担任は 15.0%であった。「あることは知っているが、具体的なことは知らない」68.3%、「知らない」16.3%を合計すると 8 割の学級担任は専門機関について知らないと回答していた。
- 震災後開設された相談機関の情報については、「具体的な情報を知っている」学級担任は 4.2%であった。「あることは知っているが、具体的なことは知らない」61.4%、「知らない」33.7%であり、9 割以上の学級担任は震災後開設された相談機関について知らないと回答していた。

学級担任調査「子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報」

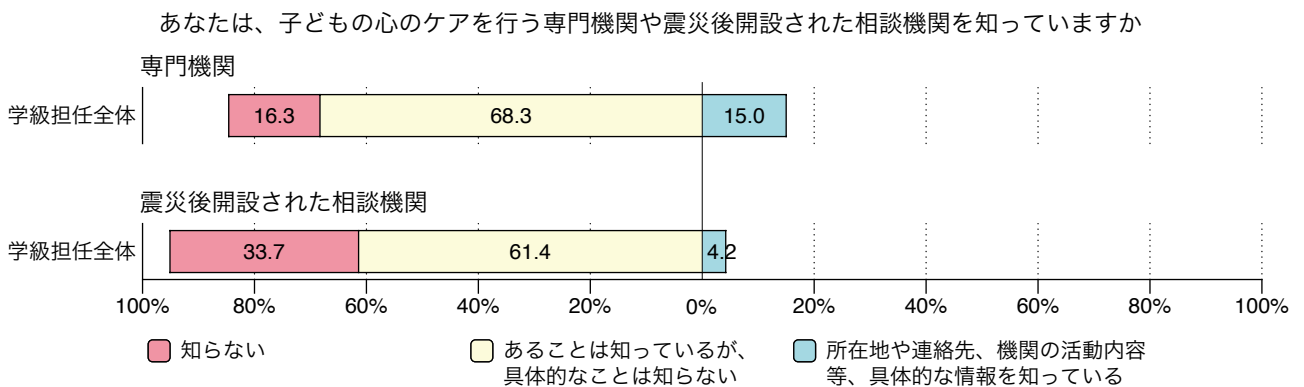


図 5.57：子どもの心のケアを行う専門機関

<子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報（研修参加の有無別）>

- ・「子どもの心のケアを行う専門機関」について、学級担任の研修参加の有無で比較したところ、研修に参加したことのある学級担任の方が、具体的な情報を知っている割合が高かった。
- ・「震災後開設された相談機関の情報」については、研修参加の有無では差が見られず、ほとんどの学級担任が具体的な情報について知らないと回答していた。

学級担任調査「子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報」
(研修参加の有無別)

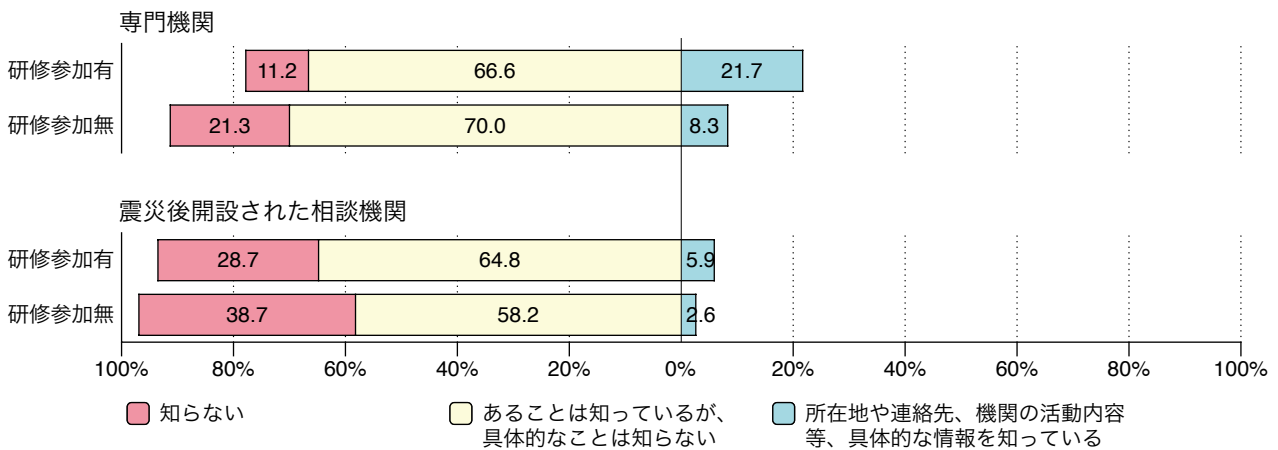


図 5.58：子どもの心のケアを行う専門機関（研修参加の有無別）

<専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（校種別）（学級担任調査問10）>

・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）については、どの校種も「教職員間で情報共有し、組織的に対応している」の割合が一番高く、次いで「本人や保護者と面談を行っている」であった。「集団指導や学級で心のケアを実施している」については、小学校24.9%と中学校で21.5%の学級担任が取り組んでいた。

学級担任調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（校種別）（複数回答）

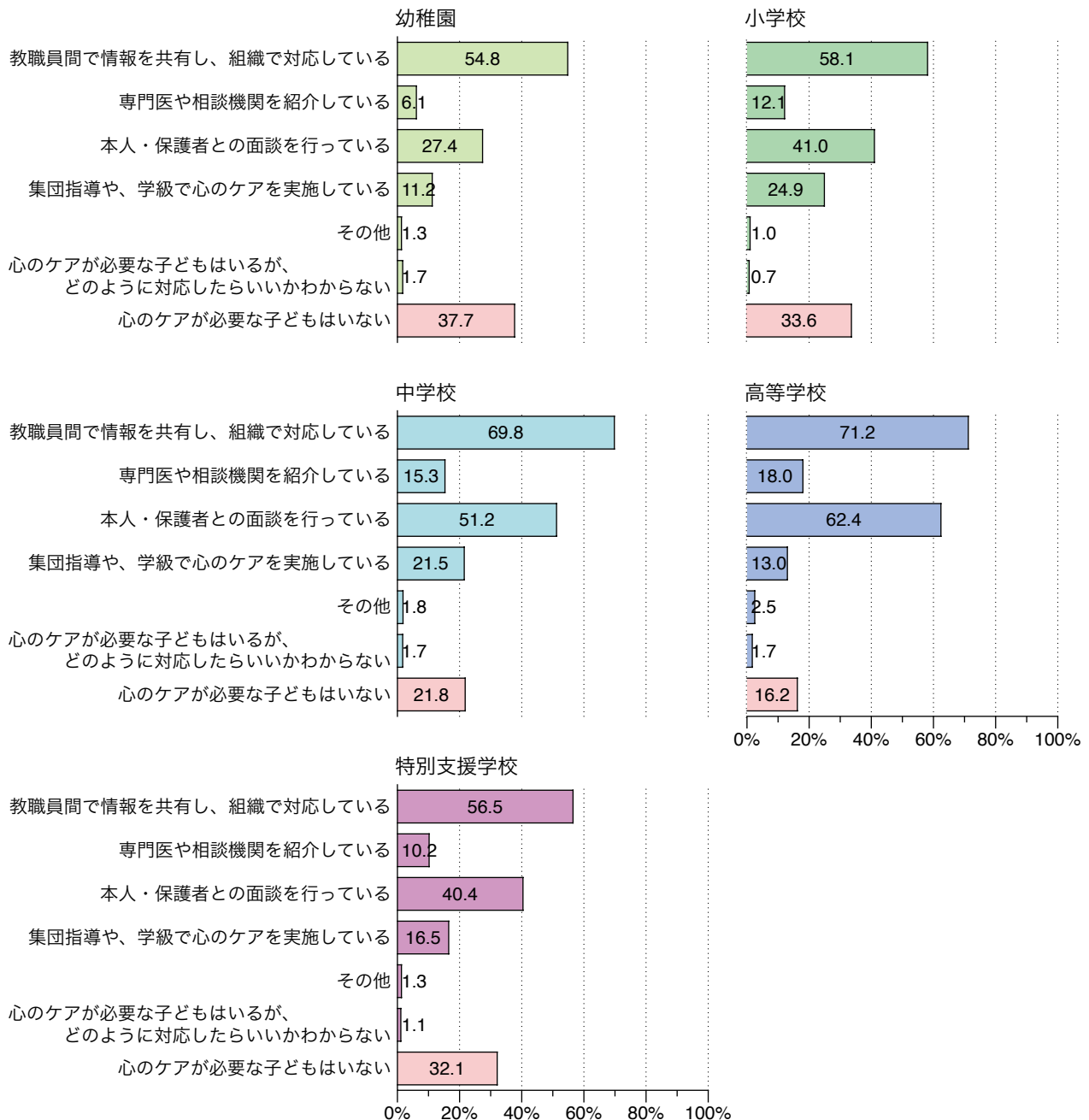


図 5.59：専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（校種別）

<心身の健康問題に対応するに当たっての課題（学級担任調査問11）>

・心身の健康問題に対応するに当たっての課題について、学級担任に聞いたところ、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」が50.4%、が最も高く、次いで「教職員の心のケアが十分できていない」39.1%、「関係機関等との連携が十分に図られていない」が37.4%、「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識の違い・対応のばらつきがみられる」が34.1%であった。

学級担任調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」

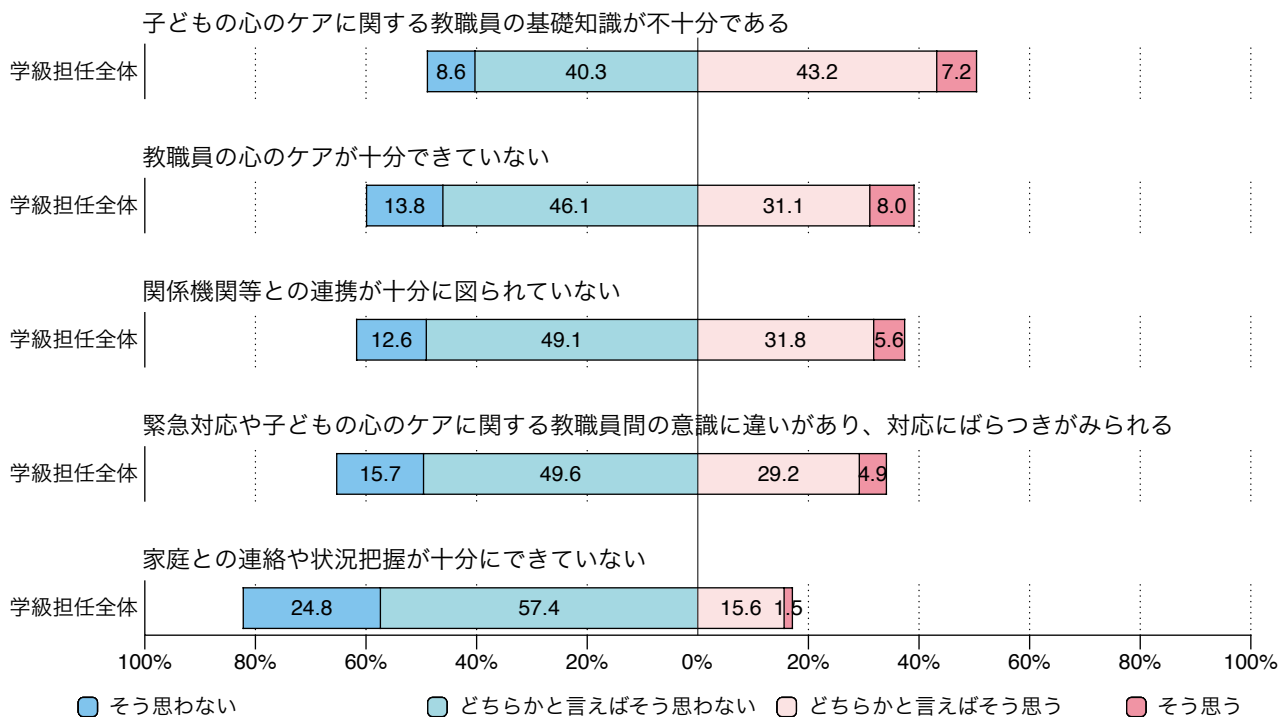


図 5.60：心身の健康問題に対応するに当たっての課題

<心身の健康問題に対応するに当たっての課題（研修参加の有無別）>

・心身の健康問題に対応するに当たって、学級担任が課題としていることを研修参加の有無と比較すると、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」は、研修参加なしの割合が高かった。その他の課題については大きな差は見られなかった。

学級担任調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」（研修参加の有無別）

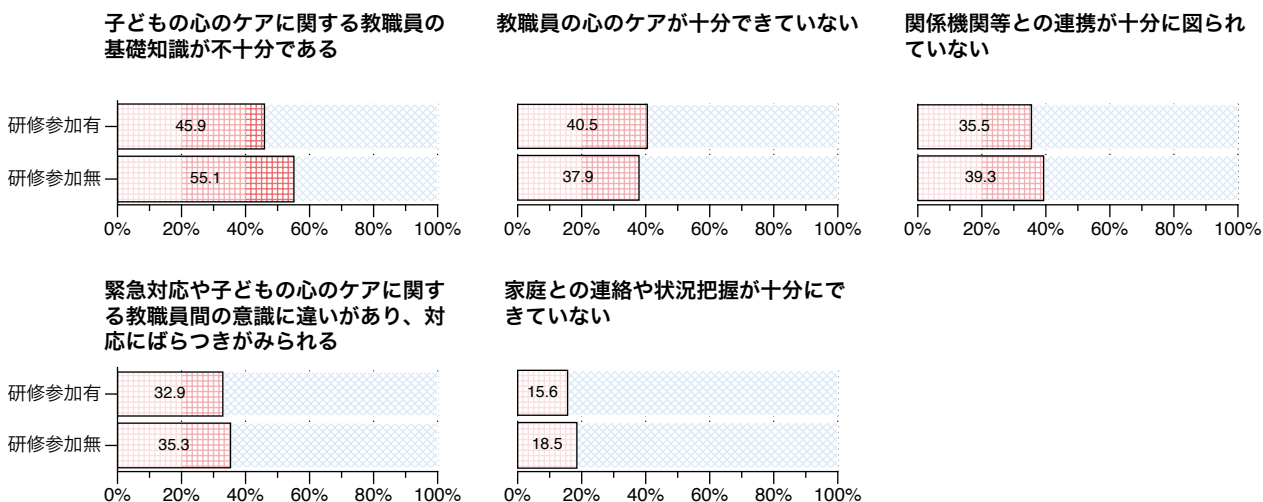


図 5.61：心身の健康問題に対応するに当たっての課題（研修参加の有無別）

<学級担任調査のまとめ>

- 子どもの心身の健康問題への対応について、学級担任の取組は「保護者及び子どもが相談しやすい人間関係に努めている」、「先入観にとらわれず、様々な視点から子どもを見ている」、「問題のある子どもだけでなく、全ての子どもについて理解する」に9割以上の学級担任が取り組んでいた。一方取組が少なかったのは、「メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する」であった。
- 子どもの心身の健康問題について、相談している相手は、養護教諭が84.7%やその他の教員が80.6%、管理職が59.2%、スクールカウンセラーが25.8%であり、主に教職員に相談していた。
- 特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応については、どの校種も「教職員間で情報共有し、組織的に対応している」割合が1番高く、次いで「本人や保護者との面談を行っている」であった。
- 心身の健康問題に対応するに当たって学級担任が課題としていることは、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」が5割で最も高く、次いで「教職員の心のケアが十分にできていない」、「関係機関等との連携が十分に図られていない」、「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識の違いがあり、対応にばらつきがみられる」であった。

5.3.3 養護教諭

<子どもの心身の健康のための取組（養護教諭調査問8）>

- ・子どもの心身の健康のため、養護教諭が震災後、取り組んだことを聞いたところ、「子どもの心身の健康状態を日頃からの確に把握、問題の早期発見、早期対応」（94.1%）、「常に情報収集を心がけ、問題の背景要因を把握している」（92.1%）、「子どもが相談しやすい保健室の環境づくりに努める」（91.3%）が特に多かった。次いで、「学級担任と連携して組織的な健康観察、健康相談、保健指導を実施する」（89.7%）であった。
- ・「子どもの個別の支援計画作成への参画」については、41.0%であった。

養護教諭調査「子どもの心身の健康問題への対応について、震災後の取組」（養護教諭の取組）

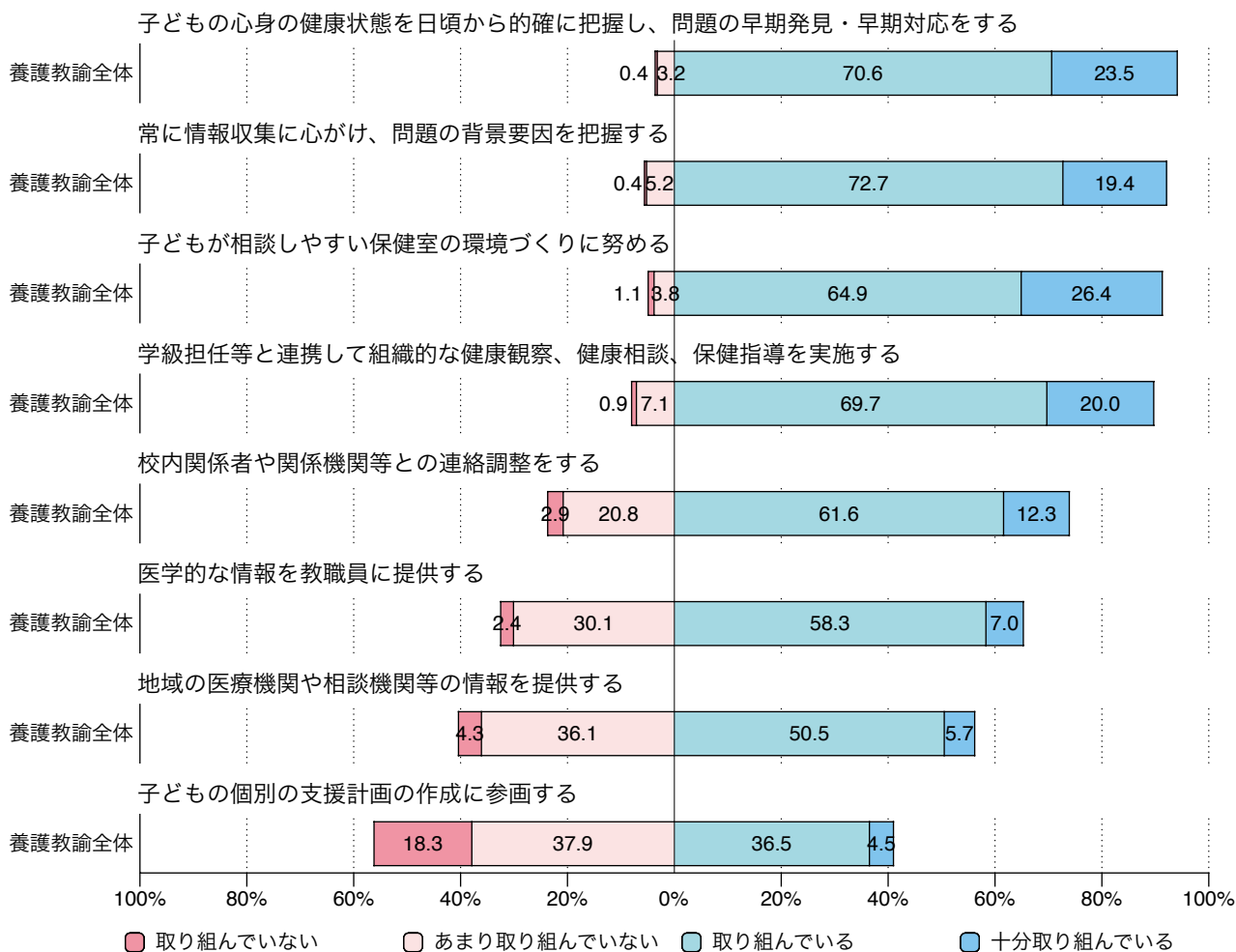


図 5.62：子どもの心身の健康のための取組

<子どもの心身の健康のための取組（養護教諭の配置人数別）>

・子どもの心身の健康のため、震災後、取り組んだことを養護教諭の配置人数で比較したところ、「校内関係者や関係機関等との連絡調整をする」は、複数配置 85.9%、一人配置 79.7%で6ポイントの差、「地域の医療機関や相談機関等の情報提供をする」は、複数配置 68.1%、一人配置 58.3%で約10ポイントの差が見られ、複数配置が一人配置より割合が高かった。

養護教諭調査「子どもの心身の健康問題への対応について、震災後の取組」（養護教諭の配置人数別）

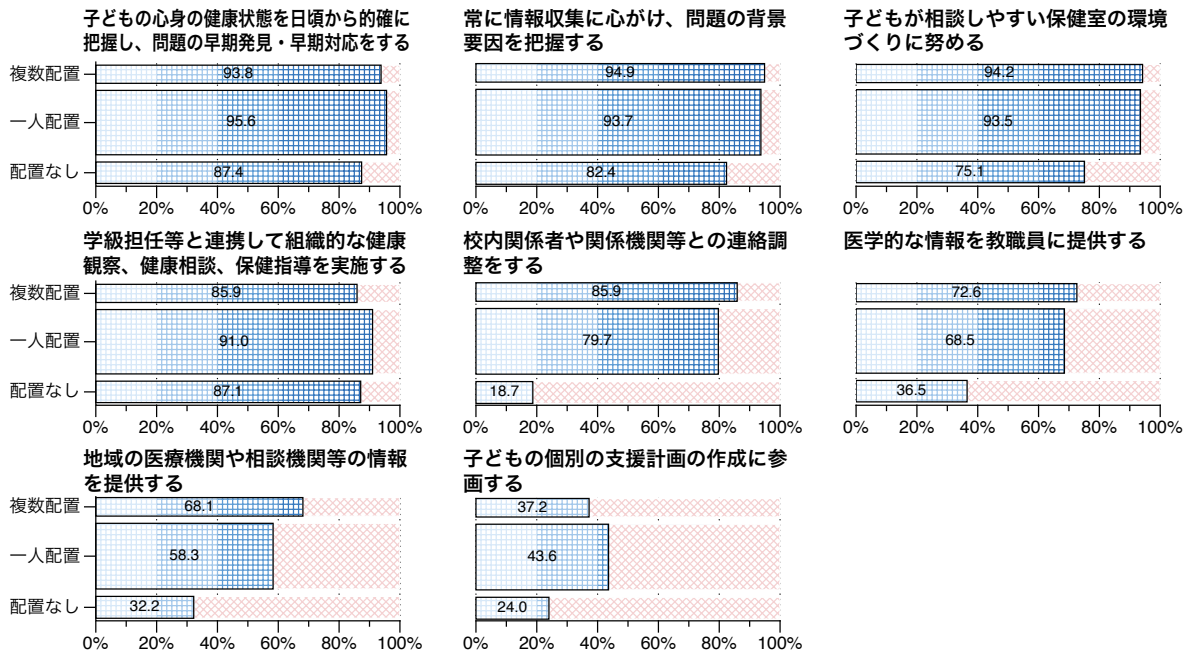


図 5.63：子どもの心身の健康のための取組（養護教諭の配置人数別）

<子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無別）>

・子どもの心身の健康問題への対応について、研修参加の有無で比較すると、いずれの取組も研修経験のある養護教諭の割合の方が高かった。特に、「医学的な情報を教職員に提供する」については、20ポイントの差が見られた。

養護教諭調査「子どもの心身の健康問題への対応について、震災後の取組」（研修参加の有無別）

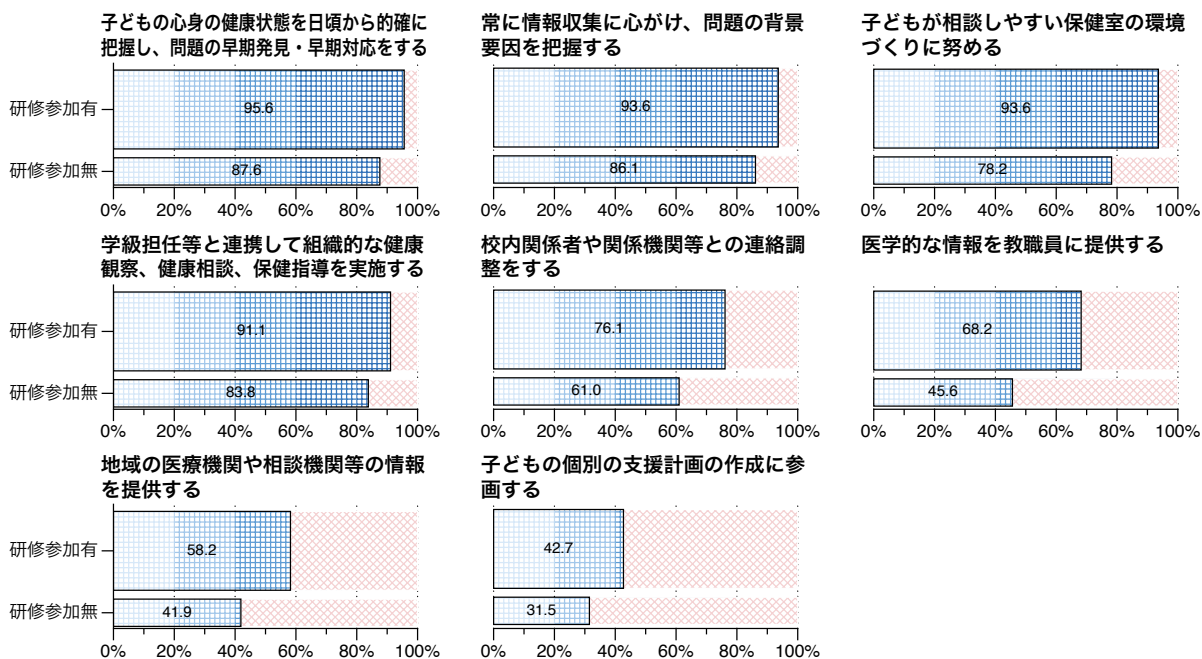


図 5.64：子どもの心身の健康のための取組（研修参加の有無別）

<健康問題の相談相手（校種別）（養護教諭調査問9）>

・子どもの心身の健康問題について相談する相手（複数回答）は、どの校種も「管理職」と「他の教職員」が7割以上であった。「スクールカウンセラー」については、高等学校が80.6%、中学校が79.2%と高かった。また、特別支援学校では「学校医」が73.3%、「精神科医」が28.2%あり、他校種より割合が高かった。

養護教諭調査「子どもの心身の健康問題について相談する相手」（校種別）（複数回答）

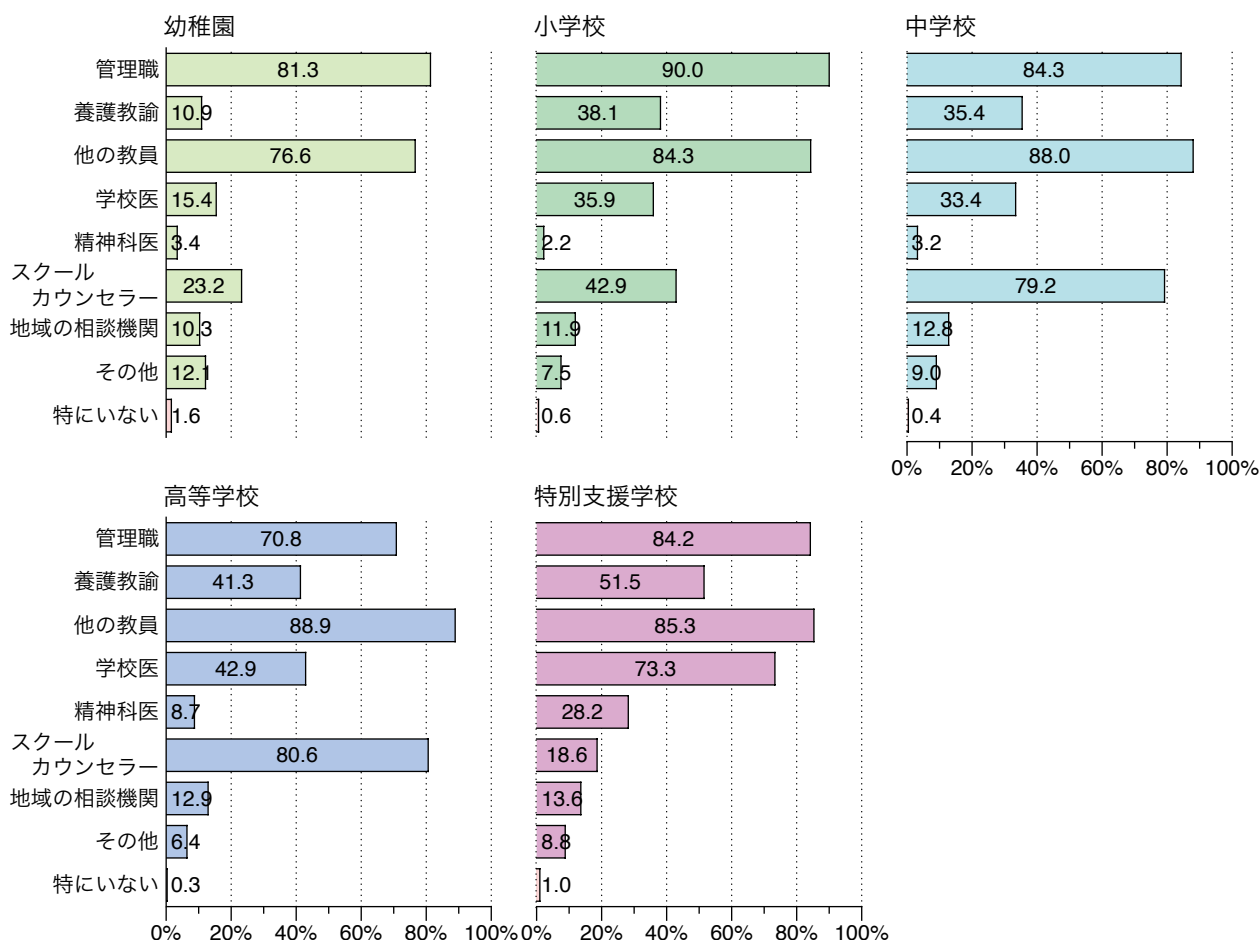


図 5.65：健康問題の相談相手（校種別）

<参考資料の活用（養護教諭調査問10）>

・子どもの心身の健康問題の対応について活用している参考資料（複数回答）については、「子どもの心のケアのために」が74.2%、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」が42.8%、「県や市町等が作成した資料」が23.4%であった。

養護教諭調査「子どもの心身の対応について活用している参考資料」（複数回答）

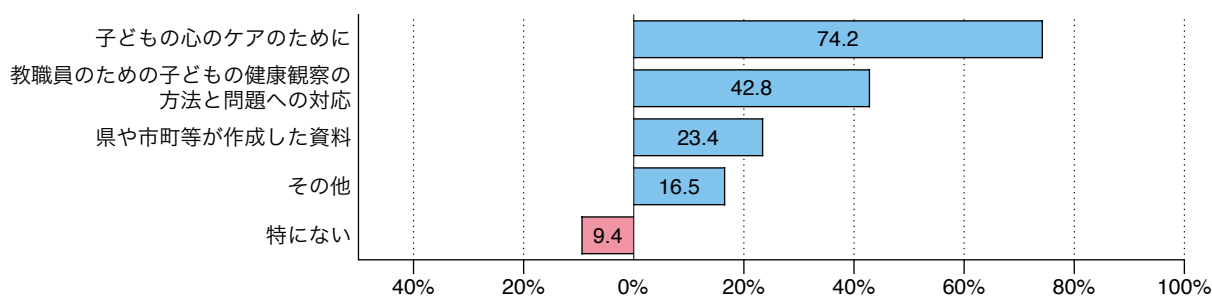


図 5.66：参考資料の活用

<参考資料の活用（校種別）>

・参考資料の活用（複数回答）について校種別に見ると、いずれの校種も「子どもの心のケアのために」の活用が多く、次いで「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」であった。

養護教諭調査「子どもの心身の対応について活用している参考資料」（校種別）（複数回答）

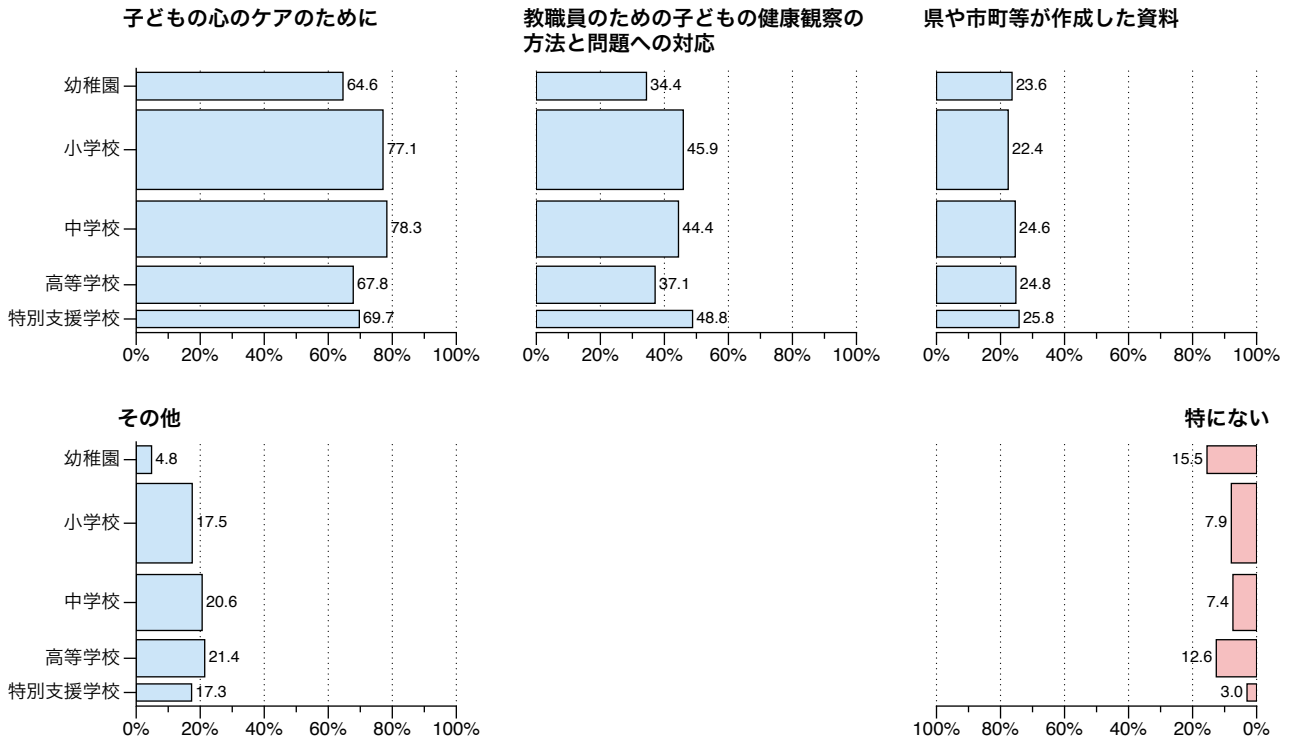


図 5.67：参考資料の活用（校種別）

<参考資料の活用（経験年数別）>

- 参考資料の活用（複数回答）について、経験年数別で見ると、参考資料によって差があるが、「子どもの心のケアのために」と「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」については、経験年数の多い養護教諭の活用の割合がやや高かった。

養護教諭調査「子どもの心身の対応について活用している参考資料」（経験年数別）（複数回答）

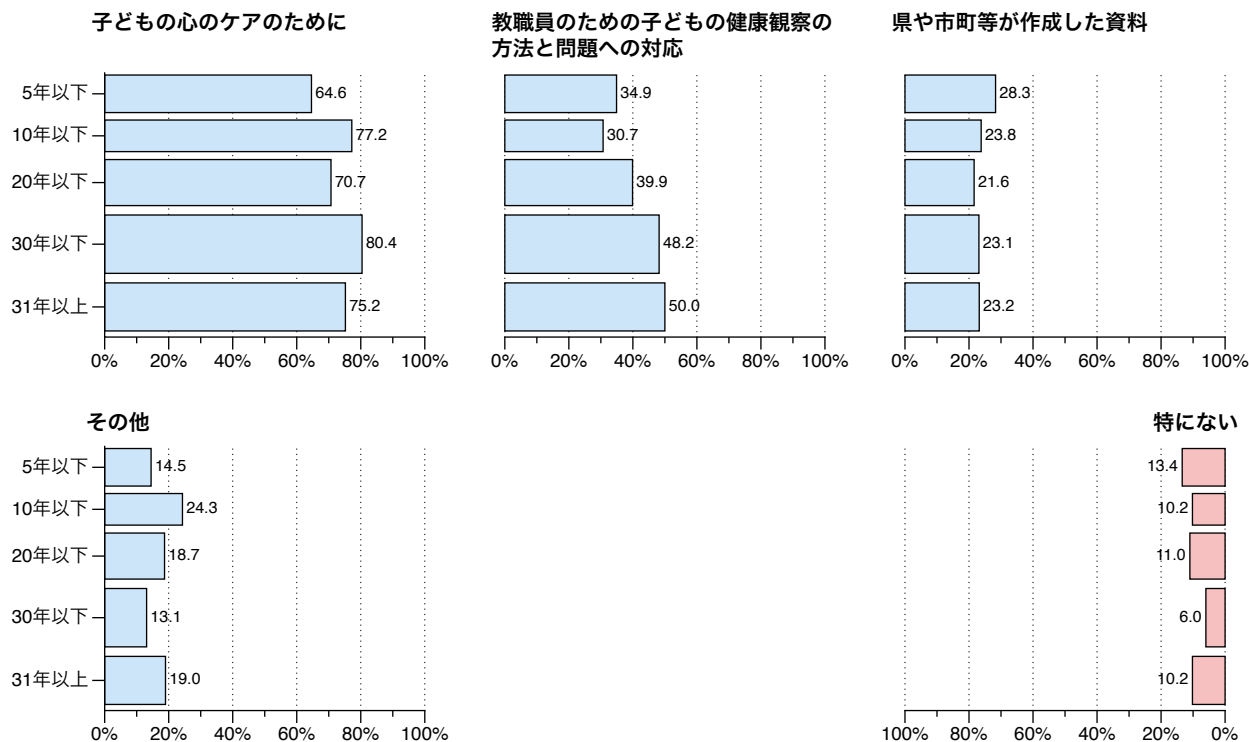


図 5.68：参考資料の活用（経験年数別）

<参考資料の活用（研修参加の有無別）>

- 参考資料の活用（複数回答）について、研修参加の有無別で見ると、いずれの参考資料も研修経験がある養護教諭の割合が高かった。

養護教諭調査「子どもの心身の対応について活用している参考資料」（研修参加の有無別）（複数回答）

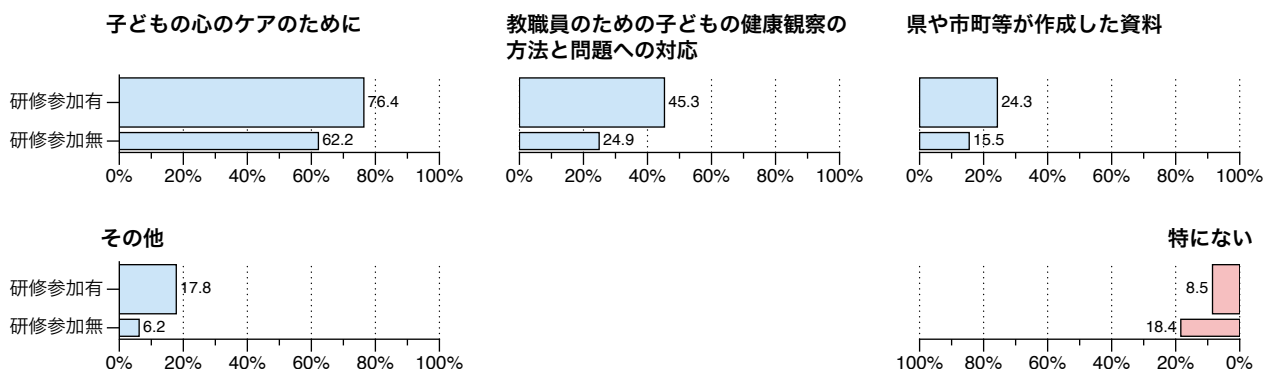


図 5.69：参考資料の活用（研修参加の有無別）

<子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報（養護教諭調査問11）>

- ・子どもの心のケアを行う専門機関の情報については、「具体的な情報を知っている」養護教諭は40.1%であった。「知らない」あるいは「あることは知っているが具体的なことは知らない」の割合は、57.7%であった。
- ・震災後開設された相談機関の情報については、「具体的な情報を知っている」養護教諭は16.9%、「あることは知っているが、具体的なことは知らない」は55.9%、「知らない」は24.7%であり、8割の養護教諭は震災後開設された相談機関について具体的なことは知らないと回答していた。

養護教諭調査「子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報」

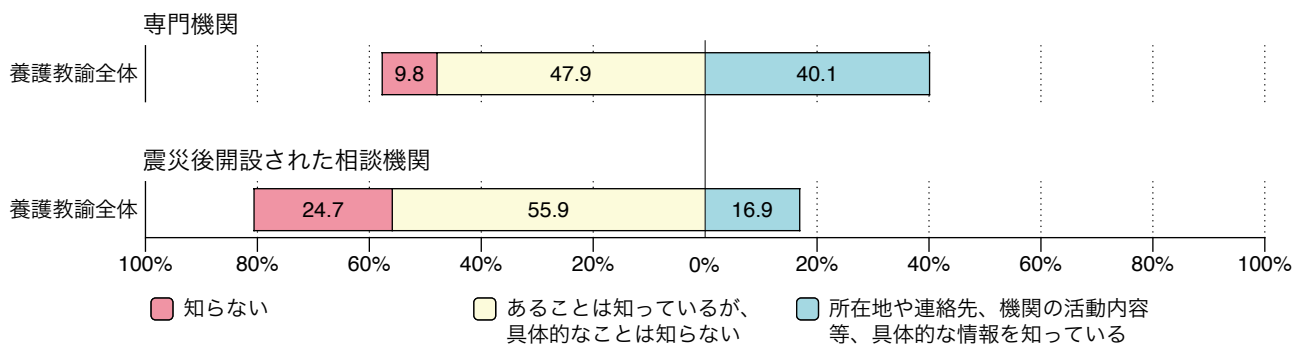


図 5.70：子どもの心のケアを行う専門機関

<子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報（研修参加の有無別）>

- ・子どもの心のケアを行う専門機関の情報について、養護教諭の研修参加の有無で比較したところ、研修に参加したことのある養護教諭の方が、具体的な情報を知っている割合が高かった。
- ・震災後開設された相談機関の情報については差が見られず、研修参加の有無に関わらず、8割の養護教諭が具体的なことは知らないと回答していた。

養護教諭調査「子どもの心のケアを行う専門機関、震災後開設された相談機関の情報」
(研修参加の有無別)

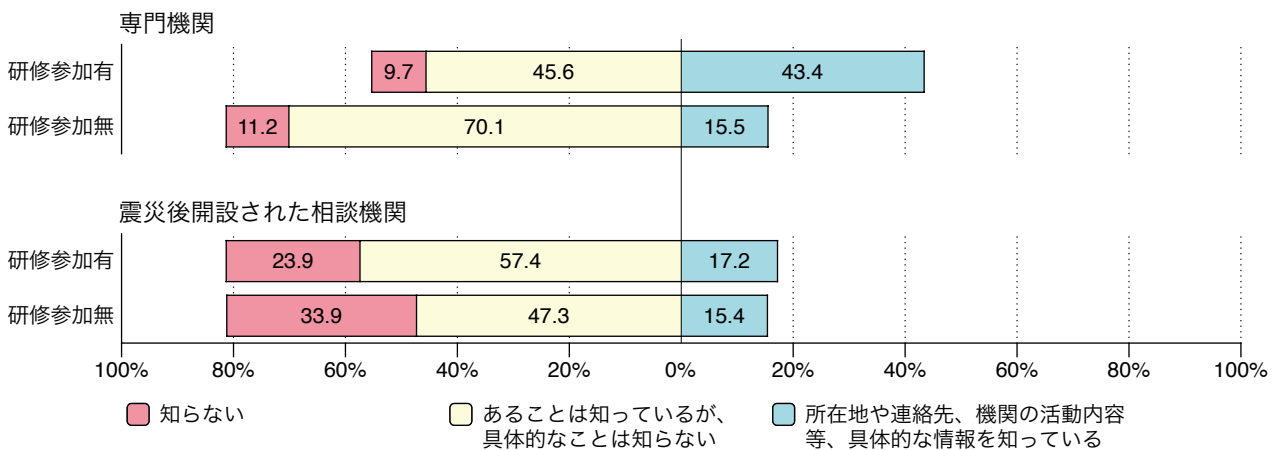


図 5.71：子どもの心のケアを行う専門機関（研修参加の有無別）

<専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（校種別）（養護教諭調査問12）>

- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）については、全ての校種において「教職員間で情報を共有し、組織で対応」の割合が一番高かった。
- ・中学校は「本人・保護者との面談」、高等学校は「専門医や相談機関を紹介」や「本人・保護者との面談」に5割以上の養護教諭が取り組んでいた。

養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（校種別）（複数回答）

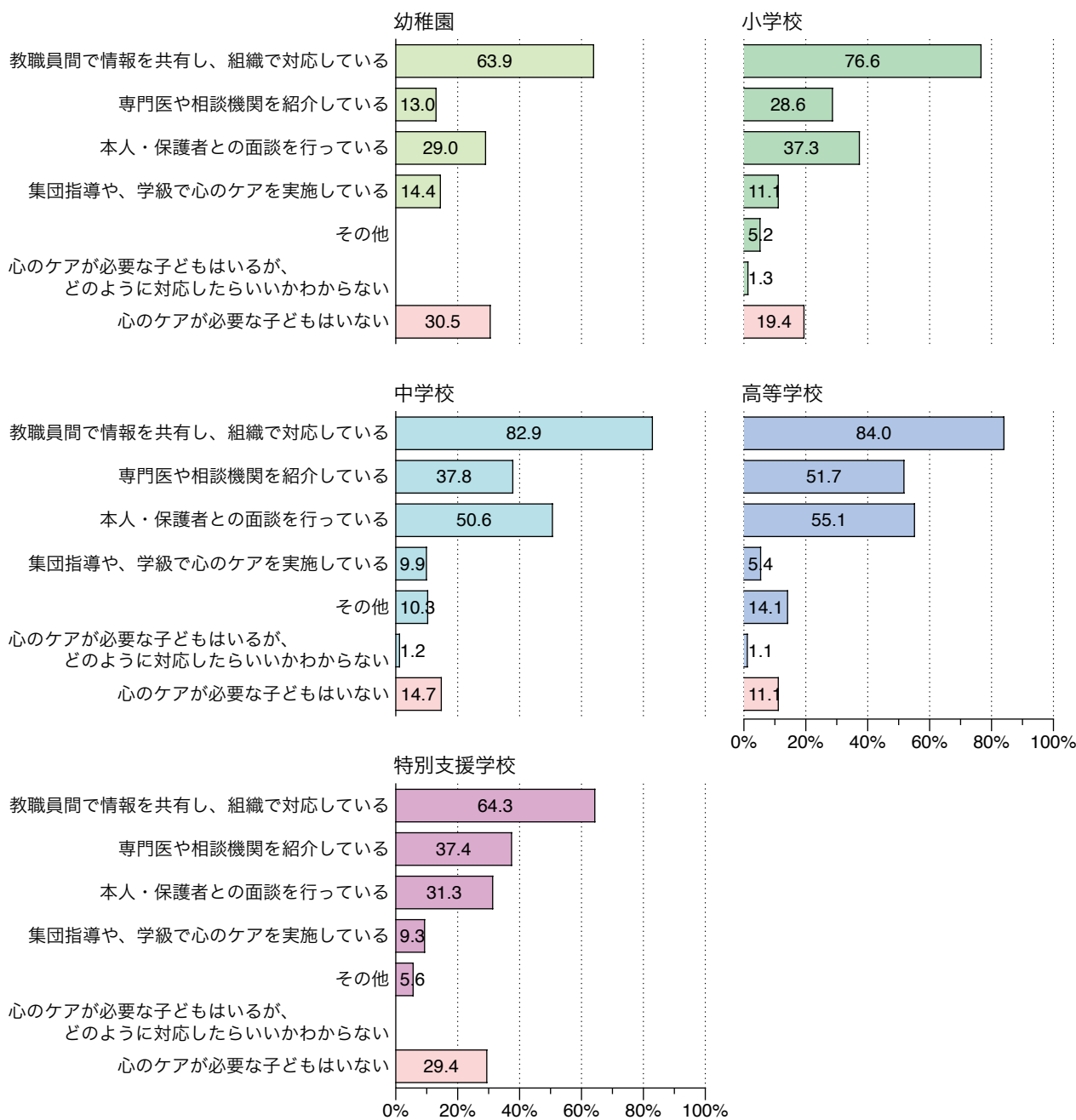


図 5.72：専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（校種別）

<心身の健康問題に対応するに当たっての課題（養護教諭調査問13）>

- ・心身の健康問題に対応するに当たっての課題について養護教諭に聞いたところ、「教職員の心のケアが十分できていない」、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分」、「関係機関等との連携が十分に図られていない」、「子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがある」いずれも3割以上の養護教諭が課題としていた。

養護教諭調査「子どもの心身の健康問題に対応するに当たっての課題」

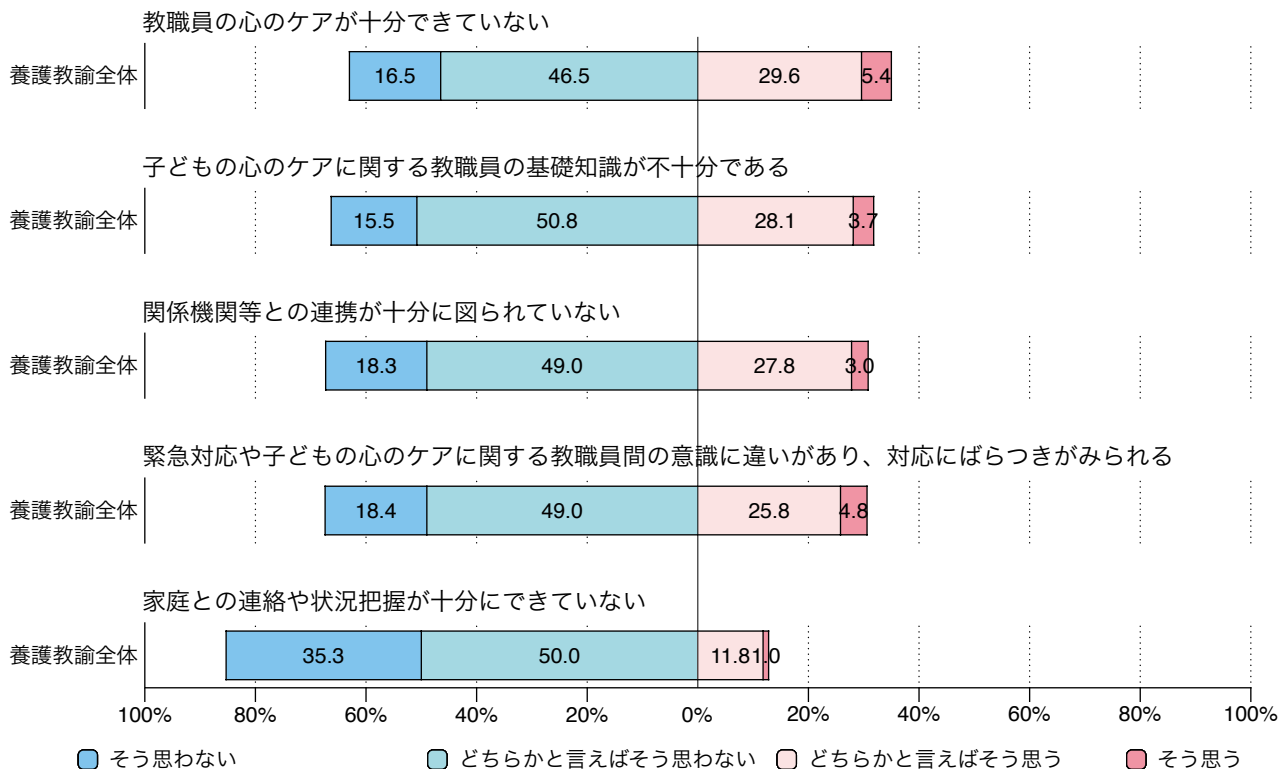


図 5.73：心身の健康問題に対応するに当たっての課題

<養護教諭調査のまとめ>

- ・子どもの心身の健康問題への対応については、「子どもの心身の健康状態を日頃からの的確に把握、問題の早期発見、早期対応」、「常に情報収集を心がけ、問題の背景要因を把握している」、「子どもが相談しやすい保健室の環境づくりに努める」について9割以上が取り組んでいた。一方取組が少なかったのは、「子どもの個別の支援計画作成への参画」であった。
- ・子どもの心身の健康問題への対応について、「校内関係者や関係機関等との連絡調整」や「地域の医療機関や相談機関等との情報提供」については、養護教諭の複数配置が一人配置より取り組んでいる割合が高かった。
- ・子どもの心身の健康問題について相談する相手は、どの校種も「管理職」や「他の教職員」の割合が高かった。中学校や高等学校では、スクールカウンセラーが割合も高かった。
- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応については、どの校種も「教職員間で情報を共有し、組織で対応している」割合が一番高かった。また、中学校は「本人・保護者との面談」、高等学校では、「専門医や相談機関を紹介」や「本人・保護者との面談」について、5割以上が取り組んでいた。
- ・心身の健康問題に対応するに当たって養護教諭が課題としていることは、「教職員の心のケアが十分できていない」、「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である」、「関係機関等との連携が十分に図られていない」、「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがある」がいずれも3割以上であった。

5.3.4 スクールカウンセラー

<来校頻度(スクールカウンセラー調査問3)>

・来校頻度についてスクールカウンセラーに聞いたところ、「週に1回」47.1%の割合が高かった。

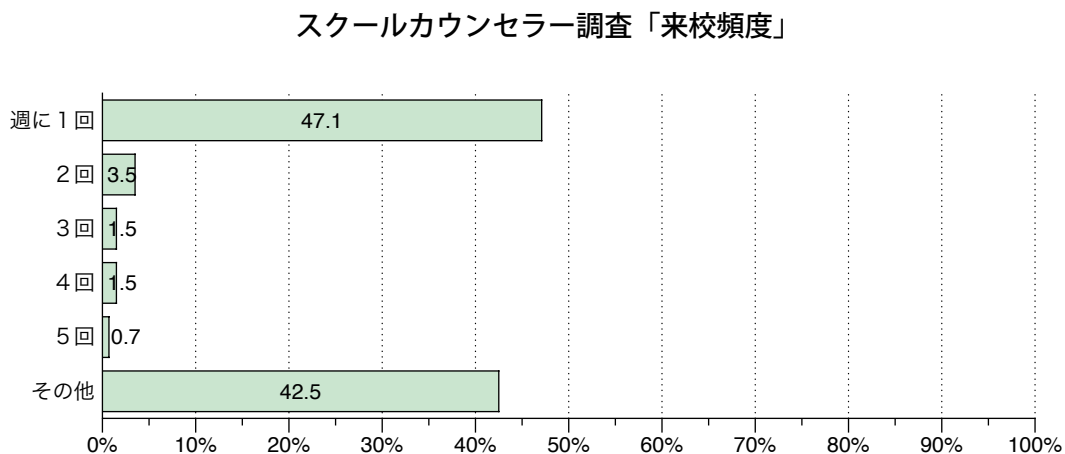


図 5.74：来校頻度

<来校頻度(校種別)>

・来校頻度を校種別で見ると、「週1回」の割合は、中学校 65.0%、高等学校 34.2%、小学校 31.7%であった。その他としては、月に1～2回の回答が多かった。

表 5.5：スクールカウンセラー調査「来校頻度」校種別 単位：%

	小学校	中学校	高等学校
週に1回	31.7	65.0	34.2
週に2回	2.9	3.2	5.4
週に3回	1.5	1.0	2.4
週に4回	3.1	0.8	0.5
週に5回	0.5	0.1	0.5
その他	56.2	28.1	53.5

<活動内容（スクールカウンセラー調査問6）>

- ・震災後、スクールカウンセラーの活動（複数回答）を聞いたところ、「子どもの個別面接」（58.4%）、「教職員への助言」（57.5%）の割合が高く、次いで「保護者の個別面接」（42.8%）の割合が高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

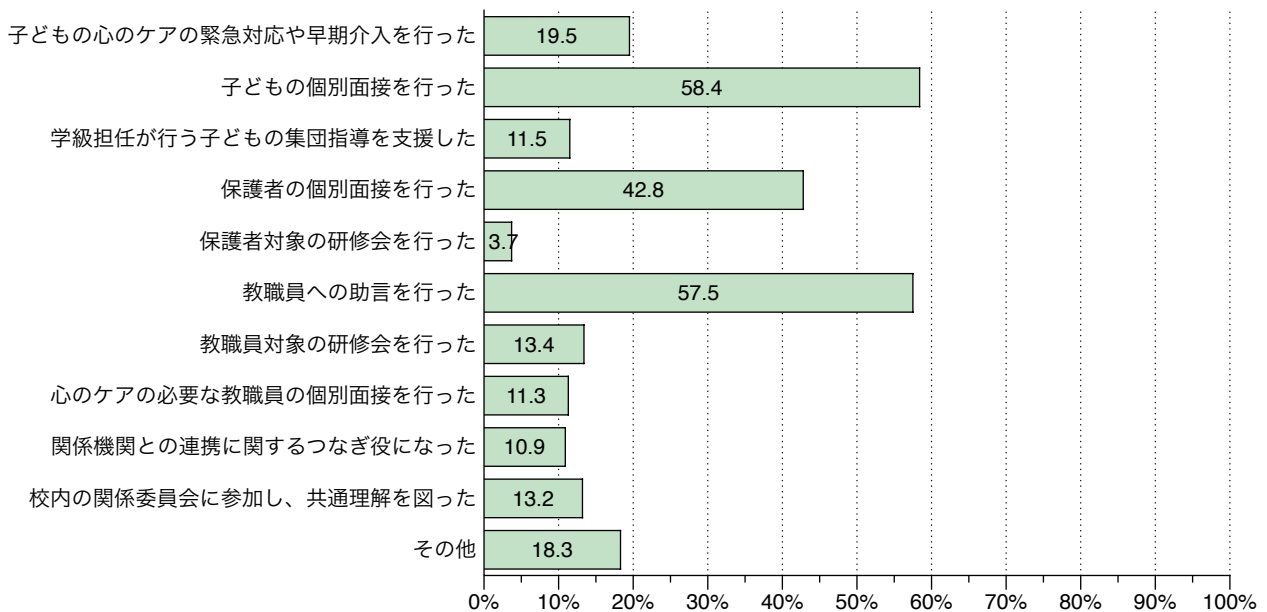


図 5.75：活動内容

<活動内容（校種別）>

- ・震災後のスクールカウンセラーの学校での活動（複数回答）については、各校種において活動の割合に差はあるが、「子どもの個別面接」、「教職員への助言」、「保護者の個別面接」の割合が高かった。また、「子どもの心のケアの緊急対応や早期介入」については、小学校 19.1%、中学校 19.2%、高等学校 20.9%であった。
- ・小学校では「学級担任が行う子どもの集団指導の支援」、中学校では「校内の関係委員会に参加し、共通理解を図る」、高等学校では「教職員対象の研修会」や「心のケアに必要な教職員の個別指導」といった活動にも取り組んでいた。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」(校種別) (複数回答)

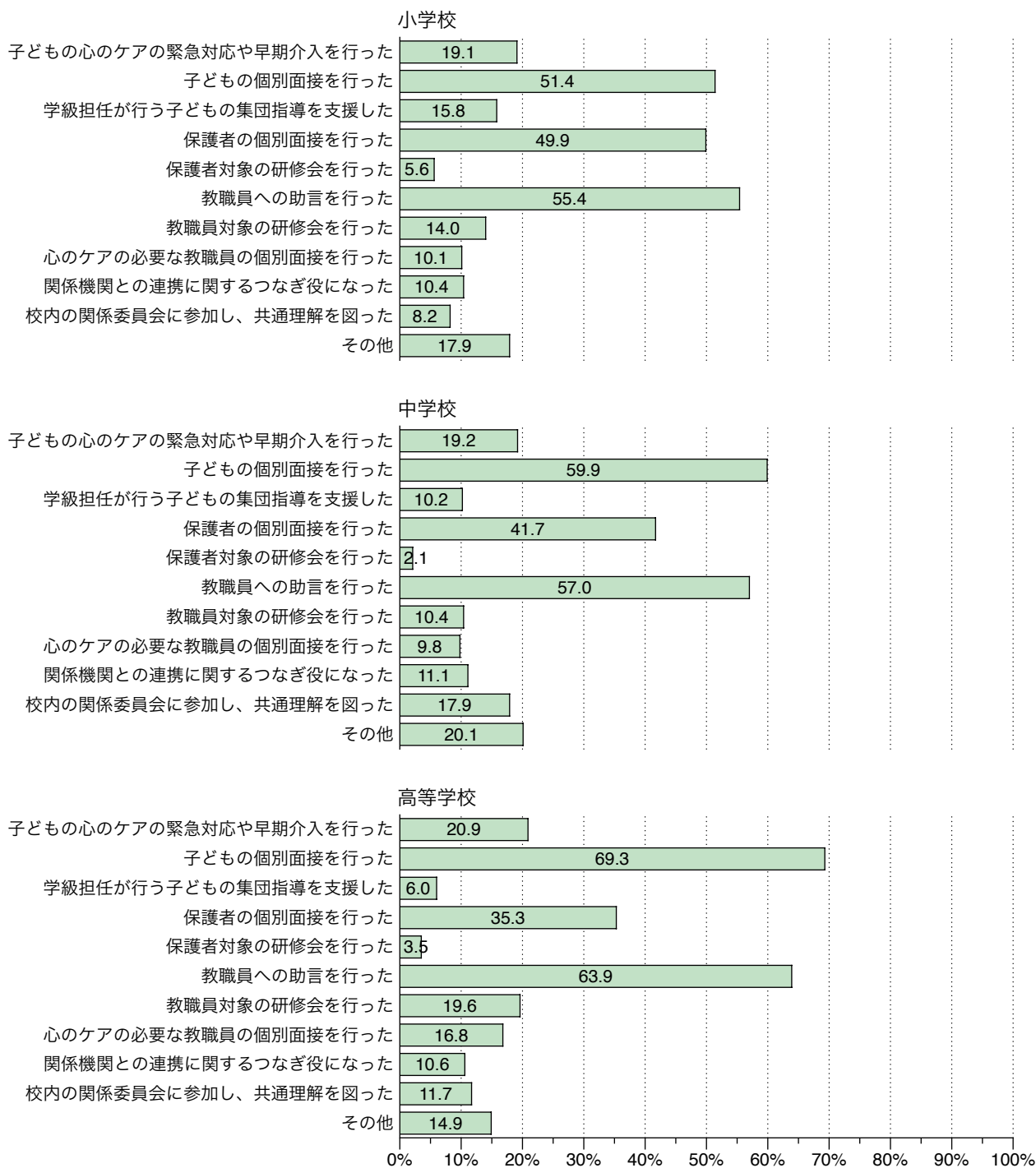


図 5.76：活動内容 (校種別)

<活動内容（地域別）>

・震災後のスクールカウンセラーの活動（複数回答）はいずれの地域においても、「子どもの個別面接」、「教職員への助言」、「保護者の個別面接」の割合が高かった。なお、「子どもの心のケアの緊急対応や早期介入」については、福島県、千葉県、宮城県が2割を超えていた。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（地域別）（複数回答）

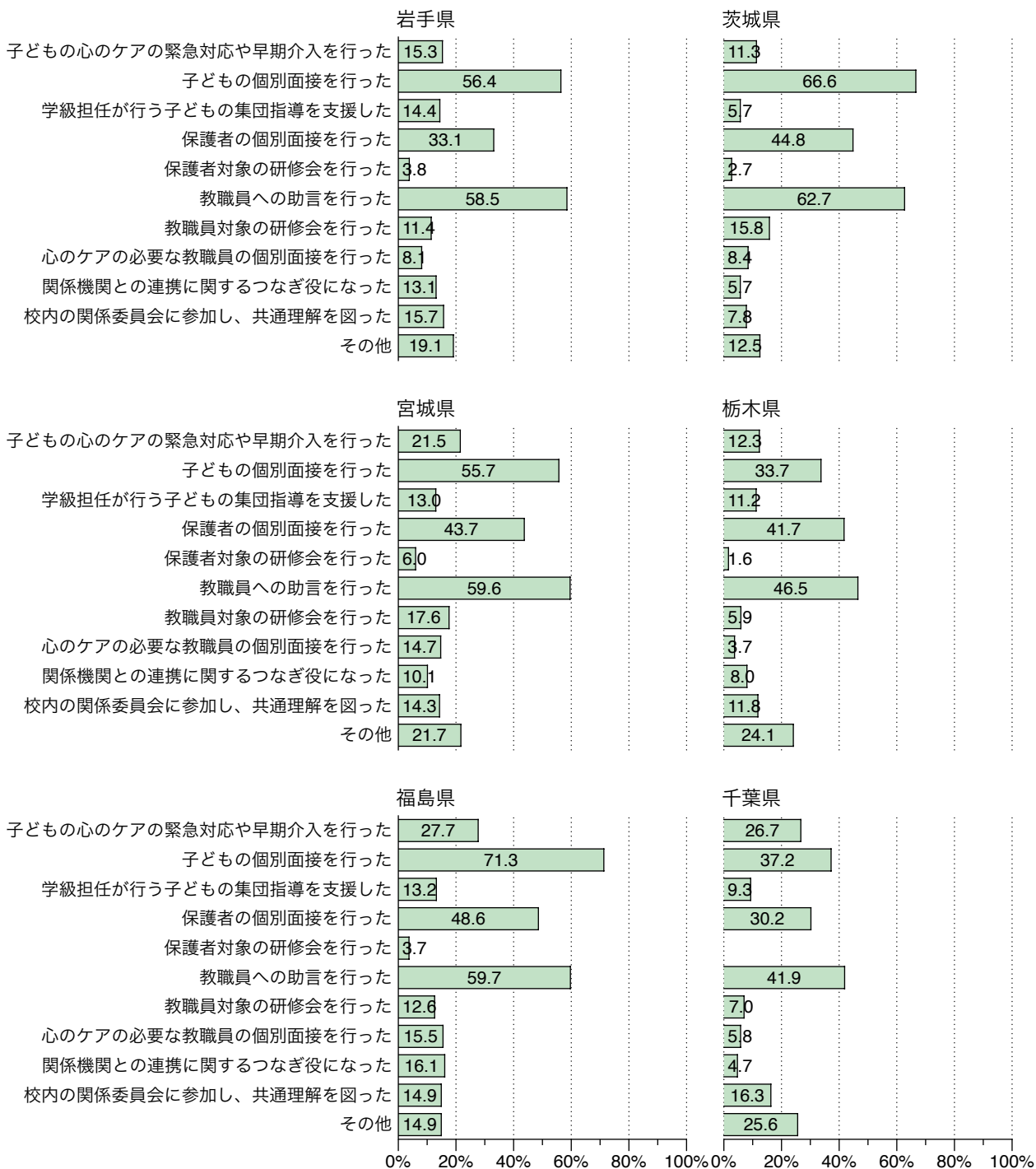


図 5.77：活動内容（地域別）

<スクールカウンセラー調査のまとめ>

- ・スクールカウンセラーの来校頻度は、「週1回」の割合が高かった。
- ・学校での活動は、各校種ともに「子どもの個別面接」、「教職員への助言」、「保護者の個別面接」の割合が高かった。小学校では「学級担任が行う子どもの集団指導の支援」、中学校では「校内の関係委員会に参加し、共通理解を図る」、高等学校では「教職員対象の研修会」や「心のケアに必要な教職員の個別指導」といった活動にも取り組んでいた。

第6章 東日本大震災に伴う子どもの心の健康状態に関する 総括と心のケアについて (非常災害時の子どもの心のケア調査協力者会議まとめ)

子どもの心の健康状態

被災がもたらす心の健康問題の中でPTSDは子どもに最も深刻な影響を与えるものであるが、PTSDが疑われる症状4項目に1つでも該当する子どもは、全体の1割以上に達することが本調査より明らかになった。特に、被害の大きい地域ほどPTSDの可能性のある子どもの割合は高く、一方、年齢が低くなるほど、また障害等がある場合にその割合が増す傾向が見られた。PTSDが疑われる症状に加え、PTSDに付随して現れやすい症状、一般的なストレス症状を含め何らかの症状が見られた子どもの割合は全体の2割に達した。したがって、今回調査した子どもの心の健康状態は深刻な状況にあると考えられる。

教職員による子どもの心のケアへの取組の現状

教職員による取組については、心のケアの出発点となる健康観察は校種による差はあるものの、ある程度の割合で実施されていた。しかし、健康観察した内容を心のケアにつなげるための分析は十分ではなく、分析の土台となる知識・理解に不足が見られた。子どもの心のケアの実施に必要な組織体制づくりについては、校内連携体制が十分確立されておらず、保護者との連携及び地域の専門機関との連携にも課題が見られた。子どもの心のケアに当たり重要となる支援者自身のメンタルヘルスについては、子どもと同様に被災者である保護者、教職員ともに心の安定に関する取組が十分ではなかった。

教職員による今後の取組のあり方について

① 日常的な健康観察の徹底

まず、子どもの心の健康問題に気付くための出発点となる健康観察をこれまで以上に確実に実施する必要がある。また、学校よりも家庭で現れやすい異変や症状があることが言われており、保護者との情報交換は不可欠であり、緊密に連絡を取り合うことが大切である。特に、PTSDの麻痺症状（現実感が低下する）は家庭でも見過ごされやすいため、家庭での情報を得るだけでなく、PTSDに対する保護者の気付きを促すような情報を提供することも健康観察にとって重要であると考えられる。

PTSDに気付くための健康観察の留意点は、基本的には心の健康問題における一般的留意点と変わりなく、遅刻・欠席、学習態度、休み時間の様子、顔色、振る舞い、保健室利用の状況などであり、それらが以前の様子と違うかどうかのポイントとなる（健康観察の実施に関する基本的事項については「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省：平成21年3月参照）。特に、年齢の低い子どもや障害（知的障害、発達障害、視覚・聴覚障害など）のある子どもの場合、ストレスの影響を受けやすいため、わずかな異変にも注意を払うことが重要である。

② PTSDの基礎知識の修得

PTSDを発症している可能性のある子どもが多いことから、健康観察の実施に当たり、PTSDの主要症状（再体験症状、回避・麻痺症状、過覚醒症状）及びPTSDに随伴しやすい症状（心理的退行など）を念頭に置く必要がある（「子どもの心のケアのために―災害や事件・事故発生時を中心に―」文部科学省：平成22年7月参照）。その際、中学・高等学校では、授業中、課外活動、その他の状況における子どもの様子を把握するため、健康観察においても校内の連携が不可欠である。

PTSDの主要症状のうち「麻痺症状」（現実感が低下する）やそれに近い「解離症状」（意識が目の前の現実から離れる等の症状）は目立ちにくいいため、単に“少し元気がない、ぼんやりしやすい”と受け取られたり、麻痺症状に気付いた場合でも“様子を見る”だけの対応にとどまりやすい。しかし実際には、麻痺症状は解離症状とともにPTSDの症状の中でも重症のサインであると考えられるため、なるべく早く専門機関につなぐことを心がけなければならない。

③年齢及び障害の影響を考慮した健康観察

PTSDの症状は年齢及び障害の有無によって現れ方が異なる点にも注意が必要である。被災時の年齢が低いほど上述の解離症状が出現しやすくなるため、年齢が低いほど解離症状がないかどうか慎重に観察する必要がある。特に「なんとなく元気がない」、「注意がしばらく途切れる」、「突然様子が変わる」などの異変が幼児に見られた場合、解離症状を疑うことが重要である。知的障害や発達障害のある子どもも解離症状を示しやすい。

再体験症状については、被災時の恐ろしい体験が突然ありありと想起されるというフラッシュバックの形を取るのが一般的である。障害のある子どもの場合、再体験症状が原因のよく分からない突発的な混乱や突然の興奮に見えることがあるため注意が必要である。一方、幼児から小学校低学年の場合、被災時の様子を「遊び」の中で表現（再現）する形で再体験症状を示しやすい（「トラウマ性再演」）。健康観察や情報収集に当たりこれらの点に注意が必要である。

一方、成人に近い高等学校の生徒の場合、PTSDの症状に苦しんでいても、学校ではそれを表に出さず、相談しないまま一人で抱え込んでいることがある。そのため、教職員による丁寧な聞き取りや、保護者からの情報収集が重要となる。

④専門機関への紹介について

PTSDは自然に完治することが少なく、長期にわたり生活に支障を及ぼし、放置すると別の症状を合併するなど二次障害につながることもある。そのため、学校でのケアにとどまらず専門機関の受診につなげる必要がある。しかし、東日本大災害の被災地は全体的に医療機関が少なく、アクセスも容易でないことが多い。また、我が国では児童精神科医及び子どものトラウマ治療の専門家の数が少ないことより、専門機関の受診をどうやって実現するかは大きな課題である。被災地域の支援体制を強化するほか、他地域から専門家を確保する等の対策が望まれる。

⑤教職員による子どもの心のケアについて

PTSDを発症している子どもを含め、被災した子どもへの心のケアは大変重要である。その際、学校が担うべきケアは当然ながら専門機関が行う治療とは目的や内容が異なることを理解した上で、学校の特性を生かした取組をすることが重要である。集団の力をうまく引き出しながら、種々のリラクゼーションやリハビリテーションの技法を活用した取組はその一例である。災害のうち津波で親族や友人を失った子どもは、トラウマの中で「喪失」の問題が大きな要素を占めやすい。そのような子どもの場合、「振り返り」や「語り」を用いた心のケアがPTSD症状を再燃させる可能性がある。そのため、児童精神科医をはじめとするトラウマ治療の専門家の助言のもと、子どもの回復状態や時期に十分注意した上で実施方法を慎重に選んでケアに取り組む必要がある。

保護者・教職員のメンタルヘルス

支援者自身の心の安定は子どもの心のケアに大きな影響を及ぼす要因であるため、保護者及び教職員のメンタルヘルスは重要な問題であるが、被災の影響によるストレスや不安を抱えている保護者及び教職員は少なくない。保護者については、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が子どもと家庭の状況の理解者となることで、ある程度の精神的支援を行うことができる。しかし、保護者の抱えるメンタルヘルスの問題が深刻な場合、教職員による支援には限界があるため、専門機関の紹介や保健所など保健福祉機関の活用が必要と考えられる。

教職員のメンタルヘルスに関しては、子どもの心のケアを担う組織体制（リーダーは校長）と学校管理者による適切な勤務管理が重要であると思われる。子どもの問題を学級担任等が一人で抱えるのではなく校内組織で取り組むことにより、子どもの抱える問題のみならず教職員の置かれている状況を関係教職員間で共有することができる。そのことにより、学級担任等が悩みを一人で抱え込むことなく、孤立感の軽減につながる。また、教職員が必要最小限の休養を確保できているかどうかを管理職がきめ細かく把握し、業務を調整することが大切である。

医療に期待することについて

本調査でPTSDの可能性が疑われた子どもは1割以上に達し、専門機関でPTSDの治療を受ける必要のある子どもは多数にのぼると推測されるが、ほとんどの被災地では専門機関及び児童精神科医が不足している状況であると考えられる。そのため、被災地以外から児童精神科医を確保するなどして、地元の医師と協力して子どもの診察するなどの活動をしている都道府県の民生部局と連携し、PTSDと診断された子どもの治療及びフォローアップを行っていくことが必要である。当然ながら両段階とも保護者及び学校と緊密な連携が求められる。

次に、福島県では症状の見られた子どもの割合が「PTSD が疑われる症状」、「PTSD に関連する症状等」、「一般的な心身不良の症状」のいずれも他地域より高かった。とりわけ調査時点において継続中のストレスを反映しやすい「一般的な心身不良の症状」が他地域よりも高かったことにより、地震と津波による災害に加え、放射線災害と関連する諸々のストレスが関与している可能性が考えられる。自然災害と異なり、目に見えない放射線災害の恐れと関連したストレスが子どもの心身の健康にどのような影響をもたらすかは知られておらず、学校は慎重な健康観察を続けながら、今後の医学的知見を待つ必要がある。

第Ⅲ部
資 料

第7章 統計表

7.1 校（園）長

7.2 学級担任

7.3 養護教諭

7.4 スクールカウンセラー

7.5 保護者

(1) 回答の取扱い

- 一つだけ回答する質問に対して、二つ以上の回答がある場合は、当該質問の回答を「無効回答」とした。
- 回答が無記入である場合は、当該質問の回答を「無効回答」とした。

(2) 結果の表記

- 回答率（%、百分率）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記した。したがって、表記された回答率を合算する場合、実数から算出された数値と一致しない場合がある。具体的には、一つだけ回答する質問において、各回答の合計が100.0%とならない場合がある。
- 統計表中の「0.0」は、小数点以下第2位を四捨五入した結果、0.0%になったことを表し、「-」は、その回答選択肢を選んだ回答者がいないことを示す。
- 中等教育学校については、学校数が少なく学校が限定される可能性があるため、校種の結果は表示していないが、調査結果については全体の集計に反映している。

●校（園）長調査「n」

全体	4, 569	青森県	122	幼稚園	1, 024
		岩手県	721	小学校	2, 052
		宮城県	932	中学校	960
		福島県	1, 066	高等学校	438
		茨城県	1, 029	中等教育学校	4
		栃木県	444	特別支援学校	91
		千葉県	255		

●学級担任「n」

全体	33, 700	青森県	1, 050	幼稚園	2, 307
		岩手県	4, 264	小学校	16, 061
		宮城県	7, 469	中学校	7, 331
		福島県	6, 887	高等学校	6, 116
		茨城県	7, 805	中等教育学校	62
		栃木県	3, 856	特別支援学校	1, 823
		千葉県	2, 369		

●養護教諭「n」

全体	3, 408	青森県	99	幼稚園	79
		岩手県	519	小学校	1, 940
		宮城県	725	中学校	878
		福島県	767	高等学校	423
		茨城県	762	中等教育学校	4
		栃木県	354	特別支援学校	84
		千葉県	182		

●スクールカウンセラー「n」

全体	1, 838	青森県	27	幼稚園	29
		岩手県	236	小学校	587
		宮城県	483	中学校	840
		福島県	484	高等学校	368
		茨城県	335	中等教育学校	4
		栃木県	187	特別支援学校	10
		千葉県	86		

●保護者「n」

全体	335, 784	青森県	10, 057	幼稚園	22, 206
		岩手県	48, 218	小学校	214, 848
		宮城県	70, 217	中学校	62, 058
		福島県	65, 953	高等学校	34, 461
		茨城県	82, 176	中等教育学校	524
		栃木県	37, 795	特別支援学校	1, 687
		千葉県	21, 368		

7.1 校(園)長

1 調査対象校【問1】

(1)地域別

(%)

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県
全 体	2.5	15.6	20.6	23.2	22.6	9.7	5.9

(2)校種別

(%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
全 体	25.3	42.7	20.7	9.4	0.1	1.9

2 養護教諭の配置【問4】

(%)

	一人配置されている	複数配置されている	配置されていない	不明
全 体	69.1	6.0	23.9	0.9
青 森 県	73.5	5.6	20.1	0.9
岩 手 県	77.5	3.9	18.2	0.4
宮 城 県	67.6	9.8	21.2	1.5
福 島 県	66.5	5.8	26.6	1.1
茨 城 県	69.2	3.4	26.7	0.8
栃 木 県	68.0	7.7	23.5	0.8
千 葉 県	62.8	7.5	29.3	0.4
幼 稚 園	8.2	0.3	90.4	1.1
小 学 校	94.6	3.1	1.4	0.9
中 学 校	91.6	6.3	1.7	0.4
高 等 学 校	74.5	23.8	0.9	0.9
特 別 支 援 学 校	37.4	55.9	2.3	4.4

3 スクールカウンセラーの配置【問5】

(%)

	一人配置されている	複数配置されている	配置されていない	不明
全 体	37.6	2.8	58.0	1.5
青 森 県	19.5	2.5	75.5	2.4
岩 手 県	27.8	2.7	68.3	1.1
宮 城 県	48.2	6.7	41.9	3.2
福 島 県	44.2	1.8	53.4	0.6
茨 城 県	32.0	1.1	65.6	1.3
栃 木 県	35.8	1.5	61.4	1.4
千 葉 県	33.7	2.1	63.3	0.8
幼 稚 園	3.0	0.6	95.4	1.0
小 学 校	29.5	0.9	67.8	1.8
中 学 校	84.5	6.9	7.1	1.5
高 等 学 校	70.8	9.2	18.8	1.2
特 別 支 援 学 校	5.1	-	91.1	3.8

4 地震による校舎の被害【問6】

(%)

	校舎の大部分が使用不能	校舎の一部が使用不能	重大な被害はなかった	地震の被害はなかった	その他	不明
全 体	2.1	22.2	53.6	14.7	6.1	1.3
青 森 県	-	4.9	53.0	38.8	2.5	0.8
岩 手 県	1.1	15.6	46.8	31.3	4.4	0.8
宮 城 県	4.4	27.7	54.1	6.6	5.4	1.7
福 島 県	1.6	19.9	56.1	14.5	6.2	1.7
茨 城 県	2.0	25.8	55.1	7.9	7.9	1.3
栃 木 県	0.8	23.5	58.7	11.0	4.9	1.1
千 葉 県	1.5	20.2	47.1	20.8	9.7	0.8
幼稚園	1.9	15.7	53.6	16.2	10.1	2.5
小学校	1.8	20.2	55.3	16.4	5.3	0.9
中学校	2.5	27.8	50.8	12.9	4.9	1.1
高等学校	2.5	34.5	51.8	8.0	2.4	0.7
特別支援学校	1.0	26.1	58.2	9.3	3.3	2.0

5 津波による校舎の被害【問7】

(%)

	校舎の大部分が使用不能	校舎の一部が使用不能	重大な被害はなかった	津波の被害はなかった	その他	不明
全 体	1.3	0.8	1.7	95.0	0.9	0.4
青 森 県	-	1.7	3.3	94.2	0.8	-
岩 手 県	2.5	1.1	2.2	92.1	2.0	0.1
宮 城 県	4.1	1.9	2.9	89.8	0.8	0.5
福 島 県	0.2	0.4	1.0	97.3	0.6	0.6
茨 城 県	-	-	0.8	99.0	-	0.2
栃 木 県	-	-	-	99.1	-	0.9
千 葉 県	-	0.3	-	99.4	-	0.3
幼稚園	0.8	0.4	2.2	94.7	1.3	0.6
小学校	1.5	0.8	1.6	95.1	0.8	0.2
中学校	1.3	1.2	1.8	95.2	0.5	0.1
高等学校	1.7	0.9	1.3	94.2	0.8	1.1
特別支援学校	-	-	-	99.0	-	1.0

6 震災後、授業等が再開(間借りを含む)までの期間【問8】

(%)

	1週間以内	2週間以内	1か月以内	1か月以上	臨時休業していない	不明
全 体	31.5	14.5	19.1	11.8	19.6	3.4
青 森 県	79.1	2.5	1.8	-	14.9	1.6
岩 手 県	46.8	3.7	8.3	10.8	27.1	3.4
宮 城 県	11.6	24.7	21.1	35.4	2.9	4.3
福 島 県	13.4	10.5	43.6	10.7	16.5	5.4
茨 城 県	52.1	23.7	10.0	1.4	10.3	2.5
栃 木 県	34.5	4.7	3.3	0.7	55.5	1.3
千 葉 県	27.7	8.7	13.3	0.3	49.4	0.7
幼稚園	31.1	15.6	20.8	9.7	18.9	3.9
小学校	34.4	14.3	16.9	10.2	21.3	2.9
中学校	29.4	13.3	19.7	12.9	21.4	3.3
高等学校	26.6	14.3	21.8	20.6	12.5	4.2
特別支援学校	21.8	17.6	28.1	20.6	5.5	6.5

7 放射線に対する不安等により、子どもたちの屋外活動制限【問9】

(%)

	屋外活動は全く行っていない	1日の屋外活動時間を制限している	制限していない	その他	不明
全体	4.2	10.2	80.6	4.3	0.7
青森県	-	-	100.0	-	-
岩手県	3.3	1.1	92.2	3.2	0.3
宮城県	4.0	3.3	87.5	4.4	0.8
福島県	6.2	31.3	56.2	5.2	1.0
茨城県	4.3	6.6	83.5	5.0	0.6
栃木県	2.6	4.2	87.3	4.9	1.1
千葉県	3.5	2.3	91.9	1.9	0.3
幼稚園	5.4	23.8	63.5	6.1	1.2
小学校	4.3	7.2	83.6	4.4	0.5
中学校	3.5	4.7	88.8	2.8	0.3
高等学校	2.8	0.2	94.2	2.2	0.6
特別支援学校	3.1	5.4	82.7	6.6	2.3

※回答率には、震災後に行った対応も含まれる。

8 子どもたちの屋外活動時間【問9-1】

(問9で「2. 1日の屋外活動時間を制限している」と回答した場合)

(%)

	1時間以内	2時間以内	3時間以内	4時間以内	その他	不明
全体	3.9	2.6	2.2	0.6	1.5	89.1
青森県	-	-	-	-	-	100.0
岩手県	0.8	0.5	0.3	0.1	0.4	97.9
宮城県	1.5	1.0	0.5	0.1	0.4	96.5
福島県	11.6	6.5	7.9	2.1	4.4	67.6
茨城県	2.5	2.5	0.8	0.4	0.7	92.9
栃木県	1.7	2.5	-	0.3	1.6	94.0
千葉県	1.0	0.8	-	-	0.8	97.4
幼稚園	14.7	5.8	1.0	0.2	3.2	75.1
小学校	0.4	2.1	3.4	0.7	1.2	92.3
中学校	0.1	1.0	2.0	1.5	0.9	94.4
高等学校	-	-	0.6	-	-	99.4
特別支援学校	-	4.3	-	-	1.0	94.6

※無効回答には、問9「2. 1日の屋外活動を制限している」以外に回答した場合も含まれる。

9 震災後の子どもの心身の健康のための取組【問10】

(a) 子どもの心身の健康状態を把握する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	45.8	49.4	3.3	0.8	0.7
青森県	38.6	52.4	2.5	6.4	-
岩手県	45.3	48.7	4.6	1.0	0.4
宮城県	45.2	51.2	2.6	0.3	0.8
福島県	49.8	47.8	1.6	0.3	0.6
茨城県	46.4	49.1	3.7	0.4	0.5
栃木県	41.6	49.3	5.8	2.4	0.9
千葉県	41.4	51.2	3.9	1.6	2.0
幼稚園	39.4	52.7	5.4	1.0	1.5
小学校	52.2	45.2	2.0	0.2	0.4
中学校	46.4	49.4	2.9	1.0	0.3
高等学校	31.3	61.5	4.5	2.1	0.6
特別支援学校	52.9	38.9	4.1	3.1	1.0

(b)子どもの心身の健康状態について、教職員で情報共有する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	45.3	50.3	3.0	0.8	0.6
青森県	35.2	57.5	1.7	5.6	-
岩手県	42.9	50.8	5.0	1.0	0.3
宮城県	44.3	52.9	2.2	0.1	0.5
福島県	49.0	48.5	1.7	0.3	0.5
茨城県	48.0	47.8	3.3	0.2	0.7
栃木県	40.7	51.5	4.3	2.6	0.9
千葉県	41.8	52.4	3.1	1.6	1.1
幼稚園	42.6	51.1	4.1	0.9	1.2
小学校	50.5	46.8	2.2	0.2	0.3
中学校	46.3	50.1	2.4	1.0	0.3
高等学校	27.0	65.5	5.0	1.8	0.6
特別支援学校	43.1	46.5	5.2	4.1	1.0

(c)心のケアの対応方針決定と共通理解を図る

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	22.2	61.0	13.4	2.6	0.8
青森県	14.9	55.9	18.8	10.4	-
岩手県	19.1	57.5	18.9	4.2	0.4
宮城県	21.0	65.3	11.5	1.5	0.7
福島県	26.4	60.8	10.6	1.1	1.2
茨城県	24.6	62.1	11.8	1.1	0.5
栃木県	19.4	56.9	16.0	6.1	1.7
千葉県	16.2	61.9	15.8	4.7	1.5
幼稚園	17.9	55.8	20.0	4.2	2.0
小学校	25.3	63.4	9.4	1.6	0.3
中学校	24.4	61.5	11.5	2.2	0.4
高等学校	16.0	65.6	15.3	2.3	0.9
特別支援学校	14.3	51.0	25.5	8.1	1.0

(d)心のケアに向けての組織体制・役割分担を確認する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	17.5	56.6	20.4	4.8	0.7
青森県	9.0	51.8	24.6	14.6	-
岩手県	16.4	53.9	24.2	5.4	0.1
宮城県	17.0	57.2	20.3	4.6	0.9
福島県	20.4	58.2	17.9	2.5	0.9
茨城県	19.1	59.1	18.4	3.1	0.4
栃木県	14.8	53.4	21.8	9.3	0.7
千葉県	13.1	53.3	24.5	7.7	1.5
幼稚園	8.3	42.6	36.6	11.1	1.5
小学校	21.6	61.5	14.3	2.3	0.3
中学校	21.7	60.5	14.9	2.5	0.3
高等学校	16.7	64.4	15.4	2.9	0.6
特別支援学校	7.9	51.9	26.8	11.3	2.0

(e)心のケアに関わる校内研修会を実施する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	8.8	48.0	32.6	9.7	0.8
青 森 県	3.4	33.8	44.2	18.6	-
岩 手 県	8.1	41.2	37.7	12.6	0.3
宮 城 県	9.0	48.0	33.8	8.4	0.8
福 島 県	10.1	50.9	31.1	7.0	0.9
茨 城 県	11.8	54.6	26.5	6.0	1.2
栃 木 県	4.7	43.9	35.0	15.9	0.5
千 葉 県	3.0	42.5	34.8	18.3	1.5
幼 稚 園	5.0	35.8	40.2	16.9	2.0
小 学 校	11.3	54.3	28.1	6.0	0.3
中 学 校	9.1	51.1	31.6	7.9	0.4
高等学校	7.3	46.9	34.1	10.9	0.9
特別支援学校	10.1	43.2	32.0	13.6	1.0

(f)子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	4.7	32.2	40.3	22.1	0.8
青 森 県	1.7	16.5	45.1	36.7	-
岩 手 県	3.1	21.6	45.0	30.2	0.1
宮 城 県	4.9	34.7	38.7	20.6	1.0
福 島 県	7.7	43.8	35.6	12.1	0.8
茨 城 県	4.1	33.9	40.7	20.5	0.7
栃 木 県	3.4	21.9	44.3	29.5	0.9
千 葉 県	1.9	23.0	41.3	32.3	1.5
幼 稚 園	4.2	25.6	40.7	27.6	1.8
小 学 校	5.9	36.5	39.6	17.7	0.3
中 学 校	4.5	34.4	38.8	22.0	0.3
高等学校	1.5	24.5	44.7	28.4	0.9
特別支援学校	4.1	39.2	40.0	15.7	1.0

(g)子どもの心のケアについて保護者を支援する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	11.5	55.3	23.7	8.5	0.9
青 森 県	7.5	51.1	25.2	15.3	0.9
岩 手 県	8.5	45.6	32.2	13.4	0.3
宮 城 県	13.5	57.0	20.8	7.4	1.3
福 島 県	13.2	61.9	19.9	4.1	0.9
茨 城 県	12.7	56.3	24.1	6.2	0.7
栃 木 県	8.1	52.7	24.5	13.7	0.9
千 葉 県	9.3	50.8	23.8	15.0	1.1
幼 稚 園	10.2	55.0	22.8	9.9	2.1
小 学 校	13.3	56.3	23.0	7.1	0.3
中 学 校	11.0	53.5	26.8	8.5	0.3
高等学校	8.2	56.6	22.7	11.4	1.1
特別支援学校	12.6	50.7	24.3	10.3	2.0

(h) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	10.9	47.8	28.2	12.2	0.9
青 森 県	9.1	34.9	32.5	22.6	0.9
岩 手 県	6.1	43.3	32.3	17.7	0.6
宮 城 県	11.7	48.2	27.1	11.9	1.0
福 島 県	11.7	52.3	26.8	8.1	1.1
茨 城 県	13.6	49.3	27.5	9.0	0.6
栃 木 県	8.8	45.8	29.1	15.6	0.7
千 葉 県	10.8	43.8	25.7	17.8	1.8
幼 稚 園	6.6	38.5	32.4	19.9	2.5
小 学 校	12.6	50.1	27.6	9.4	0.2
中 学 校	10.8	50.4	29.2	9.3	0.3
高等学校	11.9	56.1	20.0	11.2	0.9
特別支援学校	21.9	51.9	13.6	11.5	1.0

(i) 地域の関係機関等との協力体制を確立する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	12.2	52.8	23.8	10.1	1.0
青 森 県	11.4	44.3	24.0	19.3	0.9
岩 手 県	10.6	47.1	28.2	13.7	0.4
宮 城 県	10.5	52.3	25.6	10.7	0.9
福 島 県	13.2	57.3	21.6	6.4	1.4
茨 城 県	15.2	53.3	23.0	7.3	1.1
栃 木 県	9.9	52.2	23.4	13.5	0.9
千 葉 県	11.2	54.4	18.5	14.4	1.5
幼 稚 園	7.9	45.8	27.8	16.1	2.4
小 学 校	15.3	55.7	21.2	7.4	0.4
中 学 校	12.9	57.8	20.6	8.2	0.5
高等学校	7.2	47.9	32.6	11.1	1.2
特別支援学校	18.5	51.5	18.9	10.1	1.0

(j) 臨時の環境衛生検査を実施する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	9.0	33.4	31.6	24.5	1.5
青 森 県	1.6	15.5	32.2	49.9	0.9
岩 手 県	6.6	25.8	33.8	32.6	1.2
宮 城 県	6.7	32.9	32.0	27.1	1.3
福 島 県	11.1	33.9	32.5	20.6	1.8
茨 城 県	11.7	41.3	28.7	16.7	1.7
栃 木 県	9.1	33.6	30.9	25.2	1.1
千 葉 県	8.3	30.7	32.7	26.4	1.9
幼 稚 園	9.9	30.3	28.4	28.6	2.7
小 学 校	9.3	34.2	33.4	21.8	1.2
中 学 校	7.5	32.4	33.7	25.8	0.6
高等学校	8.3	38.0	29.5	22.8	1.4
特別支援学校	11.2	45.9	19.7	22.2	1.0

10 震災後の教職員の心身の健康のための取組【問11】

(a) 教職員の被災状況を把握する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	43.1	48.1	6.2	2.1	0.5
青 森 県	34.7	50.9	6.4	8.0	-
岩 手 県	46.1	44.8	6.2	2.6	0.3
宮 城 県	49.9	45.1	4.0	0.3	0.7
福 島 県	46.0	47.2	4.6	1.9	0.3
茨 城 県	40.3	51.3	6.6	1.5	0.3
栃 木 県	31.6	50.5	12.1	4.9	0.9
千 葉 県	34.2	52.7	8.6	3.3	1.1
幼稚園	38.1	48.5	8.6	3.8	1.0
小学校	46.6	47.0	5.2	1.0	0.2
中学校	43.7	48.2	5.8	2.1	0.2
高等学校	39.3	52.0	5.6	2.1	1.0
特別支援学校	45.3	46.2	3.1	4.4	1.0

(b) 教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	21.5	57.0	16.2	4.6	0.6
青 森 県	12.3	56.1	19.6	12.0	-
岩 手 県	21.5	54.6	17.1	6.4	0.4
宮 城 県	20.5	62.6	13.5	2.7	0.7
福 島 県	24.9	58.0	14.1	2.6	0.5
茨 城 県	23.7	56.1	16.1	3.8	0.4
栃 木 県	16.3	50.7	22.7	9.3	0.9
千 葉 県	16.2	55.1	20.4	7.2	1.1
幼稚園	18.9	50.4	22.2	7.4	1.1
小学校	25.3	58.1	13.5	2.8	0.2
中学校	20.8	59.9	14.6	4.4	0.3
高等学校	14.8	62.4	16.4	5.4	1.0
特別支援学校	14.5	62.0	14.8	6.6	2.0

(c) 教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	9.8	41.1	36.9	11.6	0.6
青 森 県	3.2	37.2	38.5	21.2	-
岩 手 県	9.5	38.8	37.8	13.3	0.6
宮 城 県	10.4	43.6	35.9	9.5	0.6
福 島 県	10.9	41.7	36.9	9.8	0.6
茨 城 県	11.2	44.4	34.4	9.6	0.4
栃 木 県	6.9	32.6	41.2	18.4	0.9
千 葉 県	6.8	38.4	39.2	14.5	1.1
幼稚園	7.5	32.1	39.2	20.1	1.1
小学校	12.2	45.5	34.0	8.1	0.2
中学校	9.3	43.9	37.4	9.1	0.3
高等学校	7.1	39.1	42.0	10.3	1.4
特別支援学校	6.9	40.8	38.6	12.7	1.0

11 心身の健康問題の対応への課題【問12】

(a) 子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	1.8	24.6	51.1	21.9	0.6
青 森 県	3.5	17.7	52.7	26.1	-
岩 手 県	1.1	30.4	49.4	18.7	0.4
宮 城 県	1.6	22.5	52.9	22.2	0.9
福 島 県	1.8	23.8	53.0	20.7	0.7
茨 城 県	2.3	23.3	50.9	23.2	0.4
栃 木 県	1.2	24.3	49.2	25.1	0.3
千 葉 県	2.2	28.9	45.4	22.4	1.1
幼稚園	4.7	29.7	42.6	21.8	1.2
小学校	0.5	20.9	55.5	22.7	0.3
中学校	1.1	24.0	54.2	20.2	0.5
高等学校	1.3	31.2	46.5	21.0	-
特別支援学校	1.1	17.5	53.3	27.1	1.0

(b) 緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	1.0	15.7	51.4	31.2	0.6
青 森 県	-	11.6	47.2	41.3	-
岩 手 県	0.9	18.1	52.9	27.7	0.4
宮 城 県	1.6	15.5	50.3	31.8	0.9
福 島 県	0.7	16.6	51.7	30.3	0.7
茨 城 県	1.0	12.6	53.2	32.9	0.4
栃 木 県	0.7	16.1	49.7	33.0	0.5
千 葉 県	1.9	19.6	48.5	28.9	1.1
幼稚園	1.8	17.2	46.8	32.7	1.4
小学校	0.4	13.4	53.7	32.2	0.3
中学校	0.8	14.8	53.1	30.7	0.5
高等学校	2.0	24.7	47.2	26.2	-
特別支援学校	1.0	11.5	65.8	20.7	1.0

(c) 家庭との連携や状況把握が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	0.5	6.2	46.5	46.2	0.6
青 森 県	-	2.6	45.7	51.7	-
岩 手 県	0.4	8.6	49.3	41.4	0.3
宮 城 県	0.5	5.3	47.3	46.2	0.8
福 島 県	0.5	6.7	45.7	46.3	0.8
茨 城 県	0.6	5.0	44.5	49.7	0.3
栃 木 県	-	7.5	46.5	45.5	0.5
千 葉 県	0.9	5.6	47.8	44.6	1.1
幼稚園	1.3	7.8	41.6	48.0	1.2
小学校	0.2	4.8	47.6	47.2	0.2
中学校	0.1	6.6	48.9	43.7	0.7
高等学校	0.2	8.8	50.4	40.5	-
特別支援学校	-	-	43.8	55.2	1.0

(d) 関係機関等との連携が十分に図られていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	1.3	13.9	50.0	34.2	0.7
青 森 県	1.8	7.6	44.2	46.5	-
岩 手 県	0.8	14.7	49.4	34.9	0.3
宮 城 県	1.1	15.9	50.9	31.3	0.8
福 島 県	1.2	13.4	52.4	32.0	1.0
茨 城 県	1.6	12.4	47.7	37.7	0.6
栃 木 県	1.1	13.9	49.9	34.9	0.3
千 葉 県	2.4	15.7	49.6	31.2	1.1
幼 稚 園	3.9	21.8	42.9	29.8	1.6
小 学 校	0.3	10.2	52.4	36.9	0.2
中 学 校	0.6	11.7	52.3	34.8	0.7
高等学校	0.7	16.2	52.6	30.5	-
特別支援学校	-	5.5	51.2	42.3	1.0

(e) 教職員の心のケアが十分できていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	0.8	10.0	53.6	35.0	0.6
青 森 県	0.8	9.8	52.5	36.9	-
岩 手 県	1.2	9.6	57.1	31.7	0.4
宮 城 県	1.3	10.5	53.6	33.8	0.8
福 島 県	0.6	11.8	53.1	33.7	0.8
茨 城 県	0.7	7.8	51.6	39.5	0.4
栃 木 県	-	10.7	54.6	34.2	0.5
千 葉 県	0.7	9.0	53.5	36.0	0.8
幼 稚 園	1.8	11.8	47.3	37.7	1.4
小 学 校	0.3	8.4	54.9	36.1	0.2
中 学 校	0.9	10.4	55.7	32.3	0.6
高等学校	0.7	12.4	57.3	29.5	-
特別支援学校	-	3.1	65.2	30.6	1.0

12 障害のある子どもの対応への課題【問13】**(a) 発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない**

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	該当する子どもはいない	不明
全 体	1.8	7.6	19.3	52.5	16.8	1.9
青 森 県	4.0	8.2	20.6	44.2	22.2	0.9
岩 手 県	1.5	11.2	18.0	47.2	20.9	1.2
宮 城 県	1.9	7.2	20.2	53.6	14.1	2.9
福 島 県	1.9	8.8	19.2	44.9	22.7	2.5
茨 城 県	1.7	5.6	18.1	60.5	12.9	1.2
栃 木 県	2.1	5.5	20.2	60.4	10.8	0.9
千 葉 県	1.5	6.3	23.0	53.1	14.2	1.9
幼 稚 園	2.2	6.7	16.4	47.9	23.2	3.7
小 学 校	1.9	6.8	17.4	59.9	13.1	0.9
中 学 校	1.1	9.0	23.8	51.0	13.3	1.8
高等学校	2.6	12.5	27.2	32.6	23.9	1.3
特別支援学校	1.1	2.1	14.9	63.4	16.4	2.0

(b) 知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.5	4.9	15.9	47.4	28.4	2.0
青 森 県	1.6	7.3	17.1	37.5	35.5	0.9
岩 手 県	1.3	7.6	16.0	43.0	31.0	1.1
宮 城 県	1.4	3.8	14.0	47.8	29.9	3.2
福 島 県	1.7	5.6	16.1	41.8	32.2	2.6
茨 城 県	1.3	4.1	16.1	55.6	21.7	1.2
栃 木 県	2.1	2.6	15.6	52.0	26.2	1.4
千 葉 県	1.2	3.8	20.5	45.4	26.8	2.3
幼 稚 園	2.0	5.1	13.2	35.8	40.0	3.9
小 学 校	1.5	4.9	15.9	57.4	19.3	1.1
中 学 校	1.1	4.3	21.1	54.1	17.8	1.7
高等学校	1.3	6.3	13.6	11.4	65.9	1.5
特別支援学校	1.1	-	7.5	84.2	5.2	2.0

(c) 肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.2	2.3	7.0	20.8	65.8	3.0
青 森 県	1.7	3.3	8.9	17.6	66.7	1.7
岩 手 県	0.8	2.6	7.0	16.4	71.0	2.2
宮 城 県	1.1	2.1	6.0	21.1	64.9	4.8
福 島 県	1.2	2.2	5.9	15.8	71.3	3.5
茨 城 県	0.9	2.3	7.5	26.1	61.4	1.8
栃 木 県	1.3	2.3	8.7	25.9	59.9	2.0
千 葉 県	3.2	2.4	8.6	23.8	58.9	3.1
幼 稚 園	2.3	3.4	6.8	16.9	65.7	4.8
小 学 校	0.9	1.8	6.1	22.2	66.7	2.2
中 学 校	0.2	1.3	8.0	17.6	70.0	2.9
高等学校	1.7	4.1	8.3	21.9	62.2	1.8
特別支援学校	-	1.1	11.5	68.6	17.8	1.0

(d) 視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.1	2.6	7.5	18.0	67.8	3.0
青 森 県	2.5	3.3	8.2	21.5	62.9	1.7
岩 手 県	0.9	2.8	6.8	13.6	73.4	2.4
宮 城 県	0.9	1.9	5.5	16.0	71.1	4.5
福 島 県	1.2	2.4	7.2	15.6	70.1	3.7
茨 城 県	0.8	2.9	8.1	24.5	62.1	1.6
栃 木 県	0.7	2.8	10.4	20.4	63.4	2.2
千 葉 県	2.9	3.2	9.8	15.9	64.0	4.2
幼 稚 園	2.3	3.3	6.6	12.7	70.4	4.7
小 学 校	0.5	2.2	6.5	19.6	68.8	2.3
中 学 校	0.6	1.4	8.6	14.9	71.2	3.3
高等学校	1.5	4.8	8.9	24.3	59.0	1.5
特別支援学校	-	2.2	21.1	53.7	21.0	2.0

(e) 病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	0.9	2.5	9.1	26.6	57.9	3.0
青 森 県	0.8	5.0	9.0	24.1	59.3	1.7
岩 手 県	0.5	3.4	8.0	19.2	66.7	2.2
宮 城 県	0.7	2.0	6.7	23.9	62.3	4.3
福 島 県	0.9	2.1	8.4	20.6	64.3	3.7
茨 城 県	1.0	2.0	10.9	36.4	47.7	2.0
栃 木 県	0.9	2.6	12.2	36.8	45.7	1.8
千 葉 県	2.0	3.6	11.8	25.0	53.7	3.9
幼 稚 園	1.4	3.7	8.7	21.4	59.7	5.1
小 学 校	0.6	1.9	7.2	26.8	61.2	2.2
中 学 校	0.6	1.4	9.9	26.2	59.0	2.9
高等学校	1.5	4.5	17.9	31.2	43.6	1.3
特別支援学校	-	1.1	8.4	67.6	20.8	2.0

13 子どもの心身の健康問題について、活用している参考資料【問15】(複数回答)

(%)

	「子どもの心のケアの ために」	「教職員のための子どもの健康 観察の方法と問題への対応」	県や市町等が作成し た資料	その他	特になし
全 体	71.4	32.2	53.2	7.9	6.9
青 森 県	57.0	25.8	61.8	6.9	11.4
岩 手 県	68.7	32.5	56.8	4.4	7.8
宮 城 県	71.1	28.1	47.4	13.3	8.0
福 島 県	77.6	33.6	54.3	8.2	4.7
茨 城 県	76.1	39.5	52.1	6.0	6.9
栃 木 県	59.8	27.4	60.0	5.9	7.7
千 葉 県	61.9	23.1	48.4	8.1	7.2
幼 稚 園	59.4	22.5	45.2	12.5	10.2
小 学 校	80.6	38.2	56.9	5.1	3.6
中 学 校	73.5	34.5	54.6	7.9	7.5
高等学校	57.0	27.5	55.7	8.2	12.1
特別支援学校	73.0	27.0	47.3	7.5	7.5

※「子どもの心のケアのために」文部科学省発行(H22)

※「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行(H21)

14 性別【問17】

(%)

	男	女	不明
全 体	76.1	23.5	0.5
青 森 県	69.7	30.3	-
岩 手 県	74.7	24.8	0.5
宮 城 県	78.4	21.0	0.6
福 島 県	76.7	22.6	0.7
茨 城 県	74.9	25.0	0.1
栃 木 県	76.4	23.1	0.5
千 葉 県	75.5	23.4	1.2
幼 稚 園	46.1	53.0	0.9
小 学 校	81.3	18.2	0.4
中 学 校	92.4	7.4	0.2
高等学校	95.3	4.3	0.5
特別支援学校	81.8	18.2	-

15 教師としての経験年数【問18】

(%)

	5年以下	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上	不明
全 体	1.2	0.8	3.0	19.3	73.0	2.7
青 森 県	-	-	7.0	17.3	75.7	-
岩 手 県	1.6	0.3	2.4	17.1	76.9	1.7
宮 城 県	1.2	1.6	3.4	19.5	71.1	3.2
福 島 県	0.9	0.5	2.7	28.1	65.8	2.0
茨 城 県	1.2	0.9	2.3	13.9	78.3	3.3
栃 木 県	2.5	0.9	5.0	17.1	71.6	3.1
千 葉 県	-	0.9	2.2	14.4	78.3	4.3
幼 稚 園	3.4	3.0	10.3	16.4	61.0	6.0
小 学 校	0.4	-	0.3	20.5	77.1	1.7
中 学 校	0.5	0.1	0.8	23.0	74.2	1.4
高等学校	0.8	0.4	1.3	14.0	81.8	1.6
特別支援学校	-	-	-	14.7	84.3	1.0

16 震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修(校内研修を含む)の参加【問19】

(%)

	参加したことがある	参加したことがない	不明
全 体	80.4	18.2	1.4
青 森 県	81.6	17.6	0.8
岩 手 県	73.1	25.0	1.9
宮 城 県	83.0	15.8	1.1
福 島 県	81.6	16.8	1.6
茨 城 県	83.0	15.8	1.2
栃 木 県	78.4	20.3	1.3
千 葉 県	78.8	20.4	0.8
幼 稚 園	73.2	23.9	2.9
小 学 校	82.1	16.8	1.1
中 学 校	84.1	15.5	0.4
高等学校	83.2	15.9	0.9
特別支援学校	84.2	15.8	-

17 震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験【問20】

(%)

	経験はある	経験はない	不明
全 体	75.7	23.1	1.2
青 森 県	67.5	32.5	-
岩 手 県	69.9	28.5	1.7
宮 城 県	78.1	20.4	1.5
福 島 県	79.2	19.3	1.5
茨 城 県	76.1	23.1	0.8
栃 木 県	76.4	23.2	0.4
千 葉 県	69.6	29.2	1.2
幼 稚 園	66.4	30.9	2.6
小 学 校	78.1	21.2	0.7
中 学 校	80.1	19.4	0.5
高等学校	78.4	20.5	1.1
特別支援学校	82.5	16.5	1.0

18 自身の現在の、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安【問21】

(%)

	健康不安がどちらかといえばある	健康不安がどちらかといえない	不明
全 体	16.9	82.3	0.8
青 森 県	5.7	94.3	-
岩 手 県	14.9	84.3	0.8
宮 城 県	19.0	79.8	1.2
福 島 県	27.4	71.7	0.9
茨 城 県	12.5	86.9	0.6
栃 木 県	9.2	90.6	0.2
千 葉 県	8.0	91.2	0.8
幼 稚 園	23.4	75.4	1.3
小 学 校	14.2	85.0	0.7
中 学 校	15.9	83.7	0.4
高等学校	14.4	84.9	0.7
特別支援学校	13.6	85.1	1.3

7.2 学級担任

1 調査対象の学級担任

(1) 地域別

(%)

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県
全 体	2.8	13.0	22.0	20.7	23.1	11.2	7.3

(2) 校種別

(%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
全 体	4.9	49.2	22.9	17.3	0.2	5.6

2 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、①～⑦の症状が一つでも見られる子ども【問2】

	いる	いない
全 体	4.9	95.1
青 森 県	1.3	98.7
岩 手 県	4.5	95.5
宮 城 県	8.0	92.0
福 島 県	8.0	92.0
茨 城 県	2.2	97.8
栃 木 県	1.9	98.1
千 葉 県	2.0	98.0
幼 稚 園	3.8	96.2
小 学 校	4.5	95.5
中 学 校	5.1	94.9
高 等 学 校	6.2	93.8
特 別 支 援 学 校	4.0	96.0

- ①食欲の異常(不振または過剰)
 ②睡眠不足になっている
 ③頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある
 ④持病(ぜん息やアトピー性皮膚炎等)が悪化した
 ⑤体のだるさ、疲労感を訴える
 ⑥元気がない、意欲が低下した
 ⑦あまり話さなくなった

3 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、①～④の様子が一つでも見られる子ども【問3】

	いる	いない
全 体	6.3	93.7
青 森 県	3.6	96.4
岩 手 県	6.3	93.7
宮 城 県	8.7	91.3
福 島 県	9.7	90.3
茨 城 県	4.0	96.0
栃 木 県	3.2	96.8
千 葉 県	3.1	96.9
幼 稚 園	11.2	88.8
小 学 校	6.7	93.3
中 学 校	4.9	95.1
高 等 学 校	4.2	95.8
特 別 支 援 学 校	11.8	88.2

- ①災害のことを突然思い出して動揺する
 ②災害を連想させる事柄や場面に会すると、あわてて話題を変えたりその場から立ち去ろうとする
 ③喜怒哀楽がなくなり、無表情になった
 ④些細な音でビクッとしたり、過剰に警戒するようになった

4 今年度新たに、震災の影響(地震・津波・放射線)ではないかと考えられる「遅刻」や「欠席」が見られるようになった子ども【問4】

	いる	いない	(%)
全 体	1.1	98.9	
青 森 県	0.1	99.9	
岩 手 県	0.9	99.1	
宮 城 県	1.7	98.3	
福 島 県	1.9	98.1	
茨 城 県	0.7	99.3	
栃 木 県	0.4	99.6	
千 葉 県	0.3	99.7	
幼 稚 園	1.3	98.7	
小 学 校	0.9	99.1	
中 学 校	1.4	98.6	
高等学校	1.5	98.5	
特別支援学校	0.4	99.6	

5 子どもの心身の健康問題への指導や支援の取組【問6】

(a)メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	2.6	41.5	45.5	9.2	1.1
青 森 県	2.4	37.0	43.7	15.9	1.1
岩 手 県	2.5	39.1	47.9	9.6	0.9
宮 城 県	2.0	41.8	45.3	9.7	1.2
福 島 県	2.1	43.5	45.1	8.2	1.2
茨 城 県	3.2	43.7	44.0	7.9	1.2
栃 木 県	3.2	38.8	47.6	9.6	0.8
千 葉 県	3.1	38.2	45.4	11.6	1.7
幼 稚 園	2.4	36.8	47.4	10.2	3.2
小 学 校	2.7	45.6	43.2	7.3	1.3
中 学 校	2.0	35.2	50.1	11.9	0.8
高等学校	3.1	39.4	45.8	11.0	0.7
特別支援学校	2.8	41.9	44.7	9.6	0.9

(b)心身の健康問題の早期発見のために、健康観察をする

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	29.5	63.2	5.7	1.0	0.6
青 森 県	24.1	64.7	8.3	1.9	1.0
岩 手 県	27.7	64.4	6.5	1.0	0.3
宮 城 県	25.9	66.8	6.1	0.6	0.6
福 島 県	26.8	66.4	5.5	0.8	0.6
茨 城 県	31.8	61.3	5.2	1.1	0.6
栃 木 県	37.0	56.9	4.7	1.0	0.4
千 葉 県	34.5	56.5	6.1	2.1	0.8
幼 稚 園	30.1	63.1	4.5	1.0	1.4
小 学 校	36.8	59.9	2.4	0.4	0.6
中 学 校	26.6	66.6	5.7	0.7	0.4
高等学校	10.7	69.3	16.2	3.1	0.6
特別支援学校	35.0	59.7	3.8	1.0	0.5

(c)問題のある子どもだけでなく、全ての子どもについて理解する (％)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	24.2	70.9	3.5	0.7	0.7
青 森 県	21.1	70.0	4.5	1.8	2.6
岩 手 県	22.7	72.0	4.2	0.8	0.4
宮 城 県	21.0	74.5	3.4	0.4	0.7
福 島 県	23.4	71.9	3.5	0.5	0.7
茨 城 県	26.5	68.6	3.5	0.6	0.8
栃 木 県	28.8	67.2	2.9	0.7	0.4
千 葉 県	25.6	68.5	3.4	1.6	0.9
幼 稚 園	35.6	60.6	2.2	0.3	1.3
小 学 校	26.8	70.1	2.0	0.3	0.8
中 学 校	22.3	73.0	3.6	0.6	0.5
高等学校	15.0	74.8	7.7	1.6	0.8
特別支援学校	27.8	65.8	4.9	1.0	0.5

(d)先入観にとらわれず、様々な視点から子どもを見ている (％)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	22.2	73.0	3.5	0.6	0.7
青 森 県	20.6	73.1	3.7	1.8	0.9
岩 手 県	20.1	74.2	4.6	0.6	0.4
宮 城 県	19.3	75.8	3.8	0.4	0.7
福 島 県	20.7	74.6	3.6	0.4	0.7
茨 城 県	24.3	71.4	3.1	0.6	0.7
栃 木 県	27.1	68.9	3.0	0.6	0.4
千 葉 県	25.3	69.3	3.2	1.5	0.8
幼 稚 園	28.8	66.5	2.9	0.4	1.4
小 学 校	23.7	72.9	2.4	0.3	0.7
中 学 校	21.3	73.9	3.8	0.6	0.4
高等学校	16.7	74.5	6.6	1.5	0.7
特別支援学校	24.0	71.2	3.5	0.8	0.5

(e)保護者及び子どもが相談しやすい人間関係づくりに努めている (％)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	24.6	70.6	3.6	0.6	0.6
青 森 県	21.6	69.8	5.9	1.8	0.9
岩 手 県	21.2	72.6	5.1	0.7	0.4
宮 城 県	21.6	73.8	3.6	0.4	0.7
福 島 県	24.0	71.2	3.8	0.4	0.6
茨 城 県	27.0	68.9	2.8	0.6	0.6
栃 木 県	29.5	66.6	3.0	0.7	0.3
千 葉 県	27.7	66.7	3.5	1.4	0.7
幼 稚 園	33.8	62.5	2.2	0.3	1.1
小 学 校	25.7	71.2	2.2	0.3	0.6
中 学 校	23.0	71.7	4.3	0.6	0.4
高等学校	17.9	72.3	7.7	1.6	0.6
特別支援学校	34.4	62.0	2.3	0.7	0.6

(f) 養護教諭をはじめ関係者と連携しながら組織的に対応している (％)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	27.3	61.2	8.9	1.8	0.8
青 森 県	22.6	61.9	11.2	3.2	1.2
岩 手 県	28.3	60.1	9.1	1.8	0.6
宮 城 県	23.6	62.9	10.9	1.8	0.8
福 島 県	25.2	63.8	8.8	1.3	0.9
茨 城 県	29.9	60.1	7.3	1.8	0.9
栃 木 県	32.8	56.8	7.7	2.1	0.5
千 葉 県	27.2	59.9	9.1	2.8	1.0
幼稚園	11.8	39.0	26.8	16.4	6.0
小学校	31.6	61.7	5.6	0.6	0.6
中学校	27.5	63.2	7.9	0.9	0.4
高等学校	19.8	63.3	13.5	2.7	0.7
特別支援学校	24.5	60.7	12.7	1.6	0.5

(g) 養護教諭と連携して健康相談、保健指導を実施している (％)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	19.1	58.3	18.2	3.4	1.1
青 森 県	13.8	58.4	21.2	5.5	1.2
岩 手 県	19.6	57.7	18.7	3.2	0.9
宮 城 県	15.7	58.5	21.4	3.5	1.0
福 島 県	18.4	60.2	17.3	2.9	1.2
茨 城 県	20.3	58.6	16.5	3.4	1.2
栃 木 県	24.4	56.1	15.3	3.4	0.7
千 葉 県	20.3	55.2	18.4	4.7	1.4
幼稚園	4.5	22.7	32.3	30.5	10.0
小学校	23.1	61.8	13.3	1.1	0.7
中学校	18.9	60.2	18.6	1.9	0.5
高等学校	12.7	55.9	26.1	4.6	0.7
特別支援学校	16.9	57.3	22.4	3.0	0.5

6 子どもの心身の健康問題についての相談相手【問7】(複数回答)

(％)

	管理職	養護教諭	他の教員	学校医	精神科医	スクール カウンセラー	地域の 相談機関	その他	特にいない
全 体	59.2	84.7	80.6	0.9	0.6	25.8	2.1	2.5	1.8
青 森 県	58.6	87.4	81.8	0.6	0.3	11.2	1.3	3.6	1.4
岩 手 県	57.7	85.9	82.1	0.9	0.7	19.8	2.2	2.1	1.7
宮 城 県	57.5	83.6	77.8	0.6	0.6	31.0	1.6	2.6	2.1
福 島 県	63.8	84.9	79.9	1.0	0.6	28.7	1.7	2.7	1.7
茨 城 県	56.5	85.7	82.5	1.3	0.5	22.2	2.6	2.4	1.6
栃 木 県	58.2	83.7	81.8	0.9	0.5	25.1	2.8	2.7	1.9
千 葉 県	63.4	83.0	79.6	0.5	0.5	31.4	2.5	1.8	2.0
幼稚園	69.8	7.0	81.6	3.2	0.2	2.5	8.7	3.3	2.1
小学校	71.1	91.4	80.3	0.5	0.4	19.3	2.1	1.8	1.5
中学校	52.0	89.4	83.2	0.5	0.7	44.8	1.8	2.3	1.5
高等学校	38.2	83.3	75.7	1.0	0.6	33.4	0.7	2.8	3.0
特別支援学校	38.4	79.4	87.1	3.9	1.4	1.8	1.9	7.3	1.9

7 子どもの心身の健康問題の対応について、活用している参考資料【問8】

(複数回答)

(%)

	「子どもの心のケアのために」	「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」	県や市町等が作成した資料	その他	特になし
全 体	32.2	8.3	24.3	8.7	41.5
青 森 県	20.4	6.3	20.1	10.5	53.2
岩 手 県	32.5	7.8	22.4	8.4	43.2
宮 城 県	28.0	6.8	21.0	11.2	45.0
福 島 県	40.9	9.5	26.9	7.7	35.2
茨 城 県	36.8	9.7	24.0	7.8	38.2
栃 木 県	25.1	8.6	30.5	6.8	43.0
千 葉 県	20.6	5.9	22.9	8.8	49.8
幼 稚 園	18.9	2.9	31.3	15.4	39.5
小 学 校	42.7	10.7	27.0	7.0	32.5
中 学 校	27.2	7.5	25.3	7.7	46.1
高等学校	14.8	4.6	15.3	12.2	60.0
特別支援学校	26.3	5.9	17.9	10.2	46.8

※「子どもの心のケアのために」文部科学省発行(H22)

※「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行(H21)

8 子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関の情報

専門機関【問9-1】

(%)

	所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている	あることは知っているが、具体的なことは知らない	知らない	不明
全 体	15.0	68.3	16.3	0.5
青 森 県	12.4	62.5	24.5	0.6
岩 手 県	12.5	71.0	16.1	0.3
宮 城 県	17.4	69.1	12.9	0.6
福 島 県	12.1	73.4	14.0	0.5
茨 城 県	16.7	65.7	17.1	0.4
栃 木 県	16.3	63.9	19.3	0.5
千 葉 県	13.5	63.0	22.9	0.6
幼 稚 園	10.5	71.0	17.8	0.8
小 学 校	16.6	70.1	12.8	0.5
中 学 校	14.4	67.4	17.9	0.4
高等学校	13.4	63.5	22.8	0.4
特別支援学校	11.9	68.4	18.9	0.8

震災後開設された相談機関【問9-2】

(%)

	所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている	あることは知っているが、具体的なことは知らない	知らない	不明
全 体	4.2	61.4	33.7	0.6
青 森 県	2.3	48.9	48.3	0.6
岩 手 県	5.0	67.6	27.0	0.3
宮 城 県	6.3	66.8	26.1	0.7
福 島 県	5.2	70.4	23.7	0.6
茨 城 県	3.3	55.4	40.7	0.6
栃 木 県	1.3	51.8	46.2	0.7
千 葉 県	1.8	47.4	50.0	0.8
幼 稚 園	4.7	60.7	33.3	1.3
小 学 校	5.3	65.6	28.4	0.7
中 学 校	2.8	58.0	38.8	0.5
高等学校	2.9	54.8	41.9	0.5
特別支援学校	4.4	60.4	34.6	0.6

9 専門的な心のケアが必要な子どもに対しての対応【問10】(複数回答)

(%)

	教職員間で情報を共有し、組織で対応している	専門医や相談機関を紹介している	本人・保護者との面談を行っている	集団指導や、学級で心のケアを実施している	その他	心のケアが必要な子どもはいるが、どのように対応したらいいかわからない	心のケアが必要な子どもはいない
全体	62.8	13.5	46.4	20.9	1.5	1.2	28.0
青森県	58.5	10.7	49.0	20.5	0.7	1.0	32.7
岩手県	61.6	11.6	42.7	20.7	1.3	1.7	28.7
宮城県	59.9	11.0	42.0	18.9	1.7	1.4	30.5
福島県	61.0	11.3	43.2	20.8	2.0	1.2	29.1
茨城県	65.9	16.2	51.9	23.1	1.4	1.0	24.6
栃木県	66.3	18.2	49.2	20.4	1.0	0.7	27.5
千葉県	65.2	15.6	52.1	22.0	0.8	1.1	26.2
幼稚園	54.8	6.1	27.4	11.2	1.3	1.7	37.7
小学校	58.1	12.1	41.0	24.9	1.0	0.7	33.6
中学校	69.8	15.3	51.2	21.5	1.8	1.7	21.8
高等学校	71.2	18.0	62.4	13.0	2.5	1.7	16.2
特別支援学校	56.5	10.2	40.4	16.5	1.3	1.1	32.1

10 心身の健康問題に対応するに当たっての課題【問11】

(a) 子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全体	7.2	43.2	40.3	8.6	0.7
青森県	8.3	42.0	42.4	7.0	0.3
岩手県	8.1	45.3	38.7	7.4	0.6
宮城県	6.4	41.3	43.3	8.3	0.6
福島県	7.0	42.4	40.8	9.0	0.8
茨城県	6.9	42.7	40.2	9.5	0.8
栃木県	7.2	43.7	39.2	9.3	0.6
千葉県	8.9	48.5	34.3	7.6	0.7
幼稚園	8.4	43.8	34.4	11.6	1.9
小学校	4.8	38.6	46.3	9.7	0.6
中学校	8.1	46.8	37.0	7.5	0.5
高等学校	12.4	50.3	30.4	6.2	0.7
特別支援学校	6.8	46.4	37.1	8.7	0.9

(b) 緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全体	4.9	29.2	49.6	15.7	0.7
青森県	5.0	27.7	51.4	15.4	0.5
岩手県	4.5	28.0	52.4	14.4	0.6
宮城県	4.9	28.5	51.3	14.6	0.7
福島県	5.0	28.9	49.3	16.1	0.8
茨城県	4.6	28.3	49.2	17.0	0.9
栃木県	5.0	31.5	46.6	16.5	0.4
千葉県	5.7	33.7	45.9	14.0	0.7
幼稚園	3.4	18.0	45.8	31.0	1.8
小学校	2.7	24.9	54.0	17.7	0.6
中学校	4.5	29.2	52.2	13.5	0.6
高等学校	11.4	42.2	36.5	9.3	0.7
特別支援学校	6.0	35.7	44.6	12.8	0.8

(c) 家庭との連携や状況把握が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	1.5	15.6	57.4	24.8	0.7
青 森 県	1.3	13.1	60.0	25.2	0.4
岩 手 県	1.4	16.1	59.7	22.1	0.6
宮 城 県	1.4	16.6	58.4	22.7	0.8
福 島 県	1.6	16.9	56.0	24.7	0.8
茨 城 県	1.2	13.4	56.8	27.7	0.8
栃 木 県	1.5	15.0	56.0	26.9	0.6
千 葉 県	2.1	16.7	57.3	23.1	0.8
幼 稚 園	0.8	10.3	45.3	42.2	1.4
小 学 校	1.1	13.7	59.8	24.7	0.8
中 学 校	1.4	16.3	58.4	23.4	0.5
高等学校	2.9	22.8	53.5	20.1	0.7
特別支援学校	1.5	12.0	55.5	30.5	0.5

(d) 関係機関等との連携が十分に図られていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	5.6	31.8	49.1	12.6	0.9
青 森 県	4.3	28.9	52.1	13.9	0.8
岩 手 県	4.7	30.3	51.4	12.7	0.9
宮 城 県	6.3	30.4	49.9	12.3	1.1
福 島 県	6.4	34.3	47.4	11.2	0.8
茨 城 県	4.8	32.0	48.9	13.3	1.0
栃 木 県	4.5	29.9	50.5	14.4	0.8
千 葉 県	7.3	34.9	45.2	11.7	1.0
幼 稚 園	8.2	34.4	40.0	14.9	2.6
小 学 校	4.1	28.4	52.8	13.8	0.9
中 学 校	5.5	33.2	48.9	11.8	0.7
高等学校	9.5	38.2	41.8	9.5	0.9
特別支援学校	4.4	33.7	48.0	13.0	0.9

(e) 教職員の心のケアが十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	8.0	31.1	46.1	13.8	1.0
青 森 県	6.3	28.2	48.8	15.8	1.0
岩 手 県	7.7	31.7	47.6	11.9	1.1
宮 城 県	9.5	33.9	44.6	11.1	1.0
福 島 県	9.3	32.5	44.3	12.9	1.0
茨 城 県	6.7	28.9	47.1	16.2	1.0
栃 木 県	6.2	27.8	48.4	16.5	1.0
千 葉 県	8.3	30.3	45.6	14.6	1.2
幼 稚 園	2.9	17.8	42.6	35.0	1.7
小 学 校	6.0	28.3	49.8	14.9	1.0
中 学 校	8.4	31.6	47.7	11.5	0.9
高等学校	14.5	40.2	35.8	8.5	1.0
特別支援学校	8.3	36.6	43.2	10.7	1.2

11 障害のある子どもの対応に当たっての課題【問12】

(a) 発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	4.1	17.0	25.2	43.1	9.6	1.0
青 森 県	4.4	17.4	24.2	42.5	11.2	0.4
岩 手 県	4.7	17.9	25.5	39.5	11.2	1.2
宮 城 県	4.1	17.0	26.3	43.8	7.9	1.0
福 島 県	4.4	17.0	24.4	39.8	13.0	1.4
茨 城 県	3.5	16.1	24.9	46.1	8.6	0.9
栃 木 県	3.8	16.8	25.0	46.7	7.2	0.4
千 葉 県	4.7	18.0	25.6	41.8	9.1	0.8
幼 稚 園	3.6	12.8	23.8	38.4	19.1	2.2
小 学 校	3.1	13.0	24.2	51.4	7.4	0.9
中 学 校	3.8	20.1	28.5	40.4	6.5	0.6
高等学校	8.0	26.3	25.3	19.3	19.6	1.5
特別支援学校	2.4	12.6	21.8	59.1	3.4	0.8

(b) 知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	3.3	13.4	23.6	42.0	16.6	1.1
青 森 県	3.7	13.1	22.9	39.4	20.6	0.4
岩 手 県	3.9	13.2	24.8	39.2	17.5	1.4
宮 城 県	2.9	12.4	24.7	44.3	14.5	1.2
福 島 県	3.3	13.7	22.3	38.2	21.0	1.5
茨 城 県	3.1	13.4	23.9	44.9	13.7	0.9
栃 木 県	2.8	13.9	22.7	44.4	15.6	0.4
千 葉 県	4.1	15.3	23.0	38.9	17.8	0.9
幼 稚 園	3.5	10.6	19.4	28.3	35.6	2.6
小 学 校	2.5	11.3	23.3	50.5	11.4	0.9
中 学 校	3.0	15.0	28.6	43.0	9.7	0.7
高等学校	6.0	19.1	20.1	13.5	39.6	1.7
特別支援学校	2.4	9.6	21.5	64.0	1.8	0.7

(c) 肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.9	7.3	16.0	28.5	44.6	1.8
青 森 県	1.7	7.9	16.4	28.3	45.1	0.6
岩 手 県	1.9	7.5	15.0	25.4	48.2	2.0
宮 城 県	1.8	6.7	17.1	29.9	42.3	2.2
福 島 県	1.8	6.9	14.1	24.5	50.1	2.6
茨 城 県	1.8	7.6	16.5	30.7	42.1	1.3
栃 木 県	2.1	7.3	16.4	31.1	42.1	1.1
千 葉 県	2.7	8.5	17.0	30.1	40.4	1.3
幼 稚 園	2.6	5.4	9.2	10.5	69.5	2.8
小 学 校	1.2	5.0	14.0	31.4	46.5	1.8
中 学 校	1.4	6.2	18.0	26.4	46.3	1.6
高等学校	4.1	14.0	18.8	20.7	40.7	1.7
特別支援学校	2.6	11.8	22.1	51.2	10.5	1.8

(d) 視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.8	7.6	17.4	26.7	44.4	2.0
青 森 県	1.9	8.3	18.7	30.0	40.4	0.7
岩 手 県	1.9	7.1	16.6	24.4	47.9	2.1
宮 城 県	1.7	6.6	17.1	27.1	45.3	2.2
福 島 県	1.7	7.3	15.8	23.1	49.2	2.8
茨 城 県	1.7	8.3	18.4	29.6	40.5	1.5
栃 木 県	2.0	8.0	18.1	29.5	41.2	1.1
千 葉 県	2.0	9.6	19.8	25.8	41.2	1.5
幼 稚 園	2.6	5.8	8.2	9.8	70.7	3.0
小 学 校	1.0	5.0	14.9	30.1	47.0	2.0
中 学 校	1.2	7.1	19.8	24.8	45.4	1.7
高等学校	4.3	14.7	21.3	20.0	37.9	1.9
特別支援学校	2.3	12.8	25.6	41.1	15.8	2.5

(e) 病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.5	7.3	19.2	31.6	38.3	1.9
青 森 県	1.5	7.6	20.3	32.1	37.6	0.8
岩 手 県	1.6	7.2	18.2	28.4	42.5	2.0
宮 城 県	1.4	6.5	18.2	30.6	40.9	2.3
福 島 県	1.5	7.0	17.3	27.3	44.3	2.6
茨 城 県	1.5	7.7	20.9	36.3	32.3	1.4
栃 木 県	1.8	7.5	20.5	34.9	33.8	1.3
千 葉 県	1.7	9.6	21.8	33.0	32.4	1.5
幼 稚 園	1.8	5.0	10.9	15.5	64.2	2.6
小 学 校	1.0	4.6	16.0	34.5	41.9	2.0
中 学 校	1.0	6.8	22.2	29.7	38.6	1.7
高等学校	3.4	15.4	25.4	25.1	28.8	1.9
特別支援学校	2.2	10.1	23.6	48.4	13.4	2.3

12 性別【問14】

(%)

	男	女	不明
全 体	41.4	58.1	0.5
青 森 県	40.6	59.2	0.2
岩 手 県	44.8	54.8	0.4
宮 城 県	43.0	56.4	0.6
福 島 県	40.2	59.2	0.6
茨 城 県	38.8	60.6	0.5
栃 木 県	41.2	58.5	0.3
千 葉 県	42.0	57.3	0.7
幼 稚 園	3.3	96.6	0.1
小 学 校	30.3	69.1	0.6
中 学 校	54.3	45.2	0.4
高等学校	68.6	30.8	0.5
特別支援学校	33.9	65.7	0.4

13 教師としての経験年数【問15】

(%)

	5年以下	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上	不明
全 体	16.1	15.7	28.6	30.4	7.3	2.0
青 森 県	10.8	15.1	41.6	23.4	6.9	2.3
岩 手 県	9.0	15.5	37.8	32.2	4.2	1.2
宮 城 県	19.4	15.7	26.0	28.9	7.4	2.6
福 島 県	10.1	13.8	31.0	35.1	8.6	1.4
茨 城 県	18.7	17.0	26.8	28.5	6.6	2.5
栃 木 県	16.7	15.8	27.8	31.9	5.8	1.9
千 葉 県	28.4	17.4	14.5	25.0	13.1	1.6
幼 稚 園	34.1	27.0	24.3	8.1	3.6	2.9
小 学 校	13.6	12.0	23.6	37.4	11.2	2.3
中 学 校	19.9	17.8	32.4	25.6	2.4	1.9
高等学校	13.6	19.6	36.1	25.1	4.7	1.0
特別支援学校	14.8	17.7	36.5	24.7	4.6	1.8

14 震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修(校内研修を含む)の参加【問16】

(%)

	参加したことがある	参加したことがない	不明
全 体	48.7	50.2	1.1
青 森 県	46.8	52.2	1.0
岩 手 県	45.9	53.1	1.0
宮 城 県	48.7	50.1	1.2
福 島 県	52.7	46.2	1.2
茨 城 県	49.0	49.8	1.2
栃 木 県	47.4	51.6	0.9
千 葉 県	44.0	54.9	1.1
幼 稚 園	50.4	47.5	2.0
小 学 校	49.1	49.7	1.3
中 学 校	42.3	56.8	1.0
高等学校	56.1	43.1	0.8
特別支援学校	47.6	51.6	0.8

15 震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験【問17】

(%)

	経験はある	経験はない	不明
全 体	56.4	42.6	1.0
青 森 県	51.0	48.5	0.5
岩 手 県	55.2	43.7	1.1
宮 城 県	55.2	44.0	0.9
福 島 県	60.4	38.5	1.1
茨 城 県	56.6	42.4	1.0
栃 木 県	57.2	42.0	0.9
千 葉 県	51.7	47.3	1.1
幼 稚 園	33.6	64.5	1.9
小 学 校	55.0	43.9	1.1
中 学 校	58.8	40.4	0.8
高等学校	63.4	35.8	0.8
特別支援学校	57.3	41.7	1.0

16 自身の現在の、震災の影響(自信・津波・放射線)と思われる健康不安【問18】

(%)

	健康不安がどちらかといえはある	健康不安がどちらかといえはない	不明
全 体	16.2	83.2	0.6
青 森 県	5.9	94.0	0.2
岩 手 県	12.1	87.2	0.7
宮 城 県	17.7	81.7	0.6
福 島 県	29.9	69.4	0.7
茨 城 県	11.7	87.7	0.6
栃 木 県	9.0	90.6	0.4
千 葉 県	9.2	90.0	0.9
幼 稚 園	20.8	78.6	0.6
小 学 校	15.9	83.5	0.7
中 学 校	13.9	85.6	0.5
高等学校	17.1	82.4	0.6
特別支援学校	21.6	77.4	0.9

7.3 養護教諭

1 調査対象となった養護教諭

(1) 地域別

(%)

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県
全 体	2.3	14.8	19.5	26.9	20.4	10.3	5.7

(2) 校種別

(%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
全 体	16.8	47.2	23.4	10.3	0.1	2.2

2 学校再開後、保健室の機能が再開されるまでの期間【問1】

(%)

	学校再開と同時に	1週間以内	2週間以内	1か月以内	1か月以上	現在も再開されていない	不明
全 体	89.3	1.7	0.5	0.9	1.5	0.5	5.6
青 森 県	92.1	3.0	-	-	-	-	4.9
岩 手 県	88.3	1.0	0.3	1.1	2.3	0.1	6.9
宮 城 県	90.2	1.2	0.7	1.1	2.8	0.3	3.7
福 島 県	91.2	0.5	-	0.4	1.9	1.5	4.5
茨 城 県	86.9	2.5	1.4	1.7	0.1	0.1	7.3
栃 木 県	93.8	1.8	0.2	0.4	-	-	3.7
千 葉 県	79.7	7.0	0.4	0.4	0.9	-	11.6
幼 稚 園	86.9	0.4	0.1	-	0.5	-	12.0
小 学 校	90.0	2.2	0.7	0.7	1.4	0.2	4.8
中 学 校	89.6	1.6	0.5	1.6	1.5	1.8	3.4
高等学校	89.3	1.3	0.4	1.6	3.0	0.1	4.3
特別支援学校	91.5	1.5	1.0	1.0	1.9	-	3.1

3 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる①～⑦の症状が一つでも見られる子ども【問2】

	いる	いない
全 体	10.6	89.4
青 森 県	5.8	94.2
岩 手 県	10.2	89.8
宮 城 県	19.6	80.4
福 島 県	10.8	89.2
茨 城 県	7.0	93.0
栃 木 県	5.2	94.8
千 葉 県	5.2	94.8
幼 稚 園	0.1	99.9
小 学 校	11.5	88.5
中 学 校	13.8	86.2
高等学校	18.0	82.0
特別支援学校	5.2	94.8

- (%)
- | |
|-----------------------------|
| ①食欲の異常(不振または過剰) |
| ②睡眠不足になっている |
| ③頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある |
| ④持病(ぜん息やアトピー性皮膚炎等)が悪化した |
| ⑤体のだるさ、疲労感を訴える |
| ⑥元気がない、意欲が低下した |
| ⑦あまり話さなくなった |

4 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる①～④の様子が一つでも見られる子ども【問3】

	いる	いない
全 体	8.8	91.2
青 森 県	9.7	90.3
岩 手 県	8.6	91.4
宮 城 県	16.5	83.5
福 島 県	7.4	92.6
茨 城 県	5.9	94.1
栃 木 県	7.1	92.9
千 葉 県	3.1	96.9
幼稚園	1.9	98.1
小学校	10.4	89.6
中学校	9.1	90.9
高等学校	12.0	88.0
特別支援学校	9.7	90.3

- (%)
- ①災害のことを突然思い出して動揺する
 - ②災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたりその場から立ち去ろうとする
 - ③喜怒哀楽がなくなり、無表情になった
 - ④些細な音でビクッしたり、過剰に警戒するようになった

5 受診が必要と判断した子ども【問5】

	いる	いない
全 体	6.6	93.4
青 森 県	2.9	97.1
岩 手 県	5.4	94.6
宮 城 県	8.9	91.1
福 島 県	7.7	92.3
茨 城 県	7.8	92.2
栃 木 県	1.7	98.3
千 葉 県	2.5	97.5
幼稚園	6.2	93.8
小学校	5.9	94.1
中学校	7.6	92.4
高等学校	9.4	90.6
特別支援学校	—	100.0

6 今年度新たに、震災の影響(地震・津波・放射線)ではないかと考えられる「保健室登校」になった子ども(1人でもいると回答)【問6】

	いる	いない
全 体	0.4	99.6
青 森 県	—	100.0
岩 手 県	0.5	99.5
宮 城 県	0.7	99.3
福 島 県	0.4	99.6
茨 城 県	0.3	99.7
栃 木 県	0.7	99.3
千 葉 県	—	100.0
幼稚園	0.3	99.7
小学校	0.5	99.5
中学校	0.5	99.5
高等学校	0.2	99.8
特別支援学校	—	100.0

7 子どもの心身の健康問題への指導や支援についての取組【問8】

(a) 学級担任等と連携して組織的な健康観察、健康相談、保健指導を実施する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	20.0	69.7	7.1	0.9	2.3
青森県	19.3	65.2	15.5	-	-
岩手県	19.7	66.4	9.3	2.5	2.2
宮城県	16.8	68.6	12.3	0.2	2.0
福島県	17.8	76.2	3.1	0.6	2.3
茨城県	23.0	69.5	5.5	0.8	1.2
栃木県	25.4	66.7	4.7	1.4	1.7
千葉県	21.9	58.5	8.9	0.9	9.8
幼稚園	12.6	73.5	7.8	-	6.0
小学校	23.5	68.4	5.9	0.5	1.7
中学校	19.4	72.2	6.0	1.2	1.3
高等学校	16.1	64.7	13.9	3.6	1.8
特別支援学校	24.0	64.0	8.0	3.1	1.0

(b) 子どもの心身の健康状態を日頃からの確に把握し、問題の早期発見・早期対応をする

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	23.5	70.6	3.2	0.4	2.3
青森県	27.2	67.9	4.9	-	-
岩手県	20.1	70.6	6.2	0.7	2.4
宮城県	19.8	72.3	5.9	-	2.0
福島県	26.9	69.3	1.4	0.2	2.2
茨城県	24.8	71.8	1.5	0.6	1.3
栃木県	26.0	69.3	2.2	0.8	1.7
千葉県	18.1	69.8	2.2	0.4	9.5
幼稚園	23.2	63.4	7.5	-	6.0
小学校	25.8	70.1	2.3	0.2	1.6
中学校	20.9	75.5	1.5	0.6	1.5
高等学校	19.1	73.7	4.5	0.7	2.0
特別支援学校	23.1	71.5	2.3	2.1	1.0

(c) 子どもが相談しやすい保健室の環境づくりに努める

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全体	26.4	64.9	3.8	1.1	3.9
青森県	29.1	64.2	6.8	-	-
岩手県	18.5	72.1	5.3	0.5	3.5
宮城県	22.8	66.7	4.1	3.8	2.5
福島県	27.4	64.7	4.3	0.2	3.4
茨城県	27.3	63.5	2.4	0.4	6.3
栃木県	40.2	54.5	3.0	0.8	1.5
千葉県	24.0	65.2	1.8	-	9.0
幼稚園	30.3	43.7	7.4	4.5	14.2
小学校	24.9	70.6	2.9	0.2	1.5
中学校	25.1	68.5	3.4	0.2	2.7
高等学校	31.4	63.4	2.6	0.9	1.6
特別支援学校	14.9	75.3	6.7	2.1	1.0

(d) 常に情報収集に心がけ、問題の背景要因を把握する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	19.4	72.7	5.2	0.4	2.3
青 森 県	24.1	71.9	4.0	-	-
岩 手 県	16.0	72.1	9.2	0.7	2.0
宮 城 県	20.6	69.9	7.0	0.1	2.5
福 島 県	17.4	75.4	5.0	0.1	2.1
茨 城 県	24.0	72.0	2.1	0.4	1.4
栃 木 県	19.6	74.2	3.9	0.8	1.5
千 葉 県	15.0	71.4	3.4	0.8	9.4
幼稚園	9.4	74.5	10.1	0.1	6.0
小学校	22.0	72.0	4.0	0.4	1.7
中学校	19.7	74.9	3.9	0.2	1.3
高等学校	23.3	67.8	6.3	0.7	2.0
特別支援学校	16.6	78.0	2.3	2.1	1.0

(e) 子どもの個別の支援計画の作成に参画する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	4.5	36.5	37.9	18.3	2.7
青 森 県	5.8	28.2	42.9	23.2	-
岩 手 県	4.5	37.8	39.3	15.9	2.5
宮 城 県	3.7	32.7	42.8	18.2	2.5
福 島 県	3.1	38.0	30.9	25.9	2.2
茨 城 県	5.3	36.8	41.5	14.0	2.4
栃 木 県	9.2	45.8	31.2	11.8	1.9
千 葉 県	2.4	24.8	47.2	15.0	10.5
幼稚園	4.8	37.3	19.6	30.7	7.7
小学校	4.9	38.0	41.8	13.8	1.6
中学校	3.6	38.7	41.2	14.7	1.8
高等学校	4.8	27.7	40.5	24.5	2.6
特別支援学校	2.0	15.8	48.4	32.8	1.0

(f) 校内関係者や関係機関等との連絡調整をする

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	12.3	61.6	20.8	2.9	2.3
青 森 県	12.7	59.2	23.4	4.7	-
岩 手 県	9.9	59.6	23.5	4.3	2.7
宮 城 県	12.1	66.2	13.7	5.8	2.1
福 島 県	12.1	60.4	23.9	1.5	2.2
茨 城 県	13.5	64.1	19.5	1.6	1.3
栃 木 県	14.4	58.0	24.7	1.5	1.5
千 葉 県	12.5	55.6	20.3	2.6	9.0
幼稚園	7.4	40.5	41.2	4.8	6.0
小学校	11.7	64.1	20.0	2.6	1.6
中学校	13.0	69.9	13.0	2.5	1.7
高等学校	20.1	63.4	12.5	2.5	1.6
特別支援学校	17.6	72.3	7.0	2.1	1.0

(g) 医学的な情報を教職員に提供する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	7.0	58.3	30.1	2.4	2.2
青 森 県	10.8	51.5	33.9	3.8	-
岩 手 県	4.3	51.7	36.5	5.4	2.0
宮 城 県	8.3	62.2	26.1	1.2	2.1
福 島 県	4.6	52.5	38.7	2.2	2.0
茨 城 県	9.3	61.1	26.3	1.9	1.4
栃 木 県	8.6	68.7	19.8	1.4	1.5
千 葉 県	9.3	62.0	17.2	2.5	9.0
幼稚園	5.3	48.2	40.1	0.4	6.0
小学校	8.2	60.2	27.5	2.6	1.6
中学校	5.8	61.8	28.2	3.0	1.2
高等学校	7.6	55.1	32.5	3.3	1.6
特別支援学校	5.6	72.1	17.9	3.4	1.0

(h) 地域の医療機関や相談機関等の情報を提供する

(%)

	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	不明
全 体	5.7	50.5	36.1	4.3	3.4
青 森 県	5.9	50.5	37.9	5.7	-
岩 手 県	3.9	43.3	42.2	8.0	2.7
宮 城 県	6.4	55.6	32.1	3.4	2.6
福 島 県	4.1	49.1	40.1	4.5	2.1
茨 城 県	6.3	49.0	34.5	3.8	6.3
栃 木 県	6.0	62.1	28.5	2.0	1.5
千 葉 県	12.5	41.8	33.3	3.5	9.0
幼稚園	6.1	46.2	35.1	0.7	11.9
小学校	5.3	50.1	37.6	5.2	1.8
中学校	4.2	51.7	37.4	4.9	1.7
高等学校	8.4	54.4	30.2	5.2	1.8
特別支援学校	11.5	60.6	22.4	4.4	1.0

8 子どもの心身の健康問題についての相談相手【問9】(複数回答)

(%)

	管理職	養護教諭	他の教員	学校医	精神科医	スクール カウンセラー	地域の 相談機関	その他	特にいない
全 体	85.1	33.5	84.3	33.4	3.9	51.5	12.0	8.5	0.7
青 森 県	86.2	33.7	83.3	43.4	8.6	28.2	10.7	12.6	-
岩 手 県	86.6	38.9	87.4	34.4	4.9	45.1	17.4	8.7	1.0
宮 城 県	85.7	34.3	84.3	31.6	4.9	67.2	11.6	6.8	0.6
福 島 県	88.7	32.6	86.1	29.4	4.1	46.7	9.8	5.5	0.9
茨 城 県	87.0	33.2	88.2	33.9	2.2	47.3	9.7	7.3	0.8
栃 木 県	73.9	24.6	71.3	40.5	3.0	58.8	13.0	21.5	0.7
千 葉 県	75.6	38.4	78.5	37.3	3.2	47.6	16.4	7.0	-
幼稚園	81.3	10.9	76.6	15.4	3.4	23.2	10.3	12.1	1.6
小学校	90.0	38.1	84.3	35.9	2.2	42.9	11.9	7.5	0.6
中学校	84.3	35.4	88.0	33.4	3.2	79.2	12.8	9.0	0.4
高等学校	70.8	41.3	88.9	42.9	8.7	80.6	12.9	6.4	0.3
特別支援学校	84.2	51.5	85.3	73.3	28.2	18.6	13.6	8.8	1.0

9 子どもの心身の健康問題への対応について、活用している参考資料【問10】(複数回答)

(%)

	「子どもの心のケアのために」	「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」	県や市町等が作成した資料	その他	特になし
全体	74.2	42.8	23.4	16.5	9.5
青森県	72.0	52.4	34.4	11.5	12.4
岩手県	72.8	49.2	24.9	19.0	10.2
宮城県	71.5	35.4	18.9	20.8	13.6
福島県	83.0	37.8	31.1	14.5	6.3
茨城県	74.6	46.1	17.0	19.0	8.9
栃木県	63.9	58.7	18.6	8.8	8.9
千葉県	62.6	30.9	26.8	11.2	10.5
幼稚園	64.6	34.4	23.6	4.8	15.5
小学校	77.1	45.9	22.4	17.5	7.9
中学校	78.3	44.4	24.6	20.6	7.4
高等学校	67.8	37.1	24.8	21.4	12.6
特別支援学校	69.7	48.8	25.8	17.3	3.0

※「子どもの心のケアのために」文部科学省発行(H22)

※「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行(H21)

10 子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関の情報 専門機関【問11-1】

(%)

	所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている	あることは知っているが、具体的なことは知らない	知らない	不明
全体	40.1	47.9	9.8	2.2
青森県	50.9	39.6	9.5	-
岩手県	39.4	54.7	4.6	1.3
宮城県	47.1	48.6	3.6	0.6
福島県	38.5	40.2	18.0	3.4
茨城県	37.2	51.4	10.3	1.2
栃木県	36.1	54.6	6.9	2.3
千葉県	38.4	42.3	9.9	9.4
幼稚園	24.4	45.7	24.8	5.1
小学校	40.5	51.2	6.8	1.5
中学校	45.0	46.3	6.8	1.9
高等学校	48.8	42.1	7.0	2.2
特別支援学校	55.6	38.0	5.4	1.0

震災後開設された相談機関【問11-2】

(%)

	所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている	あることは知っているが、具体的なことは知らない	知らない	不明
全体	16.9	55.9	24.7	2.6
青森県	9.8	39.8	45.4	4.9
岩手県	26.4	56.4	15.6	1.6
宮城県	26.1	60.8	12.0	1.1
福島県	18.0	62.1	16.4	3.5
茨城県	9.0	50.0	39.8	1.2
栃木県	6.7	53.4	37.0	2.9
千葉県	4.3	40.5	45.4	9.8
幼稚園	16.0	68.5	10.0	5.5
小学校	15.9	54.3	27.7	2.1
中学校	18.1	54.1	25.3	2.5
高等学校	18.0	49.0	32.1	0.9
特別支援学校	25.0	45.1	28.9	1.0

11 専門的な心のケアが必要な子どもに対する対応【問12】(複数回答)

(%)

	教職員間で情報を共有し、組織で対応している	専門医や相談機関を紹介している	本人・保護者との面談を行っている	集団指導や、学級で心のケアを実施している	その他	心のケアが必要な子どもはいるが、どのように対応したらいいかわからない	心のケアが必要な子どもはいない
全体	76.5	30.7	40.8	10.7	6.4	1.0	19.5
青森県	71.7	34.6	40.5	7.8	-	1.0	24.4
岩手県	72.7	30.8	41.7	13.4	5.1	0.7	23.7
宮城県	75.9	29.0	42.7	8.8	7.9	1.5	20.6
福島県	74.6	24.3	30.5	9.2	6.9	0.8	21.0
茨城県	79.5	34.7	45.0	14.5	7.0	1.3	17.4
栃木県	82.5	34.1	53.4	9.0	6.5	0.7	15.2
千葉県	77.2	44.6	42.3	8.5	3.1	0.9	11.3
幼稚園	63.9	13.0	29.0	14.4	-	-	30.5
小学校	76.6	28.6	37.3	11.1	5.2	1.3	19.4
中学校	82.9	37.8	50.6	9.9	10.3	1.2	14.7
高等学校	84.0	51.7	55.1	5.4	14.1	1.1	11.1
特別支援学校	64.3	37.4	31.3	9.3	5.6	-	29.4

12 心身の健康問題に対応するに当たっての課題【問13】

(a) 子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全体	3.7	28.1	50.8	15.5	1.9
青森県	2.0	42.7	46.5	8.8	-
岩手県	3.4	35.8	48.9	11.2	0.8
宮城県	7.0	23.5	52.6	15.7	1.2
福島県	1.9	18.1	56.0	21.4	2.5
茨城県	3.0	31.3	51.7	12.9	1.1
栃木県	3.3	40.8	41.9	13.2	0.9
千葉県	5.7	31.0	39.4	15.0	9.0
幼稚園	4.7	20.9	53.4	15.9	5.1
小学校	2.9	28.8	49.8	17.0	1.4
中学校	3.8	28.4	53.8	13.0	1.0
高等学校	5.7	34.9	44.8	13.8	0.9
特別支援学校	1.8	33.1	47.0	16.1	2.0

(b) 緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全体	4.8	25.8	49.0	18.4	2.0
青森県	2.9	37.8	46.6	11.6	1.0
岩手県	3.7	26.5	51.8	17.0	1.0
宮城県	9.2	23.6	45.8	20.1	1.3
福島県	3.2	17.3	55.6	21.4	2.6
茨城県	3.5	35.4	43.3	16.8	1.0
栃木県	3.9	24.5	55.1	15.6	0.9
千葉県	6.6	35.8	32.2	15.7	9.8
幼稚園	4.0	13.2	59.0	18.7	5.1
小学校	3.6	25.2	48.5	21.2	1.5
中学校	5.2	30.3	48.3	15.2	1.0
高等学校	11.3	38.7	37.0	12.0	1.1
特別支援学校	1.8	26.9	48.7	20.5	2.0

(c) 家庭との連携や状況把握が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	1.0	11.8	50.0	35.3	1.8
青 森 県	-	14.7	53.5	30.8	1.0
岩 手 県	0.8	13.4	55.1	29.7	1.0
宮 城 県	0.9	13.2	50.7	34.0	1.2
福 島 県	0.8	9.1	46.8	41.1	2.2
茨 城 県	1.0	12.1	47.7	38.2	1.0
栃 木 県	1.5	9.8	57.4	30.2	1.1
千 葉 県	1.6	17.2	44.0	28.2	9.0
幼 稚 園	0.6	3.0	45.9	45.4	5.1
小 学 校	0.6	12.0	50.3	35.7	1.4
中 学 校	0.9	12.7	54.2	31.3	0.9
高等学校	3.3	22.6	47.8	25.7	0.6
特別支援学校	-	15.1	43.8	39.1	2.0

(d) 関係機関等との連携が十分に図られていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	3.0	27.8	49.0	18.3	1.9
青 森 県	4.0	23.1	50.5	21.4	1.0
岩 手 県	2.4	25.5	55.2	15.6	1.3
宮 城 県	4.8	22.8	50.5	20.6	1.4
福 島 県	2.2	37.2	38.9	19.4	2.4
茨 城 県	3.2	27.6	51.2	17.0	1.0
栃 木 県	1.1	20.4	59.3	18.2	0.9
千 葉 県	3.9	22.6	47.3	17.1	9.0
幼 稚 園	4.0	45.0	31.3	14.5	5.1
小 学 校	2.5	23.6	52.5	19.8	1.5
中 学 校	2.8	24.3	53.5	18.4	1.0
高等学校	4.7	29.5	49.4	15.7	0.6
特別支援学校	-	15.2	56.0	26.8	2.0

(e) 教職員の心のケアが十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	不明
全 体	5.4	29.6	46.5	16.5	2.0
青 森 県	4.8	31.1	48.6	14.5	1.0
岩 手 県	5.3	27.6	53.1	12.9	1.1
宮 城 県	9.4	33.8	38.6	16.7	1.4
福 島 県	5.0	32.7	46.3	13.6	2.5
茨 城 県	3.5	26.4	47.3	21.7	1.1
栃 木 県	3.7	20.7	55.7	19.0	0.9
千 葉 県	4.5	32.2	36.5	17.4	9.4
幼 稚 園	0.5	29.8	49.2	15.4	5.1
小 学 校	5.2	29.7	44.7	18.7	1.7
中 学 校	5.9	27.6	50.7	15.0	0.8
高等学校	13.6	32.1	41.1	12.3	0.9
特別支援学校	6.0	33.1	46.3	12.6	2.0

13 障害のある子どもの対応に当たっての課題【問14】

(a) 発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	2.1	12.0	21.7	48.1	11.8	4.2
青 森 県	5.9	10.8	23.3	44.6	15.4	-
岩 手 県	3.4	10.8	24.6	41.1	18.4	1.7
宮 城 県	2.6	14.7	20.3	45.6	15.1	1.7
福 島 県	1.4	9.3	18.2	46.1	14.6	10.4
茨 城 県	1.7	13.4	24.2	54.0	5.5	1.1
栃 木 県	1.1	11.5	23.5	58.0	5.0	0.9
千 葉 県	2.0	15.9	22.8	47.2	2.7	9.4
幼 稚 園	0.5	3.0	4.3	55.4	19.4	17.3
小 学 校	1.8	12.0	22.6	52.0	9.9	1.7
中 学 校	2.4	14.4	29.4	43.2	9.5	1.2
高等学校	4.6	22.5	30.1	26.4	14.1	2.3
特別支援学校	5.4	6.1	17.2	63.7	6.7	1.0

(b) 知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	1.1	6.8	16.8	40.6	29.0	5.8
青 森 県	2.9	8.8	14.7	33.2	40.3	-
岩 手 県	2.2	5.1	18.5	36.2	35.7	2.2
宮 城 県	1.0	7.7	15.8	44.9	28.1	2.5
福 島 県	0.8	5.7	12.3	28.4	38.2	14.5
茨 城 県	0.8	8.7	20.1	50.3	18.8	1.4
栃 木 県	0.6	5.5	18.6	53.2	20.8	1.3
千 葉 県	0.8	7.9	21.5	40.0	18.7	11.2
幼 稚 園	0.1	2.8	2.6	30.4	40.0	24.1
小 学 校	1.2	6.9	19.7	47.4	22.4	2.3
中 学 校	0.7	9.1	23.9	45.1	19.7	1.5
高等学校	2.4	7.7	11.2	9.1	67.1	2.5
特別支援学校	4.5	5.0	12.1	70.7	6.7	1.0

(c) 肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	0.5	3.3	8.3	20.8	61.0	6.0
青 森 県	2.8	2.8	7.8	11.6	74.0	1.0
岩 手 県	0.7	4.0	8.2	17.7	66.7	2.7
宮 城 県	0.6	3.2	8.6	22.4	62.0	3.2
福 島 県	0.2	1.7	5.3	13.6	64.8	14.4
茨 城 県	0.7	5.2	9.8	24.3	58.5	1.5
栃 木 県	0.2	3.0	10.2	36.1	49.2	1.2
千 葉 県	0.6	3.4	12.7	21.2	51.0	11.0
幼 稚 園	0.2	3.7	1.1	24.4	46.6	24.0
小 学 校	0.5	3.0	9.0	20.3	64.6	2.7
中 学 校	0.1	3.2	9.8	19.2	65.6	2.1
高等学校	1.8	2.8	12.5	13.7	67.2	2.0
特別支援学校	4.0	10.2	12.9	53.8	18.1	1.0

(d) 視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	0.3	3.9	9.8	21.4	58.7	5.9
青 森 県	1.0	2.8	11.7	17.2	66.3	1.0
岩 手 県	0.3	5.1	12.0	17.6	62.2	2.7
宮 城 県	0.5	4.1	8.2	21.6	62.7	3.0
福 島 県	0.2	1.9	7.1	17.3	58.8	14.6
茨 城 県	0.4	5.5	11.3	22.8	58.9	1.0
栃 木 県	0.2	3.7	11.2	33.6	50.1	1.3
千 葉 県	0.4	4.3	13.2	24.6	46.4	11.0
幼 稚 園	0.1	4.2	2.4	16.7	53.0	23.7
小 学 校	0.4	3.1	10.0	21.8	62.1	2.6
中 学 校	0.1	3.9	11.7	21.0	61.4	1.9
高等学校	0.9	5.8	16.0	21.3	53.8	2.2
特別支援学校	2.0	9.8	12.7	51.5	23.0	1.0

(e) 病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない

(%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	該当する子どもは いない	不明
全 体	0.4	3.4	10.9	25.9	53.7	5.8
青 森 県	1.0	1.8	14.6	15.4	66.3	1.0
岩 手 県	0.6	3.6	12.8	21.3	59.0	2.7
宮 城 県	0.5	4.2	8.5	28.0	56.2	2.5
福 島 県	0.3	2.0	8.2	18.6	56.4	14.5
茨 城 県	0.2	4.6	13.2	30.1	50.6	1.1
栃 木 県	0.2	2.6	10.8	38.3	46.6	1.5
千 葉 県	-	3.6	16.4	31.1	37.7	11.2
幼 稚 園	0.1	2.2	2.8	25.8	45.4	23.7
小 学 校	0.3	3.1	10.8	25.1	58.1	2.5
中 学 校	0.3	3.1	13.6	24.9	56.2	1.9
高等学校	0.5	5.2	18.0	25.3	49.0	2.0
特別支援学校	2.0	11.2	10.8	54.4	20.6	1.0

14 性別【問16】

(%)

	男	女	不明
全 体	0.1	98.5	1.4
青 森 県	-	96.2	3.8
岩 手 県	-	99.3	0.7
宮 城 県	-	98.6	1.4
福 島 県	0.1	99.0	0.9
茨 城 県	0.4	98.8	0.9
栃 木 県	-	99.3	0.7
千 葉 県	-	92.4	7.6
幼 稚 園	0.3	96.1	3.6
小 学 校	-	99.0	1.0
中 学 校	0.1	98.9	1.0
高等学校	-	99.2	0.8
特別支援学校	1.3	97.7	1.0

15 養護教諭としての経験年数【問17】

(%)

	5年以下	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上	不明
全 体	13.3	9.4	20.0	32.1	21.8	3.4
青 森 県	15.6	6.8	23.0	26.4	24.3	3.9
岩 手 県	4.1	6.1	18.6	34.0	34.3	2.8
宮 城 県	15.2	8.8	27.0	28.1	17.7	3.1
福 島 県	11.0	9.1	14.6	39.8	22.6	2.9
茨 城 県	19.6	13.9	23.8	23.6	16.3	2.8
栃 木 県	12.8	7.4	16.4	37.1	22.6	3.7
千 葉 県	18.6	8.6	16.8	28.7	17.3	10.0
幼 稚 園	6.5	9.8	15.4	51.2	10.2	6.9
小 学 校	15.6	7.4	21.0	27.6	25.7	2.7
中 学 校	12.3	11.1	18.7	30.9	24.9	2.1
高等学校	14.3	13.9	24.1	27.1	16.9	3.7
特別支援学校	17.9	5.8	30.1	24.3	19.0	2.9

16 震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修(校内研修を含む)の参加【問18】

(%)

	参加したことがある	参加したことがない	不明
全 体	87.8	10.5	1.7
青 森 県	82.5	14.5	2.9
岩 手 県	89.6	9.5	0.9
宮 城 県	88.6	10.0	1.4
福 島 県	91.9	7.1	1.0
茨 城 県	81.8	16.8	1.4
栃 木 県	87.6	11.5	0.9
千 葉 県	84.5	4.8	10.7
幼 稚 園	76.8	19.1	4.2
小 学 校	90.0	8.7	1.3
中 学 校	91.0	7.9	1.1
高等学校	87.4	11.7	0.8
特別支援学校	91.4	6.7	2.0

17 震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験【問19】

(%)

	経験はある	経験はない	不明
全 体	83.6	15.0	1.3
青 森 県	82.3	13.8	3.9
岩 手 県	89.7	9.7	0.7
宮 城 県	84.8	14.4	0.8
福 島 県	85.9	13.0	1.1
茨 城 県	75.1	24.0	0.9
栃 木 県	88.8	10.5	0.7
千 葉 県	74.8	17.5	7.6
幼 稚 園	72.3	24.5	3.1
小 学 校	84.0	14.9	1.1
中 学 校	87.5	11.6	0.8
高等学校	89.7	9.5	0.8
特別支援学校	91.4	7.7	1.0

18 自身の現在の、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安【問20】

(%)

	健康不安がどちらかといえばある	健康不安がどちらかといえばない	不明
全 体	30.4	68.0	1.5
青 森 県	7.8	89.3	2.9
岩 手 県	25.8	73.5	0.7
宮 城 県	27.7	71.1	1.2
福 島 県	42.8	55.9	1.3
茨 城 県	26.4	72.5	1.1
栃 木 県	32.6	66.1	1.2
千 葉 県	13.6	78.8	7.6
幼 稚 園	45.3	51.6	3.1
小 学 校	28.7	70.1	1.3
中 学 校	24.8	74.1	1.1
高等学校	26.9	71.8	1.3
特別支援学校	31.8	67.2	1.0

7.4 スクールカウンセラー

1 所属校種【問1】

(%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	不明
全 体	1.3	29.4	45.6	19.6	0.5	0.4	3.3
青 森 県	-	22.2	59.3	14.8	-	-	3.7
岩 手 県	1.3	14.4	55.1	25.8	0.4	0.8	2.1
宮 城 県	0.6	38.9	40.0	17.6	0.2	0.6	2.1
福 島 県	2.3	32.6	41.7	18.2	0.4	0.2	4.5
茨 城 県	0.3	15.8	51.9	27.5	1.2	0.3	3.0
栃 木 県	1.6	39.0	44.4	11.2	-	-	3.7
千 葉 県	2.3	33.7	46.5	10.5	1.2	-	5.8

2 支援の開始時期【問2】

(%)

	震災前から支援に入っていた	震災後支援に入った	その他	不明
全 体	43.9	49.9	2.1	4.0
青 森 県	77.8	14.8	3.7	3.7
岩 手 県	47.9	47.0	2.5	2.5
宮 城 県	38.5	57.6	2.1	1.9
福 島 県	43.6	50.2	1.9	4.3
茨 城 県	47.8	45.7	1.5	5.1
栃 木 県	36.4	51.9	3.2	8.6
千 葉 県	55.8	37.2	2.3	4.7
幼 稚 園	24.1	44.8	10.3	20.7
小 学 校	29.0	63.9	1.9	5.3
中 学 校	50.5	45.5	1.9	2.1
高等学校	54.6	38.6	2.2	4.6
特別支援学校	30.0	40.0	10.0	20.0

3 どの程度来校しているか【問3】

(%)

	週に1回	週に2回	週に3回	週に4回	週に5回	その他	不明
全 体	47.1	3.5	1.5	1.5	0.7	42.5	3.2
青 森 県	7.4	-	7.4	-	7.4	74.1	3.7
岩 手 県	59.3	1.3	-	0.8	1.3	34.3	3.0
宮 城 県	47.2	2.9	1.4	0.2	0.4	45.8	2.1
福 島 県	65.1	2.7	0.4	-	-	28.1	3.7
茨 城 県	22.4	3.6	2.1	2.1	0.6	65.4	3.9
栃 木 県	36.4	3.2	2.1	-	2.1	52.4	3.7
千 葉 県	44.2	18.6	5.8	20.9	-	7.0	3.5
幼 稚 園	13.8	-	-	-	24.1	41.4	20.7
小 学 校	31.7	2.9	1.5	3.1	0.5	56.2	4.1
中 学 校	65.0	3.2	1.0	0.8	0.1	28.1	1.8
高等学校	34.2	5.4	2.4	0.5	0.5	53.5	3.3
特別支援学校	20.0	-	-	-	-	60.0	20.0

4 支援が必要な子どもや保護者、教職員等【問4】(1人でもいると回答)

(%)

	子ども	保護者	教職員	その他
全 体	21.9	11.6	5.3	0.8
青 森 県	11.1	—	—	—
岩 手 県	20.3	8.1	5.5	0.4
宮 城 県	30.6	16.4	9.3	0.8
福 島 県	28.7	18.0	6.8	1.7
茨 城 県	10.7	3.6	1.2	0.3
栃 木 県	11.2	7.5	1.1	—
千 葉 県	8.1	3.5	1.2	—
幼 稚 園	17.2	20.7	3.4	3.4
小 学 校	26.1	16.4	6.5	0.9
中 学 校	18.6	10.6	4.2	0.7
高等学校	23.4	6.0	6.5	0.5
特別支援学校	10.0	10.0	—	—

5 震災後の活動内容【問6】(複数回答)

(%)

	子どもへの心ケアの緊急対応や早期介入を行った	子どもの個別面接を行った	学級担任が行う子どもの集団指導を支援した	保護者の個別面接を行った	保護者対象の研修会を行った	教職員への助言を行った	教職員対象の研修会を行った	心のケアの必要な教職員の個別面接を行った	関係機関との連携に関するつながり役になった	校内の関係委員会に参加し、共通理解を図った	その他
全 体	19.5	58.4	11.5	42.8	3.7	57.5	13.4	11.3	10.9	13.2	18.3
青 森 県	3.7	33.3	11.1	33.3	—	29.6	11.1	7.4	14.8	11.1	22.2
岩 手 県	15.3	56.4	14.4	33.1	3.8	58.5	11.4	8.1	13.1	15.7	19.1
宮 城 県	21.5	55.7	13.0	43.7	6.0	59.6	17.6	14.7	10.1	14.3	21.7
福 島 県	27.7	71.3	13.2	48.6	3.7	59.7	12.6	15.5	16.1	14.9	14.9
茨 城 県	11.3	66.6	5.7	44.8	2.7	62.7	15.8	8.4	5.7	7.8	12.5
栃 木 県	12.3	33.7	11.2	41.7	1.6	46.5	5.9	3.7	8.0	11.8	24.1
千 葉 県	26.7	37.2	9.3	30.2	—	41.9	7.0	5.8	4.7	16.3	25.6
幼 稚 園	27.6	24.1	37.9	34.5	13.8	37.9	13.8	6.9	24.1	6.9	13.8
小 学 校	19.1	51.4	15.8	49.9	5.6	55.4	14.0	10.1	10.4	8.2	17.9
中 学 校	19.2	59.9	10.2	41.7	2.1	57.0	10.4	9.8	11.1	17.9	20.1
高等学校	20.9	69.3	6.0	35.3	3.5	63.9	19.6	16.8	10.6	11.7	14.9
特別支援学校	—	40.0	—	30.0	—	30.0	10.0	10.0	—	—	30.0

7.5 保護者

1 調査対象となった保護者

(1)地域別

(%)

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県
全 体	2.7	12.1	21.7	18.8	24.8	11.6	8.3

(2)校種別

(%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
全 体	4.4	46.1	24.7	23.6	0.2	1.0

2 子どもの性別【問1】

(%)

	男	女
全 体	51.3	48.7
青 森 県	51.1	48.9
岩 手 県	51.2	48.8
宮 城 県	51.2	48.8
福 島 県	51.2	48.8
茨 城 県	51.3	48.7
栃 木 県	51.2	48.8
千 葉 県	51.7	48.3
幼 稚 園	50.7	49.3
小 学 校	51.2	48.8
中 学 校	51.4	48.6
高等学校	50.9	49.1
特別支援学校	65.3	34.7

3 学校種・学年【問2】

(%)

	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			特別支援学校			
	5歳	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	幼稚部	小学部	中学部	高等部
全 体	4.4	7.1	7.4	7.7	7.8	8.0	8.1	8.1	8.3	8.2	8.0	7.8	7.9	0.0	0.3	0.2	0.4
青 森 県	2.5	6.5	6.9	7.3	7.6	7.8	8.1	8.0	8.3	8.1	9.2	9.1	9.1	0.0	0.6	0.4	0.6
岩 手 県	3.1	6.9	7.3	7.6	7.7	8.1	8.2	8.2	8.5	8.4	8.2	8.2	8.4	0.0	0.3	0.2	0.6
宮 城 県	4.9	7.2	7.5	7.8	7.9	8.1	8.2	8.1	8.2	8.1	7.8	7.5	7.5	0.0	0.2	0.2	0.5
福 島 県	4.5	6.8	7.1	7.4	7.6	8.0	8.2	8.2	8.6	8.4	8.1	8.0	8.2	0.0	0.3	0.2	0.4
茨 城 県	4.3	7.1	7.5	7.7	7.8	8.0	8.1	8.2	8.2	8.3	7.9	7.5	7.7	0.0	0.4	0.3	0.4
栃 木 県	4.8	7.7	7.7	7.9	8.0	8.1	8.1	7.9	8.0	8.1	7.7	7.4	7.5	0.0	0.4	0.2	0.4
千 葉 県	4.7	7.2	7.4	7.8	7.9	8.0	7.9	8.2	8.3	8.0	8.3	8.0	8.0	-	0.1	0.0	0.1

4 震災の影響(地震・津波・放射線)による転校【問3】

(%)

	震災後転校したが、現在はもとの学校に通っている	転校した	転校しなかった	その他	不明
全 体	1.1	1.4	94.8	1.7	1.0
青 森 県	0.3	0.4	96.4	1.7	1.2
岩 手 県	0.6	1.0	95.3	1.8	1.3
宮 城 県	1.2	2.1	93.6	2.0	1.0
福 島 県	2.2	3.3	91.7	1.9	0.9
茨 城 県	0.8	0.4	96.5	1.3	1.0
栃 木 県	0.6	0.5	96.2	1.7	1.1
千 葉 県	0.7	0.2	96.5	1.7	0.8
幼 稚 園	1.3	2.7	91.7	3.5	0.7
小 学 校	1.1	1.7	94.6	1.7	0.9
中 学 校	1.3	1.2	95.1	1.4	1.0
高等学校	0.9	0.7	95.3	1.8	1.3
特別支援学校	1.3	0.8	95.2	1.6	1.1

※転校しなかったは、震災の影響によらない転校を含む

5 震災前と比べて、現在の子どもの様子【問4】

(%)

	低元気がなくなり、意欲が	あまり話さなくなった	睡眠が十分とれなくなった	食欲や体重に大きな変化があった	頭痛、腹痛、めまい等がおこるようになった	災害のことを思い出し、興奮や混乱をおこすことがある	災害を思い出すような話題やニュースになると、話さなくなるようになる	無表情でぼんやりすることが多くなった	物音に敏感になったり、たいていイヤになるようになった	よく甘えるようになった	以前は一人で出来ていたことができなくなった	外出を怖がるようになった	学校を休みがちになった
全 体	2.1	1.3	3.0	2.2	3.0	3.0	6.2	1.5	9.1	10.7	4.4	1.5	0.8
青 森 県	0.5	0.4	1.2	0.5	1.5	1.0	2.7	0.6	4.7	5.3	1.7	0.5	0.5
岩 手 県	1.2	0.9	2.0	1.1	1.8	2.0	5.3	0.9	6.9	7.7	2.9	0.8	0.4
宮 城 県	2.2	1.6	3.4	2.7	3.8	3.5	9.5	1.8	11.4	13.7	5.4	1.8	1.0
福 島 県	5.4	3.2	6.5	5.8	6.4	5.2	8.9	3.6	16.5	17.4	7.1	2.5	1.5
茨 城 県	1.0	0.6	1.9	0.9	1.8	2.3	4.1	0.8	6.4	8.3	3.5	1.2	0.5
栃 木 県	0.9	0.5	1.6	0.6	1.4	1.9	3.4	0.5	5.3	6.7	3.0	0.8	0.5
千 葉 県	0.8	0.5	1.4	0.6	1.3	2.0	4.0	0.6	4.5	6.7	2.9	1.2	0.3
幼 稚 園	1.2	0.5	1.9	1.4	1.4	7.1	7.7	0.8	13.1	25.2	10.8	1.4	0.7
小 学 校	1.8	0.8	2.7	2.3	2.9	4.3	8.0	1.3	11.2	16.9	7.2	2.1	0.7
中 学 校	2.4	1.7	3.4	1.9	3.3	1.4	4.8	1.8	7.8	4.6	1.7	1.1	1.0
高等学校	2.4	1.9	3.3	2.2	3.2	0.9	3.7	1.7	5.7	2.4	0.6	0.7	0.7
特別支援学校	3.3	2.5	5.6	4.3	2.8	9.1	8.2	2.3	12.6	12.0	4.6	2.3	2.4

6 震災(地震・津波・放射線)による心身の健康への不安についての相談相手【問5】(複数回答)

(%)

	学校の先生に相談している	かかりつけの医師(学校医以外)に相談している	精神科の医師に相談している	スクールカウンセラーに相談している	心の健康に関する相談している	電話相談を利用している	その他	特に相談していない
全体	2.1	1.3	0.3	0.3	0.2	0.3	2.5	93.1
青森県	0.9	0.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.9	96.6
岩手県	1.6	0.5	0.2	0.3	0.2	0.1	1.4	94.9
宮城県	2.5	1.3	0.3	0.5	0.3	0.2	2.5	92.9
福島県	4.0	3.4	0.5	0.7	0.5	0.7	5.0	86.8
茨城県	1.4	0.8	0.1	0.2	0.1	0.2	1.9	95.2
栃木県	1.2	1.0	0.2	0.2	0.2	0.2	1.9	94.8
千葉県	1.0	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	1.9	95.7
幼稚園	5.0	2.6	0.2	0.2	0.4	0.5	4.9	87.8
小学校	2.6	1.6	0.2	0.4	0.3	0.3	3.3	91.8
中学校	1.4	1.1	0.2	0.3	0.2	0.2	1.9	94.4
高等学校	0.7	0.8	0.3	0.2	0.2	0.2	1.3	95.8
特別支援学校	10.6	5.0	3.2	0.4	0.5	0.1	2.4	82.2

7 問5で「特に相談していない」を選んだ理由【問5-1】(複数回答)

(%)

	特に関心がない	様子を見ただけ	誰かに相談した方がいい	震災後の生活が不安	相談できる場所が近くない	その他	今回の質問に答えられない
全体	80.8	20.2	4.8	2.7	1.6	3.9	0.6
青森県	89.9	12.3	1.1	0.8	0.3	2.0	0.6
岩手県	85.5	16.4	2.8	1.3	0.9	2.6	0.6
宮城県	77.8	23.3	3.7	3.4	1.3	4.2	0.6
福島県	69.5	26.5	10.6	7.0	3.9	6.6	0.9
茨城県	84.0	18.7	4.1	1.4	1.4	3.1	0.6
栃木県	85.9	16.5	3.6	0.9	1.0	3.1	0.5
千葉県	85.3	17.2	3.3	0.7	0.9	3.2	0.5
幼稚園	70.2	29.7	8.5	3.2	2.6	6.0	0.6
小学校	76.0	24.7	5.9	2.9	1.8	4.7	0.8
中学校	84.5	17.1	3.7	2.4	1.4	3.3	0.5
高等学校	87.9	13.4	3.1	2.4	1.3	2.6	0.4
特別支援学校	79.0	22.6	5.0	3.4	1.9	2.2	1.9

8 震災(地震・津波・放射線)による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと【問6】(複数回答)

(%)

	把子握をさ子どもにのきめ細かい状況	ほ力を保護者をいさらの強化・協	いをぐ専門の相談機関とす	ほで学校内で体制を整え相	いさラスク「」に時ルカをウんかけして	て修心のケアに開する研	を障害に配慮してほしい	その他	特に望むことはない
全 体	19.3	29.8	13.8	18.9	2.9	4.3	1.7	4.6	40.7
青 森 県	10.8	25.5	7.8	14.8	1.6	2.9	0.8	1.5	55.4
岩 手 県	14.7	25.7	10.8	18.1	2.8	4.3	1.5	3.5	46.7
宮 城 県	19.4	28.9	11.3	17.7	2.5	4.5	1.4	4.8	42.3
福 島 県	28.6	28.1	21.6	23.6	4.7	6.5	3.5	6.8	30.3
茨 城 県	17.3	32.7	13.1	18.4	2.5	3.5	1.3	3.9	41.0
栃 木 県	17.1	30.2	12.8	18.0	2.2	3.4	1.2	3.7	44.1
千 葉 県	16.9	33.8	13.2	17.5	2.3	3.3	1.0	4.9	41.2
幼 稚 園	23.7	36.3	17.4	17.4	2.2	5.0	1.9	5.9	33.9
小 学 校	21.7	32.7	14.4	19.9	3.0	4.3	1.7	5.6	36.5
中 学 校	18.8	29.1	13.2	18.3	2.8	4.1	1.5	4.0	41.9
高等学校	14.7	23.7	12.8	18.2	2.8	4.5	1.3	3.2	49.1
特別支援学校	18.4	28.3	13.3	16.5	2.3	3.9	19.8	3.6	37.8

9 回答者【問7】

(%)

	父親	母親	祖父母	その他	不明
全 体	7.3	91.1	0.8	0.2	0.5
青 森 県	8.3	89.9	1.0	0.2	0.5
岩 手 県	9.3	89.2	0.9	0.2	0.4
宮 城 県	6.5	91.9	0.8	0.3	0.5
福 島 県	8.9	89.3	1.0	0.3	0.5
茨 城 県	6.8	91.7	0.8	0.3	0.5
栃 木 県	7.0	91.6	0.7	0.2	0.5
千 葉 県	5.0	93.9	0.5	0.2	0.4
幼 稚 園	4.0	95.0	0.5	0.2	0.4
小 学 校	6.2	92.2	0.8	0.2	0.5
中 学 校	7.8	90.5	1.0	0.2	0.5
高等学校	9.7	88.8	0.7	0.3	0.5
特別支援学校	6.9	89.5	0.9	2.0	0.7

10 年齢【問8】

(%)

	~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳~	不明
全 体	2.3	36.5	52.2	7.7	0.8	0.4
青 森 県	2.0	33.9	53.3	9.4	1.1	0.3
岩 手 県	2.3	37.0	50.7	8.7	1.0	0.4
宮 城 県	2.4	37.3	51.6	7.5	0.8	0.4
福 島 県	2.9	38.0	49.6	8.1	1.1	0.4
茨 城 県	2.2	36.2	53.0	7.4	0.8	0.4
栃 木 県	2.3	37.5	52.5	6.5	0.8	0.4
千 葉 県	1.4	30.5	59.2	7.9	0.6	0.4
幼稚園	10.1	68.3	20.5	0.7	0.2	0.2
小学校	3.8	54.1	38.9	2.2	0.6	0.4
中学校	0.2	25.7	65.0	7.5	1.0	0.5
高等学校	0.2	8.3	70.3	19.6	1.2	0.4
特別支援学校	1.5	23.6	55.8	16.5	1.8	0.8

11 性別【問9】

(%)

	男	女	不明
全 体	7.6	91.9	0.5
青 森 県	8.6	91.0	0.5
岩 手 県	9.6	90.0	0.5
宮 城 県	6.8	92.7	0.5
福 島 県	9.2	90.2	0.6
茨 城 県	7.1	92.4	0.5
栃 木 県	7.2	92.3	0.5
千 葉 県	5.3	94.1	0.5
幼稚園	4.1	95.5	0.4
小学校	6.5	93.0	0.5
中学校	8.1	91.4	0.5
高等学校	10.1	89.4	0.5
特別支援学校	7.7	91.8	0.5

12 震災(地震・津波・放射線)によって、現在不安になったり、心配に思ったりしていること【問10】(複数回答)

(%)

	家計のこと	住居のこと	家族のけがや病気のこと	家族の心の健康のこと	お子様の将来のこと	仕事のこと	自分のまちの将来のこと	その他	不安なことや心配に思っていない
全 体	23.2	26.9	25.1	22.2	56.8	14.9	23.3	14.4	15.8
青 森 県	21.2	15.5	15.6	12.8	36.0	15.8	15.3	10.6	32.8
岩 手 県	21.5	14.9	16.8	17.4	47.1	16.7	18.8	14.2	22.6
宮 城 県	26.4	24.8	19.3	21.9	50.1	16.2	21.0	15.3	17.2
福 島 県	29.2	32.5	36.5	33.7	82.8	21.1	39.0	12.7	5.6
茨 城 県	21.0	30.9	26.6	20.0	54.4	11.6	18.9	14.1	15.8
栃 木 県	19.4	23.2	24.0	19.0	54.4	11.7	15.5	14.8	18.7
千 葉 県	16.0	34.4	26.4	18.3	47.2	8.8	27.9	18.2	15.9
幼 稚 園	21.4	31.5	31.1	26.2	66.7	10.6	26.1	16.9	10.8
小 学 校	22.1	27.6	26.5	24.1	59.6	13.5	23.8	15.4	13.7
中 学 校	24.3	27.1	24.0	21.0	54.4	15.8	22.9	13.4	16.8
高等学校	24.4	24.7	22.2	19.1	52.4	17.5	22.4	13.0	19.8
特別支援学校	27.1	26.8	26.2	25.5	55.1	15.1	24.8	17.3	14.8

第8章 調査票

平成24年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票

(校(園)長用)

文部科学省

学校名: _____

A 貴校・園(以下、貴校という)についてお聞きします。あてはまる数字に○をつけてください。

問1 校種(○は1つ)

1. 幼稚園 2. 小学校 3. 中学校 4. 高等学校
5. 中等教育学校 6. 特別支援学校

問2 教職員数をご記入ください。(平成24年5月1日現在の人数とする)

* 学校基本調査(教員数+職員数)と同じ人数を記入する。〔本務者(休職者等を含む)〕

男	女	計
人	人	人

問3 男女別在籍児童生徒(園児)数及び学級数を各該当欄にご記入ください。

(平成24年5月1日現在の人数とする)

男	女	計	全学級数
人	人	人	

問4 養護教諭は配置されていますか。(○は1つ)

1. 一人配置されている 2. 複数配置されている 3. 配置されていない

問5 スクールカウンセラーは配置されていますか。(○は1つ)

1. 一人配置されている 2. 複数配置されている 3. 配置されていない

B 貴校の東日本大震災による被害状況及び放射線の影響についてお聞きします。

問6 地震による校舎の被害はありましたか。(○は1つ)

1. 校舎の大部分が使用不能
2. 校舎の一部が使用不能
3. 重大な被害はなかった
4. 地震の被害はなかった
5. その他: _____

問 7 津波による校舎の被害はありましたか。(○は 1 つ)

1. 校舎の大部分が使用不能
2. 校舎の一部が使用不能
3. 重大な被害はなかった
4. 津波の被害はなかった
5. その他: _____

問 8 震災後、授業等が再開(間借りを含む)されるまでにどれくらいかかりましたか。(○は 1 つ)

1. 1週間以内 2. 2週間以内 3. 1か月以内 4. 1か月以上
5. 臨時休業していない

問 9 放射線に対する不安等により、子どもたちの屋外活動を制限していますか。(○は 1 つ)

1. 屋外活動は全く行っていない
2. 1日の屋外活動時間を制限している
3. 制限していない
4. その他: _____

問 9-1 問 9 で「2. 1 日の屋外活動時間を制限している」を選んだ方にお聞きします。子どもたちの屋外活動は何時間までとしていますか。(○は 1 つ)

1. 1時間以内
2. 2時間以内
3. 3時間以内
4. 4時間以内
5. その他: _____

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：校（園）長

C 震災後の「貴校の心身の健康問題への対応」についてお聞きします。

問 10 子どもの心身の健康のため、貴校では以下の事柄にそれぞれどのくらい取り組んでいますか。（○はそれぞれ1つずつ）

	組 ん で い る 十 分 取 り	取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い な い	取 り 組 ん で い な い
(a)子どもの心身の健康状態を把握する	1	2	3	4
(b)子どもの心身の健康状態について、教職員で情報共有する	1	2	3	4
(c)心のケアの対応方針決定と共通理解を図る	1	2	3	4
(d)心のケアに向けての組織体制・役割分担を確認する	1	2	3	4
(e)心のケアに関わる校内研修会を実施する	1	2	3	4
(f)子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する	1	2	3	4
(g)子どもの心のケアについて保護者を支援する	1	2	3	4
(h)学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携する	1	2	3	4
(i)地域の関係機関等との協力体制を確立する	1	2	3	4
(j)臨時の環境衛生検査を実施する	1	2	3	4

問 11 震災後の教職員の心身の健康のため、貴校では以下の事柄にそれぞれどのくらい取り組んでいますか。（○はそれぞれ1つずつ）

	組 ん で い る 十 分 取 り	取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い な い	取 り 組 ん で い な い
(a)教職員の被災状況を把握する	1	2	3	4
(b)教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する	1	2	3	4
(c)教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する	1	2	3	4

問 12 心身の健康問題に対応するに当たって、貴校では以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
(a)子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	1	2	3	4
(b)緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	1	2	3	4
(c)家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	1	2	3	4
(d)関係機関等との連携が十分に図られていない	1	2	3	4
(e)教職員の心のケアが十分にできていない	1	2	3	4

問 13 障害のある子どもの対応に当たって、貴校では以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない	該当する子ども は少ない
(a)発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(b)知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(c)肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(d)視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(e)病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5

問14 問 10、問 11、問 12、問 13 の現状を受けて、今年度、重点的に取り組みたいと考えておられることをお書きください。

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：校（園）長

問 15 貴校では子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか。(〇はいくつでも)

1. 「子どもの心のケアのために」 文部科学省発行 (H22)
2. 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行 (H21)
3. 県や市町等が作成した資料
4. その他: _____
5. 特にない

問 16 この震災で校長としてお感じになったこと、今後の学校の課題等に関して、特記すべきことがございましたら、お書きください。

D あなた自身のことについて、お聞きします。

問 17 性別(〇は1つ)

1. 男
2. 女

問 18 教師としての経験年数は何年ですか。

()年

問 19 あなたは震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修(校内研修を含む)に参加したことがありますか。(〇は1つ)

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

問 20 あなたは震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験がありますか。(〇は1つ)

1. 経験はある
2. 経験はない

問 21 あなた自身は現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安がありますか。(〇は1つ)

1. 健康不安がどちらかといえばある
2. 健康不安がどちらかといえばない

ご協力いただきありがとうございました。

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票
(学級担任用)

文部科学省

学校名: _____

A あなたの学級についてお聞きします。あてはまる数字に○をつけてください。

問 1 あなたの担任している学年及び学級の在籍者数をご記入ください。

(平成 24 年 5 月 1 日現在の人数とする)

学年・組	学級の園児・児童生徒数		
	男	女	計
年 組	人	人	人

B あなたの学級の子どもの様子についてお聞きします。

問 2 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、以下のような症状等が一つでも見られる子どもは何人いますか。

- | |
|--|
| ① 食欲の異常(不振または過剰)
② 睡眠不足になっている
③ 頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある
④ 持病(ぜん息やアトピー性皮膚炎等)が悪化した
⑤ 体のだるさ、疲労感を訴える
⑥ 元気がない、意欲が低下した
⑦ あまり話さなくなった |
|--|

※いない場合は、「0」人としてください。

男	女
人	人

問 3 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、以下のような気になる様子が一つでもある子どもは何人いますか。

- | |
|--|
| ① 災害のことを突然思い出して動揺する
② 災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする
③ 喜怒哀楽がなくなり、無表情になった
④ 些細な音でビクッとしたり、過剰に警戒するようになった |
|--|

※いない場合は、「0」人としてください。

男	女
人	人

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：学級担任

問 4 今年度新たに、震災の影響(地震・津波・放射線)ではないかと考えられる「遅刻」や「欠席」が見られるようになった子どもは何人いますか。

例：震災の影響で転居し、新たな学校に馴染めなくて欠席する、家族と一緒にいないと不安で登校できない等

男	女
人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 5 あなたが日頃の関わりや連絡帳、生活ノート等で把握されている、震災後の子どもの悩み等があればお書きください。

例：将来への不安、仲間はずれにされないか心配等

C 震災後の「子どもの心身の健康問題への対応」についてお聞きします。

問 6 あなたは、子どもの心身の健康問題への指導や支援について、以下の事柄にそれぞれどのくらい取り組んでいますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	組 ん で い る	十 分 取 り 組 ん で い る	取 り 組 ん で い る	組 ん で い な い	あ ま り 取 り 組 ん で い な い	取 り 組 ん で い な い
(a)メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する	1	2	3	4		
(b)心身の健康問題の早期発見のために、健康観察をする	1	2	3	4		
(c)問題のある子どもだけでなく、全ての子どもについて理解する	1	2	3	4		
(d)先入観にとらわれず、様々な視点から子どもを見ている	1	2	3	4		
(e)保護者及び子どもが相談しやすい人間関係づくりに努めている	1	2	3	4		
(f)養護教諭をはじめ関係者と連携しながら組織的に対応している	1	2	3	4		
(g)養護教諭と連携して健康相談、保健指導を実施している	1	2	3	4		

**問 7 あなたは、子どもの心身の健康問題について誰に相談していますか。
(○はいくつでも)**

1. 管理職
2. 養護教諭
3. 他の教員
4. 学校医
5. 精神科医
6. スクールカウンセラー
7. 地域の相談機関
8. その他：_____
9. 特にいない

**問 8 あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を
活用していますか。(○はいくつでも)**

1. 「子どもの心のケアのために」文部科学省発行(H22)
2. 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行(H21)
3. 県や市町等が作成した資料
4. その他()
5. 特にない

**問 9 あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を
知っていますか。**

問 9-1 専門機関 (○は1つ)

1. 所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている
2. あることは知っているが、具体的なことは知らない
3. 知らない

問 9-2 震災後開設された相談機関 (○は1つ)

1. 所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている
2. あることは知っているが、具体的なことは知らない
3. 知らない

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：学級担任

問 10 あなたは、特に専門的な心のケアが必要な子どもに対して、どのように対応していますか。(○はいくつでも)

1. 教職員間で情報を共有し、組織で対応している
2. 専門医や相談機関を紹介している
3. 本人・保護者との面談を行っている
4. 集団指導や、学級で心のケアを実施している
5. その他：_____
6. 心のケアが必要な子どもはいるが、どのように対応したらいいかわからない
7. 心のケアが必要な子どもはいない

問 11 心身の健康問題に対応するに当たって、以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
(a)子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	1	2	3	4
(b)緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	1	2	3	4
(c)家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	1	2	3	4
(d)関係機関等との連携が十分に図られていない	1	2	3	4
(e)教職員の心のケアが十分にできていない	1	2	3	4

問 12 障害のある子どもの対応に当たって、貴校では以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない	該当する子ども はいない
(a)発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(b)知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票
(養護教諭用)

文部科学省

学校名: _____

A 貴校の保健室についてお聞きします。あてはまる数字に○をつけてください。

問 1 学校再開後、保健室の機能が再開するまで(仮設の保健室を含む)にどのくらいかかりましたか。(○は1つ)

1. 学校再開と同時に 2. 1週間以内 3. 2週間以内 4. 1か月以内
5. 1か月以上 6. 現在も再開されていない

B 保健室で把握している子どもの様子についてお聞きします。

問 2 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、以下のような症状等が一つでも見られる子どもは何人いますか。

- | |
|------------------------------|
| ① 食欲の異常(不振または過剰) |
| ② 睡眠不足になっている |
| ③ 頭痛、腹痛、吐き気、下痢や便秘、頻尿のいずれかがある |
| ④ 持病(ぜん息やアトピー性皮膚炎等)が悪化した |
| ⑤ 体のだるさ、疲労感を訴える |
| ⑥ 元気がない、意欲が低下した |
| ⑦ あまり話さなくなった |

男	女
人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 3 現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、以下のような気になる様子が一つでもある子どもは何人いますか。

- | |
|--|
| ① 災害のことを突然思い出して動揺する |
| ② 災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする |
| ③ 喜怒哀楽がなくなり、無表情になった |
| ④ 些細な音でビクツとしたり、過剰に警戒するようになった |

男	女
人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 4 問 3 で挙げた 4 項目以外に、震災による PTSD の症状と思われるものがあればお書きください。

--

問 5 問 2 や問 3 のいずれかの子どものうち、受診が必要と判断した子どもは現在何人いますか。そのうち、実際に受診したのは何人ですか。

男		女	
	実際に受診した子ども		実際に受診した子ども
人	人	人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 6 今年度新たに、震災の影響(地震・津波・放射線)ではないかと考えられる「保健室登校」になった子どもは何人いますか。いると答えた方は、人数をご記入ください。

男	女
人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 7 あなたが保健室で把握されている、震災後の子どもの悩み等があればお書きください。例：将来への不安、仲間はずれにされないか心配等

--

C 震災後の「子どもの心身の健康問題への対応」についてお聞きします。

問 8 あなたは、子どもの心身の健康問題への指導や支援について、以下の事柄にそれぞれどのくらい取り組んでいますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	組 ん で い る	十 分 取 り 組 ん で い る	取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い な い	取 り 組 ん で い な い
(a)学級担任等と連携して組織的な健康観察、健康相談、保健指導を実施する	1	2	3	4	
(b)子どもの心身の健康状態を日頃からの確に把握し、問題の早期発見・早期対応をする	1	2	3	4	
(c)子どもが相談しやすい保健室の環境づくりに努める	1	2	3	4	
(d)常に情報収集に心がけ、問題の背景要因を把握する	1	2	3	4	
(e)子どもの個別の支援計画の作成に参画する	1	2	3	4	
(f)校内関係者や関係機関等との連絡調整をする	1	2	3	4	
(g)医学的な情報を教職員に提供する	1	2	3	4	
(h)地域の医療機関や相談機関等の情報を提供する	1	2	3	4	

**問 9 あなたは、子どもの心身の健康問題について誰に相談していますか。
(○はいくつでも)**

1. 管理職
2. 養護教諭
3. 他の教員
4. 学校医
5. 精神科医
6. スクールカウンセラー
7. 地域の相談機関
8. その他: _____
9. 特にいない

問 10 あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、特に活用している参考資料はありますか。(〇はいくつでも)

1. 「子どもの心のケアのために」文部科学省発行(H22)
2. 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行(H21)
3. 県や市町等が作成した資料
4. その他: _____
5. 特にない

問 11 あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を知っていますか。あてはまるところに〇をつけてください。

問 11-1 専門機関 (〇は1つ)

1. 所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている
2. あることは知っているが、具体的なことは知らない
3. 知らない

問 11-2 震災後開設された相談機関 (〇は1つ)

1. 所在地や連絡先、機関の活動内容等、具体的な情報を知っている
2. あることは知っているが、具体的なことは知らない
3. 知らない

問 12 あなたは、特に専門的な心のケアが必要な子どもに対して、どのように対応していますか。(〇はいくつでも)

1. 教職員間で情報を共有し、組織で対応している
2. 専門医や相談機関を紹介している
3. 本人・保護者との面談を行っている
4. 集団指導や、学級で心のケアを実施している
5. その他: _____
6. 心のケアが必要な子どもはいるが、どのように対応したらいいかわからない
7. 心のケアが必要な子どもはいない

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：養護教諭

問 13 心身の健康問題に対応するに当たって、以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	えはそう思う どちらかと言 え	どちらかと言 え ばそう思わない	そう思わない
(a)子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	1	2	3	4
(b)緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	1	2	3	4
(c)家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	1	2	3	4
(d)関係機関等との連携が十分に図られていない	1	2	3	4
(e)教職員の心のケアが十分にできていない	1	2	3	4

問 14 障害のある子どもの対応に当たって、貴校では以下のような課題があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	えはそう思う どちらかと言 え	どちらかと言 え ばそう思わない	そう思わない	該当する子ども は少ない
(a)発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(b)知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(c)肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(d)視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5
(e)病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない	1	2	3	4	5

問15 この震災で養護教諭としてお感じになったこと、今後の学校の課題等に関して特記すべきことがございましたら、お書きください。

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票
(スクールカウンセラー用)

文部科学省

学校名: _____

*平成 24 年度から新規に配置されたスクールカウンセラーが回答できないところは、
教育相談担当者をご記入ください。

**A あなたの所属校種等についてお聞きします。あてはまる数字に○を
つけてください。**

問 1 所属校種に○をつけてください。(○は 1 つ)

1. 幼稚園 2. 小学校 3. 中学校 4. 高等学校
5. 中等教育学校 6. 特別支援学校

問 2 本校には、いつから支援されていますか。(○は 1 つ)

1. 震災前から支援に入っていた (H 年 月から)
2. 震災後支援に入った (H 年 月から)
3. その他: _____

問 3 本校には、どの程度来校されていますか。(○は 1 つ)

1. 週に 1 回
2. 週に 2 回
3. 週に 3 回
4. 週に 4 回
5. 週に 5 回
6. その他: _____

B 支援に入られている学校での子どもや保護者等についてお聞きします。

問 4 震災による(地震・津波・放射線)心身の健康への影響について、現在、支援が
必要な子どもや保護者、教職員等は何人くらいですか。

子ども	保護者	教職員	その他
人	人	人	人

※いない場合は、「0」人としてください。

問 5 現在までの支援の中で把握されている、震災後の子どもの悩み等があればお書きください。例：将来への不安、仲間はずれにされないか心配等

C 支援に入られている学校での活動についてお聞きします。

問 6 震災後、スクールカウンセラーとして、本校においてどのような活動をされましたか。(〇はいくつでも)

1. 子どもの心のケアの緊急対応や早期介入を行った
2. 子どもの個別面接を行った
3. 学級担任が行う子どもの集団指導を支援した
4. 保護者の個別面接を行った
5. 保護者対象の研修会を行った
6. 教職員への助言を行った
7. 教職員対象の研修会を行った
8. 心のケアに必要な教職員の個別面接を行った
9. 関係機関との連携に関するつなぎ役になった
10. 校内の関係委員会に参加し、共通理解を図った
11. その他：_____

問 7 この震災でスクールカウンセラーとしてお感じになったこと、今後の学校の課題等に関して、特記すべきことがございましたら、お書きください。

ご協力いただきありがとうございました。

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票
(保護者用)

文部科学省

学校名: _____

A この調査票を持ち帰ったお子様のことについてお聞きします。

あてはまる数字に○をつけてください。

問 1 お子様の性別 (○は1つ)

1. 男 2. 女

問 2 お子様の学校種・学年 (○は1つ)

- | | | | |
|---------------|------------|--------------|----------------------|
| 1. 幼稚園
5歳児 | 8. 中学校1年 | 14. 中等教育学校1年 | 20. 特別支援学校
幼稚園部 |
| 2. 小学校1年 | 9. 中学校2年 | 15. 中等教育学校2年 | 21. 特別支援学校
小・中・高部 |
| 3. 小学校2年 | 10. 中学校3年 | 16. 中等教育学校3年 | 22. 特別支援学校
中学部 |
| 4. 小学校3年 | 11. 高等学校1年 | 17. 中等教育学校4年 | 23. 特別支援学校
高等部 |
| 5. 小学校4年 | 12. 高等学校2年 | 18. 中等教育学校5年 | |
| 6. 小学校5年 | 13. 高等学校3年 | 19. 中等教育学校6年 | |
| 7. 小学校6年 | | | |

問 3 お子様は震災の影響(地震・津波・放射線)により、転校しましたか。
(○は1つ)

1. 震災後転校したが、現在はもとの学校に通っている
2. 転校した
3. 転校しなかった (震災の影響によらない転校の場合は、こちらに○)
4. その他: _____

平成 24 年度非常災害時の子どもの心のケアに関する調査票：保護者

問 4 震災前と比べて、現在お子様に以下の様子は見られますか。

(○はそれぞれ1つつ)

(a) <small>げんき</small> 元気がなくなり、 <small>いよく ていか</small> 意欲が低下した	1 ある	2 ない
(b) <small>はな</small> あまり話さなくなった	1 ある	2 ない
(c) <small>すいみん じゅうぶん</small> 睡眠が十分とれなくなった	1 ある	2 ない
(d) <small>しょよく たいじゅう おお へんか</small> 食欲や体重に大きな変化があった	1 ある	2 ない
(e) <small>ずつう ふくつう しんぞう どうき か こきゅう など</small> 頭痛、腹痛、心臓の動悸、過呼吸、めまい等がおこるようになった	1 ある	2 ない
(f) <small>さいがい おも だ とつぜん こうふん</small> 災害のことを思い出して突然おびえたり、興奮や混乱することがある	1 ある	2 ない
(g) <small>さいがい おも だ わだい</small> 災害を思い出すような話題やニュースになると、 <small>わだい か ば た き</small> 話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする	1 ある	2 ない
(h) <small>むひょうじょう おお</small> 無表情でぼんやりすることが多くなった	1 ある	2 ない
(i) <small>ものおと びんかん</small> 物音に敏感になったり、イライラするようになった	1 ある	2 ない
(j) <small>あま</small> よく甘えるようになった	1 ある	2 ない
(k) <small>いぜん ひとり で き</small> 以前は一人で出来ていたことができなくなった	1 ある	2 ない
(l) <small>がいしゅつ こわ</small> 外出を怖がるようになった	1 ある	2 ない
(m) <small>がっこう やす</small> 学校を休みがちになった	1 ある	2 ない
<small>ほか</small> その他:		

問 5 あなたは、震災(地震・津波・放射線)によるお子様の心身の健康への影響や不安について、以下の方に相談されていますか。
(○はいくつでも)

1. 学校の先生に相談している
2. かかりつけの医師(精神科以外)あるいは学校医に相談している
3. 精神科の医師に相談している
4. スクールカウンセラー*に相談している
5. 心の健康に関する相談機関に相談している
6. 電話相談を利用している
7. その他: _____
8. 特に相談していない

*スクールカウンセラーは、臨床心理やカウンセリングに関する専門知識等を用いて、子どもの相談等に当たる心の専門家であり、小学校、中学校、高等学校等に配置されている。

問 5-1 問 5 で「8. 特に相談していない」を選んだ方にお聞きします。
相談されなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 特に子どもの様子に変わりがなかった
2. 様子を見るだけでよいと思った
3. 誰に相談して良いのか分からなかった
4. 震災後の生活が大変で相談する余裕がなかった
5. 相談できる場所が近くになかった
6. その他: _____
7. 今回の質問に答えながら初めて子どもの異変に気付いた

問 6 あなたは、震災(地震・津波・放射線)によるお子様の心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むことがありますか。
(○はいくつでも)

1. 子どもの心身状況をさらにきめ細かく把握してほしい
2. 保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい
3. 専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい
4. 学校内で気軽に相談できる体制をさらに整えてほしい
5. スクールカウンセラーに時間をかけてさらに対応してほしい
6. 心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい
7. 障害に配慮した支援をさらにしてほしい
(具体的に)
8. その他 (具体的に)
9. 特に望むことはない

B あなた自身のことについてお聞きします。

問 7 回答していただいた方はどなたですか。

1. 父親
2. 母親
3. 祖父母
4. その他: _____

問 8 年齢(○は1つ)

1. ~29歳
2. 30~39歳
3. 40~49歳
4. 50~59歳
5. 60歳~

問 9 性別(○は1つ)

1. 男
2. 女

平成 24 年度非常災害時の子ども心のケアに関する調査票：保護者

問 10 さくねん しんさい じしん つなみ ほうしゃせん 昨年の震災(地震・津波・放射線)によって、げんざいふあん あなたが現在不安になつたり、しんぱい おも 心配に思つたりしていることはありますか。
(○はいくつでも)

1. かけい 家計のこと
2. じゅうきよ 住居のこと
3. かぞく びょうき 家族のけがや病気のこと
4. かぞく こころ けんこう 家族の心の健康のこと
5. こさま しょうらい お子様の将来のこと
6. しごと 仕事のこと
7. じぶん しょうらい 自分のまちの将来のこと
8. ほか その他: _____
9. ふあん しんぱい おも とく 不安や心配に思っていることは特にない

きょうりよく
ご協力いただきありがとうございました。

第9章 取組の現状チャートについて

9.1 取組の現状チャートの作成方法

取組の現状チャートは、調査項目を3つの領域（健康観察と心のケアに関する資質／組織体制の構築／支援者のメンタルヘルス）、8つの軸（健康観察の実施／健康観察の内容分析／心のケアに関する知識・理解／心のケアのための校内連携体制／保護者との連携／地域の専門機関との連携／教職員自身の心の安定／保護者の心の安定）に分類し、分類された項目に対してより望ましい回答が多いほど、高得点となるよう各軸の得点を求めて描いたものである。つまり扇形の半径が長いほど、より望ましい回答が多かったことを示す。

各軸の得点の算出方法及びチャートの描画方法は以下のとおりである。

1. 次ページの表に従い、各カテゴリの割合（％）に点数を乗じ、カテゴリについて合計することで項目ごとの点数を求める。
2. 軸に含まれる項目の点数平均を当該軸の得点 x とする。
3. チャートの扇の半径を $r = (x - 15) / 75$ として各軸の扇形を描く。ただし $r \leq 0.2$ ($x \leq 30$)の場合は $r = 0.2$ 、 $r \geq 1.0$ ($x \geq 90$)の場合は $r = 1.0$ とする。
4. チャートに半径 $r = 0:2; 0:4; 0:6; 0:8; 1:0$ の同心円を描く。つまり同心円は $x = 30; 45; 60; 75; 90$ のところに描かれる。

健康観察の実施			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 a	子どもの心身の健康状態を把握する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問10 b	子どもの心身の健康状態について、教職員で情報共有する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
学級担任	問6 b	心身の健康問題の早期発見のために、健康観察をする	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
養護教諭	問8 b	子どもの心身の健康状態を日頃からの確に把握し、問題の早期発見・早期対応をする	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
保護者	問6の1	子どもの心身状況をさらにきめ細かく把握してほしい	非該当			

健康観察の内容分析			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 c	心のケアの対応方針決定と共通理解を図る	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
学級担任	問6 c	問題のある子どもだけでなく、全ての子どもについて理解する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問6 d	先入観にとらわれず、様々な視点から子どもを見ている	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
養護教諭	問8 d	常に情報収集に心がけ、問題の背景要因を把握する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
スクールカウンセラー	問6の6	教職員への助言を行った	該当			

心のケアに関する知識・理解			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 e	心のケアに関わる校内研修会を実施する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問12 a	子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問12 b	緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問13 a	発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問13 b	知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問13 c	肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問13 d	視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問13 e	病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問15	貴校では子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか(「子どもの心のケアのために」文部科学省発行)	該当			
	問15	貴校では子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか(「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行)	該当			
	問15	貴校では子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか(県や市町等が作成した資料)	該当			
	問15	貴校では子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか(その他)	該当			
	問19	あなたは震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修(校内研修を含む)に参加したことがありますか	参加したことがある			参加したことがない
	問20	あなたは震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験はありますか	経験はある			経験はない
学級担任	問6 a	メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない

	問 8	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（「子どもの心のケアのために」文部科学省発行）	該当			
	問 8	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行）	該当			
	問 8	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（県や市町等が作成した資料）	該当			
	問 8	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（その他）	該当			
	問 10 の 4	集団指導や、学級で心のケアを実施している	該当			
	問 11 a	子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 11 b	緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 12 a	発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 12 b	知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 12 c	肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 12 d	視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 12 e	病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 16	あなたは震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）に参加したことがありますか	参加したことがある			参加したことがない
	問 17	あなたは震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験はありますか	経験はある			経験はない
養護教諭	問 8 g	医学的な情報を教職員に提供する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない

	問 10	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（「子どもの心のケアのために」文部科学省発行）	該当			
	問 10	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省発行）	該当			
	問 10	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（県や市町等が作成した資料）	該当			
	問 10	あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（その他）	該当			
	問 12 の 4	集団指導や、学級で心のケアを実施している	該当			
	問 13 a	子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識が不十分である	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 13 b	緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員間の意識に違いがあり、対応にばらつきがみられる	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 14 a	発達障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 14 b	知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 14 c	肢体不自由のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 14 d	視覚・聴覚障害のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 14 e	病弱・身体虚弱のある子どもへの支援が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
	問 18	あなたは震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）に参加したことがありますか	参加したことがある			参加したことがない
	問 19	あなたは震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援を行った経験はありますか	経験はある			経験はない
スクールカウンセラー	問 6 の 7	教職員対象の研修会を行った	該当			
保護者	問 6 の 6	心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい	非該当			

心のケアのための校内連携体制			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 d	心のケアに向けての組織体制・役割分担を確認する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
学級担任	問6 f	養護教諭をはじめ関係者と連携しながら組織的に対応している	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問6 g	養護教諭と連携して健康相談、保健指導を実施している	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問10の1	教職員間で情報を共有し、組織で対応している	該当			
養護教諭	問8 a	学級担任等と連携して組織的な健康観察、健康相談、保健指導を実施する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問8 e	子どもの個別の支援計画の作成に参画する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問8 f	校内関係者や関係機関等との連絡調整をする	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問12の1	教職員間で情報を共有し、組織で対応している	該当			

保護者との連携			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 f	子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問10 g	子どもの心のケアについて保護者を支援する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問12 c	家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
学級担任	問6 e	保護者及び子どもが相談しやすい人間関係づくりに努めている	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問10の2	専門医や相談機関を紹介している	該当			
	問11 c	家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
養護教諭	問12の2	専門医や相談機関を紹介している	該当			
	問13 c	家庭との連絡や状況把握が十分にできていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
スクールカウンセラー	問6の5	保護者対象の研修会を行った	該当			
保護者	問6の2	保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい	非該当			

地域の専門機関との連携			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問10 h	学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問10 i	地域の関係機関等との協力体制を確立する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問12 d	関係機関等との連携が十分に図られていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
学級担任	問9-1	あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を知っていますか(専門機関)	該当			
	問9-2	あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を知っていますか(震災後開設された相談機関)	該当			
	問11 d	関係機関等との連携が十分に図られていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
養護教諭	問8 h	地域の医療機関や相談機関等の情報を提供する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問11-1	あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を知っていますか(専門機関)	該当			
	問11-2	あなたは、子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を知っていますか(震災後開設された相談機関)	該当			
	問13 d	関係機関等との連携が十分に図られていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
スクールカウンセラー	問6の9	関係機関との連携に関するつなぎ役になった	該当			
保護者	保護者問6の3	専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい	非該当			

教職員自身の心の安定			100点	67点	33点	0点
校(園)長	問11 a	教職員の被災状況を把握する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問11 b	教職員の健康状態の把握及び心のケアを実施する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問11 c	教職員の心のケアに向け、休暇促進の取組を含めた校内組織体制づくりを確立する	十分取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
	問12 e	教職員の心のケアが十分できていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問21	あなた自身は現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安がありますか	健康不安がどちらかといえばない			健康不安がどちらかといえばある
学級担任	問11 e	教職員の心のケアが十分できていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問18	あなた自身は現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安がありますか	健康不安がどちらかといえばない			健康不安がどちらかといえばある
養護教諭	問13 e	教職員の心のケアが十分できていない	そう思わない	どちらかと言えばそう思わない	どちらかと言えばそう思う	そう思う
	問20	あなた自身は現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる健康不安がありますか	健康不安がどちらかといえばない			健康不安がどちらかといえばある
スクールカウンセラー	問6の8	心のケアに必要な教職員の個別面接を行った	該当			

保護者の心の安定			100点	87.5点	75点	62.5点	50点	37.5点	25点	12.5点	0点
学級担任	問10の3	本人・保護者との面談を行っている	該当								
養護教諭	問12の3	本人・保護者との面談を行っている	該当								
スクールカウンセラー	問6の4	保護者の個別面接を行った	該当								
保護者	問6の4	学校内で気軽に相談できる体制をさらに整えてほしい	非該当								
	問10	昨年の震災(地震・津波・放射能)によって、あなたが現在不安になったり、心配に思ったりしていることはありますか	0個該当	1個該当	2個該当	3個該当	4個該当	5個該当	6個該当	7個該当	8個該当

非常災害時における子どもの心のケアに関する調査協力者

(職名は、平成 25 年 3 月現在)
(五十音順、◎委員長)

加藤	智子	秋田県立本荘高等学校	養護教諭
佐藤	一也	岩手県立大槌高等学校	副校長
下田	章子	福島県臨床心理士会	スクールカウンセリング委員会委員長
高橋	匠	宮城県子ども総合センター	主任主査
為石	摩利夫	厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課	
		東日本大震災の被災地子ども支援室長	
土屋	隆裕	情報・システム研究機構統計推理研究所	准教授
◎ 十一	元三	京都大学大学院	教授
渡邊	恵美子	栃木県教育委員会健康福利課	課長補佐

*本調査報告書編集については、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課において担当しました。